

一般資料 No. 51

第9回 全国婦人会議

次の世代の成長に貢献するために



労働省婦人少年局

目次

はしがき 頁

全国婦人会議の組織 頁

全国婦人会議次第 頁

記念講演 頁

立教大学法学部長 宮沢俊義 一頁

部 会 頁

第一部会 五頁

第二部会 四一頁

第三部会 七八頁

第四部会 一一六頁

総 会 一五一頁

移動会議 一六四頁

特別講演 頁

婦人はどんな態度で貢献したらよいのか 頁

解 論 家 坂西志保 二〇五頁

若い者の考え方 頁

映画監督 大島 渚 二〇九頁

労働省では、昭和三十六年四月十日から一週間「次の世代の成長に貢献する」を目標として、第十三回婦人週間を全国的に展開しましたが、この週間の中央行事として、第九回全国婦人会議を四月十二日から十四日、東京において、日本放送協会と共催いたしました。

会議には、全国からの応募者二、三七〇名の中から、中央選考委員会の書類選考によって選ばれた六十名の会議員が参加しました。会議は四部会にわかれ、「次の世代の成長に貢献するために」をテーマとして、リーダーの助言のもとに第一日第三日の二日間話し合いが行なわれました。第二日目は、東京都内において移動会議を実施しましたが、今年はとくに週間目標に即して、青少年・児童・幼児関係の施設を視察し、若い世代との懇談を行ないました。また、昨年に引き続き特別オブザーバー制を設け、全国に組織をもつ婦人団体、労働組合、婦人部等から推せんされた方々に加えて、特に今年は、沖縄の婦人団体の方、若い青年の方々も各部会に参加していただき、話しあいの傍聴と、意見発表をお願いして会議を援助していただきました。最終日の総会では、会議員および部会リーダーによる部会報告ならびに一般傍聴者との質疑応答が行なわれました。

なお、新しい試みとして、坂西志保氏、大島清氏をお招きして、特別講演をおねがいいたしました。ここに会議の速記を集録いたしますが、婦人問題に関心を持たれる方々のご参考になれば幸いと存じます。なお紙数の都合で刪愛した部分があることをお断りいたします。

昭和三十六年十二月

労働省婦人少年局

全国婦人会議の組織

名称 全国婦人会議

主催 労働省・日本放送協会

期日 昭和三十六年四月十二日～十五日
場所 東京（産経会館・NHKホール）

会議員 六〇名（全国からの応募者中から中央選考委員会が決定）
会議の構成 総会、部会、移動会議により構成

部会

第一部会 家庭、勤労の場所、地域社会、学校や施設において次の世代の成長のために婦人はどう貢献ができるかということについての討議（各部会共通）

移動会議

- 第一班 農村青年との懇談
- 第二班 勤労青少年との懇談
- 第三班 中学生との懇談
- 第四班 青少年団 団員との懇談

中央選考委員

- 立教大学法学部学長
- 評論家
- 東京教育大学教授
- 評論家

- 宮沢俊義（委員長）
- 伊藤 丹
- 磯田 一
- 久米 愛

お茶の水女子大学教授
日本放送協会教育局長
日本放送協会婦人少年部長
労働省大臣官房総務課長
労働省婦人少年局長

部会リーダー

- 第一部会
- 第二部会
- 第三部会
- 第四部会

総会の話し合いの司会

特別オブザーバー

- 全国組織の婦人、青年団体役員
- 全国組織労働組合役員
- 青年（個人・学生・勤労者）
- 沖縄婦人会役員

事務局

労働省婦人少年局婦人課
日本放送協会婦人少年部

勝部 真長
浅沼 博
江上 マジ
大野 雄二郎
谷 野 せつ

伊藤 丹
磯田 一
久米 愛
勝部 真長

西 清子

十名
一名
四名
一名

全国婦人会 開会式

四月十三日(水)

開会式 一〇・三〇・一一・三〇

——合唱「世界の花」——

開会のことば

労働省婦人少年局長 谷野せつ

あいさつ

労働大臣 石田博英

日本放送協会会長 阿部真之助

記念講演

立教大学法学部長 宮沢俊義

外国からのメッセージ

インド外務次官 ラクシュミ・メノン女史ほか

部会 一三・三〇・一六・三〇

四月十三日(木)

移動会談(視察と懇談)——東京都内——

第一班 三浦東保育所見学、農村青年との懇談

第二班 水上小学校、日本橋商店街従業員施設の見学、勤労青年との懇談

第三班 愛育研究所見学、中学生との懇談

第四班 三共(株)品川工場見学、青少年団体団員との懇談

四月十四日(金)

部会 一〇・三〇・一一・三〇

特別講演 一〇・五〇・一一・三〇

部会 一三・三〇・一七・三〇

特別講演 一八・五〇・一九・三〇

映画監督 大島 渚

四月十五日(土)

総会 一〇・三〇・一二・三〇

——合唱「世界の花」——

あいさつ

日本放送協会教育局長 浅沼 博

外国からのメッセージ

西ドイツ大学婦人協会 エリザベート・シヨヴァルツ

経過報告

労働省婦人少年局長 高橋 展子

部会報告と話しあい

司会 評論家 西 清子

(部会リーダー・会議員・一般傍聴者)

アトラクション——影絵——

開会のことば 労働省婦人少年局長 谷野せつ

記念講演

立教大学法学部長

全国婦人会 選考委員会委員長

宮沢俊義

まず第一に、弱肉強食という言葉を引用したいと思います。弱肉強食と申しますのはいうまでもなく強い者が勝つということであり、強い者が弱づくで弱い者を押しつけて、自分の思い通りにするということがあります。べつに少しも珍しいことではありません。私たちの身の回りによつちやう見かける現象であります。その代表的なものとしては、たとえば、大都會のラッソニアワーにおける乗り物のありさまを思い出せばよかるうかと思ひます。

ところでどういふ、私どもがしよつ中見かける弱肉強食という現象はいつたどこからくるのでありましようか。人間の本性本来の性質というものがどういふものであるかということにつきましては、昔からいろいろ説があります。ご承知のとおりであります。が、本来人間の性質はいいものであるという説もありますし、あるいは本来は悪いものである、いけないものであるという説もあります。しかし本来どういふものであつたかということはいさばくべつといひまして、少なくとも私たちの知つてゐる、私たちのまわりにいる具体的な人間とも見ますと、人間というものは他人よりは自分を大切にすゝ、大切に考へるといふ本能をもつというものが通例のようでありまふ。これは人間の歴史を調べてみるとすぐわかることなのであります。この本能といふものは性格といふよりも、他人よりも自分を大切にすゝといふ、こゝろの考へ方を仮に利己主義あるいはエゴイズムと考へておきますと、これはたゞしいま申したやうな弱肉強食という現象を生む非常に大きな原因ではないかと思ひます。他人よりも自分のほうが大切だといふことになれば、他人を押しつけて、何よりもまず自分の利益を通さなければならぬといふことになりまふ。そのなれば結局自分の主張を通す力の強い者が勝ち、弱い者が負けまふのは、あまりに当然であります。ホッホと

いうイギリスの学者は、人間は自然の状態においては弱肉強食である
と申しました。つまり狼と羊との棲いの世界、これが人間の社会
の本来的姿であるというわけでありました。私は狼という動物が果し
て人間の考えるほど残忍な、悪い動物であるかどうかは存じません
狼にいわせたら、あるいはむしろ人間のほうが残忍で悪いというの
ではないかと思ひますが、しかしいまのホブズの言葉の意味はおそ
らくこういうことにあるだろうと思ひます。人間にとつて
はたゞいま申したような弱肉強食という現象が本来決して不自然で
はないということ、これがホブズの言葉の意味だろうと思ひます。
それでは次に、弱肉強食という、こういう現象は、果して人間と
社会にとつてのぞましいものでありましょうか。これを第一
に考えてみたいと思ひます。

ただいま申したように、弱肉強食という現象は人間の社会にとつ
て決して不自然な現象ではありませんが、だからといって、それが
ぞましい現象であるかどうか、これは非常に問題であります。この
状態が強者にとつて決して悪いものでない、あるいは望ましいもの
であるということはこれはたしかであります。強い人、強者、少な
くとも彼らの大部分は、弱肉強食という状態を変えようとは思わ
ないでしよう。たとえばいつでも大ぜいの人間を押しつけて、先頭
に立つだけの力と図々しさを待つてゐる街の英雄たちは、停留所で列
を作つて並んでおとなしく自分の順番を待つ、ということは決して
好まないでしよう。もつとも、自分が列の先頭にゐる時はむしろんべ
つであります。しかし弱肉強食という状態が、弱い者、弱者にとつ
て決して望ましいものでないことも同じように確実であります。弱
肉強食は、強者のために弱者を犠牲にすることでありました。そうし
て人間は誰でも他人の犠牲になることを好まないのが通常でありま

す。弱者には、安んずる供養が病入とか老人とか、そういう生理的
弱者もあれば、また貧乏人といったような、経済的弱者もありま
す。また社会に階級制度がある場合には、下の階級の者は上の階級
の者に対して常に弱者であります。これらの弱者は人間の歴史に
おいて、いつでも弱肉強食状態が変つてゐることを望み、またそれを要
するのために、大なり小なり努力を続けてゐたのであります。そ
してこの努力は、人類文化の進歩の最大の原動力といつてよかろう
かと思ひます。人間の歴史において弱者は、彼らが生き残るうち
に弱肉強食状態が廃止される見込みが少くないという時には、しばし
ばあの世に望みを託して、この世での幸福を諦めようとしたとい
うことを私もこの際、思い出してもいいのではないかと思ひま
す。

人間の歴史は一方において、社会における弱肉強食状態を少しで
も要えようという弱者たちのささやかな、しかしたゆまない努力の
歴史であると同時に、また他方においてそうした努力のききめ、少
くとも直ちに、ということに絶望して、この世の不幸を多かれ少な
かれあの世の幸福で埋め合わせよう、という弱者たちのあきらめの
歴史でもあります。

それでは弱肉強食は、人間社会にとつて望ましくないと考えるべ
きだと思ひますが、それはなぜでしようか。それを第三に考えて
みたいと思ひます。

弱肉強食は存続者が弱者を犠牲にすることですから、その意味に
おいて望ましくないといつてよかろうかと思ひます。もし強者が、
弱い人間よりも人間として大きな価値をもつとすれば、強者のため
に弱者が犠牲になるのは当然であります。

ワインビン・ボーイという言葉があります。これは、たとえ

弱さの若さが先生のいうことを聞かないから先生がなぐる。そ
の時、殿さまの若さをなぐるわけにいかないから、もう一人家来
の子どもを置きまして、殿さまの若さが失敗すると先生のムチが
隣りの子どもをなぐるのであります。これがすなわちワインビン・

ボーイというのであります。これは昔からあつたので、それはなぜ
かという、そこに二人のボーイズがゐる。一人は価値が高い、一
人は低い。だから、高い者のために低い者が犠牲になつて、自分の
責任でも何でもないのにムチで打たれるというわけであります。し
かし、人間の間に、その価値の違いを認めることができるかどうか
が問題であります。昔の人はそれを認めたのですが、今日の人はこ
れを認めようと思ひない。少なくとも、それを認める根拠を見出す
ことができないと思ひます。

もちろん人間の間に、その社会における働きにおいて非常な違
いがあります。立派な芸術作品を残した、たとえばベートルベンと
いう人の仕事は、普通の人の仕事よりはるかに価値が高いでしよ
うけれども、たとえば何百人という罪のない人間を文字通り殺りく
したナチの責任者たちのマイナス価値というものは、普通の人間よ
りはむしろ大きいでしよう。こういう区別を認めないといふことは、
いわゆる悪平等であつて、決して許されないとあります。し
かし人間をその働きから離れてみる時には、そこに人間としての価
値に違いはないと見るのが今日の考え方、天は人の上に人を作ら
ずといふのはそれでありました。もしこの考えが正しいとすれば、強
者は弱者より大きな価値をもつわけではありせんから、強者のた
めに弱者が犠牲になるということは許されないとになりま

す。
人間が平等であるといふのはこういうわけでありまして、その意

味において、弱肉強食状態はすべての人間をひとしく尊重しよとい
う民主主義、デモクラシーの下においては許されないとすること
になります。

では第四として、民主主義の目標は何でしようか。民主主義はす
べての人間に、ひとしい価値を認めて、これをひとしく尊重するとい
うことを目的とするのであります。人間を尊重するといふことは、
人間に幸福を保証するといふことでもあります。人間の幸福の最低の
前提は、自由な生存であります。すべての人間の自由な生存を保証
するといふのがデモクラシーの目的であります。社会に自由が存す
るためにはまず秩序がなければなりません。無秩序は必然的に不自
由、あるいは弱肉強食をもたらします。しかし、単なる秩序だけで
はなりません。単なる秩序ならば、軍国主義のもと、ファシズムの
もとにおいても存在します。いかえれば、アウシュヴィツの収
容所の中においても存在するといえるでしよう。すなわち秩序は目
由を保証するためのものでなければならぬ、しかしまた自由は人
間の生存を保証するといふ裏打ちをもたなければならぬ。明日の
生活にと欠く者にとつて、宗教の自由、言論の自由といふものは、
必ずしも無意味ではないとしても、決して十分な意味をもつもので
はありません。人間はまず生存しなければなりません。しかも人間
らしく生存しなければなりません。したがつて自由といふものはそ
うした生存を前提とし、またその基礎となるものでなければなら
ないわけでありました。すべての人間にひとしく自由な生存を保証す
るといふのがデモクラシーの目標といふことになりました。それでは
弱肉強食をどういふ方向に考え直すべきでありましょうか。それを
第五に申しあげたいと思ひます。

民主主義の目的がどういふものであるとすれば、弱肉強食を認め

るという方向は、弱く者を加えられた弱者の圧力を除くといふこととあります。ほかの言葉でいえば、強い者の特権をその意味で制約するということになります。

そこで最後に、それには、どういふことをわれわれが考えなければならぬかというのを申し上げたいと思いますが、弱肉強食をむき方向に変えるといふことは、実はさきほど申した自己主義、エゴイズムの本能には反することであり、したがって、それに対してわれわれがそういう改革をしようとするれば、エゴイズムで抵抗力に抵抗するでしょう。この抵抗を除くこと、これが私どものせひしなければならぬこととあります。エゴイズムの抵抗を除くといふことはすなわち、エゴイズムを犠牲化する、あるいは社会化することでありまして、ほかの言葉でいえば、エゴイズムをヒューマニズムまで高めることといつてよからうと思えます。ここにこそ、次の世代に貢献するために、私どものなすべき目標があると思うのであります。私どもは多分にエゴイズムの支配のもとにありますから、それを犠牲化する、社会化するといふことはなかなかむずかしいこととあります。これは私どもが美しい母性愛というもののもとに、いかに多くの母親たちが、自分の子どもの利益のために他人の子どもの犠牲にしてはばからないといふことを思い出しただけでもわかります。

フランスの思想家の言葉にこういふことがあります。「人間は他人の不幸を代わつてする十分な力がある」——何という皮肉な言葉でしょう。

また、きだみのさんの「気がい部落」の記録によりますと、部落の人は、隣りの部落に不幸があると赤飯を炊いて喜ぶということとあります。これは気がい部落だけの現象でなくて、人間の心

の奥にひそむエゴイズム、反動の現われではないかと思ひます。私はこのことを、人間の英知によつて、少しでもヒューマニズムの確立に近づくために、よくかみしめてみなければならぬと思ひます。

(終り)

第一部会

会議員

北海道	佐藤久美子	(無職)
秋田	佐々木滋子	(商業)
山形	龍川淑子	(無職)
栃木	大月千代	(無職)
東京	牧瀬菊枝	(無職)
石川	清水英子	(無職)
岐阜	梶田福子	(保母)
滋賀	村田節子	(保母)
奈良	寺川達子	(無職)
和歌山	河村象子	(無職)
香川	貞広しづ子	(農業)
福岡	遠藤幸子	(無職)
佐賀	平井礼子	(無職)
熊本	島田まさ	(無職)
宮崎	片山裕子	(無職)

特別オブザーバー

伊藤 丹	(評論家)
高桑 花子	(大学婦人協会)
新田 静	(全国農産婦人組織協議会)
斎藤 恵雄	(東京印刷労働会)

○ 会議員の問題提起

伊藤 家庭と学校という関係で次の世代、自分の子どもだけでなく、日本の青少年という考え方で、交つていく日本の社会を頭において、そのなかで子どもたちの健全な成長を邪魔しているものは何か、という角度で話し合いをしていただいたらどうでしょうか。

島田 家庭につながる地域の問題はいかがでしょうか。

伊藤 学校のことを考えるにしても、僻地等の問題は、生活環境の問題にもつながるものですからよろしいと思ひます。ではこういう問題を持っているとあるいは失敗談を話し合つてみたいと思ひます。

佐藤 私は、私の町で働く子どもの問題を取り上げてみたいと思ひます。それは働く者に月に一回の休日もないところがほとんどだといふことです。その悩みを訴えようとすると、事実が知れるとお互に困るという素直な子どもたちなのです。子どもの心を傷つけず解決してあげたいと思ひまして、社会教育委員会や中学校へ行つて、協力をお願いしました。その子どもたちは、自分は我慢するけれども、後輩のために何とかして欲しい、という気持ちを大いに大いに、そういう子どもの多いことを取り上げて、みただけです。

佐々木 農家の婦人の、自主性と積極性の欠如ということから封建的なものと考え方をなくして、子どものしつけ、次の世代の成長に貢献できる婦人となる心がまえの問題を考えております。

熊川 次の世代から何を学ばなければならぬか、何を教えなければならぬか、何を共に研究していくのかといふことをみなさんと一緒に勉強してみたいのです。

それから職業婦人、一般の主婦、母親の立場の問題等、いろいろに意見を述べ、いかに少くも接近して、理解し合うことを望んでいる。

大月 私は母子家庭の教育について話し合いたいと思います。私自身母子家庭の者ですが、自分の子どものしあわせを計るべく、地区の子どものしあわせも、しよに考えて、母親の勉勵をして、いいたいと思います。ただし愛情だけでなく煩悩される母親、地域のため、次の世代の成長に貢献できるような婦人になりたいと思っております。

牧瀬 私のように戦争時代をおととして生きてきた母親は、戦後の新しい教育を受けた子どもたちの間にいろいろな問題を感じます。戦前と戦後の教育を私たちがしつかりつかまないと、子どもと一しよに歩いていくことはできないということに悩んでおります。それから戦後の教育で小学校まではたいへんにすくすく伸びているようですが、中学になると、高校受験をめぐって暗い気持ちになっていくことは、おとなの責任ではないかというように考えます。高校くらいまではどの子どもでも入れるというような社会を、みんなで力を合わせてやっていきたいということをお話し合いたいと思います。

清水 私は働く母親と育児の問題、子どもの家庭教育としつけについてお話ししたいと思います。

堀田 私は職業補導をしております関係で、幼児教育が大切であるという事について、皆さんはどの様に今の幼児教育の場をみつめておられるか、また私の現場からの要望を聞いていただいたり批判もいただきたい。

村田 私は精神薄弱施設に保母として働いております。最近では精神薄弱という言葉をよく聞きますが、精神に対する一般の関心が

気持でいつぱいです。婦人の英知と愛情で、子どもを包んで導いて行つたなら明るくなるのではないかと思います。いろいろと具合のよいふんいきを作るためにお母さんたちに料理の講習をやつております。なかなか理想どおりに実現するのはむずかしいことです。が、先ず話し合いを持つようにしました。私たちの部落と隣の部落の方々と話し合いをしてみました。いろいろと悩みが多く、特に若いお嫁さんとしやうとさんの教育的意見が違ふことでした。それから若い娘の離職、サラリーマンへ嫁がたがっていること、最近部落が減っている、みんな子ども達も大阪へ行つてしまふ。将来のあるべき若い人々を農村へおいて発展させるにはどうしたらよいかの原因を探究してみたいと思つています。

伊藤 日本の農村の、非常に重要な問題が出ました。これは今度の会議でも話し合われる事だと思ひます。次にどうぞ。

遠藤 私は進学と就職を明るいものという事です。理由は、現代はど生存競争の激しい時代はないと思ひます。生存競争が、若い世代の中に、あるいは進学となり、あるいは就職という形で主に出てくるのではないかと思います。生存競争にかり立てるのは、おとなの責任のような気がします。生存競争の調整の方法ですが、私は家庭とか、小学校の教育の場において、もつと深く掘り下げてみたい思ひです。たとえば、兄弟や学校で、成績の良い子と悪い子に対する親や教師の立場としての扱い方を聞き出してみたいのです。

平井 家族構成のことなのですが、日本の家庭生活の上に限界があり、社会においてどういうふうにしていくかという事。また、女の人には目先のことを考えて、中心を考へることが非常に下手ですから、もつと原因を追求するということを訓練していき

高まつてきたものは、ほんとうに腐敗していると思ひます。しかしほんとうに理解されているかどうかと考へてみますと、私は形式的なうわべだけの関心だと思ひます。私の働いております施設にも、民生委員や婦人会、労働組合等々あるが、よく見ると、慰問にのみまします。そしてただ、可哀そうだといつて涙を流し慰問してくれませんが、どうしてこのような子どもが生れたのか、防ぐことはできないかと云う質問を受けたことがないわけですが、日本には二百四十万人の精神児がいるといわれます。そしてその家族一千万とみられております。その子どもたちを、家庭の者がほんとうに理解と愛情をもつて、暖かく包んでやつていただかないと望んでおります。

寺川 私は明治に生れ、大正の教育を受け、四男二女の母親です。終戦後生まれた末の男の子が、今年高校に入學しましたが、古い時代の母親に、毎日のように新しい鐘を打ち鳴らしてくれそうです。でほんとうに民主化した母親にならなければならぬと思つています。だんだん大きくなるに従つて、親子の人間関係をたいへん考えさせられたのです。それから青少年の不良化防止について、家庭の母親として、施設とか、そういうところまでも協力求めなければならぬということをおの機会に皆さんとよく考へあつてみたいと思つています。

河村 近頃テロ事件等で、私なりに心配がありまして、今の世の中でハッキリした考え方を育てることがなく、子どもにいちばん関心の深い母親にもまつたくあまいな気持ちで生きている人が多いのではないかと思ひます。

貞広 私の部落はとも山深く、暗い性格の子どもの多く、何とかして都会の子どものように明るい性格の子にしたいという

島田 私は同じ家庭内での教育的空氣が一つでない事、父親・母親・年よりが各々子どもに対する理解、考え方、意識が違ひますから、大人の世界への不信感、権力、あるものへのへつらいとか、いろんな事でこま化していくような生活の態度ができてしまふのではないかと思ひます。それから、学校で受ける教育と家庭で受ける教育の違い、聞きですが、学校ではいろいろと、この世の中で対処していけるような自主性とか社会性を身につけるような、新しい教育を受けていますが、家庭ではやはり旧態依然とした個人主義の家長尊嚴の教育を押しつけられて、子どもが迷うのではないかと思ひます。それから、青少年と話し合つた時に、戦争とテロは根本的に同じだと思つてゐることです。すべて無気力で無関心なところから、秩序も愛情もなくて、起こるのは何かと思ひ、その子どもたちの心に光を与えるにはどのような話し合をしなければならぬかを話し合ひたいのです。

片山 夜間高等学校についてお話ししたいと思います。働きながら進学したいという意欲があつて、夜間部に入つた生徒たちの半分は卒業ができない。理由はほとんど事業主の無理難題にもよりますが、ほんとうのところ、勉強するといふ事は無理な話で、食事の点でも栄養不十分だといふことにもなりまふ。それで夜間部の生徒の境遇といふことをぜひ強調したいと思つています。

○ 子供と家庭環境・貧困の問題

伊藤 今お話を聞いて、やつぱり問題の中心は日本の子どもがおかれています困難な立場、境遇ですね。それがほとんど出たと思ひます。それを改善せんが、問題をさしている点是非常に期待される

と思ひます。やはり家庭と学校という事を一応頭において、みなさんの間で話し合いを進めていた方がいいのです。香川の良広さんの部落の戸数、その他具体的にどうぞ……。また暗くなりかちの子どもたちにもどうなるかをやっておられるか等も……。

良広 部落の戸数は二十軒をこえて、それが山の麓に二、三軒、三、四軒と散らばっています。仕事は主に農業で土地は六町歩です。二十軒で何とかがやっています。その分校が三十五年続いていたのが閉鎖され、いまは学校まで、山道をテケテケ子どもの足で一時間くらいかかるような部落です。そこで私が専門外なのですがお料理の講習をしましたら、部落のお母さんたちがやつてきて、私のようなへたなライスカレーでも喜んでくれます。一しよに研究して、家にお土産を持って帰るといふ事をしています。子どもがほんとうに喜んで、各家庭が明るい空気につまれる、こんなことを発展的にしていけたらどんなに良いかと思ひます。でも料理のために一度出てくると二度という事はなかなかむずかしいのです。婦人学級もいい事だと思ひますが、出てこない。それには何かわけがあるのではないかと思ひます。平井 忙しいということ、家ではいつしうけんめい働かないといけないということでしょうね。

牧瀬 しゆうとさんが出さないという事もありましようね。清水 働かなければ、食べていけない、食乏だということも……。少しでもみんなが現金収入をふやして行くことではないですか。良広 お金をとることももちろん必要ですが、その方向にもつていて子どもが明るく利口になるでしょうか。

伊藤 非常にいい問題が出て来ました。

寺川 私の方も大体香川の良広さんのようなところですが、各家庭

がよく多額の借金をして、かなり収入を上回っていますから、借り合の格好なのです。しかし家族が破産して行くといひのは農業資本法や、実際面でも耕地が取り合ひで足りないから農家が破産していつて、一軒当りの耕地面積が増えるという状態です。

現田 秋の勤めていた保育園は、国からへき地手当が出ているところなんです。部落は一応豊かな生活をしているのですが、へき地という部落意識が強く、会合等も生活に結びつけて出てこないのです。話し合いの場を持つて勉強したいというので、お母さんたちの集りができつつあるのですが、抵抗が強いのですが、学校の先生が中心になつて、だいふんできてきますと、またそこへ問題ができ、それに加わらない人たちが非常に邪魔するといひむづかしい状態なのです。私たちの地域には教育会議というのがあります。各町村で、単位別に教育会議をやるのですが、やはり学校の参観とか保育園の参観にも、今までは全部母親が出ていましたが、これからは父親にも出てもらいたいという気持ちが強くなつてきました。そのことによつて父親も学校の設備、保育園の内容、設備というようなものにもお金を出してくれる気持ちも最近目立つてきました。

佐藤 私の町では、指導機関にある方さえ、店員さんの休暇について、休日がないのが普通であるという考えが小さい町だけに充満しているように感じられます。

○ 子どものしつけと父親の立場

伊藤 今の佐藤さんの話からも、みなさんの英知の中から出し合つたものからも、日本の子どもがおかれています。貧困という条件、これは今度の会議の根本的な問題だと思ひます。そこで貧乏を政治

家に何とかしてくれと頼むのではなく、それを自分達で、少しでも収入の道を考へていくかということ。もう一つは貧困の原因はやはり父親も一しよになつて考へていくことによつて農村も変り、父親自身の頭、意識を変えていかねばならないという大切な問題が出ています。これが今度のテーマの、移りゆく社会の中でいかに次の世代を導いてゆくかということで、直接に触れながら意見をききたいと思ひます。それから戦前の教育をうけた親が、戦後生まれた子どもの扱い方で悩みがあるのですが、家庭と学校の触れ合いにも関係してきますが、その中でも、家庭でいちばん困る問題とかわからないという様な問題を直接出していただきましようか。

現田 どんな子どもに育てたいかという話し合ひをしますと、大部分の母親たちは素直な子どもにしたいというのです。まだ非常に小さいうちから何とか理屈をつけて反撥して、なつとくがいけばやるけれども、そうでないと絶対にやらない。そういう姿を保育している私は、それでいいのではないかと思ひますが、お母さんたちは実に不満なのです。何でもハイハイと聞くような素直な子どもになればよい。それをいちはん強く要望されていますが、そりううふうな問題について、みなさんの意見を聞きたいと思ひます。

片山 何でも自分の意見がいえるということはほんとうにいい時代になつたと思ひます。素直というともやはり取り方に……。牧瀬 素直の内容だと思ひます。何もかもハイハイというのが戦前の教育をうけたおとなの人たちの優等生だつたと思ひます。戦争の体験を書いたものを戦後、中学生の子どもたちが読んだ時に、お母さんたちは戦争になつてからこつて逃げたわのたが泣

いたりしているけれども、戦争になる前に何とかならなかつたのか、こういわれて、私はたいへんショックを受けたのです。今の子どもたちが、ただ何でもハイハイと素直にきいて、私たちがそれを喜んでいたら、また私たちの方へ逆もどりますのではないかということをお母さんたちは中学の一年生から教へられたのです。でもしかし、家庭内では父親が問題ではないかと思ひます。親にむかつて、というようなことをすぐ父親は申します。その点母親はグループなどを持つて、その中からも子どもに近づいてきていると思ひます。

熊川 先だつて聞いた話ですが、あるお母さんが、中学校に行つて先生に子どもの勉強がたいへんむずかしくなつたので、私には教へることができなくなつた。どうしたらよいかと相談をしました。先生はそれは教へるというよりなことではなく、これから私もあなたといつしよに勉強しましょうといつてごらんない、といわれてお母さんは子どもにそのようにいひましたら子どもは、お母さん今から勉強して何になるの、といつたそうです。お母さんはまた先生へ相談に行つたといひます。私はそれを聞いてもう少し自分というものを持つてほしい、あなたと一生、一しよに勉強をするのよ、と一言なせいなかつたのでしようか。そしてほんとうに心から子どもとともに歩める、次の世代とともに歩める母親になりたいと思ひます。私たちの年代では、昔から権力と命令でしつけられていたのですが、たとえ先生にいわれたからといつてすぐそれをそのまま子どもにいつて今度また子どもにいわれるとこまつてしまつて、先生のとこへ相談に行くといひことは少し情ないやうな気がします。

池田 地方の農家では、相当財産もあり裕福な家庭の家でも、お

しめりて、それが経済的現象を起しているのでは、子どもに責任を
負つてやれないという状態ですから、子どもの教育もいつても
自分の思う通りにできないと悩んでいます。

寺川 地方会議で話し合ひをした時、父親が母親より以上に封建
的圧力を子どもに加へたりした場合、母親が子どもを助めてやり、
父親にもほんとうの愛情と理解をもつて話し合へば、父親がな
りの圧力を子どもに加へても、不良化は非常に少ないというこ
となのです。

大月 私は正しい子どもの観察者となれといいたいです。具体的
なお話をしますと、ここへ立つ前日、私は何やかと忙しくしてお
りましたら六年生の子どもの「お母さん、とても忙しそうだが
ら、この間学校でボテの料理を習つたから、それを今日作つて
あげる。僕にまかせてくれ。」といつて、台所へ入つていきまし
た。私はその子どもが、まだ家で應子をもつてゐるのを見たこと
がありませんので、のそいてみましたら、皮をきれいにむいて、
いつしうけんめい切つてゐるのです。塩とコショウの味がちよ
つとわからないのであとからやりましたけれども、私はとてもう
れしくなりました。

伊藤 なかなかおもしろいですね。

片山 私のところには男の子と女の子があります。男の子だからと
いつても何もしないような封建的なことは、最も私はきらいです。
私の男の子はトンカン、ライスカレーもできます。男はなんもし
ないでいい、というのはいけなないので、十分仕込んでゐます。

島田 今のお話は、親子二代だけですから簡単にできますが、僕の
つなかりがたくさんあつて複雑な家庭のところは、なかなかその
ような仕込む教育ということはむずかしいのではないかと思います。

伊藤 今の話を聞いて、多少身につまされてゐるのは、子どもがど
うしても母親の思うように育てられないのは、邪魔をしてゐるも
のに父親、年よりがある、こういうことでしょう。そういう立場
の人に、少しは、無理もないんだ、というような考え方というも
のは成り立たないですか。

河村 年よりの立場からしますと、いきなり今の新しいことを理解
してくれというのは無理だと思つてゐるのです。それは六十年来の日本
の教育が根強くしみこんでいつて、いま急にそれを切りかえろと
いうことはなかなかできない。しかし私たちがたつて新しいことを
知りたい気持はいつばいなので、話し合ひの中で、これか
らの人間の生きていく正しい目標とすることを、どうやらつかめ
ると思ひます。努力の中で親子の理解が深められていくのではな
いかと私は、かすかに希望をもつてゐます。

牧瀬 今の子どもは高校くらいになると、お父さんは何も知らない
けれど、お母さんはずいぶん苦労してゐて可愛そつた、どうして
ああいう人と結婚したのかと（笑）、お母さんの結婚について
まで、子どもは理解しようとするのです。選挙の時など昔は女に
選挙権がなく、「貴女（長女）が生れた年はまだなかつたのよ」
と、そういう日本の歴史にさかのぼつて子供に理解してもらわな
いとだめなのではないかと思ひます。

寺川 私はしうと年より主婦の立場ですが、大きいむすこ、娘た
ちが、年よりの両親の願ひのある程度聞いてくれますが、大部分
は反抗して、自分たちの思う通りにしたのです。反抗したと思ひ
ましたが、よく反省してゐますと、古い教育をうけた私自身が、
ただあつた心配するといふところへ愛情を向けていたわ
けです。反抗と思つたがそれの上かつた、という結果もたくさん

す。

河村 岡山の地方会議で同じような話が出ました。特にむずかしい
のは、地方の有力者で、社会でも指導的立場にある方でも、家庭
においてはほんとして人のいうことを聞かない、そういうことで
悩んでゐるもの、発言に対して、奥付の方でしたが、三代いっし
やる家庭でした。家の中でみんなが各々願ひを持つてゐるとい
うのです。年よりも若い者も持つてゐるわけですが、その願ひは
アメリカへ行くなだといつてがん張つても、皆がそれを眼から
押さないで、協力する。また年よりのしたいということも家族中
で協力してかたえてあげるようにするのだそうです。そのアメリ
カへ行きたいといふ願ひさんにも、家族中で賛成を少しずつで
も協力して、行けるような腰勢を作つてあげたのだそうです。そ
のお嬢さんは、アメリカにはとうとう行けなかつたそうです。そ
今になつてみれば行くなといわなくてほんとうによかつた、その
為たいへん内満に行つてゐるというお話がありました。

梶田 私子どもを扱つておられますと、お父さん、お母さんだけの子
どもは簡単ですが、おぢいさん、おばあさんのいるところは、や
はりむずかしく、どうしてもうまくできないという悩みがありま
す。この頃は保育園でおばあさん、おぢいさんの参観日を設けて
ゐるんです。また年一回ぐらい講師の方もお願ひして老人の人た
ちを集める、そうして、子どもの学校での姿をみてゐますと、今
までが、固なことをいつて、とんでもないこつちや、あんまりい
えないという年よりが出てきて、非常に喜ばれていま

○ 年よりの立場から

あります。

佐々木 年よりは何も仕事をさせないこと、持たないことはいちば
んさみしいものだそうです。

○ 放任主義と父親

伊藤 父親の一人として気になるのでおうかがいするのですが、近
ごろはどちらかというと父親が甘過ぎて子どもができそこなり、
いおゆる自由主義だとか、放任主義だとかいうようなことで、子
どもを、またに追いやってゐるのではないかという反省も出てき
ていますが……

清水 いま、先生のおつしやつたことですが、私の主人、父もその
代表的なものでして、小学校の教員でありながら、自分の仕事の
ために教育は放任主義です。そのために子どもがいつも親のい
うことを聞かずこまつてゐます。

熊川 これは私のうちの例ですが、中学校でゐるアンケートを
とられました。その中に両親はあなたに対して理解があるかとい
う欄がありました。そうしましたら私の子どもは、理解があり過
ぎて時には迷惑だ、と書いてあつたのです。そして特に父親とカ
ッコして書いてありました。精神的には伸び伸びとしからないう
といふこととやつてまゐりましたが、そういうことは子どもにと
つては、頼りなく思はせてゐるのだじやうか。それでもなお聞か
せてよいましたら、自分の物さしで私を計らないでくれという
のです。悲しいような同時にああこれだと思ひました。
民主教育でこれから先だんだん進展していくのだ。また一方で
次の年代になつた時に、そのまゝ、なだ放つておいては、たいへ
ん混乱した世の中になつてしまふのではないかとふと考へました。

ではならないと思ひます。親の経済の貧しいことだけは、子どもはあまり考へてくれません。少し話し合ひをしますと、大学、高校三年くらいになったら、アルバイトをやるからその時考へてやるよといつてくれますが、みなさんの場合はどうでしょう。

片山 本人の希望、学校での能力、親の希望をとり入れて決めるのですが、決めるながら、まだ親は普通高校に入れたがりです。

清水 この間新聞で、ある会社が管理職を募集していました。有名校の卒業生でなければいけないので、厳しい世相の実例を見せられたような気がしました。

佐藤 私の町には高校がありません。出したければ、五、六千円かかるのでは、経済的余裕のない人がほとんどなので、すいぶん悩んでおります。

牧瀬 やはり、奨学金をもう少し申を広げていただく運動をお母さんたちにやつていただくように……。

○ 子どもへ期待しすぎる親

伊藤 子どもに学校を選ばせる問題ですが、子どもに対して親が持っている期待が大きすぎるという問題について、無理な期待を親が持つために子どもがしくじつたとか……。

牧瀬 東京ではどうしてもそれがあるのです。あの高校が元の府立一中だとか、そういった考え方のおとながあとを絶たない限り入学試験の問題は解決しない。子どもに絶望させているおとなについて何だろうと私たちは考えなくては行けないと思います。

伊藤 絶望させているという言葉がありました。これは大切なことで、今の子どもたちは口には出しませんが、いろんな形で欲求不満をもらっているおかげです。勉強したいが、お金がなくて上の

学校にいけない。

貞広 子ども自身にも夢があります。おとなの期待とは違ふかも知れませんが、合致した時にはお互いに喜び、進んでいる場合でも子どもの夢を尊重し傷つけないように仕向け、ふんいきを作つてやらなければならぬ。

牧瀬 親の理想像なんでものを押しつけられてはこまる。高校生くらいになるとハッキリ申します。次の世代の成長に貢献するのはなくて、お母さん自身がしつかりした考えをもつてほしいといわれしました。

貞広 学校教育といつても、学校にばかり頼らせると、子ども自身によさは伸びない。学校でいき届かぬところを、家庭でしていただくたいと学校からの意見がありました。

伊藤 今の学校の、先生から家庭の親への希は最近たくさん出てきています。アメリカに行つた時に、こういわれたのです。日本の親は夢をもつています。高校まで十八才までは親の責任ですから、高校を出るころに自分の人生を決めるのは子ども自身であつて親が何もいうことはない。これがアメリカでは常識になつていくのです。

島田 私は世の中が激しく変動している中に育つていく子どもたちが、どういう境遇になつても、くじけない、たくましい子どもになつてもらいたいと思います。少しは道徳的にはずれたとか何とかいわれても、何か世の中に生き延びていくだけの、たくましさを持つてほしいと思います。

寺川 運動選手と高校生のことですが、高校の子どもに聞きました。ある優秀な点数が悪いので入れないが、あそこへ入れれば選手になるよう強要されない。しかし優秀でないほうは陸上部の

先生が待ちかまえていて、かなり運動も教へるので僕は大学へやつてくれるといつても、入つてもやつていけないと将来を見通していつていのです。運動部に入つても勉強に差し支えないものをやつて、両立するものに入りたいといろいろ迷つていのです。体育の先生はオリンピックを控えて、体育の教師としての悩みはあるだろうと思いますが、あまり強要しないようにして欲しいと申し出ました。

オリンピックを控えて、どの学校も表向きには発表しませんが、合宿訓練で夜はへとへとだということです。いい面では運動によつておとなしい子どもが中学のころから、老人つ子の甘えつ子のよ

わたしはこんな子どもを望む

大塚 好

おとなしそうで シンの強い子

けんかは めつたにしないが やり出したら血が出て骨が折れてもやめないような子
けんかにまけて やられても 家へ帰つて父母の前へ来た時は

「やられちゃつた」

といつて涙をふくような子

海へつれていつたら 小山のような波を見て泳ぎたくなつて
「おとうさん おかあさん見ていてよ あぶなかつたら助けてよ」

そいつで波に向かつていくような子

服を着せたら 少しツルツルでも ダブダブでも 兄きの古でも洗いざらしでも
いづれにとうじやくしないような子

学校で先生のいうこと 教えてくれることをしつかり聞いて 家へ帰つたら余り勉強などしない子
テストだ 試験だつてうらやましいで

それでもどうにか大半くらいは卒業してくれる子
町にお祭りでもあれば、みんなといっしょに喜んで、うれしがつておどろもやるような子
中学校から直接へかけて、何でもいからスポーツを身につけて、選手にしてみらつて、母校のために「益から死んでも
頑張るぞ」と若い血を奮立たた子

小さい者や弱い者の味方になつて

そういうものが、いじめられたり、ふみつけられたりすると、むしろ腹がたつて

大きいものや、強いものに突き当たっていくような子

おじさまやおばさまからもらつたおみやげをだいにしてお菓子やレツタルや包装紙のきれはしまで記念にしてくれる子

時々の日曜日には、遊びのコースを奥山の麓地にとり

「おじいちゃん、花をあげて来たよ」

といつてくれる子

時々、正しい理屈をいつて、いい出したら目をとがらして、おとうさんのいい分を負かしてくれる子

小鳥を飼つたり、金魚のえさをとりに行つたり

犬小屋に数が入らないように工夫したり

草花をかわいがつてやつたり

学校の教科書より他の本をたくさん持つて、雨の日には一日読みふけり

暑い日ばかりに炎天下で一日遊びはうけて

どんなものでも、喜んでハンサムシヤたべて

それで病氣ひとつ知らない野ばらん人のような体でビチビチした

そういう子どもをわたしはのぞむ

(第一日閉会)

(一) 働く年少者、商店主婦の現状

伊藤 午前中は職場の問題、働く母親、中小企業に働く青少年、商店のあり方、商店の主婦はどのような地位におかれているか、そんなことを頭において、ご意見の交換をお願いしたいと思います。

佐藤 梨のところでは、呉服屋に働く店員さんですが、お休みが一月に一度もないんです。店員さんにしたら、一月にいつべんぐらいお休みがほしい、せめて一日の自由時間をラジオでも聞きたい、映画でもみたいというのに対して、主人が相当でんこで、お休みをやらないうのです。問題を放つておいていいのか、それともなんとか解決策を、私たちの手でできないものかと思ひまして……。

遠藤 休みがないというのは、どの程度ないんですか。

佐藤 町の商工会は八十軒ぐらい加盟店がありますが、一カ月一回の月例の休みがあつても、店主の理解がないので、かくれて商工会の約束を破るわけです。

島田 住み込みですか。

佐藤 住み込みです。その子のいうのには一カ月一回どころか、六年間働いて一回もお休みがないというんです。

平井 そういうひどいのがやつぱり多いんですか。

佐藤 それが普通のことなんです。私が社会教育委員会に行きましたら、「なにもそんなこと普通のことでないか」というんです。正月は忙しいときが過ぎたら三日間ぐらいひまの時がありますが、お盆にはないんです。店員さんにしてみれば、よそは週休制まで実現されているのに、ぼくらのところは一カ月一日の休みもない、それを主人に言えば、やめていけといわれまうし、やめてしまつてはいままで苦労したのがむだになる、そういうかわいそうな立

第一部会第二日目

一四日 一〇〇〇一七〇〇

場にある人なんです。

伊藤 ぼくもちよつとお伺いしたいんですが、雇うときに前借金みたいなものはないんですか。また秋田や山形の農村に残っている雇人、借り子のような制度で雇ってきて牛馬のように使うというふうな……。いちばんはじめの目におつしやつた、その子どもにこういうことを私からいつてやるうかといつたら、自分だけががまんすればいいのだから、というふうなことをいつたという、その二つの点を話してくださいませんか。

佐藤 私、かわいそうですから、監督署に知らせてあげようかといつたら、ちよつと考えてみたが、その話の出どころを追求されればばくから出たということになる、そうするとぼくもこまるし、また主人もこまる。だからがまんするというんです。それを改革するには、自覚がなきゃよくならないわけですし、また私たち自身も、小さな町ですから、こういうことをいい出すと、結局あいづは生意氣だというようにいわれるので、私自身も利害関係を無視しなきゃならないわけです。

遠藤 自分一人のためでなしに、みんなのためにするという気持ちですね。

村田 滋賀県の地方会議でも店員さんの問題が大きく取り上げられました。大津市ですとだいたい月一回ぐらい、草津市が二回と報告されています。休みをいだけないのがあるんじゃないか、これを何とかしなくてはという話し合いでした。また、店員さんとは別に女中さんの場合ですが、私もしばらくお手伝いをした経験がありますけれども、お手伝いさんの休みということも大切じゃないかと思うんです。

佐々木 ほかの条件のいい具原屋さんに移るなんてことはできない

んですか。

佐藤 その子は移る気はないんです。

遠藤 どうしてですか。

佐藤 結局本人がすなお過ぎるんです。「でもこれからくる人はぼくのようなわけにいかんわね」というんですが、これからくる人のためにしてやろうという気持ちもないんです。

寺川 最近二、三年の間に奈良市の商店街なんかほとんど自衛してきて、買物に行つた私たちが不便するくらいに、時間になれば店をしめる。たまたま買物に出たのに定休日で、ほんとうにごまつた日に来たものだ、というくらいにやつて、その日はどこかへ旅行にいつたり、レクリエーションに出たりしているんです。

佐藤 私たちの町は、四、五年前までは純農村でしたが、自衛隊の移駐で町の人たちの風習も変わりました。それでも長くいらつしやる町の方は依然として封建的な気持が多いものですから、ものがたがすべて慢性化しているんです。

牧瀬 東京でも、店員さんを二人か三人使っている魚屋さんは、市場は二の日に休みですけれども、船橋から仕入れてくればあるのだそりで、二の日も休ましてくれない。

伊藤 佐々木さんは農漁村ですね。漁村の青少年のことで少し問題をもつておられますか。

佐々木 漁村は行き詰まりというような感じで、あと取りは仕方なく船に乗っていますが、次男は農村と同じようにサラリーマンになつて、工場なんか就職するので、人手がないものだから雇率が上がらない、漁村の人の生活は農村より低下しているんです。

遠藤 私のところはちよつと博多と北九州の中間にある海岸線の町なんです。農村と漁村もありますし、それから日雇いの方が大半

ですわ。聞きますと、やつぱり生活程度は漁村の方が低いんです。伊藤 原因はなぜでしょうということですね。

熊川 うちの方は庄内平野で、農業をやっている人は野菜も作るし、お米も作っております。お米は早稲米で出すと多額のお金が入り、一週間の違いでずいぶん値が違ふので、少しでも早く出すとたくさんのお金が入るわけですから、日常の生活は潤々なわけです。

ところが漁業のほうは、取れさえすればお金になるわけですが、取れても取れなくても海に出てみるわけです。近頃イワシは不漁で、遠くの方へ出ていけば、取れない場合はそれがみな損害になるので、しまいに網をたたんで、父ちゃんたちは北海道のほうへ出かせぎにいくわけです。母ちゃんはやそへ日雇いに行つて、父ちゃんも長期に留守で、いないということになると、うちにいてもつまらない。母ちゃんもくれる一日十円のおこづかいを羨しみに、それで遊ぶわけですが、いいオモチャもないし、いい遊び場もないままに、投げ出されているわけです。託児所というようない設備もなく、学校から帰るとあと半日はぼつぼつ出されて暮すものですから、とても悪い状態に追い込まれているんです。そして私どもの地域も、このごろひらけまして、工場地帯とか、お役所の方とか、まあ団地も相当ありまして、その子どもたちは親の目も行き届いていないわけです。ですからその差が激しくなつて、農村の子は農村、漁村は漁村、サラリーマンはサラリーマンと自然に集団ができて、分かれ分かれに遊ぶわけです。いつまでたつてもとけ合わない。

島田 南の方にもそういう状態がありまして、熊本の天草といいますと、昔から出かせぎの盛んなところで、ほとんど漁村の集落地です。中学を卒業した子はほとんど京阪地方の工場あたりに出て

○現状に対する問題

伊藤 いま熊川さんからも出たように、工場が農村に出ていきますね。その中における青少年問題から学校の問題、いま出たような問題がたくさんあると思うんですが、どなたかそういう問題お持ちじゃありませんか。

河村 私のいまおりますところは、岡山県の海岸線の小さい町ですが、ほとんど工場の社宅でできている町です。かつては漁村だったんですが、いまおつしやつたように、漁業のほうがますますなつてしましまして、網や船を持つていている人は相変わらずやつておりますけれども、資本のない漁民たちは、ほとんどできる工場の工具さんに吸収されてしまつて、これは全国的な傾向だと思つて、漁業のほうの労働者が大へん少ないんです。

佐藤 私は商店の方々にいろいろお聞きしたんですが、近ごろの子どもは悪いというんです。たとえば自分の主張を通し過ぎるとか、それから主人のいうことを聞かない過ぎるとか、おこづかいを使ひ過ぎるとか、それからすぐやめていつてしまふとか、いろいろおつしやるわけですが、使うほうの方がなぜやめていくのか、なぜ悪いのかということについて気にならないんです。給料は安いし、六年間働いてもお休みはできないし、ということになると、将来に対する希望がない。希望がないと、若い人は悪くなるんじゃないでしょうか。

河村 使う側にもいろいろ大きな問題を含んでいると思います。中小企業といつてもほとんど家族企業で二、三人というのは非常に

入ると思ふんですが、その主人が、昔のやつと事公時代と同じような気持ちで使っているんですね。だから口答えされたりすると意外な気持ちになる。これは小さい問題じゃないと思ふんです。両方にあるんですね。

佐々木 私には洋裁の店をやつておりますが、かたしで、まだ二年になりません。縫子さんが入っていて、家族的にやつていられるつもりですが、そういう待遇のことに関しての悩みはありませんでしたけれど、働いている女の子同士、年令差の問題ですね。十代の子と二十五、六以上の娘さんの間に意見の食い違いなんかあつて、ときどきいい争いをやつていられるんです。私はあまりタツチしないで、だいたいは話し合ひで解決するようにさせています。やつぱり年長者のほうに背あうな考え方で、義理人情といひますか、店のため、私のためにつしようにけんめいしてくれろという気持ちが見えるんですが、十代の子は自分本位のものを考えて、時間があると、さつさとやめて、帰る支度をする。それから洗濯作法といひますか、元気で発言力がありますから、思つたことをベツベツといひつて、年うえの者の感情を害することがときどきある。

島田 中学校を出て、よそに出た人の話を聞きますと、いちばんつらいのは、友だち間のつき合ひ、先輩との関係と申しますか、その次が食べものだそうですね。自分のうちで腹をふくらしていつた子どもは、都会に出れば、どうしても腹いっぱい食べられないという悩みがあるんです。

○ 働く年少者の生活について

伊藤 地方の婦人会で出た席だけ、ひとつかいつまんで話してくださいませんか。

みに回つていくくらいです。進学しようとしてる子どもまで引き抜きにくる。それは子どもの評判がよいんですが、その子どももしんぼう強さに疑問があると思ひます。まあ県民としての性格かも知れませんが、一つはやはり貧しさですね。就職したほうが自分の家にいるよりも食糧もいひんでしょう。

澤田 私はそういう方面じゃないんですが、岐阜の地方会議に出た問題の中で、中小企業、理髪店の場合なんですが、週休制をとつて、小僧さんたちが、みんな同じ休みの日に集まつて話し合ひをするというふうなことを、初めは事業主のほうでさせたんですね。ところがお互いにうちの食べものはこんなふうだとか、いろいろお店の条件を話したりするもので、事業主が、そういうのをつくつてみたものの、今度はこまつていられる状態なんです。けれどもそこを切り抜けなければ、これからそういうところに働く小僧さんはなくなつてしまふから、なんとかそういうものが続けられるように、事業主のほうもがまんし合つて頭の切りかえが大切であるというふうなことがいわれたわけです。それから先ほどおつしやいました県外からの集団就職ですが、大垣あたりは一万八千人若い青年がよそから来て働いているわけです。多治見の陶器のほうです。それで大垣あたりの婦人会で、そういう人たちのお母さん代理をしてあげて方がいらつしやるんです。だいたい就職して一週間くらいたつとうちが恋しくなつて、帰らなくなつたりするんですが、いちばんつらいのはやはり食べものなので、食べものをうんと豊かに食べさせてあげると一ヶ月くらいたつと気分が落ちついて、仕事にも身を入れてくるようになるから、そういう心がけが雇い主のほうに大切だ。そういうお話がありました。それからその婦人会の方たちが、いろいろお母さんのがわりにな

市川 さきほど奈良地方のいひを申しましたけれども、大きな組合に入つていない小企業の商店の店員さんたちは、被褥は一週間に一日とか、少なくとも月に二日の休日があるけれども、そのひまをうまく使うことをまだ知らない。それからこのころ京阪神は労働人口が少くないものですから、非常に就職率がいいために、かなりいい給料がいただける。ところが、私たちからみると、まだとむだなような使い方をして、一日にバツと使つてしまつて、次の休みの日には、ちよつと映画を見るのにも、雇主に何百円か前借りするという状態です。それをどうすればいいかということ、が、地方会議の話し合ひで出ました。そのあとへ大和平野のまん中ごろに靴下工場を経営しているうちの主婦が、七・八人雇つていられるので、うちにはみんな娘や息子と思ひまして、食べものも共同にして、そして一年や二年で帰るものはおひきません。女の子は結婚までいて、結婚するときは旦那、長持、洋服たんとす、これをハコと申しますが、そういうものでちやんとしてあげます。そんな嫁があらうました。いろいろ考え合はせて雇主が男であつても、まかないや食べものや、いろんな心づかいをする主婦の人の気持ちが、勤労少年に対する愛情と同情ということによつて、非常にいいのと、まづいいのと分かれる、というような話し合ひがありました。

片山 宮崎は、就職列車を仕立てるほどで、ほとんど就職で外に出ていきます。卒業式がすむと、すぐ汽車が出て行くわけです。私は不勉強でくわしいことはよく知りませんが、宮崎県の子どもは非常に純情で、人なつこくて、しんぼう強いというので、引つぱりだかなんです。就職が決まつている子まで引き抜きにくるので、学校でも困つて、いつべん決まつたら行かないでくださいと頼

つて、そういう若い人たちのいうことを聞いてあげる。そういう楽しい日を年に二・三回もつていますが、もつと回数を多くすることが必要だと思ひ、効果があるように思う、ということが話されていきました。

○ 日本橋のモデル地区について

伊藤 結局いま話し合ひに出ているのは主として地方から都会的なところへ出て、中小企業で働く子どもたちの問題が出てくるわけですが、ちよつときわ、この中でも三人か四人おいでになつた日本橋商店街に働く子どもたちの施設は全くモデル的なもので、日本ではこのくらいが高層だろつというところを見ましたから、その話をしてくれませんか。

熊川 きうは日本橋の馬喰町、横山町方面の商店街を見せていただいたんです。そこで社長さん方のお話によりますと、まず自分のお店をきれいにする、宿舎を作るかというふうな話になつた場合に、働く人あつての宿舎だということ、お店は木造の粗末なものにしておいて娯楽施設を先に作つた。毎日愉快にしてお店のために働いてもらつたということを念願として建てたもので、大へん至れりつくせりの設備で、整理整頓し、快適なことをいつたら、きつとこれはうちにいるよりも何倍か楽しく過ごしているという便りをそれぞれの先生やうちに書いたに違ひないというところを感じました。そして経営者側の話を聞きますと、何もかも使つていられる人の身になつて考えてあげてのことだというふうなお話でした。

ところが座談会で使われている店員さんたちの話を聞きますと、仕事そのものは困合にいろいろはつと自分では来たが、やはり友

(1) 働く母親の悩み

清水 私の場合は初め結婚しても子どもができないというちは主人の理解もあつたし、スムーズに動められたんですが、子どもができてからは、子どもを見てくれる人もなかつたので、近所のおばさんに預けたんです。その時は月給の半分以上もそのおばさんに上げなければならぬし、また自分の考えと、そのおばさんの子どもの教育に対する考えが違ふので、いつも大へん心苦しく思つていました。どうすることもできずに、するすると動いていくうちに、子どもが病気になるまで、私もそのあとにひどく病気をしまして、学校をやめたような次第です。

伊藤 いま家庭教師をしておられるんですね。それは子どもさんの教育やなんかとは差しさわりないような格好でしておられますか。

清水 うちに習いにくるんです。塾みたいなものです。遠藤 私も共かせぎの失敗の跡をさせていたまじまじよう。現在の寺の収入はとも少ないので、お金が欲しい欲しいと思つていたので、昨年、博多、門司間の国道の電化工事が行なわれて、その工員さんたちの宿舎を引き受けてくれないうちという話があつて、年よりの病人がおりましたが、それもまじえていろいろ話し合つてみたんです。やめたほうがよさそうだといいことになりました。のを、私が押し切つてやつてみました。そして半年ばかり引き受けたんですが、工員さんが三十人ほどで、そういう階層の方に接するの初めて、そういう仕事をやるのも初めてです。二人ほどまかないの人を雇ひ、私もまかない婦の一員として働きました。朝三時半ごろ起きて、お弁当の世話をやら、夜は中食をつくり、おふろをわかし、そのほかにおそく、お酒を飲んで帰ってくる人がある、そういう人の面倒まで見てみると、十二時になります。た

しかに経済的にはうるおひまして、幾らか余裕が出てきたんですが、家庭の手もとの教育に失敗しております。中学生と小学校三年半の子がおりまして、その子の成績が下がつてしまひ先生方からも注意を受けましたが、一人引き受けた以上は最後までと思つて、期限までやりました。大層なくすぎたものの、そういう場合にやはり父親が母の仕事を手を離して子どもの教育のほうにも立ち入つてほしいという気がしました。

牧瀬 私は夫の収入が少なく、うまくいかないもので、うちで内職をしたり、ときどき臨時雇いだいのに出るわけなんです。夜中の二時、三時に車まで送られて帰るといふような工場へ出張したりしてやつておりました。下の子どもがそのころまだ小さくて、幼稚園のときは夕方まで見てくださるからまだいいんですが、小学校の低学年のころがいちばんつらかつたといふまでも申しします。もう商店に入つておりましたが、お母さんがいくら親切にしてくれても、あのつらさだけは忘れないとはつきり申します。けれども中学一年になりまして、よそのお母さんは大い家にいて課物をしたり、お料理をしたりおやつを作つたりして、帰つてくると「お帰りに書いてある、とてもさびしかつた。けれども考えてみると、よそのお母さんのお母ちゃんのように、うちのことでだけしている女にはなりたくない、仕事をやる女に私になりたいと思ひ、でも私自身としてもいま出歩くのは自分でも不満なのだ。その矛盾に悩んでいふと泣きながら私も申しました。接い間かわいそうな思ひをさせたけれども、そこまで成長してくれたかと思ひました。絶えずさびしい思ひをしていふ中で、母親が何をしていふのだというのを中学一年ぐらいになればわかつてくれるんです。しか

し小学校時代に味わつたさみしさは一生忘れないといわれると、それを償ふことはできないものかと、共かせぎのお母さん方のだいていふ悲しみ、つらさはそこにあるんじゃないかと察します。私は入学式にも卒業式にも出てやれなかつたが、そういう中で子供が母をじつと見つめていふことに自信をもつていきたいという気がするんです。

清水 私はそういうお母さんの気持ちと子どもの気持ちを考へて、家庭教師を始めました。外に出て働くお母さんの子どもたちばかりでなしに、商店の主婦である友だちから、子どもを見てやるひまがないから、ぜひ宿題だけでも見てやつてくれないうちと頼まれて二、三人見ていふうちに数がふえて、いま十五人ぐらになつてます。いまの子どもは経済的にも非常にドライというか「先生は金もうけのためにしてるのか」とか、月謝を持つてくるときに高過ぎるといつたりするのでとても抵抗を感じて、やめてしまおうかと思ふこともあります。いまは経済的にも自分が働かなければ苦しい立場にありますので、もう少し余裕ができたなら、働いていふお母さんたちの子どもを準仕的にお世話したい、勉強だけじゃなくて、へいぜいの生活指導みたいなことをやつていきたいと思つております。

寺川 私は奈良郊外の田舎ですが、地方会議のときの話です。法隆寺町というところに、教師とか果序の役人、そういうインテリ家庭の住宅地がありまして、その若い主婦が、だんだん女性の職場が狭められる傾向にあつて嘆かわしいから、働ける方は主婦でも若い母親でも働いてください。幸い自分たちのグループはひまがあるので、自分の子どもと一しょに近所の働いていふおうちの子どもさんの面倒をみてあげます。学校に行つていふ低学年の子

どもさんは学校から早く帰つてきますから、うちにいらつしやいといつて、自分の子どもたちと遊ばせておいたところ、思ひがけない自分の子どもが姿が見えてたいへん収穫があつた、そういう報告がありました。

牧瀬 東京でも放課後の子どもを集めて、教育をやつていふグループが幾つかあります。若い団地のお母さん方なんかですが、きには交代に見るといふようなことはしていませんが、ほんの小さな自分の気の合う人たちだけでしかできないんです。おやつの場合には共同で作つてやつていふんです。

伊藤 ここには働く主婦として、職場で組合なんかに入つていられる方はなかつたですね。

梶田 私は働いています。

伊藤 職場の不満とか問題みたいなものをあなたのところはたくさん持つていますね。あなたは保母さんでしたね。

梶田 私は師範学校を出て、自分としては一生先生をやつつもりでいたんですが、たまたま相手が見つかつて結婚することになり、そのとき家庭生活の中だけにいることは絶対いやだということを最初から条件として出しました。ところが矢つぎばやに五人まで生んだときに終戦になりました。そのころは頼むにも人がなくなり食糧事情は悪いし、どうにもしようがなくなつて、とうとう悲しい思ひをしてやめたわけです。三年ほどうちにいましたところたまたま主人が、転任しまして、陶器の産地の恵那へ行つたんです。そこでやはり共かせぎをしていふお母さんたちが、小さい子どもをつれて陶器の工場へ働きにいくんです。その間放り出されて遊んでいふんですが、その遊び方が、わいぜつなおとなたち

の節の中の言葉を直したり、お酒を飲むまねをしたり、手をたたいて大へん下品な歌を歌ったりしているんです。それを見ましてこの最後の不安なときにこんな状態で、私はうちのことだけ考えていいのだからかというのと、自分がうちの中にだけいるのがたまらない気持ちで、保育所を作りましよう地域のお母さんに呼びかけたんです。皆さんが協力してくださって保育所ができました。私がその中心になって、若い高卒を卒業した人を三人ほど頼んで、九十人ばかりの子どもを集めてやり出しました。資格があるので、私も講習を受けたたり、試験を受けたたりして、一人前の保育師になったわけです。ところがまた主人が転任になりました、そこへ行きましたら、そこにも保育師がありませんので婦人会の人と話しよになつて保育園を作つて、三年ほどやつてゐるうちに、また転任になつて現在のところへまいりました。そこは六十戸ほどの家がありまして、そこのお母さんが同じ町でありながら、うちのほうは見捨てられていっているという悩みをもつておられ、私も同感していまの保育園を作つたわけです。

伊藤 村田さんは精神施設の保育さんで、普通の保育さんと違ふかもしれませんが、戦場に対する不安とか不満というようなものをあげてくれませんか。保育という職業に対してでもいいです。

村田 もつと精神児というものを理解していただきたいということなんです。

佐藤 漁村の子どもとか共かせぎの子どもさんが忘れられてさびしい思いをしているというんですが、お母さん方の集まりなんかでも、よいお母さんになることをすごく主張しますが、自分を通して他人に関心をもつということは、あまりないんです。自分の子ども以外のことも目を向けてやつたら、そういう人も救われ

るんじゃないでしょうか。

堀田 私はみなさんに保育というものをもちつていたんですが、いんですが、保育所の保育なんて、戦前は社会福祉の仕事だったんですから、その情性が残つてまして、保育園の園長さんとか、古くから勤めている人たちなんかには自分たちは福祉作業で、正當な報酬を要求するのはおかしいというような考え方があるんです。昨年看護婦さんの問題が持ち上がった、初めて保育というもののにも関心をもつてもらえるようになったんですが、私たちの給料はものすごく悪いんです。そういうことがたまたま昨年問題になつて、私たちはこれだけの給料で働いているといひましたら、地域のお母さんたちが、低いとは聞いていたけれども、学校の先生と同じくらいと思つていた、学校の先生よりえらい仕事を外に出さなかつたところにも問題があるわけですが、もう一つは、働くお母さんが、産休がすんでから赤ちゃんを預けたいと思つても、特別の施設がない。ただの保育所ではそれだけの受け入れ能力がないわけです。保育の人数も三十人に一人と限定されて、補助金なんかきいてるわけですから、もつと小さい子を預かることはできないような状況です。厚生省のほうではお金を出す出すといわれまますがほんのわずかで。

伊藤 あなたのところは公立ですね。公立の場合は保育の免状を持つていて初任給はいくらですか。

堀田 五千円ぐらいです。町によつて違いますが、町の吏員並みです。昔は名誉職で、相当いい家庭の人が役場の吏員になつていて、町の吏員そのものが低いんです。

伊藤 十年たつても一万円にならない……

堀田 そういうわけです。

伊藤 村田さんのところは給与どのくらいですか。

村田 はつきり申し上げられませんがものすごく低いんです。一般公務員の方とは雲泥の差です、ほんとうに情ないくらいです。

堀田 保育所の保育の給料がいま八千六百円ぐらい、それで基準が出してあるんです。ものすごく基準が低いんですね。しかも資格をとつた保育師やなきや保育所には勤められないことになつてい

るんです。

伊藤 正式に言えば高等学校を出て、三年間の勉強をするわけですか。

堀田 国家試験を受けて通らなきや資格になりませんから。

村田 つまり私たちはサービスマンですね。子どもたちのしあわせを願うのですが自分たちの生活も保障していただきたいのです。そうでなければ、どれだけ子どもたちがかわいそうだと思つても、保護育成に力を入れたいと思つても、やはり力が十分發揮できないことになります。

伊藤 だいたい時間が来ますので、まだ一、二つは足しておきたい方は……

平井 私は、社会福祉という言葉自体に抵抗を感じるんです。

伊藤 あなたは三十才でした。私が非常に関心をもっているのは、この中には五十才を出た人と四十代、三十代、二十代といつしやるのですが、どういうように問題を自分の頭の中でせしめていくか、あとで出していただくつもりですけれども、平井さんからはつきり出てきたわけです。

堀田 熊本地方会議で、学校の先生たちに、自分の職業を続けたいかというアンケートをとりましたら、健康が許す限り働きたい

という方が多く、それも経済面のことと働きたい、主人の収入が多くなればやめたい、生活が許すなら家庭にいたいという希望が大部分で、仕事そのものに対する愛情とか、熱情とか執着というようなものは認められなかつたという結果が出たそうです。学校の先生にしてそのように仕事に対する執着、熱情、愛情がなければ、ほかの職場の婦人たちも家庭のほうに執着があるのだから、ことになりまうので、婦人の職場をいまだに閉鎖するといふ点について、大きな問題じゃないかということが考えられます。

堀田 いまの若い人たちの考え方もこういふところがあるんじゃないかと思いますが、今度岐阜県は、先生がすくく足りなくなつちやつたのです。それは三月三十一日までどこへ就職するか、どこへ転任するかわからない、その中で四月一日に発令しましたら、岐阜県はここ五、六年の慣例として、新卒の人は僻地へ回されるんです。異動のとき僻地の場合二年いると町へ出てもらえるというところが繰り返されていますが、今年なんか大学を出ても先生以外に任る就職口があるのです。それに同じ教師でも愛知県は岐阜県に比べて二倍給料が高いのです。そんな形で発令したら全然こない人が四十七人出てきて、すくく困つちやつたわけですね。それをうずめる事ができなくて、やめさせた先生のところへまた出てほしいというような教育委員会の不てきわさが出てきちやつています。やはり新しく卒業する人は大きな夢を持つている、その夢を現現させてくれないところにも非常に問題があると思ひます。

片山 高崎県も待遇がよくないので、こちらで発令してもこないんです。今度なんか十三人こなかつた。他県に取られちやうんです。うちの近所の小学校の先生なんです、共かせぎで、子どもが不

良化しているの項、私たちは迷惑をかけられるのです。同じ教員ですから、おやめになつたらどうかと忠告するんですが、やめられないんです。

伊藤 保母さんと教員との問題が出てきましたが、時間がきてしまったので、午前中はこの辺で……。

(休憩)

○ 明るい子ども、明るい地域をつくるために

伊藤 戦場という問題を、母親が働く場合の条件、それから子どもたちが働いている条件と、両方の立場で考えてみて、やはりそこには大きな社会的な条件とか、地域的な条件、文化的条件がもたらあると思います。経済的条件ももちろんあります。ですから地域的、文化的条件、そういういろいろな条件がいま厳しく移り変わっていくということを皆さんと一しよに話し合っているわけですが、その中で育てられる子ども、影響を受けていく子どものために、どういう事が私たちができるかという角度で話し合いをしていきたいと思います。その場合に必ず考えられるのは、さつきも申し上げましたが、科学・技術の進歩というものがあります。それは、家庭生活にも入ってきます。あるいは流布の中に入り、またはマスプロダクションという形であらわれ、更にはオートメーションという形であらわれてきます。さらに、生活様式も大食住が全部変えられて生活様式も、社会的条件も変わってきていることは事実です。簡単にいえば、炭鉱で働いている人が失業す

る。その人たちがどこかとしてよそへ行く、そこには人口移動とか、あるいは近代化とか、いろいろな問題が起ってくる。その中で私が表明しているマスコットの問題は根本出るところで、おぼろげですが、そういう条件の中で育てられている子どもたちのことを少し話し合ってみてはいかがでしょうか。そういう地域の問題は、環境の問題とともに、佐藤さんも大きな問題をもつておられます。佐藤さんも持っておられますし、石川県の清水さんも基地の問題として持っておられます。佐藤さんの場合には自衛隊が来てから町の様子が変わってきたとの大きな問題を持っておられます。又片山さんも自衛隊の問題を持っておられますね。そんな問題から話し合つたらどうかと思ひます。

佐々木 宗教の問題に關しては皆さんどうお考えになりますか。私たちの地方会議でも宗教と教育の問題が出ました。それはビルマ・インド・パキスタン等の留学生たちが、うちの町の公民館に、青年団の人と交歓に来た時のことです。最初にビルマで結婚したら、ビルマの青年が絶対にそれに口をつけないんで、結婚ぐらいはいいでしよう。という「はいありがとうございます。しかし私どもは仲ともありません。私は仲を真切することはできません」と、といったそうです。そのかたい信念ですね。日本の側は世界的にもいけば教育の徹底している国ですけど、どうして非行少年や青年が多いのでしょうか。結局信仰が足りないんじゃないかなにかといわれたそうです。宗教と教育の関連性をどうと考えるものですか……。

伊藤 その場合、個々の生活をみて環境の中にも世界的な関連が多くなつて、世界の人々を迎えることの多い昨今ですが、こちらの準備がなくちやあ、たとえば、ビルマの人が飲まないことを承知

していて無理にすすめることは止めたほうがいい。宗教そのものの問題よりも生活条件とかそういういたものは、こちらで準備しなくてはならない。そういう意味での広い視野とか豊かな経験をおたえてくれたでしょう。

佐藤 たとえば店員さんになりますと使われている人も使っている人も、同じ立場にあれば、ほんとうに人間として対等の資格を有する人間なんですけれども、そこにいろいろな格差があります。ですから、やはり人の命を大切にするとか、かあいそうだとか、とにかく相手の命を尊重すればもつと社会の美しさも人と人との関係がやわらかくなるのではないのでしょうか。戦後の日本の考え方は根本から変えられたと思うんです。民主主義の社会になつて、上からの命令に盲従するのではなくて、あくまでも、みんなが対等の資格で自分の主張を通していきたいと思うんです。清水 その民主主義社会のいちばん大事なことが認められていないんです。

○ 地域の現状（環境づくり）

大月 子どもと一しよに歩むという根本条件を求めて、「二葉会と云う会を作りました。その二葉会の名前は「養育は二葉より」という言葉から取つて、子どもの一人の親として会とともに自分も勉強していきたいという心構えのもとにやつたものです。二年半になります。やはり経済的なものがいちばん大事と思ひまして、私たちは豊かな生活をしておりませんから、より豊かな生活をしようにという願ひのもとに会を作り、子どもも立派に養育するため、レジャーを利用するといふばかりでなくて、地域のみなさんと世の中から脱落しないといふんですが、せめて子どもたちの親と

して正しい方向に導くようにと話し合つたのです。ですからNHKの婦人学級を利用するとか、二十分、三十分でも子どもたちと集まりをもつて、子どもの主張することを聞いてやり、悲しみも喜びも理解してやれるような、そんな母親になりたいという考えから、一歩一歩と進んでどんなことでも解釈していつております。地域の婦人と子どもたちのしあわせを願つて、より明るく豊かな生活をというのをモットーにやつております。昨年は県から七・八千円の奨励金をいただいて、それも街路を明るくしようという意向のもとに街灯を立てて防犯にも役立てております。会員自身もたいへんな気入れで、学習クラブを持つていてよくつたと思つている人も多くなつたと思うんです。

貞広 お互に理解するということはいへん必要なことだと思ひます。農村には特にそうした地域の対立が鋭いんです。田舎だから平和にいつていられるようにお願いしようがなかなか困難な問題が多く、よその家で田舎をいっているのに自分のところなんです。といつてラジオで聞いているとたいへんなことになるのです。そういう地域内の感情とか競争心があるんです。自分がすんだら、選れている人を助けてあげて、みんなで一しよに楽しくやりましょう。そういう気持ちで若い人も年寄りも、ということにしてい

つたらほがらかな社会ができると思うんです。しかし現状としてなかなかうまくいかず解決できずもありません。伊藤 貞広さん、あなたがいちばん初めに部落から若い者がどんどん出て行くといわれましたが、令いわれた非常に複雑な環境の中で生きている農村の狭い社会で、どうしてもいたたけられずに出ていくのか、一度や二度で古い農村社会を建て直しすることは困難ですから、長い年月をついやしてやつていくように覚悟をしなくて

はならないですね。

貞広 若い人は年よりを助けてやつていくのがほんとうだと思ひますが、年よりはやつぱり自分の立場を家長的な位置として、女の方は主婦の座を成されるのがいいやで、すべて尊敬してもらいたいと思つてゐるのです。問題はそこなんです、若い人は自分の主張が聞いてもらえない、だから刺激のあるところに刺激を求めて出ていく、自分でも向上しようと思つて出て行くんですね。常に年よりと若い者、姑と嫁の関係は今だに解決しないんです。一家そろつて問題を話し合うことも考えられない。新しい時代にそつていくようにわれわれの時代の人たらずつていくより仕方がない、私たちのほんとうの気持は、古いものにとられないで、新しいものを見出して、次の世代に臨んでいきたいと考えてゐるんです。そういう気持をくんで私たちを導いていただきたい、これが私の願ひです。

伊藤 あなたは年より年よりといつてますが、大正生まれでしょう。貞広 年よりというのは姑のことをいつています。私たちのところは姑になつてゐる人が多いんです。こゝに出席してゐる人は姑になつてゐない。さつき、ともに学びともに研究することが必要だといわれましたが、子どもの氣持になつて導いてやるという事も必要ですが、親には親の權利もまた価値もあり、姑も姑の權利と価値が家庭にはあると思ふんです。そういうことが社会にもあると思ふんですが、また若い者が村の生活が貧しいためとか刺激を求めるとか出て行くのではなく、そういう大それた欲望ではなく、自分たちが生きて行く道を見出したら残るのではないかと思ふんです。寺川さんのおつしやつたように自分たちの土地の若い父親は、農村の経営を考慮して多角経営とか、生活様式の改

善、生産と消費等についても、苦しいながら新しく生きる農民の道を求めてゐます。そうした中で青年たちは希望をもつて親にもついて行くようです。地域からくる問題、生産からくる問題等時に、今日お話ししてもみなさんの考え方が非常に狭く、やりで穴をあけるような考え方にもなるのです。もつと広い視野と正しい判断、広い視野といふことは、こういう集りをやる大きな意味だと思ひますが、母親なり主婦なりが広い視野をもつことによつて子どもたちを理解できる。母親が一つだけ思ひつめてゐる場合には、子どもがほかのことを考えた場合は、理解ができない、押しつけになるということもあるのではないのでしょうか。地域からくる問題も、社会の貧困の中から次の世代といふことを考えてみた場合、相当努力をしてくださつてゐる人も、あるのではないかと思ひます。寺川さんの場合抽象的に若いお父さんたちがけんめいに新しい村作りをしてゐるといふ明るい開拓的な意見もありましたが、あれなんかほんとうに苦しい氣持がわかりますね。

○ 農業の多角経営

寺川 多角経営でイチゴの栽培をやつてゐます。奈良県の盆地で作つてゐるのですが、青いうちに箱につめて北海道とか南洋の方に輸出してゐるのです。ところがその仕事のリーダーの事を論でいろいろいつてゐる。設備がたいへんなので費用がかゝると、たくさんのお金を使うと息口をいうんです。私も若い母親の会に入つてゐますが、そこで嫁や、息子の話が、息口となつて出るんですね。今までは年よりは子守りをして遊んでいたらよかつたのに、やれ保温器の温度を見ておけの何の用がふえてやり切れないといふわけです。それが三年程経つて、テレビは入るし、電気洗濯

機が入る、共同で小さいオートバイが入る、また、小型貨物自動車が入り入れられた、という事でだんだん豊かになつてきた。おばあさんたちにも月に千円の老人保険だけではなく小遣いまでももらえるようになった。今では年より同志でプレゼントの交換までもやつてゐるんです。結局昔のことが今では目慢げなしになつたのです。若いお父さんを中心にして、母親も青年も一掃になつて村作りをしたのが奥を結んだのですね、年よりには反抗して氣分的には、家庭内に問題もありましたが夫の方についていたのが成功したと思ふんです。

伊藤 この辺で中休みをしたいと思います、その前に全国農協婦人組織協議会の新沼さんが特別オブザーバーとしていらつしやいますのでらよつとお話をお伺ひしてみたいと思ひます。

○ 婦人の時代感覚、科学的精神

新沼 (全国農協婦人組織協議会) 一日前から今日へと、みなさんのお話を聞かせていただき、勉強になりました。一日目でしたか、貞広さんが僻地の農村の現実的な問題について、非常にいい問題提起をなさつたと思ひます。そこで今度のテーマの意味を自分なりに整理して感じましたのは、今までの農村と都市、漁村という問題が、別々に考えられていたということ。私個人を含めてそうなのですが、特に農協婦人部の場合に、貞広さんのお話のように、農村の若い人たちが、農村から出ていくというこの問題について先ほど魅力がないから出て行くというだけでなく、やはり農業経営上の問題——日本の農家の食ひのために出ていかざるを得ない、大きな社会的条件のもとに出ていかざるを得ない、という問題が、農協婦人部の会議等でも問題になります。そういう

問題を考える時、具体的に兼業農家の増加を見ても全国の農家数に対して六六%の兼業農家であるという、その六六%の中の八五%が主婦農家である事を考えてみると、いわゆる農業経営と経営の上で農村婦人の果たす役割というものは非常に大きい。たとえば都市では子どもの問題を本氣になつて考へてゐるのにもかゝらず、農村ではきよう、あす生きていくことのほうはどうしても優先してくる。そのために心配なんだけれども、子どものことはほつたらかしてゐる。最近私どもの会合でも悩みのたねとして出てきてゐます。この子どもをほつたらかしてゐるということが問題になつてきたことは、考へてみれば戦後、グループなどいろいろな話し合い等が多くなつて、それを通じて、忙しかつたといつて子どもをほつたらかしてゐるのかどうかといふことがやはり問題として再認識されてきたと思ひます。しかし都市のお母さんの中でも、やはり小企業とか商人の方なんか、農村の婦人と共通した問題をもつてゐる。やはり突つてみると、農村の子どもと都市の子どもの共通の問題点はたくさんあるということ考へたわけです。その中の共通の問題点の一つとして、貧しいという問題があります。これは都市においても同じでしょうが、伊藤先生がおつしやつたように、地理的な条件等もいろいろな意味において農村の場合は悪い。たとえ能力があつても、中学すらもやつとの思ひで卒業する子どもが非常に多いわけで、一昨年のことですが、愛媛県の伊予のあたりを旅行したときに、汽車の中で修学旅行にゆく中学生と、これから集団就職に行く子どもが、たまたま乗り合つてゐたのです。旅行組は黄色いリボンをつけて六、七千人乗り込んだ。一方は家族から「しつかりやれよ」とか「がんばれよ」とかいつて送られて行くところでした。そのとき

集団就職する子どもは汽車の中へ入ると同時に泣きじやくり、二
駅くらいは顔が上げられないのです。私は同じ農村の子どもで、
一方はこれから修学旅行のゆくし、一方は集団就職する、いい対
照だと思いました。その生徒が泣き止んだので、どういふところ
へ行くのかを尋ねますと、和歌山県の宇治見というところらしい
のですが、その紡績工場へ行くというのです。あとから聞かま
すと、その紡績工場というのは、二十人か、三十人ぐらゐの小企
業なのです。都市のおそばやさんとかお手伝いさんとか、あるい
は工場等へ入る。そういうのはまだいいと思うのですが、いわゆ
る農村からはみ出た子どもたちが就職しても、先ほどお話ししたよ
うに農村自身の子どもとの問題というものを十分に考えてやれるは
どのゆとりがないために、就職したらしつばなしの状況になつて
いるということが非常に多いのです。たとえば家庭裁判所等に
非行少年ということで、いろいろな事件で訴えられるケースを見
ても、非常に農村の少年が多いということもうかがえると思
うのです。そういう面から、年度のテーマの中心となつてゐる新し
い世代に貢献する。この次の世代に貢献するということは、どう
いうことかということを考えてみますときに、一昨日からきよう
にかけてみなさん方の話し合いを聞いていまして、伊藤先生もお
つしやつたように、キリで穴をあけるように細やかな話し合いが
なされてゐるわけですが、もつと全体的な穴のあけ方がで
きないものかどうかを考えさせられたのです。
たとえば、そういう都市に出てきた子どもが、どうしようもな
い場合に、その子どもを受けとめてくれる場所がないこと、それ
は先ほど出た集団就職で出てきた子どもが、どんないい施設の
ある事業場に入つても、何かしら不安定な気持をもつて働いてい

る、どこか寄りどころが見出せないものかというのを考えます。
都会にしろ、農村にしろ、一つの話し合いの中で、先ほ
どなだてたか、非常にいいことをいつてくださったと思いま
すが、ヒステリックになつて政治に訴えるのではなくて、その前
に何か着目して考えることが必要ではないかということ、さつ
き北海道の方が、日本の女の人は母親大会などで、自衛隊が、い
らないとなつたら、急に陣の人にも影響を及ぼしてくるとおつし
やいました。そういうことについても、私は非常に考えさせら
れました。
それから一週間くらい前に、やはり愛媛県の今治の、橋という
ところの農協婦人部へまいりました。そこでは婦人部で幼稚園を
もつてゐるのです。この幼稚園はなぜできたかという、農村の
婦人はたいへん忙しいので、子どもがぼつたらかしで、そのた
めに子ども人間形成の上に大きな問題を投げかけてくる。そのこと
から昭和二十二年に幼稚園を設立して今日に及んでいます。とこ
ろが、去年農協で農産倉庫を作るときに、どうしてもお金がい
るので、その幼稚園を市に見売りさせようとしたわけですが、その
ときに婦人たちが敢然と立ち上がり、手放すことに反対して、つ
いに幼稚園をより強固に運営していくことになつたと聞いたときに
やはり婦人団体などの団体が集まつて、施設などを作らせる方向
に——それは政治につながるわけですが、そういう努力がもつ
と私わけていいのではないかと考えました。

伊藤 ありがとうございます。非常にいいご感想をうかがいま
したが、つぎに、よき社会人として私たちの次の世代の人間を育成
していく、成長を願う。そのときの人間形成ということに私たち
は何ができるだろうか。——できる、出来ないというよりも、私

たちは現にこれだけのことをしてきたという話を、いま新沼さん
から例を出してくださったので、あるいは午前中に堀田さんは、
自らおやりになつた保育園作り、保育園の母のような、貴重なお
話をうかがいましたが、何をしてくるか、こういうことができる
のではないかということを話し合うことが今度の大きな目的だつ
たと思うので、これから一時間をそつちの方に集中させていた
きたいと思ひます。

(休憩)

○ 次の世代への貢献

伊藤 先ほど申しましたように、今までの話し合いの中から——問
題が派山出ておりました、ここで掘り起こした問題もありますから
そういう過程、学校教育、社会環境、戦場の中で育てられてゐる
今の子どもたちをみて、いろいろな矛盾を一つ一つ取り除いてい
こうという努力、こうしたらどうかという建設的な意見なり、
今までのことをしてみた、少しでもうまうまといふたのではない
かと思ひ、またうまうまといふたといふようなことを、これ
からお話ししていただきます。

何かこの事だけはいつておきたい。自分たちで話し合いをした
とき、こんなことを聞いてほしいといふたというように、自分で、
自分たちのやつてゐることも——貢献という言葉は少く抵抗を感
じますけれども、そういう方向の話し合いをしましょう。

○ 働く青少年のサークル活動

村田 このころ青少年の非行の増大について嘆かれていますが、大
津市にある「めだかグループ」というサークルの人たちは、そ
ういつた非行とは縁遠いような、ものすごくまじめで優秀な、素直
な方たちの集りです。

私もその中の一員ですが、昨年の二月に九州から滋賀県の大津
へ就職してこられた男の方——クリーニンク屋さんですが、淋し
いから仲間をつくりたいということとを婦人少年室の室長に相談に
いかれました。

室長はそういう気持を何とかして育ててあげたいと考えられて、
いろいろの力をかしてくださりました。最初は二十人くらいで
したが、現在では百五十人くらいにふくれ上がつております。

名称は「めだかグループ」、目的は働く青少年の教養の向上と
親睦をはかり、よりよき社会人となることなどと定めております。
組織は会長を一名、会計係、連絡係、会場係、書記などを置いて、
一年経て改選する仕組みになつてゐます。そのグループは新聞に
も紹介されて、この間の地方婦人会議でも、そういう会を後援し
てあげよう、今後もしどしど滋賀県にできることを願つてゐると、
たくさんの方の支持をいただきましたが、よその県でもそのようなグ
ループがありましたら、ぜひお母さん方で後援してあげていただ
きたいと思ひます。

伊藤 年令の制限はありますか。

村田 原則は二十才未満ですが、その会の趣旨に共鳴する人でし
たら、年令は問わないのです。あまり固苦しいことをしても人が集
まりませんから、レクリエーション的に最初はやつて、人を集め
るのです。それから分科会に分かれて、いろいろのテーマを決め

て料理をしたり、お料理の準備をやったり、フォークダンスをやったりしてあります。

伊藤 家庭のお手伝いさんなど入っていますか。

村田 はいつています。私もお手伝いをしていましたから、淋しかったので、主人には叱られながら入りました。

伊藤 みなさんはまだご存じないでしょうけれども、村田さんは中学卒業で、いまのお話のように、お手伝いさんをしてたりして、今は単保母として、これから資格を取ろうとして、おられる方です。

島田 今のお話の九州からいらした方というのはどなたですか。

村田 熊本だと思えます。

島田 熊本では今、村田さんのところへ熊本からいらした方の母体になつてある会があります。いつか労働省で、働く青少年の作文を募集なさいましたね。あれに募集した人たちの会です。若草グループとかいいました。七人くらい会員があるようです。自分たちの悩みをみんな出し合つて、年に一冊くらいずつ作文集を出し、親睦のためのコーラスとか、お料理をやつていろいろです。それを婦人少年室の補助員の人たちが応援して、地域婦人会も後援の形で金を出しているようです。

村田 会費は月三十円ですが、文集なんか発行しますと足りなくなくなる。それをあげばのグループなど、婦人の集りから補助を受けています。

○ 子供会、若縁会づくり

河村 私は岡山に行つたのはごく最近で、それまで瀬島界の郡山にありました。交通事故が頻発におきて、子どもがよくひかれるの

で、遊び場のこと等でもなさんと相談してアソケイトをとりまして、近頃、短い期間に千人近くの賛成者が出たので、自信を得て中央にもある子どもを守る会の郡山支部を作りました。ところがたくさんの会員が一使にできたものですから、政治屋が目をつけ選挙に利用しようとした。そこで私ははじめ市と県の子算を調べまして、自分だけ胸にたたんでおいて、その政治に出た人たちが、市長を知つてゐるからとか、福祉所長を知つてゐるから百万でも二百万でも取つてやるといつて、ちよつとお母さんがかきまわされましたが、それが事実かどうか、暇のあるお母さんたちとそろつて市役所や県庁に尋ねて歩きました。そして実際に児童選挙の立派な法律がありながら、政治の面でこんなに惨めな子算であつたと云うことを、お母さんたちと一しよに学びました。ちよつと三ヶ月くらいか四月の選挙でしたが、その面では何もとれないことがわかり、一しよに歩いた男の人たちが「河村さん振出しに戻りましたね」といいましたが、私は振出しでなくて立派な法律がありながら、みんなが黙つていれば、それが死んでしまふのであつて、予算というものはなんにもならないのだといふことが、判つただけでも大変な成長なのだから、これを土台にして、今度は自分等の力、役所からもできるだけ手伝つてもらつてやりましようということになり、ようやく遊び場ができました。ちよつと精華街の裏手の方に土地がありましたので、地主さんが非常に頑固で、貸していただく時たいへんに骨を折りましたが、口約束だけで借面にしてもらえないのです。借面になれば市の補助が出るのに、どうしても判を押してくださらないために、市からの補助をいただけない状態です。

佐藤 昨日からお話していますが、働いている子どもたちの休暇に

ついで教育委員会の問題かと思いましたが、ほうつて置かれなないので中学校にまいりました。校長先生に、卒業後の子どもがどうしているかをお考えになつたことがありますが尋ねますと、いままでは大して考えなかつたことと、何とか卒業後の子どもたちがしあわせに生活しているかどうか、調査をしてくださいと申しますと、快く約束してくださいました。また、将来のために職場でもそろばんとか、高校進学とか、お花とかを習わしてもらうように商工会に呼びかけてみよう、町内連合会には町内運動会の時に、グループを作つてレクリエーションに参加させてもらおう、また労組にも組織のない事業場に働くともだちの声も検討してくださいという話をしてみよう等と約束ができました。これは労働基準監督署に行つて法的に解決する問題でなく、店主も傷つけず、子どもも傷つけないで、円満に子どもたちを育ててやりたい、この方法が最良ではないかというので、目下その話が進展しています。

堀田 私の住んでゐるところは純農家地帯で、四十戸ほどの部落です。五年前から住んでいます。地域婦人会があつて、誰も彼もが会員です。けれども若いお嫁さんの会がない。ほんとうに乳飲み児をかかえたお母さんや、嫁入りしたばかりのお嫁さんのおつき合いの場がないのです。そこで若縁会を作つたらどうかとぞの人たちが一しよになつて、私も地域に新しいので、一しよに仲間にしていただいて話し合つていました。その中でやはりいちばん大切な問題として考えたのは、農繁期に自分の子どもを見てやれないことが問題で、季節保育所がほしいけれども、設備等がたいへんです。それで地域に公会堂と集会所があるので、そこを借りて、保育園にあがる前の子どもたちを農繁期二十日間くらい集めて、

面談を見ようということになり、今では春秋二回ずつ続けてやつております。私も初めはグループに入つていましたが、今では自主的にやれるようになりましたので、やめて、ときどき報告等には出ています。二十日会と名前を付けて、二年ほど前から町からも予算を一部出してもらつておりますが若いお母さんたちが、そういう行動の中で、新しく交つていくことが大切ではないかと思つています。

片山 この前佐々木さんがおつしやつたように、田舎の封建性というか、よそ者が来ますと排斥するのです。ところが主人が学校の先生なので、行つた先々で私はかき出され補導部、成人教育部等をさせられ、あの奥さんは暇だからさせておけばいいと、選挙の時等男性の中に入つてさせられます。命を賭してやつても文句をいわれません。頼まれて出ても、よそ者を何で出したといわれまふ。子どもたちも心配する時もあります。家でゴシヤゴシヤいう婦人たちに、特別講演の坂西先生がおつしやつたように、正しい判断をする。婦人の英知を働かしていただき度いものです。

堀田 私は山形の酒田のあたりです。まあ都会地ですが、山形は面積が広く僻地に行きますと半年は雪に埋もれて、生活している子どももおりまして、海というものを知らないで、船も見たことがない。汽車に乗つたこともない子どもがたくさんいるわけですが、私どもの子ども会では予算で悩むのですが、昨年の献金として山の子どもを海の方へ呼んで、キャンプをやつてお世話し、山の人はお礼に来年海の人を呼ぶ交歓をやつて、大人も子どもも一しよに喜んでおります。今までは芋煮会と申しまして、内部だけで肉汁を食ふさせたりする程度でしたが今度外の方に目を向けて、横に連絡をとる試みとしてまあ成功したと思ひます。

伊藤 家庭の中で明治生まれのちいちゃん、はあちゃん、お父さん、お母さん、それから今の子どもと、三代の世代の相違というものがありますね、保育所の鶴田さんが、おちいちゃん、おばあちゃんに育てられる子どもに間隔が起るといがあるから、おちいちゃん、おばあちゃんに付き添いして、今の子どもたちを見てもらうことでも、気がつかないけれども、非常に立派な仕事としておられるわけです。みんな自分でやつておられることを、あるいは近所の人とか、ありましたらどしどし出してください。

島田 私は地域婦人会に関係しておりますが、地域婦人会は年令層が他の婦人グループとか、他のサークルよりも高いのです。婦人会の仕事も若い人とのつながりをもつために、四、五年前から夏に中学生の共同キャンプへの招待を始めました。お金がないからやれないという中学生を選んで、毎年何十人かつつ招くことにしています。婦人会員も一しよにキャンプしてお母さん子どもたちの話し合いをして傑めたいと思つてゐるわけです。また地域の中学生が、高校に進学すれば、世間からチャホヤされる傾向がありますが、中学卒業で就職する子どもはとくしよ上げてゐる傾向がありますので、お母さんたらで勵ましてあげましようと、四、五年前から小学校長、中学の職業科の先生方をお招きして壮行会のようなものを催します。

寺川 私は年配ですが、若い方に、私の同僚のおばあちゃんに気兼ねしながらでも元気に暮らささいといつています。若い方が元氣を出している地区は、よくなつてきています。中年グループ、老年グループを作つて社会の輻輳に努めたいと思いますが、なかなか身をとまでない層が、広く大きく日本の婦人の間にあることを、もつともつと考えたいと思います。

伊藤 非常に英知に満ちた話の出たところで、時間の制限で、皆さんまことに残念だと思ひますが、特別オブザーバーの方で、大学婦人協会高桑さんに、ご意見を述べていただきたいと思います。

真桑（大学婦人協会）みなさんのお話をうかがつて、ずいぶん活発にいろいろなことをしておいでなので、驚きました。

りたといふ意慾を、うますたゆます持つていなければいけない。そして自分で静かに考へて子どもから何かを相談された時に、正しい判断をくだせる母親でなければならない、と思うのです。その時、その時で母親の意見が違ふと、はじめはAという意見のはずなのに、一週間後に同じ質問をしたら、Bという意見をいつた。うちのお母さんは矛盾したことをいつてんじやないか、今の子ども

伊藤 秘党金はどのくらいですか。
島田 月に千五百円で返還しなくちゃいいことになっています。

伊藤 就敏した子どもたちを 壮行会するだけで、クーパー君で父
通したり、世話したりはしないのですか。
島田 壮行会をしますと、因うから礼状が来て、それで文通が続い
ているところもあります。

伊藤 家庭とか学校の子どもの義務教育問題、問題のところが中心になつていますが、貧困の場合とか、就職していく年頃の息子、娘を持つたら、その人間がどうして成長していくとかというような問題についても、お話し合いがあつていいのではないでしようか

平井 佐賀は大体封建的で有名なところですが、やはりよき者はきちいます。私も女学校時代疎開で来て、それから佐賀者になつたわけですが、近所のおばさんたちと何とかがして仲よくしようと思つて、おばさんたちの「講」とか、「お茶飲み講」とかに入れてもらい、小さな話し合いをしています。けれどもおばさんたちは戦争中の苦しみ等を、郷愁のように話します。牧瀬さんもおつしやいましたか、おばさんたちと話し合つて直ちに解決にはならなくても、私を含めたおばさんたちが、少しでもこのごとの原因が

もは輕べつすると思います。先ほどから子どもの思うように伸ばしてやりたいあまりに、子どもに聞いたら子どもが意見をいつたので大人がまいつたというようなことを伺いましたが、私の経験では、末つ子が十九才で奥に弁舌さわやかで、主人と私がちよつとやりとりした場合、間に割つて入つて両方をうまくおさめる、非常に議論がうまいのです。最近の子どもは会の運営、第妻の方法も、低学年から訓練されて、上手なつです。遠くからながめますと、奥行を伴わず、内容がないのです。経験が浅いし無理もないのですが、社会生活にもうといのですから、子どもがこうしたから母親は子ども至上主義でいくというのはちよつとおかしいと思います。子どもを遠巻きに常に見守つてやり一つだけ私なりのルールをもつて、この範囲内で子どもが行動する場合は、私の理想に描いていること以外のことをやつても文句をいわない。そのかわり一定のわくを越えた場合はきびしくやる、つまり子どもの変わり方が複雑なのではないかと感じています。母親がほんとうの親切で叱つた時に、よその子どもも反抗しないと思います。子供を叱らないばかりが道じやない、悪いことをした時は、ゆつくり話して上げる。暴力を用いたのでは、何を叱られたのかわからないと思うのです。悪いと言うことはいろんな面で相当手きびしくしたしなめていく必要があると思います。

○ 社会の一員としての母親

伊藤 この頃の婦人会で終始みなさんの口からもうわれた言葉はいまの子どもたちがわからない、世代によつて非常にわかりにくくなつてきている、ということですが、新しい教育で育てられた人々に、また育てられつつある人々の特徴みたいなものを私なり

にあげてみますと、お気づきの通り、私たちの受けてきた教育は個人教育ですね。お前が偉くなればよいのだ、お前がいばんなければよいのだという日本中いばんなるような教育を受けてきた。従って誇りと誇しをするのも禁じられたような形が人学試験でも残っているわけですが、現在の小学校の段階では、集団的な教育をやっているはずで。

仲間と一しょに話し合っている、その意味で、新しく育ちつつある子どもたちの特徴は、グループ活動がやり易いのです。その逆に気の弱い子どもはグループの中にさえ入っていればいい悪いグループの場合にも坂西先生のお話のように、ダンコついでいくという子どももなっている。ここに一つの問題があると起きます。しかし本質としては集団的にものを考え、みんなが仲間である運んでいくという点では新しい芽が出ています。昔は大人の前ではつべこべいうんじやないといえられてきた。私たちの時代からみると、ある意味で異様に惑うような子どもも出てくる。しかし納得するまで理由をいえないといわれているわけですから、それを知らない世代の親にとっては抵抗を感じるといふ形の子どもも出てくる。

もう一つ大きな違いになることは、みなさんの愚口で申訳ないのですが、もし今の中学生くらいがこの会話を聞いていたら、非常に失望するんじゃないかと思うのです。というのは話がちつとも社会的に伸びていない。私はこれをやっています。話が出ますが、そうでなければ非常に高いところへいつてしまいいは出てこない。今の子どもたちには、私たちが留つたことのない社会科と云うものがあります。少なくとも私たちが受けてきた

教育にはなかつた、社会に目を向ける、社会の仕組みの中で自分の存在を考へるというように指導されてきた子どもたちが、親のやつてゐることに對して、かなり批判的になるのは当然です。

よりよい社会の一員になるためには、社会というものの小さい時から目を向けることが必要です。これにもいい面、悪い面があるわけで、小さな子どもが、それは政治が悪い、といつて、タバコを吸つていられると私たちはどうにもならない。(笑聲)いい面と悪い面があります。我々の持つていない、われわれの受けなかつた教育の面を理解してやらないと、今の子どもたちのもの考え方十分にはわからないと思ふのです。

も一つ、戦後の——今の子どもたちの特徴として行動主義があると思ひます。自分の正しいと思つた事は実行に移しなさいと教えています。われわれが受けてきたのは、子どもたちは誰りと考へるだけで、学生は勉強するだけでいいのだ、とされてきた。しかし考へて正しいと思ふことを行動に移さなければ社会の進歩も何もありません。新しい社会科なり、正しい意味の道徳教育はそこまで、いつている。ややもすると子どもは行動してみないと正しかつたかどうかかわらないということもあります。従つて今の子どもは早くて直接反応をするといいますが、其のうちに教へられている。これにもいい面と悪い面があるわけです。すぐ政治が悪いからとか、そしてデモをやらなければ政治がどうなつていゝかと思ふ、やつたことが必ずしも間違いだという批判もできない、こういう問題もあります。

もう一つこれにも関連しますが、感覚主義になつてゐること。戦後の教育の一つの大きな革命は音楽教育だと思ひます。お母さん

たちも少しは音楽的な感覚をもつていらつしやるかも知れませんが、私たち父親から見ると、今の子どもが純粋音から始まつて、ここまで近代音楽になしんできたのは教育の一つの革命だと思ふのです。絵についても同じことがいえます。自由画みたいな、私たちにわけのわからない絵を描かして喜んでいる。その感覚主義は——みなさん私に敬意を表してか、マスコミのことをあまりいわれなかつたので非常に残念ですが(笑聲)、テレビ、ラジオ等のマスコミのいろいろな影響がありますね。直接感覚で受け取つて自分のものにして反応してくる。これもすばらしい面があると同時に非常な不安の面があるのです。

新しい教育を受けた子どもを考えたとき、こうしたことが考えられると同時に、もう一つ忘れてはならないことは、子どもの成長が早くなつたこと、これは生活の変化です。食べ物が異つてきた、住宅事情が違つてきた、社会的な環境が——この場合にもマスコミが入つてきますが、非常に若いときから刺激を受けて、子どもも肉体的に早く成長して、早く男、女になつていく。けれども精神的な面において、速いといつて行けないものがある。その不安定な時代に問題が起こりやすいので、十六才、十七才といふところに問題が出てきている。これも多行行く社会とか、移り行く文化といふものと無関係ではないと考えます。

そうした事全体を含めまして、これからやつぱり考へていかなければならぬ問題は、私は現代という社会だと思ふのです。それは今朝もお話ししましたし、坂西先生もいわれたように、経済の仕組と政治の仕組、この関係は誰が考へても十分に知つてゐる人があるわけはない。その置かれた立場立場で深く考へていかな

するなどということではできません。そうすると今度の第一部会で

もしばしば出たように、農村と都市との問題、あるいは経済生活においての大企業、中小企業の相違、あるいは零細農業とか零細漁業、零細商業、零細工業、そのことを私たちはいつも考へて、これから伸び行く子どもの将来を、その社会の仕組とか経済の仕組の中で考へていかなければ、ほんどうに正しい成長に口ばしを入れられないのではないか。それでその移り行く社会とは、自分のたちの生活を見れば、洗濯機が入つたり、テレビが入つたりすることの影響を受けて、私自身も変つて行く、子どもたちも、も一つと直接的影響を受けて変つて行く。それと一しょに変つて行くことが話し合ひに出てきたのですが、国全体の近代化から起こる問題——農業基本法では零細農業が切り捨てられるのではないかと、という問題が起こつています。切り捨て、切り捨てないは別として、現実には農村の人口が東京に出て来ている。国内における人口移動が、次の時代の子どもの与える影響は大きなものです。

アメリカでも人口の国内移動が、不良化問題として、また、それが社会的原因として考へられています。日本でも宮崎とか、秋田山形では毎年人口が減つてきています。果全体としてそうなんです。それが東京の近郊では、京阪神と同じく年々人口が増加してゐるわけです。親だつて違つたところへ行くと不安定なものが、連れられて行つた子どもたちとしてはもつと不安定です。アメリカでも出先の就職地等に友人もいない、近所の人も知らない、親もみてくれない等によつて起こる社会問題が大きな反響を呼んでいます。現に日本でも起こりつつあるのです。例えば、今度山形から採用した子どもは変な言葉を使ふなどと、子どもとしては大変な侮辱を受けみんなから疎外されて悲しい思いをしなさやあな

らない。そんなところにも地域の婦人会としても何とか手を差し伸べる必要があるのではない。

もう一つ感覚的な問題は、生活が豊かになると、親のしがさなくなると、子どもたちの結婚が早くなる、外国、特にアメリカでもそうですが、共稼ぎしなくても何とか生活ができるのですが、しかしマスコミが毎日毎日、いろんな必需品の宣伝をし、それをどんと押しつけてくる。それが社会におけるマスコミの大量報道にひっつかつた、それにひっつかつた生活としてあらわれてくるのです。父親の地位はだんだん低下してくる。結婚前にはなんでも買つたのを買えなくなってくる、それでは主婦の私も働きますよ、というのがアメリカの中産階級の現状です。共稼ぎになれば子どもたちは家庭から忘れられる。つまりネグレクトチャイルドですね。この場合、今の多岐行く社会とか、科学技術時代、消費ブーム・消費革命・あるいはレジャーブームによつて余暇ができるために、いちばん忘れがちなものは、物質のために人間が生きているのか、精神のために生きていくのか、だんだんと本来の道からはなれて行くようになるのではないかと思うのです。毎日毎日新商品を買つたり、見て廻つていたら、とても家庭のことなど、子どもも見守り正しく成長させることは不可能です。実際に現実の社会では物・心・両面でもしあわせとか、人間の暮らしということをいままさ考へさせられます。

「こういうことを親がしつくりと身につけていなければ、子どもたちの指導とか、あるいは今後のチームであるところの貢献ということは結びつかないのではないか。これをこの会でのだいたいのまとめにして、会議を終わります。」

(閉会)

第二部会

会議員

青森	青村伊志子	(無職)
山形	高橋みさ子	(無職)
群馬	早苗恭子	(無職)
東京	松南敏子	(無職)
神奈川	中田幸子	(無職)
福井	加藤のり子	(合監)
静岡	西川輝子	(無職)
愛知	梅田澄子	(無職)
京都	井上幸子	(寺院代務者)
大阪	藤本智恵子	(無職)
和歌山	山下福子	(講師)
広島	山口美也子	(無職)
愛媛	大下富子	(農業)
長崎	高塚栄子	(教員)
鹿児島	木尾綾子	(無職)

リーダー特別オブザーバー

磯野 誠一	(東京教育大学教授)
大矢 恒子	(日本子どもを守る会)
田崎 敏子	(全国地域婦人団体連絡協議会)
野島 真子	(日本YWCA)
河合すすみ	(南山大学学生)
竜宝 惟男	(東京大学学生)

第一日目、一日 一三・三〇—一六・三〇

磯野 簡単な自己紹介をしておわけて、森漁村であるとか、あなたの生活環境を、他の方々に理解していただけるようにいつてくたさい。またどういふ方々と話し合つていらしたかも。

青村 私の住んでいる地域は新しく市になった住宅地で、みなさん自分で家を建てての方が集まつております。大体生活環境は似たようなところですよ。私は居住区で、奥様方とお話し合いをいたしました。子どもの教育の根本になるのは家庭教育ではないでしょうか。家庭での道徳教育についてみなさんと話し合いをしたくてまいりました。地方の方々も近ごろはどうしても全国の皆さんと同じレベルのところ立ちたい、という意欲にもえております。

高橋 私は米沢市です。市の中央は織物地帯で、住宅は郊外にあり大企業ではなく、資本も少くないから学園管理が不徹底で、工場は農村から出てきた中学の卒業生がほとんど泊りこみで働いております。職場の環境は皆と全く同じで、主従関係が根強く、職場と職場の連絡が全然ない。組合を作りたいと思つても主人がむずかしく、自分のいいこともいえない。休みには映画館に行く程度で、子どもをそういうところにつけていくおかしな方と婦人団体の力で、何とかレクリエーションの場を作りたいと思つております。良い実例がありましたらお聞かせください。

早苗 私は前橋市目抜き通りの商店街に住んでおります。問題さんが多く、昔からそこに住んでいる人が多い。ほとんどのお嫁さんは、お姑さんとの同居です。そして婦人会の出席などは大がいの姑さんなのです。私は住みついてから三年たらずですが、友だちはなく、お嫁さん同志の話し合いはありません。意識しながらも若い方がひびきと話し合う程度です。そういう方と手をつなぎ合

いたというのが金額でしたが、話し合ひ友だちを一人傳たにすぎません。

特に話し合ひたいとは、商店街で子どもを育てる場合、めぐまれておりませんので、公民館なりなんなりをお借りして太陽に当らせたいという考えをもっております。

松南 私は東京と申ししても郊外です。昔からそこに住みついているのは、おもに農民で、いわゆる貧乏百姓が点在している環境です。子どもに対する教育的関心も、新しい住民と非常に差があります。私が特に問題にしたいことは、何かおこりますとすぐに愛情不足とか、欲求不満とか、反対に、行きすぎとかいう言葉で簡単に片付けられ失敗がくりかえされていることです。正しい愛情とはどういうことなのかを勉強させていただき、子どもから信頼される親になりたいと思います。また、私たちの地域には孤児の施設などもありますので、孤児と身体障害者を、どう見守るべきかを勉強したいと思っています。

中田 私のところは京浜工業地帯をバックにした住宅地です。住宅地の中でも、東芝等の自動車関係、コロンビヤ、船食社、ドックなどがひかえている関係から、生活も工員、サラリーマン、重役タイプの生活とさまざまです。ここで私は婦人会、婦人学級というサークルを作り読み書き一しよにやっているのですが、どうもうまいかない。いろいろ研究しましたが、今だに地域社会と手がむすべないことが非常に悩みのたねです。婦人会長さんからも全国での実験論、方法論を聞いていただきたいとたまに言われます。

加藤 私のところは掘井でたゞ一つの温泉町で、工場の合監をして

らいていてもだんだん悩みをもってきます。一しよに考えてあげようと思つても、坊く人と坊く人させる人の間にどうしても矛盾があつて話し合ひは進めません。このころはその人たちがほかで同じような状態で坊く若い人たちと、サークルになつて、その輪の中へ私もはいれば、その人たちの気持ちもわかり力になつてあげられると考えるようになりました。それでその時にも、自分自身が将来に対して理想をもっていないで、どうしてその人たちと話し合えるかということを考えてみました。そういう人間の生き方ということを私はここで学びたいと思うのです。また若い人たちと一しよになつて考えるための方法を皆さんから教えて欲しいと思います。

井上 私のところは京都の真中で、回りは家族労働で商売をしている商店街です。私のグループは、いろいろな職人さんや、八百屋さんで作られています。もとは読書会として発足したのですが、今はY.N.H.K.婦人学級に入りました。私は母子家庭の問題で出て来ましたが、単に母子家庭だけではなく、いろいろなハンディキャップをもっている子どもさんに婦人の英知を伝へてあげたい。単に愛情だけではなく、一つの世論として打ち出してゆくという実践的な働き方をしたいという考えで出て来しました。

藤本 大阪の河内です。ここは非常に封建的なところで、PTA、婦人会にしても新しい感覚がどうしても割りこみにくい。生活程度は都市の影響を受け、経済的には恵まれているがそのかわり誘惑される設備が多いので、悪い問題が多い。私の相談しましたのは地域婦人会で、大体は家庭の主婦なのです。どうしても考えが家庭の子ども中心になりがちなので、進んで社会の一員としての考え方をもちなければならぬと反省しました。いろいろな悪条

あります。そこで青森、秋田から集団就職して来た子どもを扱つて生活指導をしています。何ごとにも子どもたちは父親、母親なりを成長の目標にし、理想像としていてと思います。そのことが好ましくない場合もあるかと思つていますが、子どもたちを具き社会人にしていくためにどうしたらよいか教えてください。

勤労少年の教育体制をどうしたらよいか話し合ひをすいふんやりました。私が扱っている子どもだけでもしあわせに思いますが、できそうもない。もつとつとこんで、底辺になつてい人たちに焦点を合わせて教えていたきたいと思っています。

西川 私は農村で、会員二五名で農繁期を除き月に一度例会をもち「愛」という文集を出しておりますが、商家、農家、サラリーマンの意向も入り、子どもの教育をどうしたらよいか問題です。年よりの封建主義、子どもの暴力、父親の古さ、それを改善してゆくには母親が勉強して民主的なものにならなければならぬが、年より全体の封建的な考えから出しているだけで、少しでも出やすくなる方法はないかとみんなで苦心しています。話し合ひでは共かせぎ夫婦のため、もつと保育園がほしいという意見が多いのです。保母さんの待遇は短大出で月七千八、〇〇〇円、公立で一、二〇〇〇三、〇〇〇円なのです。結局別の職場のいいところにかわつてしまふのです。特に感じたことは精進院施設の話を、後天的なものは仕方がないが、遺伝がある場合には子どもを生まない方法はなにかという問題でした。この問題を皆さんから教えていたきたいと思っています。

梅田 岡崎の周囲には小さな工場がたくさんあり、私の主人も鉄工場をやっています。その関係で、九州、東北から集団就職の子どもさんを入れております。その人たちがはじめは何も知らずに働

件をなくすよう勉強しようという結論になつておりますが、そのことを実行して行動に移さなければならぬという問題が出ました。それでは具体的にどういうふうなすれば良いか、皆さんの意見を聞かして欲しいと思います。

もう一つは勤労の場の問題ですが、弱電気の身長のいい大企業のある会社があり、近ごろの青年たちはみんな行つてしまひ、また、遠いところからくるのですが、結局遠いところから来た人は思えない。そのことで大阪での会議でも最低賃金の確立とかいろいろ話が出たのです。中共との貿易が断たれた当時はいろいろな問題があり、母親の内職もなくなつてしまひました。極端な例では、賃金から食費をさし引かれると何も残らないというところが大阪の近くにいままだあります。そのことで少しでも解決の糸口を見たいと思つてうかがいました。

西下 私は住宅街です。二年間幼稚園の保母をして、やめた後保母さんたちの集りで子どもの絵のサークルと研究会を続けております。幼稚園は集団的に社会的な生活をする場所ですが、この年令くらいまでは競争がなくていいのですが、高学年になるほど他人をも含めて自分も向上するといふ余裕ある社会でなく、他人を押しつけて自分が少しでもいいようにというきびしい社会になります。そういう矛盾をなくすようにしたいが、そのままだにしているといふ社会的な問題があると思います。そのことを婦人の力で少しでも、にたいたいと思ひます。

山口 私の住む三次は川内川で有名ですが、反面封建的にも有名だと思ひます。最近、農村もいろいろ電化していますが、これを使つてい私ども婦人はこれと同じに進んだ頭をもつているか疑問をもつような農婦です。私は古い制度の中で教育を受けましたが、

子どもたちは民主主義の中で科学の進歩とともにたいへん成長してあります。そのすれを少しでもおぼろめするため、私の考えたこと、したことを土台にして、必要な書き込みをしました。私一人が新しい母に脱皮したとしても地域の民主化にはならないと思います。皆が脱皮するためにどうしたらよいのか皆さんによい方法を教えていたいただきたい。もう一つ、正しい宗教が欲しいと思います。

大下 ちょうど太平洋戦争に面したところに私も住居をもつています。半農半漁といいますが、おおかたの生計は釣を業としてしています。不便なくひらけておられないところですか。私は民生委員をしてありますが、ほんとうに零細な家庭が多いのです。このごろの新興宗教には少年グループもあつて、普通の子どもたちとつき合いをやめています。

たとえば災難に合うと、すぐグループの少年たちが寄つて盛んにお経をととなえたりして、他の者はよせつけない。そんな家庭がほとんどふえていきます。婦人団体は新興宗教におされがちで、下火になつていきます。それについてみんなで話し合つたのですが、どうしても解決できない。どうかみんなで話し合つてくださいます。いう注文を受けてまいりました。

高塚 私のところは長崎から瀬上四十分くらいの小島です。住民数約六、〇〇〇で、私は教員をしております。話し合いの仲間はやはり戦場の同僚です。

六年を担任し、子どもたちの暴力否定の問題を常に考えております。教科書など、ほとんど平和への道というようなことで結ばれていますが、そのことを子どもたちに具体的に伝えさせて、どうやって実践させていくかということ。私は、他人に迷惑をかけず他人のお世話ができて、しかも協力的な子どもをつくりあげたい

ことを願っています。暴力否定、平和の問題を母親たちがどうやって身につけていってほしいか、そういうことを教員の私どもとしてお聞きしたいと思っています。

木尾 私は温泉地帯に住んでいます。一歩足をのせば農村で、農村と温泉地帯での幼児の扱いは、はっきりと比較できます。農村の幼児をなんとかして人間並に扱つて欲しいといつも思いますが、昔からの習慣といいますが、なかなか実行されません。何とか方法は無いのかと思つて、皆さんのお話を聞かせて欲しいと思つて出てきました。それから地域婦人会の研修会で話し合つたことです。高塚の男の子を持つ母親が、子どもが私のいうことを何も聞かない、年を取つても親孝行をしてももらえないのではなかつたか、しみじみと訴へていました。やはり古い教育と、新教育を受けた人がしつくり合わないということがあるわけですね。私は親孝行というものをどんなふうにもつていったらいいか、みなさんの意見をうかがつて帰りたいと思つています。

○ けんかの指導と暴力否定

磯野 これからいよいよ自主的な討論に入りましょう。みなさんお話ししたいことばかりと思いますが、一つ聞き上手にもなつて欲しいと思います。お互いに討論しながら学び合うということ、十分実行するよう努力しましょう。昨日は家庭、学校、地域、職場などでの場合を考えたわけですね。ここでもそれを一つの筋道として一応やつていきたいと思います。話を進める時に、たとえば学校教育なら学校教育ということにポイントを合わせながら理論的にやつていきたいと思います。ほかとの関連を考えて、家庭の問題をはつきりつかんでいくために、はじめに学校教育の問題か

ら入つていつて、そこで出てくるいろいろの問題から、家庭の問題に入つていくのも一つの方法だと思います。

高塚 特に男生徒はけんかをよくやります。

口べたな子ほど直接行動に出て、相手にけんこつをくわせたりします。原因はごくささいなことです。そういう時に二人のいい分を聞いてなだめて上げると、お互いに納得してたかかわなくても良かった、という顔をして帰るのです。家庭でみなさん兄弟けんかを、どういうふうに扱つていらつしやいますか。

松南 ある程度子どもは自身で解決していくようにと思ひ、私は仲裁に入りません。

早苗 私はけんかは大賛成だと思ひます。社会のいろんなことをけんかによつて、かえつて学ぶのではないのでしょうか。暴力は良くありませんが、……。

西川 けんかを親があまり重大に考えなくてもいいと思うのです。これは兄弟けんかの場合ですが。

中田 あまり極端な暴力をふるわないかぎり、家庭内のけんかをそんなに重要視しておりません。学校教育には良くないのでしようか……。

藤本 当事者二人と私のいい分を含めて、場合によつて他の第三者の意見も聞くこととしております。私の場合、子どもが大きいのでなかなかゆづらないのです。

磯野 だんだん話がおもしろくなつてきました。今のようによつていただきたいと思いますのは、はじめから模範答案を出しにしないようにということです。けんかは悪いのだという道徳的な善悪だけで片附けてよいかどうかを、ちよつとここで討論していただきたいと思います。

梅田 子どもは食物にしても、自分は少しでも大きいのを欲しいのですから、けんかにより相手も同じであることを知るので賛成です。

磯野 今の問題は学校教育ですから、そのところをどうぞ。

山口 子どもがけんかをするのは、結局成長している過程と思ひますね。自我が強くなればそこで自分の主張をするということになりますから、それをよく指導してやらなければならないと思ひます。

磯野 高塚さん、学校教育の場からどうぞ。

高塚 もちろん年令別の考慮が必要で、子どもの発達段階に応じてけんかの様相が違つてきます。ちよつとしたことが大きな社会問題に結びついていくのです。ですから、家庭での兄弟けんかと限定されると、それは社会に育つための磨き合ひの場所とお考えになります。学校内で親が知らない面のけんかが出てくるわけですね。簡単にけんかは賛成だというような樂觀では、見ておれません。

西川 中学生ですが、学校の友だちのけんかで悩んでいます。下級生は上級生にいじめられても、仕返しをこわくてだまつています。加藤 私が妹とけんかをしたのは十三年ほど前でしたが、今も仲直りしていません。あまり甘くお考えになりますと、おかあさん方もお困りになるのではないのでしょうか。

高橋 小学校の女の子が、けんかをしますと、むつつりして帰つてきます。私はけんかをした内容を全部子どもと話し合います。そしてそのお友だちに会つたら、どういふふうにして仲直りするかを、話し合います。

西川 女の子は話しますが、男の子はあまり話しませんね。

高塚 たしかに男の子は話さないようです。教師の知った範囲から、家に連絡しますと、ちっとも知らなかったということが多いのです。

梅田 高塚さんは、子どもに対してとても暖かい。前には先生と生徒が遊んだりしたが、最近はお仕事に忙しくそういうことができない。また先生は暴力の否定をどうして教えるかということですが、この間卒業証書を受けるおけいこがあつて、一人の子どもがちよつとふざけて、不謹慎な態度をとつたら、先生があとでたたいたということです。その先生自身が暴力を肯定しています。それで、私のほうの子どもは決して先生を信頼していません。

高塚 悲しい発言をお聞きして恐縮です。子どもたちは特に教師の影響を受けますのでなかなかむずかしいのですけれども、私は暴力否定をなるべく身をもつていきかしていきうに努力しております。全国の先生方も大多数はそうなつて、たまたま愛知の場合は数少ない先生の一人でしょう。

青村 子どもはけんかの場合、先生方にその原因と心情をよく知っていた方がいいと思います。よい指導の方へもつていつていただけると、案外大きくは発展しないと思います。子どもが大きくなると、学校内でのトラブルを心の中におさえて下校して、それを兄弟たちにあたります。そういう時に親がわけを知らないで、頭から叱るのもつとも良くないと思います。結局おさえる心を養わなければならぬといひ聞かせておりましたが、どうしてもだめでした。やはり子どもとそのことについて話し合うことが、いちばん良いかと思ひます。

西下 私、子どもがいないので、実際に合わないかもしれませんが、たとえば幼稚園の子どもであればたに訴えたえたいという気持ちだけ

るような気がします。

井上 刃物というより、その前にやはり人命を軽視することのほうが大問題だと思います。

○ 戦前と戦後の教育

加藤 制服のことですが、何かに対して目をおおつたために、たとえばそういう制服を決めるのはいけないというのには賛成です。けれども私の場合は、制服を着ることによつてみんなが平等だという教育を受け、今でも同級生に男女の差別感がないのです。今私自身を育てているものが、そつと先生から受けた薫陶のたまものと思つています。

松南 制服の問題も、一歩私生活に入るといろいろな差が出てきてむずかしいですね。

磯野 まず制服の問題自体を、具体的にほかなか深刻になります。できるなら本質的なことで、もつていきたいと思ひます。戦前の教育には人間はみな人間として同じ値うちだといふ教育があつたろうか、そこで戦後教育を受けたものとずれ、それに関連してでもいいですが少し疑問をかえたいと思ひます。

加藤 私が小学三年生までは、校長先生のお考えで学校全体が自由主義でした。先生は毎月家庭相談をしてくださつたり一しよに遊んだり、また名前の呼びすてをやめたり、実に平等に扱われましたが、四年生になつて校長先生がおかわりになつてから、ずい分かわりました。

西下 一つのものごとには、プラスとマイナスの面があると思ひますが、制服の場合もそうです。ところが刃物の問題は、刃物をじようずに使う機能を身につけるプラスの面と、暴力的な行爲を

でも聞いてやればそれで済む。もうちよつと大きくなれば、自分で考えるようになりまふのでその良し悪しを自分で判断することが大切じやないかと思ひます。

井上 精神的な暴力というものが学校などにあるようです。貧困家庭、母子家庭、第三国人の子どもとか、に対して先生の思慮の足りない発言で子どもが痛めつけられる、そういうことが私の回りによく見られます。

磯野 そういう子どもは子どもなりに概念をはつきりさせていかなければならぬが、最後には精神的な暴力になつておまつたわけですね。つまり個々の生徒を起解して教育をしなければ、逆効果になるといふ面を指摘しておられるわけで、これはクラスの生徒数が多いことが根本的な問題だと思ひます。その前に一応の結論を西下さんが出しておられるので、自分のおかれてる位置を客観化するものがとても大事なことです。

梅田 このころ、なんでもことなかれ主義の考え方が多くなりましたが、あれもいけない、これもいけないと禁断するだけでは解決はつかないと思ひます。学校教育は貧富の差の中で、それによりもかつてゆく力をつけてゆくべきだと思ひますが、たとえば制服などで、形を均一にするということが教育であるかと疑問に思ひます。

松南 そういふ場合はいくらもありまして、たとえば友だちがこつという物を買つたので自分も買う、人がしたから同調して自分もせひしなければならぬなどです。その場合貧富の差があり、経済的なうらづけがなかつた場合に非常に親が困る。そういう場合の克己心や判断力を育ててゆくべきだと思ひます。

早苗 刃物の運動にしても、ポスターにまで書くとか好奇心にかられ

することもあつたというマイナスの面もあると思ひます。だからといって持たさなければ、ほんとうのねらい、人命尊重ということには到達しないような気がするのです。

梅田 今、新旧の教育のずれと、着物の問題がありました。昔は身分によつて着るものも決められていましたが、このころの新しい教育ではどんな貧しい人だつて人の着ているものなら、私も着たいという方が正しいものとして考えられていくようです。

松南 昔私たちが受けた教育は、何か一つの大きな枠の中にはめられてそれらにひきずられ、ほんとうの自由がなかつたように思われ、戦後はだんだんほんとうの自由に近づきつつあるような気がします。けれどもなんとなく自由にあこがれていくようにも思ひます。

磯野 山口さんがいわれている中で、学校教育におけるそういう問題にだんだんはいつていききたいと思ひます。

高橋 親孝行について昔と今の教え方がどう違うか、地方の婦人団体などでこれも一つの事業として、皆さんが学校に行つてみることも良いと思ひます。

磯野 はじめに青村さんが道徳教育のことを問題にお出しになりましたから、ご意見をうかがいましょうか。

青村 今の学校教育は民主化され、それによつて子どもたちの発言力が非常に伸びていると思ひます。また、自分を非常に大切にするという教育を受けているのを、家庭ではばんでいふのではないでしようか。いろいろな事情もありましようが、そのことには全然関心がないという親もいます。それには母親が民主主義といふものをよく知らなければならぬでしよう。そこで私たちが今度グループをもち研究し合うことにしております。

西川 私どものグループでは、子どもを教育するには母親がまず勉強しようというのですが、農村の封建制から、勉強がはばまれております。

磯野 今のお話は大へん大事なことです。まずおがさんの勉強の必要性について、もう少し問題をこまかに考えていきたい。

青村 それには第いちばんに家事労働分組と、家庭のみんなの協力が大切です。講演会などにも出かけて、何とか勉強する場をもちたいとつとめております。

磯野 そのことは大事なことです。でもそこに行きます前の問題を考えたと思います。

山口 私は学校参観に行きましたが、全体の子どもに目を向けています。先生の目からこぼれる子も、もう少し先生が注意してください。先生は六年間には、この子どもとしての調子がもう少し出ているのではないかと思います、そのことについて学級集会を開いて子どもからときどき聞くことなどを含めて話し合います。

先生が生徒をいろいろな面で差別待遇されることなどを、私たちがカバーしてやる役目で学級会を開くのです。そうすると先生もそれを取り入れてくださって、級全体を平均に見えなくたがき卒業するまでには級全体のふんいきが違ってきた。

磯野 今非常に重要なことをいわれていますが、ちよつと問題を本筋にもどして。

加藤 私があずかっている子どもは一七人の子どもですが、たとえば学校の当番の場合でも掃除するのがいやだったからしないという。夜おそく帰ってきて、ガタガタするので、静かにしないという。生まれた時からこんな足音をやっているという。いい方をする。それは戦後の教育の悪いあらわれのような気がします。

磯野 現実にこの学校の生徒もいいものばかりをもっていないことを、加藤さんがいつていられるのです。そのことは前田さんもちよつと思ひますので、お話ししていただかせんか。

梅田 自分で考えて、将来の見通しをたてることができていない。また、学校が大嫌い、先生に対する信頼はちよつともつていないようです。というのは進学と就職にわかれることから人を信用しなくなるのです。それが今の学校教育の中でいば心配なことです。

磯野 今、大へん大事なことが出ましたので、この重要性をお考えになつて、だんだん筋道をたてていこうと思います。

中田 現在私立の学校へ子どもをやつていますが、公立にいた時は学校に行つても生徒が、ちよつと会釈をするくらいでした。私立では幼稚園の子どもまでおじぎをされるので、胸をうたれます。社会道徳にもつながるそういう情操方面の教育が最近はどうかと疑問をもつています。

磯野 お話しの一つ一つ大事なことです。みなさんお書きになつたのでは、戦前と戦後の教育を受けたもののずれということが、相当内容的に問題になつていたようです。ですからそのことに集中していきたいと思います。

この討論を充実させるには、あるところにポイントを合わせなければならぬので、ご賛成をお願いします。ではここで、特別オプザ一の方のご意見もちよつとおうかがいしたいと思ひます。

田崎(全国地域婦人団体協議会) みなさんほとんど子どもさんを中心として社会につながるものというのを発言していらつしやいます。大へん進歩だと思ひます。戦場の問題、兄弟関係の問題とかを考え、なんと実践につしたいといふ皆さんの望みですね。

○ おとなへの不信

松南 先生に対する不信と同時に、中学卒業あたりの子どもは親に對する不信が、非常に強いようです。其の点も合わせて。

西下 私はちよつと、新制中学第一回の卒業生です。小学生の時はじめて共学になり、その時の教育はグループ活動が盛んに行なわれて、何でもお互いに助け合ふということでした。高等学校二年生ころから、選抜制とかいうのでその頃から学校がおもしろくなつたように私自身は考えます。今の子どもたちもだんだん孤立的な人間にさせられているような気がするのです。私の弟も、私が経験したようなことをいつています。

磯野 それは非常に重要なことです。四月一日から小学校の教育もかわつてきているのです。

加藤 私のあずかっている子どもを通じてみますと、集団というところに全部責任を転嫁しています。悪いことでもなんでも、集団でやつてしまふのは、何か学校の影響のよう思えて仕方がないのです。

梅田 私のところの工場なんかでも堂々と不正をして、お互いにかくしあつていふ。自分に利益がある場合は一しよになるが、悪いことをやめるといふことは困難があります。

磯本 私たちのグループでは、子どもが大きくなると親にも先生にも相談せず、友だち同志で相談するという問題が出てきました。

それは、P・A、とか、家庭の問題につながつていて、親や先生への不信感をなくするよう努力しなければいけないと思ひます。それで、いい家庭作りとか、家族同志の人間関係が大切だといふことになりました。

井上 先ほど発言があったのですが、非常に自我が強く他人の立場を考慮せず、なんでもかでも自分の立場だけを守つていく、また自分の主張を正しく発表することができるようになり、できない。そういうところが非常に困ります。

磯野 やはり若い世代からの発言があったほうが良いと思いますので、特別オブザーバーの河合さんどうぞ。

河合 (南山大学々生) 大人や先生に不信感を持つというのは、なく、相手によりまずね。母親には中学生くらいから反抗しましたが、親が社会的視野が狭く相談できなくなるのです。たとえばデモに出ようと思つても、相談できるほど母親は政治的感覚をもっていない。そういう時に信頼感が薄れるのです。

竜宝 (東京大学々生) 僕自身の場合は、親は政治にも一応意見をもっているし、デモでも、ちゃんと相談して僕ほうまういていけるのです。全体的に親や先生を信頼しないというけれども、信頼しあえる点もあるんじゃないかと思う。たとえば親や先生に相談しないで友だちに相談するということは親にも言いくいし、先生に話すと、すぐ親に伝わつちやう。だから友だちに相談する。これは昔も同じと思ひますが、けつこう子どもは親を信頼していると思うのです。先生に対する不信というのは、親が先生に対して不信をもつていて、結局子どもにもうつるのではないかな。

青村 私のグループの方の子どもさんが、六年生ごろから、家へ帰つてものをいなくなり、学校の様子も教えなくなりました。それは、小さな問題でもおかあさんが大さわざし、先生やお友だちの家へ話し合いに行つたりするので、子どもは煩わしくなりだんだん何も話さなくなつたのです。

磯野 つまり親が子どもをいかによく理解していると思つても、

は実際に子どもを知っていないということで、今までは愛情をもつていふことが重要視されて、子どもを科学的に理解するといふことができなかったのです。

◎ 親の考え、子の考え

木尾 親孝行といふことを、おかあさん方は親本位に考えているように思われます。私は子どもが二人でしたが、二人ともお嫁にやりました。近所の人に二人とも嫁にやつて、あとのめんどうは誰が見るのですかといわれましたが、私はちつとも不安に思つておられません。自分が育てた子ですもの、困る時には手をさしのべてくれると、自信をもつています。いなかの方はいつも家を中心に考え、十分学費を出して子どもに勉強させておけば、やがてはたくさん俸給を家に送ってくれるだろうなどと、結局自分本位に考えているのです。

青村 私は親孝行について、子どもたちと話し合つたのですが、孝行はしてもらうのではなく、されるので、それには親が子どもにつとめなければならぬという話が出て、なるほどそれもそうだと大笑いしました。やはり親が身をもつて示せば、いつかは子どもに通ずるということを知りました。

木尾 今までの親は何かもので返してくれろといふことを、孝行と考へていたらしいですね。子どもが準備に着手してくれるのが、い

ちばん親孝考じやないかと考へています。
藤本 若い人たちの話し合いで、世のおかあさん方は子どもに期待しすぎる、それにしよつ中絶性的な気持をもつ方が多いので、大へん負担になる、おかあさんたちもいろいろ経済面もありましようが、楽しく子どもを育ててほしいといわれました。

高塚 地方会議で青年の方が、同じ能力でも長男の自分には大学まで進学させ、妹には家の手伝いをとんどんさせる。こういう男女の差別をする親の考え方にはどうしても同調できないと話されました。そういうところにも、一つのずれが出てくると思ひます。

磯野 お互いの考え方の基準が違つて、こちらが期待するような反応を相手が見すものじゃないですね。そこを新旧阿世代の問題として考へる必要がある、その違ひをいかにうまくするかを考へていきたいと思います。

高橋 農村青年がグループでの話を家に帰つて話そうとすると、理屈を覚えてきてなまじきだといわれる。そこで私が間に入つて両方の考えを聞き、中間命令の私の話も聞いていただきました。すると、中間命令のお話も聞いて、お互いに考えを話し合つたほうがまるくいくといつて、感謝されました。

磯野 新教育が成功すればするほど、戦前教育を受けた人とのずれが出てくる。それを理解し、その間の仲介をするのは、先生と私たちだと思ひます。

西川 やはり参観日には、できるだけ出席しよく理解することが大切ですね。けれど勤めをもつ母親はそれができません。中学校の先生が、もつとおかあさん方と話し合う機会があれば、しつづの面でもよくなると思ひます。

井上 親が子どもとのか同じ立場になつて、いっしょけんめい努力することが大切ですね。いつも子どもと共に現在を生きていくのが、ほんとうの愛情だと思ひます。

藤本 最近私のところで、日曜日に父親の参観を実施していますが、母親にまかせきりの方が多く父親の出席率が悪いという状態です。青村 私たちの方でも参観を日曜日に設けておりますが、父親が参

合に関心をもちよう。先ほどの親が子どもに近づいために努力するといふことですが、近村にこういう例がありました。

青年団の研修会に、若い男女が集まつて夜おそくまで何をしていたか、父親がさつぱり理解してくれない。ある時その家で父親の講堂を借り、研修会を催した。すると次の日、その父親が近所の人に深夜の話し合いを自分の意見のように話して歩いた。そしてみんなが、よいことだとよるこんでくれたと息子に話したので、息子も父親をほめてあげた。それから、研修会にもこころよく出てくれたそうです。そのように子どものほりからも努力すべきだと思ひます。

松南 子どもが小さい時は、親子の関係にこだわつてもよいが、高学年になつたら親子の間に距離をおいて考へないと、間違ひが起ると思ひます。

加藤 学校が親子の世代をうめる場と考へられることですが、PTAが本来の精神教育にかえればよいが、なかなか話し合いの機会も得られず、ぜんぜん学校にこず先生の顔を見ると、逃げ

る親もいます。そういう人をどうするかが大切だと思ひます。
松南 結局教師の立場からいえば、子どもを預つて教育してやつて

るという考へが心底にあり、親は教師が教育してくださると信じてる気持になる。その根本的な考へ方にも間違ひがあると思ひます。
磯野 最後に出てきたことは、非常にみすこされてる人たちの、社会的な問題として考へるということです。それと関連して、就職組と進学組の差別、それがいかに深刻なものを子どもたちに与えているかといふことですね。

西下 勤務評定が実施されてから、底辺にいる子どもの問題を、先生同士話題にすることがなくなつたそうで、それは教育者として

いけないと思いますが。

高塚 私はそういう子どもの話もありあけておきます。めぐまれたすぐれた子どもは活発に教師とのやりとりもありますが、底辺の子は一日中発言がないのです。それで私は全員どの子どもでも、ひとことでも話し合いをして帰すようにしていますが、教師の努力だけでは、どうしてもできない壁にぶつかっていることを記憶されていただきたいと思ひます。

磯野 西下さんのご心配のことも、十分にあり得ることで、やつぱり目に見えた成績というものを、どうしたつて人間の一つの弱みとしていくということですね。これは十分考えて行かなければなりません。

加藤 先生方が努力なさつても地域全体が教育に無関心で、先生がキリキリ舞いをしておられる。もつと社会教育が伸びると、少しは解決のメドがつくと感じます。

磯野 今日、学校教育を大体中心にしましたが、今回の会議の目標を考えていく場合に、教育意識が多すぎると非常に問題になると思ひます。たくさん重要な問題がありますが、明日は家族の問題にだんだん入つてまいりましよう。

(第一日閉会)

○ 境遇の差と貧富の差

磯野 おとといの会議で、われわれは現在の社会が非常な速度で動きつつあることを、如実に知らされたわけです。

私は、次の世代の成長に貢献するという目標を考えるには、今日の自然科学や技術の発展が人類にもたらす影響と、実に大きな問題となつているイスラエルのファイヒマン裁判との二つに含まれているものを十分に考えていくべきだと思ひます。いろいろの問題点を念頭におきながら討論をすすめていきたいと思います。

一昨日は学校教育に重点をおきましたが、どうしても他に話が移つてしまつたのです。いちばん重要な、本質的なところに問題を集約してゆくことを考えながら、きようはまず地域の問題をとり上げ、次に職場や施設、最後は家庭の問題へとすすめてはいかがでしょうか。

梅田 地域については、みなさんの考え方が一致しているかどうか。私は地域をどうとらえたらよいかわかりません。

磯野 では地域について、お互いがどんな考えをもっているか、それから入ります。

青村 私の地域は住宅地で大体、生活程度などはそろつておりますが、大きくバックを考えますと、農家が三分の一ぐらいおられます。学校の集会などには、農家の方は着物などにこだわつたり、忙しくて出られないことが多く、婦人学級は地域的にやつておりますが、その場合でも取り上げる問題が違つてくるのです。学級長の方が、サラリーマンの奥さん方はだん勉強しておられるから、農家の方を主体としなければならぬと、時々おつしやるので、農家でないお母さん方の勉強が妨げられるのです。両方の間

第二部会 第二日目

一四日 一〇、〇〇一七、〇〇

藤本 現代は金や地位ばかり追いすくると思うんです。

西川 まだ、母親自身が子どもをそういうふうにするまでには目ざめていないのではないかしら。

松南 私は、個人をもっと大事にして、他人のおせっかいをしないことが大切だと思います。子どもの生活をみていますと、おとなと違つて、すばらしく他人を尊重しているように思います。

西下 私は幼稚園に勤めております。小学生のころは競争心がないとさつきいわれていたが、幼稚園の下の子でもお弁当のおかずをくらべ、自分の家は貧乏だなどといいます。同じような村の子が九〇パーセントを占めるのですから、そんなことをいうのです。もう一つ、精神面で貧富の差を克服したいと思うんですが、私の近所に未解放部落がたくさんあり、その人たちの中で、物質的な考えを精神面で変えようと思つてもできないと思います。昔の人は自分が、幸福になりたいという個人的な信仰で苦しまに耐えてきてたが、それでは今でも解決されないと思います。未解放部落の人たちは、就職も結婚も非常にむずかしい段階にあります。もつと個人的な理想の社会は、個人の力ではできないと思います。

早苗 お弁当の差を子どもが感じていた時、先生は何か手をお打ちになりますか。

西下 私はできなかったのです。お母さんには、こんな大きなお弁当箱にたくさんごはんを入れ、しそをききさんでのせるだけでなく、も少し栄養を考えるようにとお話しましたが、子どもにはその中でどのように成長していくかは、教えることができなかったのです。

加藤 先生がどうなさるかということですが、私の方では旅館の娘

さんには、その女中さんが温かいお弁当を持ってくるが、農家の子どもはトロロコンプを持つてくるだけです。私の学校時代の受持の先生は、いつも温かいお弁当を持つてくる人にとまつて、やめるようにいわれたが、今の先生は、PTA役員をしている旅館主幹におこられるのが恐ろしいので、何もいわないんです。昔の先生は、ずいぶんその点像がつかつたと思います。

西下 でも栄養のあるお弁当をとめるのは人間の向上をはばむことだと思ひます。

早苗 そうではないんです。使用人に持つてこさせるぜいたくさ、それができない子どもと比べて問題にしたのです。

山口 金持の娘さんはそれで満足しますか？

早苗 あたりまえと思つております。

○ 協力で現状打開を

木尾 私たちのところは封建性の強いところで、私は他町から移り住んだので、それを痛切に感じました。そこで、ちようど婦人会の役員になつたので、貧富の差は、親の力によつて左右されるので、まず子どもは人間であることを考えていただき、せめて婦人会は子どもを差別待遇しないようにと呼びかけました。小学校は完全給食をしており、幼稚園からすべて子どものひがみを感じさせないようにしております。

大下 私の町も土地の貧しいところで、完全給食をやりたいと願いながら、土地を求める費用も無く、先生がせめてミルク給食を小中学生にやつてみたいといわれましたが、貧しい家庭が多く、とても現金の出しようがなく、実行できないのです。母親がいろいろ内職などしていますが、なかなか貧しさに追いつけず、父親の

わずかな晩酌を半分にするというふうな状態で、お弁当どころではありせん。

磯野 お話が佳境に入つてきましたね。日本の社会は、どこでも大へんな経済問題をもつていてをひしひしと感しますね。梅田さんが、貧乏という事実を目をおつてはいけないといわれましたが、今のお話でなつとくなさる事が多いと思います。とにかく事実を事実としてみるのが大切ではないでしょうか。

西川 私の村でも、お弁当の栄養など考えられなかつたので、そういうことから給食になつたのですが、問題は予算の少ないことです。最初給食室が建ちました。給食費は現金でなく、麦やさつま、卵などを農協に納め、その代金を農協から給食費に入れていました。

毎日の材料は当番制で持ち寄り、マキを五本ぐらい出せば現金は全然出さずにすみます。農家でない場合は現金で出すのですが、案外うまくいってあります。はじめは一週間に一日だけでしたが、このころでは一週間全部完全給食をやつています。そういうふうな現物で納める方法などで、はじめは一週間に一回くらいから始めたからではないでしょうか。

磯野 大へん具体的な例をだしていただきありがとうございます。梅田 子どもを人間として認める、ということから完全給食を始めたという先ほどのお話は、貧しさを我慢させるのではなく、事実をよくみつめることから始まつたと思います。給食費を出すために、お母さんが内職の時間を増したりして、いろいろ苦しむという見えない面を大いに考える必要があると思います。

松南 そういうようにいつまでも話を繰返すとなかなか話が縮まらなと思うのですが、討論や話し合いが大事だと思います。

木尾 私はそんなことにこだわらずに、みなさんが超越したらと思ひます。

中田 地域のお母さん方が話し合い固結したら良いと思います。大下 私のところも現金収入のないところから、そんなことで三年もついでしています。

梅田 問題はぐるぐるまわりになつてきていますね。科学的な考え方をみつけ出すようみなさんで考えましよう。

加藤 きれいごとの話し合いだけではちつとも進歩しないので、どこかうまくやつているところはないか、全国へ手紙を出そうというふうな行動にうつたえる強さが、話し合いにでないのが残念です。

大下 そういうことではじめて私はこちらに出てきたのです。梅田 磯野 大下さんのご苦労は大へんなものと思います。農協のころいう抑圧は強いもので、みんなが固結し少しづつでも努力してゆかなければなりませんね。

先ほどの、事実を事実としてみるということは、精神面を否定するものではないと思います。われわれの階級が次の世代の成長をはばんでいるのではないか、ということを考えながら、話を続けてゆきましよう。

西川 昨日三鷹の保育園を参観して園長さんにかつたのですが、あれが開設されたのはお母さま方が固結して役所にお願ひしたからだそうです。保育園や給食の問題も、お母さんたちだけで考えが行き詰つたら、町長さんや県などにみんなでお願ひしたらどうでしょうか。

大下 そのようにして教育長のところまでもつていき、給食用の炊事場を作つてあげようということまでこぎつけております。

四川 そとまでできればいいものですね。

加藤 昨日、ガールスカウトとの懇談会で、私の預かっている子どもたちを友だちにしてくれませんかと質問したら、友だちになりたいと思うが、工場で働いている人は劣等感をもっているとお友だちになれないのではないかと、という声が出たのです。小さい時から、金持は優位で、働いている人は弱小であるとの考えをもっているのかと恐ろしく思いました。

井上 そういふパンデイをもった見方は、子どもにも母親にもありませんね。

磯野 さつき西下さんが未解放部落のことを断されたが、この解決はあわれみだけでは解決しませんね。

梅田 私がある時、町でこじきを見て、ああいう人を見ると胸が苦しくなるといつたら、友人に、それはセンチメンタル・ヒーローニズムよといわれました。それからいつもそのことを考えていたら、ちやうど助け合い運動が始まりました。もし私がこじきに十円なり百円なりあげた場合と、NHKや新聞社などの助け合い運動で、そこにお金が出ていくのとどう違うかわからず、それで助け合いということがわからなくなつたのです。みなさんどうお思いですか。

藤本 私もそのことを防犯委員にたずねたら、あなたは情をかけてくださつても、そのこじきのためにいけないのです、そんな場合はやはり公の機関を通じてくださいといわれたので、今でも疑問をもつています。

西下 私は公の機関でするのも、個人的のどちらでもないかと思ひます。政府は赤い羽根の募金等をあてにして、社会保障費を出さないのではないかと気がします。みんなの善意が悪用されて

いると思ひます。

加藤 私の町にこじきを販売している人があるのです。そんな場合は、ほんとうに寄付したお金が慈善ではなくなつてしまふ。磯野 こじきにもいろいろあるでしょう。では問題を本筋にもどしましょう。

いまセンチメンタルイズムという言葉が出ましたが、われわれがものを感ずる、それを抜きにして人間があり得るかどうかが問題で、また何のために税金を払っているかは重要な問題ですね。

加藤 私の町に、傷痍軍人で右手がなくても働いていられる人と、町で物ごいに立っている人があり、いろいろ考えるところはいろいろある手も、やつて良いことと悪いこととあると思ひます。

井上 これは社会の責任で、少なくとも、すべての人に働く場所のあることが必要ですね。

梅田 同じお金を払っても、その時の暮らし方が大事で、あの人も私も結局同じ立場であることを考えないと、社会保障がお恵みと違わないように思ひます。

磯野 人間性が集まつて作られてゆく社会を深く考えてゆくべきで、社会保障のことなどもいろいろ考えなければならぬ問題があると感じますが、次の問題に入りたいと思ひます。

○ 地域婦人と青少年の交流

山口 私は、自分が大へん古いと思つておりますので、子どもたちと手をつなぐのにラジオを聞いて勉強しています。学校放送等で学んだことなどで、子どもと一緒に話し合ひをすることから子どもの考えを知り、私から子どもに近づきようとしています。成長する子どもたちに近づいていく母になるために、どういふ勉強をし

ていくかなさんと相談したいと思ひます。

高橋 私は、子どもたちが家庭の職業等にこだわらずに遊んでいるのを見て、ぜひそのお母さま方と友人になりたいと思ひ、子どもを通じていろいろな職業の方たちと友だちになりました。そんなことから、子どもたちと一緒に地域で行動ができるようになるのではないかと思ひます。

磯野 地域での勉強について、そのきっかけとして特別オプザーバーの大矢さんに豊島子供を守る会での勉強会のお話をおうかがひいたしませう。

大矢 (日本子どもを守る会) 私たちの勉強会は、中学生のお子さんのある方が多いのです。昔と今の勉強は全然変つていたので、子どもと自分のために新しい勉強をしようと、三年くらい前に、先ず中学校の「日本の流れ」という教科書を自主的に選び、一週間に一回ずつ勉強を始めました。先生を呼ばないことが一つの特長で、みんなで少しづつ読み上げ、お互いに感想を話し合ひ考え合つて、この間やつと三巻目を終りました。ときどき講師をお呼びして、わからないことを学問的に教えていただきます。この勉強によつて、大へん子どもと母親が親しくなり、子どもが母親を信頼し尊重するようになりました。また、ご主人方もすすんで会に出席させてくれ、今ではみんな選挙の投票も自主的に考えてやつたり、積極的な話ができるようになりました。今は家族制度について勉強しており、楽しく魅力的な勉強の中からお互いに育つていくことを考えております。

磯野 ありがとうございます。ではお話のように、地域の問題をテーマとしてお話しください。

高橋 地域の子どもの育てていくには、自分の子どもだけでなく、

地域の子どもの全体に注意し、お母さんの組織と子どもの組織のつながりをもつて、勉強していくのがいちばん良いと思ひます。子どもの組織は、年令別に必ずわけ、自主的にそれぞれの組織をよくしていくようにした方がよいのではないかと思ひます。

西下 私の町の子どもの会の活動はレクリエーションが多いですが、各地の子どもの活動はどうでしょう。

大下 組織の活動は非常に良いと思ひます。子ども会はずいぶんリーダーが必要と思ひますが、一昨日申しました新興宗教の子どもの集まりのように、とんでもない方向にいくような場合は、しつかりしたお母さんに指導していただきたいと思ひます。

松南 私は、子ども会におとながリーダー格になることには疑問をもつています。おとなが引つぱりがちになつて、子どもの自主性が失なわれ、子どもの思う存分の活動ができなくなるような気がします。子どもたちに、自主的に意見のぶつかり合ひをさせて、その中で成長させ、それであき足らなくなつたら、他の組織と交流していかせるのがよいと思ひます。

高橋 子ども会を、なるべく子どもたちの思うままにさせてやるために、悪い影響を与える映画の看板や週刊紙などを、やめてもらうよう積極的に働きかけたりして、地域の環境を良くすることがお母さんの務めだと思ひます。

磯野 確かにそうですね。どうも年代が低くなりすぎるので、もう少し上の年代も念頭においていただきませう。

松南 おとながみて、性的に露骨なものを全部とり去り環境を良くしても、子どもはけつして良くならないと思ひ、いわゆるおとなの悪もある中で、事実を事実としてみていくということも考え合わせて非常に悩んでいます。

加藤 そんな思いことも、一つの教材としていくだけのたくましさ
がほしいと思いますし、いざいざみなさんを後から押していく
ようにしたいと思っています。

青村 私の市でも子ども会が方々にあり、問題はあまりないよう
ですが、青年男女の集まりには親の理解があまりないようです。私
はできるだけ機会を作って、娘やむすこの友だちを家に呼び「精
に遊びますが、その方が心配がないと思います。」

磯野 それはほんとうに必要ですね。
井上 確かに、環境はおとなの責任でもありますが、子どもがその
中でも、自分の立場を理解していけるよう育てるのが必要だと思
います。

松南 おとなも、人間としては子どもより劣る点も多く、一緒に勉
強していくという考えが必要だと思いますので、子どもを教育す
るとか、貢献するとかいう言葉にとってもこだわってしまいます。
磯野 それは一つの結論みたいですが、そこまでの道筋があるでし
ょう。

高橋 私は、おとなの世界の良い点と悪い点を知ってもらうために、
青少年と婦人の組織が合流し、その土地の社会問題を一緒に話し
合っていくしたいと思います。

磯野 高橋さんは、第一日から、違う世代の中介者になって、両方
の理解をすすめていくというわけにありますが、大事なことですね。
青村 そのために、おとなと青少年の話し合いの場を作ることが大
事で、必ずしも固い問題だけではなく、たとえばジャズなど子ど
もの興味をもつことから話の糸口がひらけ、心の交流ができるこ
ともあると思います。

な考え方不安があるのですが。

松南 形式的なものから入って、精神的に深めていくといういき方
には、何かごまかしがある気がします。

中田 私の女の子は私立学校に行っており制服を着ていますが、と
てもそれを大事にし、またみんなが平等であるという考えをもつ
て、大へん良いと思います。悪い面というのは何かそれに拘束さ
れて、校則を守らなければならないと義理づけられているように
見えることです。

加藤 たしか二十九年の日本青年同協会の席上で、女子団員が、
貧富の差からくる衣服の差を気にして集まりが悪く、青年団活動
ができないという問題が出て、そんなことは精神的にのりこえて
出てくればよいという人と、そんなものではなく、貧しさが問題
なのだ論争されたことがあります。やはり女の子は、常に美し
く、まただれからも愛されたいと願っているもので、貧しさを越
えてたくましくいこうと考えながらも、もつと美しくと望み、制
服の場合ですら、もつと美しくなりたいと願うところに人間の弱
さがあると思います。その弱さに負けるか、またはそれを認めな
がらも、たくましくいくかに、その人の生きていく姿勢があると
思っています。

梅田 人間の弱さとおとしやるその心は、人間として大事なことで、
そこから人間は進歩していくとも考えられます。また制服も、人
間の弱さを考えた場合には良い方法だとお二人の話を聞きました
が……。

西下 もし平等を目的とするのなら、学校によつて服装が違つたら
なんにもならないと思います。

磯野 昔は身分により着るものも区別されていたが、そのわくの中

悪い環境をのりこえよう

西下 先ほどの、環境が悪いという点ですが、私たちがおとなの英知
で、制限すべきことはやるけれど、そのままだつておいて良いこ
ともあると思いますか……。

井上 私の小学校の百メートル以内のところにできた、いわゆる温
泉マートの旅館を禁止してあらうと、PTAで運動を続け
てきましたが、相手は生活権を主張なさるし、役所ではそれは原
生課だ、衛生課の仕事を逃けようとしたらするので、四年た
つた今でもそのままです。そんな環境の中でも、子どもは悪いま
ねもつていませんが、やはりその近くの家庭のお母さん方の苦
労はいろいろあると思います。父兄はあい変らず運動を続けてい
ますが、そのままでおいてもよいのでしょうか……。

磯野 ここで、今までの考え方と違うことは、ヒステリックに悪を
のけうというのではないということで、大きな意味があると思
います。それは悪を認めるわけでは決してありませんね。

西下 考えとかいふ方は人によりさまざまで、たとえばギャンブルを少
くするとか、託児所をよくするとかいうような、みんなの考えが
一致している基本的な環境の問題は、次の世代のためにみんな
力を入れるのが、映画の広告とか温泉マートの旅館の問題等は、
相手の考えも尊重し話し合い、また世論をまきおこして相手に考
えてもらう努力が必要だと思っています。

梅田 制服と教育貧富の差をみんなの目からなくすということでは
なく、子どもたちに自覚をもたせるために、このごろは制服が作
られていますがそれでよいのでしょうか。その中で子どもがほん
とうに環境を造りかえる力が養われるでしょうか。そういう安易

でも人の目につくように苦心したりしました。外からのわくを、つ
けることはどうかということですね。

青村 昨日の見学でお話した店員さんたちは、恵まれた環境のもと
に就職されておられるので、故郷のお友だちへも自分の職場をす
すめるかと質問しました。すると、意見はのべるけれども、それ
ぞれの考えがあるので、押し付けることはできない、とはつきり
答えるので、つくづくおとなが勉強しなければならぬと考えま
した。

松南 私たちは戦時中、国家主義に引きずられてきたので、再びわ
くにはめられるのは恐ろしいことだと思います。ガールスカウト
の人でも、義務づけられた気のする制服をぬいだ時はホッとする
でしょう。

加藤 窮屈な制服をぬぐとホッとするといわれますが、私は人間形
成には窮屈な訓練の時期がやっぱり必要だと思っています。

梅田 私は反対に、着ているうちにはかえって安心できて、その中で
考える環境が与えられるのだと思います。

磯野 いま阿方のいわれたことは、こちらがよいのだとはつきりい
えませんが……。

西川 私は義務や安心感ではなく、間違つたことはしなさいという、
制服に対する誇りだと思っています。

磯野 制服を着た時だけでも誇り……。

西川 いえ、ぬいだ時その誇りは変らないと思います。

松南 私は、真の意識や使命を自覚し、誇りをもつのは非常に良い
が、一面では、他の階級に対する特権意識が働いているのではな
いかとも思います。

磯野 私は、誰でも人生の英知をもつて生きているのだと思います

が、いかがでしょう。

井上 誰にも選択の自由はあるとは思いますが、だから閉じこめられた世界ではなく、自分で理解し自由に選択して入ることから、誇りをもつて生きられるのだと思います。

磯野 それは決定的に重要なことで、自由の中で自分の判断で選ぶこと、そしてその責任が、次の世代の成長を助ける市民としてのポイントですね。アイヒマンの裁判も東京裁判でも、上級の者に命令を受けたので、自分には責任がないといっていますね。そこを関係づけながら考えたいと思います。

加藤 自分で選んだことでも、責任をのがれようとする人間の弱さというようなものを、団体とか制服とかがささえてくれると思うんです。

磯野 梅田さんと加藤さんの意見が対立しておられることが重要なことですね。

梅田 制服を、秩序とか命令とか考え、その中で安心できると考えたのはつきりすると思います。

加藤 自分がわくの中からはみ出そうとした時に、それを守つてくれるという安心も含めて、梅田さんのいわれた安心も肯定しながら、なお必要だと考えるのです。

磯野 梅田さんは本質的、自主的でないことからくる欠陥を心配され、加藤さんは人間形成のうえに、決まった訓練を受けることが必要だと強調しておられるのですね。

ではここで、午前中のお話し合いを一応終らせていただきます。

(休憩)

地域のグループ活動

磯野 では午前中に引き続き、地域のことについてのまとめに入ります。みなさんいろいろ苦勞なさっておられるのでしよう。いかがですか。

日本の社会全体は二重構造といわれ、複雑な仕組みになっておりますが、その自体に問題があるわけですね。複雑な事実を事実として、その法則を考え、これに当てはめ、地域社会の仕組みそのものを捕えていくということを前提にして考えていきたいと思います。

藤本 私のグループでは具体的には、青少年のグループ活動をするということ、お母さんと子どもの会を作つていかなければならないという意見が出ました。

中田 私たちの地域の子どもの会は、単なる行事で、お金が足りなくなると、婦人会とか婦人学級などに呼びかけてお金をもらう程度の結びつきで、ほんとうの話し合いはないのです。それで、PTAなどに呼びかけても聞いてくれず、どうしたらよいか悩んでおります。

松南 子どもが聞いてくれないのですか。

中田 子ども会にはリーダーがいますが、援助しているのはPTAの地域のお母さんです。そのお母さんたちと話し合うので、子どもに話し合いをさせたらどうかというのですが、それでは子どもが乗つてくれないのです。

藤本 大阪でもそれについて、母親たちでいろいろお話をいたしました。私の地域の場合は、会のリーダーがたいへん優秀な子どもで、自主的に割り合いうまくいっていますが、地域によつてなかなかそうはまいません。

青村 母親たちの勉強の場として、一〇人ばかりでグループを作りましたが、その必要性をみなさんに認められ、今度は各町内単位で小グループをたくさん作り、個々のグループの話し合いの結果を代表がもちよつて、また一しよに話し合うというような進め方を今やりつつあります。

井上 私たちも、まず親がその地域のいろいろな差別感などを話し合い、意識を少しづつ変えていくような努力をしました。

磯野 小グループ活動の必要を感じ、実践しておられるわけですね。井上 長い間グループで話し合つておられますと、基本的な考え方がそのグループの中でも変つてきて、も一つ小グループに分かれていく、そんなやり方をしております。

磯野 ちやうど細胞分裂のように、また小さく……。

井上 それが地域の中でたくさんできるわけです。

松南 私もそれには賛成で、結局子ども会とおとなの場合も、子ども会が自主的にやらせ、後見的な態度で見守り、私も母親同志の会で、お互い討議することによつて成長していくのではないかと思います。それを重ねてどうにもならないところに来た時に、子ども会と母親の会とはじめてぶつかり合つてみるような方法を……。

磯野 それは午前中に、いろいろな実践生活が話されましたね。

高塚 私のところは炭鉱地帯でも、経済的にわりに恵まれ、生活程度もほとんど同一で、そこで働く人が住民の八割程度ですから、まとまる点は非常に便利で、子ども会も、労働組合の幹部級の人たちが主になつて発足をしたわけで、学校側はほとんどタッチせず、問題があると母親たちが補導委員という組織で話し合い、そこでどうにもできない時には、学校側に持ちかける程度です。子ども会の行事はレクリエーションももちろんありますが、いろいろ

ということ、第二回の婦人会議に出席された方を中心にして話し合う会を作っています。それは自分の考えを断る事が大事だから、話す技術を勉強し、その中でお互いの考え方を作り上げていくというのですが、いくら話し合っても解決はしないのです。たまたまベビーブーム時代に生まれた中学生が、小学校の教室にそのまま居座りになっている状態が起きているので、話し合う会の母親が主になり、地域の会合で呼びかけ、市会議員や教育長に会ってお願ひしたりしました。情肩が違っても、教育上のこまな問題を中心にグループ作りをすればできるのではないかと。問題が先にあるという考え方はです。

磯野 一つの本筋が出ましたが、なんでも、あるべき姿は一つで、それにみな、のつとつていくとは私は思いません。場合や地域によつて問題にぶつかり、それぞれに依拠して、いろいろな変化をさせていくことを考えましょう。最後は何でも政治の問題へ、という考え方には一つの大きな問題がありますが、そこにいかないで解決するというもおかしなことです。そこはよくお考えいただけたらと思います。

今日はじめに、話し合いがいつでも青少年の教育の問題で終わつては仕方がないと発言がありました。その観点から地域の問題をどうお考えでしょうか。

加藤 福井の場合では、母親たちが勉強し、話し合おう、グループを作ろうということが流されてしまったのです。そういう母親たちは一人一人がグループを作り、地域で、次の世代を育てるために自分たちで勉強するという消極的なことでなく、そのために具体的にこういうものをやりましょうと積極的なことを出してほしいのです。

今度は職場や勤労の場を問題にしたいと思ひます。

○働く青少年の願ひ

高橋 私が考えている勤労の場の青少年は、大多数が自宅に離れてよそに寄寓している子どもたちで、共通のレクリエーションの場を持たず、欲求不満から非行に走つたり、おとなが相談相手になつてあげないという環境が多いのです。そういう人たちに共同施設をぜひ作りたいので、実例をうかがいたいと思ひます。

西下 それに加えて、週休制が実施されると問題が一つ深刻になると私もいわれてきました。お金も遊びに行くところもなく、家にいてもしようがないというので、働く青年のいこいの家をぜひ考えなければならぬと思ひます。

加藤 貧しいところから集団就職してきた子たちを預かつておられます。福井県は婦人団体連絡協議会で土曜喫茶といつて、土曜日だけ、奥さんたちが青年会と婦人会のこしらえた会館でサービスします。コーヒー・紅茶等は実費で、コーラスの指導をします。うちの工場の子たちも安いので一応行くのですが、歌だけではいやだ。ダンスをしてくれというのでフォーク・ダンスの会をします。たら、今度はそれじゃつまらない、ソシヤル・ダンスをしたいのだといひます。おとながつぎつぎと与えてもそれでは満足しないのです。テレビをかけても、歌謡曲などキヤークヤークもものばかりで教育的なものはないのです。そこを私は問題にしたいのです。

磯野 若い世代の自発的なものがないとためなのですね。
梅田 私の工場には男の子が三十人ほどいます。九州の田川、飯塚

磯野 梅田さんがさつと具体的な例をおつしやいましたが、それに対する一つの回答にもなります。市会議員や教育長など、国や地方自治団体の仕組みの中に母親が実際問題を持つて入つていき、それをいかに感じたかが大事なことです。なお地域を行政区画と考えるということがありましたが、たとえば、英国などの地方自治体と日本のそれとは非常に歴史が違い、その役割や一般市民のそれに対する考え方も非常に違つてくるので、一朝一夕にはほんとうの自主的な自治団体、それへの積極的な働きかけなどはできにくいわけです。その実践の勇氣は大へんなものですが、みなさまには体験が有りだと思ひます。

梅田 母親たちが一緒に行動をするうちに、手を結ぶことができたのは大収穫であり、教育長は政治の中の一つのポストで、ここでもどうにもならず、もつと大きな解決法を考えなければならぬと感じたことも大事だつたと思ひます。

磯野 きつとそのお母さんは家でその話をなさり、子どもたちは憤慨をもつたでしようし、それが次の世代への貢献でしようね。

加藤 私が預かつている底辺の子どもたちから考え出したのですが、地域婦人会の方は自分の勉強もなさり、子どもさんは立派に育てておられるので、底辺の子どものために、里親みたいな方法で精神面の貢献をお願いしたいと思ひます。共かせぎのうちの子どももある時間だけ世話するとか、集団就職している子どもたちを呼んで、正しい家庭や母親のあり方を実際に見せることで教えていくようなあり方なども一つの積極的な方法ではないかと考えます。

磯野 非常に大事な発言だと思ひます。余力のある方のそういう自発的なサービスだけに頼つてはいけないうえですが、固なり地方自治団体がやるべきことへの原動力にするために十分考えていきましよう。

など最近問題になつた炭鉱地帯からの子が多く、高校進学や大企業への入社試験でふるい落とされた、身体も弱く精神的にも欠陥のあるような子がくるのです。はじめは修学旅行の延長のように楽しんでいますが、だんだん希望が大きくなるのです。周辺の大企業で働く人と賃金が違ふし、大企業に働く誇りをもっているのがうらやましいのです。またいつまでも学生服を着たがりです。憧れや劣等感からくると思えばかわいそうです。

大体、下請企業は安定性や将来性のないことから、どういう未来を考えたらいかがが深刻な悩みになつていふと思ひます。それを忘れるために、給料はバツと使い、変わった服装や行ないをするのです。そういう子どもたちの期待にこたえる手段を考えた時、結局働いている若い人も使用者の私たちも同じ不安を持つていることに気づきました。それで何とか話し合いをしようとするのですが、使つて者と使われる者との宿命的な関係のためにできないのです。それで同じような状態の若い人が全国には大ぜいあり、皆がよくならない限り個人の生活もよくならないので、皆の力でそれを解決しようとする青年に、それぞれが成長するのが大事だと思ひ、近くにある学藝大学の学生さんたちに仲間になつてくださるようにお願ひして具体的に話が進んでおります。そういう若い人の仲間作りのお世話をしあけるのが私たちの仕事だと思つております。

磯野 今のお話に、日本の社会の非常な苦しみや悩みが集中的に出ておりますね。梅田さんも最後の言葉を自覚しながらも、なおやうとしていらつしやるわけですね。そこが非常に尊いことだと思ひます。にわかには解決はできない問題ですが、私たちはなんとか知恵をしぼつて一歩でも前進させていきたいと思ひます。

○ 底辺に育った娘たち

加藤 私の預かっております子どもたちには、男女交際のうえの問題があるように思います。どんな男でも一しよになつてくれれば、親の荷がおりるといふ親の考えにも、大へん問題がありますが、つきあう相手もやはり希望の無い子で、知性も理性もなく、話題がすぐセックスにゆくのです。ほんとうの愛情でなく、利己的なもので毎日を送つてしまふのです。お裁縫料理はもうろんものを判断する力も低く、この子たちが母親になつたらどういう子どもたちを育てるだろうと考えると恐ろしいのです。人数も多いので私の力には限界があります。地域の人に助けてほしいといちばん願つております。

早苗 そままでいかにいうに何か打つ手はないのでしょうか。

加藤 おつしやる通りなんです。私含めになつて三カ月ですが、年とつた人では始末に負えないからと頼まれました。私は今まで立派なお母さんたちを見ていたために、こう放りっぱなしで育つた子どもを、この年令から良くしようとするとは何とむづかしいことだろうと思つています。

磯野 いま早苗さんが実感をこめていわれた言葉こそ大事なことです。が、われわれは、ともすると社会でも学校でも投げやりになれやすい底辺の人たちが非常に多いことを忘れ、優等生教育をやつていくということは非常な間違いです。私たちは、まずこういう事実を知つたことが大きなことではないかと思ひます。ある意味ではその原因も解決方法もわかつているのではないのでしょうか。高塚 その子たちは職業安定所を通じて中学卒業後ただちに入社するのであるのか。

加藤 縁故関係で入れましたが、会社の方も家庭訪問してやつと家庭の実態でわかつたのです。それから出身校の先生との交流を私なりにやつて、先生も来てくださったのですが、貧しいためほとんど学校へも行かなかつた子が多く、先生に余りのもいやだといふのです。

高塚 会社に入る前から問題児であつて、その後の問題も原因はそこにあるのでしょうか。

加藤 たまたま前からいた子に悪い子がいて、引きずられてしまつたのです。

高塚 私、前は中学校におり、職業安定所を通じて愛知県の機働工場などへ集団就職させましたが、借住寮の村で、子どもはカソリックの信者としてまじめに育てられたもので、雇主から喜ばれた記録しかありません。宗教なども働く子どもたちに必要なのではないのでしょうか。

磯野 その場合に宗教が大きな役割をしていることはわかりますが、それがすべてとは思ひませんね。

西下 宗教が必要だというまえに、親子が交流する家庭のふんいきが必要なのではないのでしょうか。愛情や優しさがほしいとか、学校へ行きたくても行けなかつた不満や、小さい時からの不幸が拍車をかけてそうなつたと思ふと胸がいっぱいですが、何とか大きなまえに打つ手があるのじやないかと思ひます。小学校よりまえ、ひよつとすると生まれるまえの問題がもしません。

磯野 それをあとで家族の問題で扱うわけですが、小学校でも、先生が一人一人の子をよく見るためには学級が小さくなければできないので、案外ないがしろになつていますが、学級の生徒数を世界の文明国並みにすることが大事なことだと思ひます。

高橋 勤労の場は、生産面の技術の要請だけでなく、青少年にとつては人間形成の一つの過程でもあります。相談に何でも乗つてやれるような、明るい職場の人間関係がいちばん大切だと思ひます。

磯野 それにはどうすればいいかということですね。

加藤 私はそれを自分がやつています。でも限界があるから、地域でもだれかが協力してほしいのです。

早苗 ちよつともありますが、中学の時から問題児であつたわけですから、先生は卒業後も、問題児がどこに就職したか一回り見ていただきたい。今までの様子を事業主にひとこと知らせてもらえたら、いくらかでも防げるように思ひます。子どもは職場や環境が移つた時にいちばん不安な状態にあるので、その時に相談相手になつてくれる人がほしいのではないかと思ひますね。

磯野 それはやつておられる方もあるけれども、なお限界があるのです。

奥原 子どもを預つておられる梅田さんの立場から、何かお考えありませんか。

梅田 先生に対して信頼感を持たず、就職、進学の中で精神的に離れてしまつた子どもたちですから、先生をそこまで使うのはお気の毒です。結局子どもたちが望んでいることをしやすいうようにするしかないのです。

磯野 先ほど、加藤さんのいわれたように、これが多分いいだろうと先へ先へとやつても飽き過ぎ、どうしても教育意識過剰になつてだめなのですね。若い人たちが自主的にやる条件を作ること、前の世代が考えるということではないでしょうか。

青村 私の聞いた話では、企業内で高等学校程度の学問やお茶やお花なども教えてくださるそうです。学問的なものはべつとして、

話し合いやお花を習うなど情動的な面からやつたらどうかと思ひます。

磯野 昨日、日本橋の横山町を見学しましたが、職場の女の方たちはやはりお花をやつていました。

こういふところにおればなるほど必要だと思ひます。これを過少評価するわけではありませんが、どうでしょうか。

加藤 お花をやつてみましたが長続きしないのです。お花のよきなとわかる素地がないのです。私洋裁が本職なものですから一緒にやつたり、いろいろな人に助言をいただいて一般的なことは全部やつてみましたが一つも通じないのです。

西川 それでだめだとあきらめずに、なんでも引つ張つていくことですね。

加藤 あきらめたくないのです。お聞きしているのです。それで私は、母親たちが生活態度を教えるのではなく、一しよにお茶を飲み一緒に台所や雑巾がけをすることによつて正しい生活態度を見せれば、それを何回か何年かくり返すうちにわかつてくれるのではないかと、私なりに結論を持つたわけですね。

山口 子どもは何を要求しているのですか。

加藤 子どもは淋しいのです。私が出ておきますと、先生の部屋に灯がついていないと淋しいから外出してしまふといふのです。私がいなくても、べつに部屋に遊びにはこないのですが、安心して自分の部屋で漫画を読んだりしているのです。外出から帰ると、男の子になぐられたなどいつてくるのですが、私が聞いているだけでいいのです。あの子たちに欠けているのは、愛情で、私を独占したがるのです。この間たみの部屋に洗濯した敷布が干してあり、水がボタボタ落ちていたので注意したら、先生に捕まされた

といつて、「一日とんをがふつて寝ている。そういうところはすこく素直なんです。逆に部屋の子同士では、私なんて男の子とつま合いても子どもはでん、といつて自慢などしている。そこ

のアンバランスが私にはとても手に負えないのです。

本尾 年少労働者福祉員の方はいらつしやいませんか。

加藤 あれは、商店関係でして、工場の寮生活はべつたということです。まして集団就職して来ますので、みんながはねのけていくわけです。

本尾 年少労働者福祉員は働く青少年の面倒をみるのがお役じやないでしょうか。

鹿兒島は就職に出す方で、今年も一、〇〇〇人くらい出しており、県下に就職したものは六〇〇人しかいないのです。やはり中小企業や零細企業で、基準法によつて定められたもののつとることがなかなかできませんから、マイナー・クラブというのが組織され、そこにいるスポーツやレクリエーションをしたり、修養講座を開いたり、けつこう楽しんでるようです。

加藤 誤解のないように申し上げますが、福井でもうまくやつているところもあるのです。たまたま私のおります町に問題があるのです。地域社会が良くなればうちの子も良くなるのではないかと、子どもだけ責めるのは良くないのではいかと思ふのです。もう一つは、大きな工場には良い子が入るし、小さいところにはなかなか入る人がないということです。もてあまして、今でもやめさせたいけれど人がいない。地元で求人しても来てくれないのです。高塚 労働条件はどうでしょうか。

加藤 最低賃金が施かれ、二五〇円の日給で、食費を引いて新卒者で四、〇〇〇円から四、五〇〇円の手取りです。洗濯場もある

んありますが、平しに行くのが面倒だから部屋に干す、粗のしつけないんです。

松岡 はかの比較的小くいつている工場などと話し合つたり、交流はしないのですか。

加藤 私は婦人少年室の補助員をしていますので、その問題を出しました。いま働く青年の家や働く婦人の家を建てようと言つていますが、評判の悪い工場では自分のところの悪口ばかりいわれるので、工場主がいやだといふのです。私が工場主と週休制でできた余暇費用について話し合つた時にも、四〇〇人の従業員のうち問題を起すのは一〇人ほどだから問題にしないでいいといわれしました。またある大紡績工場の女子は、男の子との交流が希望ですが、使用者側は、労働組合同士の交流になるのを恐れていやだといふわけです。私たちの純粋な気持も、労使という立場でとられてしまつて、壁がいくつも出てしまふのです。

○ 将来への不安と賃金格差

磯野 それは容易に想像できることです。この問題が、決して非常に特殊な問題を扱っているのではなく、日本の社会の一つの問題点が集中的に出ていふこととして考えていきたいと思ひます。

梅田 お花やお茶を一通りやつても、なおからだの中を風が吹き抜けていくような淋しさ、そのやりきれなさがあるような問題を生んでくるので、自分たちの小さなこの仕事で世の中の役に立つと自覚し、同時に楽しい安定した生活ができるということがあれば、そういう問題はないだろうと思ひます。私自身を考えてみても、お隣の豊かなことを聞けば淋しい思ひをし、貧しい人を見れば不安になる。私自身そういう不安や苦しみを抜けるための勇気を

切り開くよう努力しています。私たちは、子どもが幼い時に、足もとの石ころをとつてやつたのと同じような考えで、教育の中にあるすし詰めとかいろいろ問題を取りのぞいてやる。またそれによつて、自分の生き方自身を考えていくということではないかと思ひます。

西下 今のお話を聞くと、やつぱり賃金が低いことがいちばんの問題で、大企業と中小企業の賃金格差が問題だと思ひますが、中小企業は大企業並みに引き上げることはできないのでしょうか。

梅田 それは日本の経済が二重構造といわれて、そういう底辺のうえに乗つて大企業が成り立つている。うちの近くの大工場でも従業員の一万人のうち五千人余りは臨時工で、その下に社外工があり、またその下で下請工がある。その仕組みがなかなかならなければ……。

西下 私、実は大学を出てから幼稚園の臨時雇いを二年やりました。本雇いだと六千五百円ですが臨時は四千円です。そういうふうに勤める人のことは少しも考えずに、六千五百円のところを四千円で雇つてもよいという考え方があつたと思ひます。それで臨時雇いの悩みは知つていますが、ちゃんと、報酬もある程度引き上げてもらへるよう運動するのは、当然の権利だと思ひます。

磯野 おつしやる通りで、同じ会社内でも本工と臨時工では顔つきまで違うといわれていますね。大下さんはどうお考えですか。

大下 働く青年が私の土地におらず、たまにおりましても土方などに出ております。非常に貧しい家庭の子が残されているのです。それは、就職してもあまり仕事に熱心に働くということがなく、すぐに帰ってくるのです。無知な親たちが、お経さえ上げていれは自然にお金が入ってくる、というような新興宗教にまどわされ、

子どもがいくら働いて収入を得ても、それはただ信仰の力だと思ひ、そんなことから子どもたちは働かぬが、がないと考へ、お金も家へ入れなくなり働く意欲も無くなるのです。そういう青年をもてあますというようにみんなが扱つております。

また、そういう家庭に何か注意しようとしても、罰が当たるとかいわれるので、皆突つ込んだ話ではできないのです。そのグループには、ほかの者をいつさい寄せつけない傾向があり、次第に部落からはずれていくようになります。そういうグループ制のものに、今いろいろ土地の機構がこわされていふようです。その人々は、自分たちのほうにほんとうに正しい生き方だと自信を持つていふので、なかなか交流ができずこまつております。その青年を使つても、働きぶりが悪いといわれ、そんなことを皆で話し合いますが、宗教のことは口にできないと、どこでも取り上げてくれません。

磯野 社会のどの断面も実に大きな問題があり、それが相互に関連があることをつくづく考えさせられますね。あまりにも壁が大きい、厚く、しかも質が違ふので大へんだと思ひますが、私たちはなお努力しなければなりませんね。ここで特別オブザーバーの河合さんに、今までのご感想をうかがいたいと思ひます。

河合 (南山大学学生) 私、青少年が自由に生活するには、むずかしい壁があり過ぎることをじかに確信しました。貧困家庭の青少年の就職について、そのお母さんたちがどういう生活をしてい

たかが問題になりましたが、それにも経済問題がからんでくるので、そのお母さんは働かなければならぬ中で、とても子どもの情操教育まで見られなかつたことが考えられます。中小企業が小企業なみにできないところにも問題があり、二重

閉塞の経済的な矛盾というが、社会問題が大きくなり私たちの前にし上つてくるので、どうやら矛盾を少しでも少なくすることができると、一緒に考えていきたいと思います。

磯野 もう一人のオプザバーの竜宝さんに。

竜宝(東京大学学生) 僕自身は学生として非常に恵まれ、現実的に貧困や厳しいものにぶつかつたことはないで、今の問題についてはいささかいいえませんが、結局政治と社会の問題になると思います。何かとあるとすぐ政治や社会が悪いという態度は、僕は反対ですが、やはりそれを考えていくには、解決方法は無いのではないかと思います。

それから午前中、親の職業による貧富の差が問題になりましたが、その解決方法は政治面と実質的な物質面とがあると思うのです。政治面の解決面として昔流だと第一にあきらめの方法があり、あきらめの態度から一歩進んで立身出世主義があらわれる。黙々と働き、勉強しやがて偉くなるという考え方が、結局精神面に解決を求めるようになる気配が非常に心配です。いちばんよい方法はあらゆることに働く人々が、それなりに社会的な価値を持つことを社会科の時間などに話し合い、そこから親の職業をばつぎり認識させることだと思います。しかし現実的に貧困の生活があることが問題で、たとえば、憲法には義務教育は必ず無償とされているのに、なぜ金を払わなければならないか、そう考えるとやはり政治や社会につながってくるわけです。ただ政治や社会環境が悪いから青少年が悪くなるのだ、という考え方はかなりされてはこまるので、将来実際に社会や政治をよくするのは僕たちです。青少年がいるから社会や政治がよくなるのだ、と考えていただきたいと思います。お母さん方は身近な問題だけでなく、でき

るだけ政治や社会に目を向けてほしいと思います。

磯野 次の世代からの注文でございました。

○ 子どもの年代と父母の役割

磯野 いよいよ最後の段階に入り、あと一時間あまりですが、家庭の問題に入りたいと思います。先ほどいろいろお断がありました、結局生まれた時から、あるいは生まれる前からのしつけやパターナリズム形成の問題、その他、めいめいが小さい時から内面化している問題等が非常に関係が深いと思います。貞徳廟や働くということもそうですね。この、家庭の問題を扱う場合に幼児だけの問題にかたよらぬようにしたいと思います。

早苗 いろいろなる場合に、自分はどうしたらよいか判断をする力を養うために、自分だけのひとときがほしいと思いますので、家庭でもそういう時間を親が作ってあげたい気がします。

磯野 つまり親は見ているだけで、子どもが自分で判断して行動するという条件を作つてやる、ということをお願いするわけですね。

これは実に大事な問題ですね。

高橋 たいいていの母親は子どもを自分の所有物のように考え、子どもが何かやり出すと危いと思ったり、叱ることが多いと思います。私はなるべく叱らず、人に迷惑がからぬように、黙つて見守る方法をとつておりますが、子どもがお母さんに信頼されていると感じて、大きくなつてからも自信をもつてするようになった気がします。

磯野 家庭の関係を、ことに母親のやり方で子どもが違ってくるのでですね。

西下 私が幼稚園に勤めていていちばん感じたことは、幼稚園は社

会教育、集団教育の場ですが、それを母親が家庭へ引つ張ろうと

なさること、家庭教育と集団の中での教育とあまりにも方向が違つていいます。このころは、小中学校の先生は非常に教えることが多くて、学校で人間教育ができないことにも問題があるかもしれませんが、家庭で学校と矛盾するような教育が行なわれ、本来の家庭ですべきことが抜きにされていると思います。

山口 学校で習つてきたことを、家庭でこわさないようにすることですね。

青村 民主主義教育について、母親が、自由と放任とをはき違えていると思うのです。案外昔なりの教育でもそう間違ひはないのですが、へたに民主主義とか自由主義にとらわれている家庭の子どもが構造的にそれている例がよくあります。自由についてよく勉強し合わなければならないと思います。

藤本 私それと同意見ですが、母親が次の世代の成長に貢献していると思ひながら、自分の子どもや家庭には自己中心主義で、ほんとうの民主社会のあり方を認識していない場合があまりにも多過ぎると思います。

山口 それは、親があまり世話をやきすぎるのではないでしようか。磯野 つまり問題は二つで、家庭での放任し過ぎからくる弊害と、親のおせっかいということ、この両方を考えなければなりません。子どもの年代によつて、父母の役割が違つていくことにポイントをおきながら議論をお進めください。

高塚 自主的に判断できない幼児期は、お母さんの考え方をそのまま模倣するので、入学した子どもたちを見ていますと、その母親をそのまま見るような気がします。それで、幼児期にはやはりお母さんがしつかりした教育方針で、厳しくするのがよいと私は現

場において考えるのです。年令が進んでからは、親も子も同一家族

内での生活だということを、十分認識して行動をすることが大事だと思ひます。お互に理解せず、家庭のことを気にかけないような状態になりますと、反家庭的な精神態度が、社会に入つても反社会的な行動を起したりするのではないかと思います。

松南 教師の立場からごらんになつた厳しいしつけとは、どういうことでしょうか。

高塚 たとえば電車に乗つても、母親は子どもの疲勞の度合いを考へるのでなく、ただ小さくてかわいそうだからと、お年よりがそばにおられても子どもをすわらせる。外園ではそういうことはしません。そういうふうなしつけの問題です。

藤本 家庭で母親の地位が低かつたり、おしゆりとさんが干渉なさる家庭では、子どもの教育に矛盾が多く、子どもが母親を拒むつする態度があるように思われます。やつぱり母親は信頼されなければ、子どもが問題児になりやすいのです。

青村 私が知っている範囲内では、どのお母さんの中のお母さんさんを尊敬したいと願つてゐるのです。そういう時に、尊敬されるような行ないを示してくれないことに悲しみを覚えてゐるよう

に思ひます。藤本 それを感じるすれなので、母親が正しいと思つても、子どもは母親のことはわからない、あんなことをいつも思つてゐるなどと考へるのです。

磯野 子どもを考えた時に、母親なり妻なりの、家族の中の正當な地位づけが必要ですね。応募文の中に、母自身の精神的な安定がなければいけないといわれるのがありました、大事な一つだと思ひます。いかにお母さんの精神が不安定で、むずかし

い、決意のない位置か、実感をお持ちの方が多いと思います。
西川 お父さん一人のことでありますがその非協力が多分にそれにはか
らんでいると思います。

西下 愛育研究所で精神の施設を見学した時に、看護婦さんから、
周囲に気がねしながら生んだ子どもに精神児ができる場合が多い
と聞かされ、これは大へんなことで日本の社会の問題ではないか
と感じました。

加藤 私の家に兄の子がおりますが、いたずらをしていつばい散ら
かしたので、自分で片付けなさいといったら、お父さんがごちや
ごちやした時は母ちゃん片づけるといいます。そこで私は兄
に、奥さんをもつと大事にすれば、子どもも母親を大事にする
といったことがあります。父親の協力如何で子どもの違いはつき
り出てくると思います。私の場合は妹の私がいたので解決した
ので、私は父と兄との間にもよくたちますが、新旧の意見の衝突
の場合、中継ぎが必要だと思います。

磯野 加藤さんは、いわゆる小じゆうとの立場でその小じゆうと千
匹も、英知をもつてその役割を十分認識し仲介をなされれば、うま
くいくのですね。このように一般化して考えていただきたい。
松南 必ずしも仲立ちを立ててもうまい場合もあり、たと
えば封建的でこまっていた夫も、妻の姿が変わることによつて良
くなる場合もあります。

磯野 もちろんそれが主であるべきですが、仲立ちも必要ですね。
青村 私たちのグループで、主人の行動から子どもの教育が思うよ
うにならず、家庭が明るくないということを感じ合つた時、
相談のうえ、それぞれ家に帰ってから自分がいいことを、
グループのだれとかさんの家ではご主人がこういふふうに協力

なさるなどと話し合ったら、幾分効果があるので、皆をうして
おります。
磯野 私どもも妙なプライドがあり過ぎて、婦人に迷惑をかけ申
しわけありません。(笑)昨日、子どもが成長するにつれ、親と
子の間に、ある間隔をおくことが大切ではないかとの発言があり
ましたが、それをきつかけにして話し合いを続けたいと思います。

○親子の間隔

松南 私たち戦前の教育を受けた者は、子どもを自分の手足のよう
に思っています。子どもはけつこう自分で解決し伸びていつて
いるのですね。とかく母親は、子どもを自分の力に引つ張つてこ
なければ気がすまないが、中学生くらいになれば、特に母親を、
母親というより一人の人間としても見ているので、そこにずれが
あるのです。

高橋 家庭の中で家族が共同生活をしているわけですが、子どもや
お年より一人一人に、家庭の中の責任の分担をきめたらどうかと
思います。

磯野 私が意見を申して恐縮ですが、非常に賛成です。ここではも
つぱら子どもの問題を話し合っています。老人が同居している
場合経済的に、ある程度解決できても、老人が淋しく、また自分
は役に立たない人間だと思ふことが、いかにその人自身を精神的
に病気にし、それが家族全体にみよふにはね返ってくるかとい
うことが問題で、老人にも責任の分担が積極的な意味を持つことを
感じます。

加藤 ちよつと自慢になります。私の母の教育方針はよかつたと
思うのです。私は姉妹が四人いますが、それぞれ洋裁、編物、和

裁、手芸というように専門を仕込んでくれたので、それが今でも
うちの中への影響になつて、歴史的なことは父に、兄には科学的
なことを聞くというふうに分担ができてしましました。ただそこ
で母が、このころはラジオを聞いても英語が入つてわからないな
どというので、何か子どもも親に勉強させるような、世代のずれ
を埋めるための努力をしなければならぬと考えるのです。

磯野 実際、年よりはもういらぬのだということではなく、正当な
生きる権利を持つてゐるわけで、それを正當に扱うことがとても
大事なことです。私たちはもちろん次の世代を非常に大事に考
えますが、それに関連して妻として、母として、めいめいが一人
の人間として生きていくことの大事さを、きつとお感じのこと
と思います。

話題をもどして、母なり妻なりが自分自身の生活を持つことの
大切さと、母子の關係の、年代による違いについて話し合いたい
と思います。

中田 中等部にいつている私の子は、学校のできごとを私だけに
話すことが多いです。特に女の友だちとのつき合いを、お父さ
んにいわないでと、私に話すことがあるのです。私どもでは相当
まえから一月一回くらい家族会議を記録をつけてやつております
が、その時に子どもがいつたことを父親にはじめて公明して了解
を求め、話し合つて父親に何でもいわせるように持つていつてい
ます。うちぐるみで話し合いをする場を作ることが大へん良い、
と思つて実行しております。

磯野 それも一つのやり方ですが、先ほど早苗さんがいわれた、子
どもを一人にしておくということが、子どもの年代によつて非常
に要求されるのではないでしょう。

加藤 娘の立場から考えますと、私なども話し合つてもいいわな段
階にきています。父母と私の考え方が全く違い、いうとかえつて
父母を淋しがらせるので、何もいわずにおいてあとで結果報告し
ます。また、いつ問題が起きても幾つかの答えを自分で持つてい
て、どれにしようかと父に助言を求め、それから判断して自分
できめてしまふのです。今では私を信頼していてくれますが、こ
こへくるまではずいぶん淋しかつたのだらうと思ふます。

西川 私の子どもも中学二年生の男の子で、おもに私と話しすが、
すぐに、わかっているからいいよといふ。私が心配な時には
主人の意見を聞き、それとなく子どもにも注意しますが、私がいつ
も仲立ちになつたり、子どもと二人で話したりしています。

磯野 なんでもいろいろやつていかなければならぬので、一つの
模範を作るのはいけな思ふます。ここで特別オプザーバーの
竜宝さんに子としての立場から、子どもを「一〇〇パーセント理
解せずんばやまず」という母親の態度が、いつた英知のあるこ
とかどうかおろかがいしいと思ふます。

竜宝(東京大学学生) おつしやる通り、任してくれたらちやんと
うまくやる、という考えが子どもにも確かにあると思ふます。僕ら
は一応、親の立場や経済状態を理解しているの、そう任してく
れというのとは何となくかわいそうな気もするのですが……。

磯野 親子の間隔をおくということが一般常識になれば、子どもが
相談しなくても淋しくないでしょうね。

次の世代への貢献といふことを逆説的にいへば、いちばん良い
ことは何もしないで、邪魔をしないことですね。

山口 私は大学生の子も中学生になつたばかりの子もおります。放
任するわけではありませんが、子ども同士で大きいのが主になり

私は傍観しております。時々相談にきますので、その時には相談相手になつてやります。

大下 私は高校二年生になつた子どもをおばあさんのところへ預けておりますが、離れてみて親のありがたさをしみじみ感じたといつております。

加藤 これはリーダーの先生のご意見をおうかがいしたいのですが、私は、親に何も知らせずにいながら私のやつていくことを全部を母がわかってくれればいいと望んでいたのです。口まで出がかつていていかなかったのは子どもとして苦しく、母が私と一しよに傷つき、一しよに泣いてくれる強さを持つてくれたら一とつくづく思つたのです。

磯野 母親が、必ずしも次の世代と同じ考えを持つということではなく、人間として独立した生活や考えを持つた時に、子どもは親に對して信頼感を持つようになるのだと思ひますね。先ほど親が子どもを所有物視しているとの発言がありましたが、そういうことよりも、母親は子どもと一体感を持つているのだと思ひます。その保護過剰についてどうお考えですか。

○ 成長を阻む保護過剰

西下 ある程度それもいいと思ひますが、その過剰のあり方が自分の子どもばかり良いといういさかたで、そういう母の心が自然に子どもに移り、大きくなつてから、責任をみんな他人に転嫁するようになる。保護が必要な幼い時に、自分の子だけが良いという氣持を母親がなくすることが必要ではないかと思ひます。

松雨 私も保護過剰が原因で、結局、他人にしんから同情でなくなるのではないかと思ひます。たとえば、底辺の人を救わなければ

はいけないと口ではいいながら、しんからそういう氣持が生まれ、ないなどということですね。

梅田 保護過剰になるとその母親の氣持に、こんなにしてやつたのにとつてものがあるのではないですか。

西下 同情を求めるわけですね。昨日の移動会議の際の中学生の討論でも、当然親は僕たちにおんぶしてくるもので、長男は大事にしてもううと頼めがあるといわれたので驚いたのですが、親にその心があるの、子どもも当然の権利と主張するのではないかと思ひます。

井上 子どもがこれをやろう、これを考えたいと思つて前に母の手がかり過ぎるのです。私の場合母子家庭ですので、もう少し間をおこうと思つたのですが、つい、父親が無いからやはり見てやらねば一と思つて早く手が伸び過ぎるのです。

高橋 保護過剰の状況になるのは、自分は親だという母親のうぬぼれが多分にあると思ひます。それを先ずなくして、子どもに借用される友だちとなり、また家族の一員として、時には一人の主婦として、常にその時どきの時代感や身につける習慣が大事だと思ひます。

○ 子どもと共に現代を生きる

磯野 それでは、子どもとともに現代を生きていくことに問題を集約していきましょう。それは子どもと同じ考えを持つことをいつているのではありませんね。

西川 私も子どもの小さい時には本能のままにかわいがつて育て、このごろはあしちやいけくない、こうしちやいけくないとあまり氣をつかい過ぎ、もつと小さい時から自主的に育てればよかったと

思つています。

藤本 私はほんとうに家庭の人として終日子どもを育てる仕事しかなかったもので、かえつてひまもなく親野も狭くなり、広い大きな立場から子どもを見る目がなくなつてしまいました。世界が狭いということをお大へん反省しております。

磯野 非常に重要なことですね。

井上 子どもを持つて帰つた問題や社会問題について、母親もともに真剣に考え合つていく、考え方の違いもあるでしょうが、親は親なりの考え方を示して、いつも子どもたちのエクスパートとして進んでいけば良いと思ひます。

梅田 結局子どもと自分が今の世界の動きの中で、どういうふうに生きていかなければならないかを子どもと一緒に考えたいと思ひます。

青村 子どもは、両親がいつまでも若く、自分たちとあまりずれない道を歩いてくれることを望んでいるのではないのでしょうか。そのために勉強の場をたくさん持ち、いつでも人生経験などで子どもの相談役になれる母親でありたいと思つております。

磯野 必ずしも完全で模範的でなくてもよいのですからね。松雨 私は相談役になるという考え方はなく、子どもの意志も自分の意志も尊重しつつ一緒に考えていくという考えです。

加藤 私は親から突き放された子どもを預かり、自分も親から離れていきますので、やはり理屈よりも何よりも血は濃いつつていことを確かめていく親になつてほしいし、またそれを確かめ合うような親子関係を作つていきたいと思ひます。

磯野 加藤さんの発言をずっと聞いています、今の言葉の意味がわかるのですが、今のだけ聞くと大へんな誤解を生みますね。いろいろ

ろの道を経たの、ああいう結論の重さを考えていきたいと思ひます。

磯野 傍聴の方からの質問は一つだけで、加藤さんへのご質問です。一、おたくの会社で、以前寄宿舎にいた方たちも現在のような状態だつたでしょうか。二、生理衛生の話を専門家にわかりやすく話していただき、純潔教育の基礎にしたらいかでしょうか。三、工場の勤務が二部制でしたら、余暇の善用ということ。二、の提案が無理ではないと思ひますがいかがでしょうか。こういう質問が出ております。

加藤 私の工場は二部制です。もといた子でそれになじめなかつた子は、親もとに帰つてしまつたのです。その子たちはあまり外出もせずまじめに出勤しました。今残つてゐる子は、家でほもつと困る生活だからここにゐる方がよいのだといひます。今は昔のようにな女工真実はなく、最低賃金制で諸施設も整つておりますし、家にいるよりほかによいわけですね。今まで抑留されて不自由であつたものが一べんに出たという悪い現象なので、純潔教育も計画しましたが、あの子たちは固若しき話に絶対聞こうとしないのです。それで理屈ではわからないから何か生活を通してわかつてもらうより仕方ないと考えたのです。

問 お仕事はまじめになさるのですか。

加藤 現場で仕事のことから上役の人に叱られたりすると、寄宿へ帰つてきて三日くらいふんををぶつて寝てしまうことなどありました。あとでよく話し合つたりしましたが、まだ私絶望もしていません。なんとかしていききたいと思ひます。

高塚 二部制というのは八時間制でしよう。加藤 朝は五時から午後一時四十五分まで、退出の子が一時四十五

分が午後十時四十五分まで、その間休憩が四十五分だけあります。余暇は十二分間にありますが、その間寝ていたり、映画やダンスに行ったりして費やすのです。

磯野 そういう子どもができてきた道筋に重要な問題があり、一つ一つ解決していかなければなりません。

間 先ほど新興宗教の語が出ましたが、私も実は子どもがそれにこり、とてもこまったことがあり、これも日本の植民地ではないかと考えるのです。安い賃金で働く子どもたちが、将来に希望を持ってないので悩み、救われたいと願つても大きな集団の力で解決する場もたず、またそういう知恵も働かず、個人的にすがりたいという気持ちから新興宗教にこるのを笑えないと思います。ここに日本のいろいろな問題が含まれていると感ずるのです。

大矢(日本子どもを守る会) 私は皆さんの話をうかがいながら、地域社会の中で、PTAは時代の方角のためにどういうふう役に立つか考えたいと思いました。

今みなさんがほんとうにこまっていること、いちばん弱い点で結び合われていることは非常に興味じやないかと思ひます。何らかの形でお互いに力づけ合うものを持つた方が楽しく張りがあると思ひます。

東京の入学試験の「残酷物語」をちよつと。有名な国立中学の三年生は、友だちが休んでもノートを絶対貸さず、各部屋のロッカーには鍵をかけ、お互いに見られたり、何かとられたりしないように警戒しているそうで、進学時の競争からそういうふうになるのです。一方では新興宗教、一方では学校、他方ではセックスの問題に悩みますが、東京の入学問題、勉強の面での恐ろしい子どもたちの状態は、母親にもつながっていると思ひます。

梅田 私たちは、人間としての生活を保障する法を表現させるための圧力団体である婦人会、町内会、PTAなどが、このごろは逆に私たちをいじめよう的な形になつています。それを本来の形にもしていくことが大きな仕事だと思ひます。

西下 義務教育は国庫負担といわれながら、PTA会費などを父兄が出しているのは、育児の保護過剰と同じような悪影響があるのではないでしようか。

加藤 私の方で、教育長がPTA会費をあてにして予算折衝の時に手加減したということがありましたが、私たちの善意は、悪い力のある人から見ると悪用されるような気がします。

大矢(日本子どもを守る会) この間東京では、PTAの負担軽減のため、十三億も都予算が組まれましたが、各学校のPTAでは、運営費とか後援会とかの名目で少しも軽減されません。会員自身も、自分のPTAだという気持ちでそれをいわなければなりません。給食の問題や先生へのお礼など、PTAにも子どもの問題がたくさんあるわけで、皆が義務教育だということを忘れてはならないと思ひます。

○ 母への注文

磯野 親なり前の世代なりへの注文を特別オブザーバーの若い方に。竜宝(東京大学学生) 一昨日から聞いていますと、子どもが親を軽べつするとか、親のいうことを聞かないということ、案外よそのお母さんがおつしやつていられるように感じられるのです。結局、僕は親を批判できる正しい知性を持った子どもが、親の苦勞に感謝すると思ひます。子どもが批判するのを、一概に逆戻つばかりで仕方がないというふうにとられてはこまります。

し、頭の中にも何か出てきたのではないかと思ひます。それをもとにしてまた次への出発にしたいと思ひます。どうもほんとうにありがとうございます。(拍手)

(閉会)

もう一つは、婦人週間全体の感じですが、僕は婦人が自分の地位や実力を社会や家庭の中で確立すること、何よりも戦争を知つた世代として平和を守ることが、お母さん方のためにもなるし、ほんとうに僕ら次の世代への貢献になるのではないかと思ひます。河合(南山大学学生) それと同じことを先ほどお母さん方がいわれましたが、特に母親としての自主性自分自身を尊重しようというところ、そういう言葉が出たのはほんとうにうれしいと思ひます。子どもは母親に、愛情をこめたあわれみとかいたわりの気持は持つていますが、たとえ社会的に視野の狭い母親でも決して軽べつはいいたしません。これからのお母さんは、人間として子どもとともに成長したいとお話が出て私はほんとうにうれしく思ひました。

磯野 とても良い話が出てうれしいのですが、このようにハッピー・エンドになるばかりではないことも考えていただきたいと思ひます。今ここにいらつしやる若いお二人は、特に選ばれた立派な方なので、そうでない底辺の問題を十分に考えていきましよう。

山口 地方に帰りますと、なかなか私たちの思うようなことができません。皆に浸透していかなかったならばつまらないと思ひます、磯野 全くそうですね。どこまでも突き離さず、こちらがうえ、というこでなくだんだんと近まつていく努力が必要ですね。

梅田 いろいろな困難が出てくると思ひますが、その中でくじけた時に軽べつされるのではないでしようか。それを敢然として生きていつたら、きつと子どもは尊敬してくれると思ひます。

磯野 何としてもくじけないことですね。

問題の困難さのために解決はなかなかむずかしいわけですが、限られた時間の中で、私たち各々の胸にはある感銘を受けました。

第三部会

会議員

岩手 石母田 ハツミ (無職)
宮城 佐々木 サト子 (農業)
福島 鈴木 京子 (母子相談員)
埼玉 神尾 セツ子 (無職)
新潟 齊藤 千代子 (無職)
福井 野田 幾久代 (無職)
山梨 遠藤 みち子 (無職)
愛知 大蔵 静子 (無職)
大阪 伊吹 和子 (デザイナー)
兵庫 山根 久代 (無職)
鳥取 山本 瑞枝 (農業)
山口 八木 喜美子 (無職)
高知 浅野 八重子 (生活改良普及員)
長崎 藤原 敦子 (無職)
熊本 草野 貴美子 (無職)

リーダー 久米 愛

特別オブザーバー

池田 リウ (全国漁協婦人部連絡協議会)
佐野 シメ子 (全国労働組合会長)
清水 俊子 (ガールスカウト日本連盟)
大宮 真由美 (東京地方裁判所勤務)

第一日目 二日 一三・三〇〜六・三〇

○問題提起

久米 まず、子どもをどう育てれば次の世代の理想的な人間として
よろしいか、という問題ですが、一体どういふ世の中がよいとい
か、今朝の宮沢先生のお話は、たいへん面白かったと思いますが、
とにかく弱肉強食でない世の中、いわゆる民主主義といふのは、
人間のエゴイズムをなくせといつたつて、人間の本性で、なくし
うるものではないが、もつとよい方向に向けて、これを社会化し、
もつと人道的な面にまで高めていこうという努力が必要じゃない
か、という結論だつたと思います。みなさんの所感文を拝見しま
した中に、新しい人間を作ろうと思つてやれば、今度は生存競争
に取つてしまふ、という矛盾を一体どうしたらよいかといふこと
が書かれていました。これは切実だと思ひます。学校のことでも、
他人の子を押しのけて自分の子を入れなければ、押しのけられて
しまふ、この部会では、どんな人間像がまず理想的か、それに
ついて、母親として婦人の英知を、どういふふうに向けたらよ
いかを話し合ひましょう。農村と都市ではずいぶん違ひますが、問
題が共通であると思つたのは、農村からこられた母親の方が、仕
事に追われて、祖父母に子どもの教育を任せるといふことの悩み
です。今もつて封建的な農村では、おばあさんのほうが母親の教
育方針を理解しないでいる、家事にしろ、職業を持つているにし
ろ、働いている婦人が子どもに対してどういふ配慮を加えればよ
いか、人として、どういふ人間であらねばならないかといふ問題
について、ご自由にお話し下さい。それからもう一つ、子ども
と、親とのギャップといひますが、理解のできない点、子どもに
なんでもいっていいといつても、理解してもらえないからといふ

ので、子どもと親の話し合いが自由にいかない、という悩みもあつたようですが、そういうことも含んで語らうかと思ひます。どうぞどなたからでも……

野田 今のおとなは、素直な子とか、扱いやすい子というものを尊重しすぎるように思ひます。生存競争に勝ちぬくためには、個性が強くなくつたら敗けてしまいますし、子どもが反抗すること、それだけをいえる批判するのは、親のエゴじやないかと思ひます。

久米 いま、子どもが反抗するという話が出たんですが、扱いにくい子どもの反抗をどうするか、という問題をとりあげたいと思ひます。今の問題、一般的な問題でも結構ですが、目ごろお考えのことをお話しください。

道藤 戦後の教育、新教育というものが、どうしても理解できまへんでしたが、最近になつてやつと理解できたような気がしまして、子どもを押さえつけてはいけない、のびのびと育てる、というふうに扱つてきました。戦前に教育を受けた長男から、そんなふうには甘えさせておくと、あとでこまるんじゃないかといわれます。最近、十七才の少年の問題なんか出ますと、これはどうしたものだろう、こまつたものだ、という悩みを持つていられるわけですが、久米 ほかにもそういう考えを持つていらしやる方があると思うのであつてまた話し合つてみたいと思ひます。

大蔵 私は子どもが四人おります。長男は二十才で、働きながら大学にいつています。二番目の子どもは勉強がきらいで、中学卒業で会社へ通つております。今十八才で友だちは大学を受けた時期なんです。下の三番目の子どもは、今年公立の高校へ入りまして、その下の子どもも公立に入ろうと勉強しているのです。二番目の

第一内

わからない先生にいつたつてだめだから、村の教育委員会にいつてくるんだと出かけたんです。うまくいつたか、と聞いたら、だめだつた、といつて帰つてきたんです。あとで話を聞きますと、片方の子どもが悪いんですが、それが有力者の子どもだつたんです。教師がその子どもとのへだてをつけたわけですが、とてもその先生をうらんで、軽べつの念をいだいたわけです。そういうことがあるんですが、なんとかしなければならぬと思ひますが、どこから手をつけていいか、それがわからないのです。

○理想の人間像

伊吹 人間の価値観をどのように見るかについて、お金のたくさんある人とか、地位の高い人とか、そういう人が立派な人だ、という考え方が結局間違ひだと思ひます。どういう子どもに育てるか、私は、善良なる小市民といつたんですが、健康で働くことを大切に育てる子で、それで他人の犠牲において幸福にならない子、そういう子どもに、現実とはだいぶへだたりがありますが、そういう子どもに育てようと思ひます。

久米 たいへんけつこうな話だと思ひますが、ほかにどうぞ。

藤原 どんな人間像が望ましいかという問題の前に、私はもつと根本的な問題があると思ひます。女の子だから中学までで辛抱しなさい、男の子は何が何でも高等学校までやらなさいとこまるとか、これは社会的な大きな問題でしようが、婦人の自主性とか自覚とかいわれる前に、もつとそれを培う素地、女の子の教育、それが女の子として生れたが故に、本来のものを眠らされているんじゃないか。それでは、子ども自身の意思を尊重した教育などという

子どもは、自分だけ学校へ行つていないという気持ちがあるもので、新聞に大学の入試の発表があるのを見ると、友人が発表になるたびに、「ちく生、あいつも大学に入るのか」といいます。兄弟それぞれ教育を受けているので、ぼくだけ学校へ行つていないから目ざわりだね、といひます。それで、今から学校にやつたほうがいいかどうか、それについてみなさんの意見をきかせていただきたいのです。

久米 これは、ずいぶんいろんな問題を含んでいると思ひます。

今日本の社会で、ある程度の教育を受けなければ、人として認めてもらえないというふんいき、ことに、いい学校を出ないといけなかつたか、そういう点があるんで、もちろん教育は必要なんです。教育がないからというので劣等感におち入るのは非常にこまつたことで、そういう問題も、あとで織りまぜて話し合つてみたいと思ひます。

山本 農家では忙いために、おしゆとさん任せの教育が多いと思ひます。母親がもつと自由に個性を伸ばしてやりたいと思ひますが、そこには壁があり思うようにいかないというのが私の悩みです。

斎藤 私ども学校のPTAとして、新潟市あたりの施設のいい学校を視察にいきましたが、私どものように農村で、親が忙いために子どもがいつも放り出されて、恵まれないところの学校では、何の施設もないのです。農村の学校とそういうところの学校と差ができています。それで子どもがほんとうにしあわせになれるのか、ということをとて強く考えます。また、先生がわけもなく、また、感情的に子どもをたたいたりすることがあるんですね。そうすると、中学生ぐらいになると、しやくにさわつて、そんな

ものは望まれないと思ひます。

鈴木 共稼ぎの場合の家庭で、勤めに出てまだとても日が浅いものですから、子どもが、「お母さんは家にいてほしいな」とときどきいいますけれど、そういうことは話し合ひで自然に解決していきませんが、こんなあり方がほんとうに正しいのかどうかということが重荷になります。

神尾 さきほど伊吹さんがいわれたように、子どもの理想像ということ、自由な生存のための秩序ということ、私、たいへん感じ入りましてほんとうに秩序を学びつた子どもになつてほしいと思ひます。

佐々木 私は農村ですが、農村では電化した、機械化で生活が近代化したとはいひますが、子どもとゆつくり話し合う機会はないため農繁期などは特に子どもが何をしているか、わからない場合があるのです。どのようにしていつたらいいか、みなさんとお話し合いたいのです。

山根 次の世代をよくするために、母親自身が、何がいいか、何が悪いのか、ということとを学びとる勉強をする必要があると思ひます。会合に出る時など、子どもにとつて迷惑な場合が非常に多いのです。その場合、パートタイム制(予約制度)の託児施設があれば、母親自身も勉強できて、乳幼児も、母親が出かけたことによつて迷惑にならずに安心して、遊べると思ひます。

石母田 私の子どもは四人とも民主主義的に育つていのですが、その様子は、母親の私が見ていてももどかしくて、もう少し他人を押しのけても進んでもらいたいわいような気がします。そういう点をどのようにしたらいいかわかりませんと、子どもをほんとうに伸ばしていいかという問題があると思ひます。

草野 私のところは農村で、海村も少しありますが、雇傭に負けないところ、周囲をながめて見ると、自然に、母親が子どもに干渉しない結果になるのです。そのため、子どもの生活力が実に旺盛で、自主的に、自然に、解決法があるような気がします。

久米 藤原さんにお話を聞きます。女の子が男の子と違った教育を受けています。お前は女の子だから、ということが多いのです。そのことを婦人が自覚して、なおしていかなければ理想像というものが出てこない、こうおっしゃるのでしょうか。

藤原 女の子自身がいうのでなく、他からですね。親の責任として、この臨めなければならぬと思います。

久米 それはもちろん親の責任ですが、こういう人間でありたい、という理想像がないというわけではないだろうと思います。結局人間の価値観とか、社会的に地位が高い人間になりたいとか、むかし明治の時には「末は博士か大臣か」といいましたが、人間としては立派な理想像でした。いわゆる成功主義ですね。経済的にも、社会的な地位も獲得すると、人間の価値としては高いことであり、そういう子どもを育てると、お母さんがえらいのだといわれたのです。しかし今の子どもたちは、それでは満足しないのです。宮沢先生のお話にもありましたように、悪平等にならず、ほんとうに平等な形の中で、秩序のある社会の中で、みんなが自由を楽しみながら生きる世の中を作ろう、ということが理想なのです。決して、母親が子どもを、えらい人間になれといつて育てるのでなく、よき人間になれと育てる気風が出てきたと思います。その中に婦人の英知というものが、非常に必要なことだと思います。

非常に抽象的かもしれませんが、要するに秩序を重んずること

いつて、よそへ行つたときええちやんとしてくれたり、というふうな育て方を絶対にしないではない。第一歩は家庭の中から生れてくるんですね。それは精神的にもよくないし、子ども自身が大きくなつてから世の中に出て、非常に苦労しますからね。生きるという人間生活の第一義的なことをみんなが社会の中に、子どもの時から教えて、その中で人間の価値観を決して出世する人だけがえらいのではなく、どんなに小さい仕事でも、それ自体社会にとり非常に重要であれば、母親が、どこそこの大学を出ていたらよかつたとか、母親もそういうことに敗けないで、誇りを持つていきたいと思うのです。

それでいま出た問題の中の、戦後の新教育、扱いにくい子ども、甘えたがる子ども、受験第一主義の教育、学校と家庭のつながり、家庭教育と学校教育、ゴチャマゼになつていような教育ですね、子どもが非常に自由を主張するということですね。それ自体は平等感があり非常に結構なことだと思います。それを母親がどのようにならなければいか、甘やかすすぎという問題もあると思いますが、どうぞその点についておつしやつてください。新教育の在り方ですね。

○戦後の新しい教育と社会のあり方

大蔵 私、商売をしていますので、忙しい時に、中学一年になる子と高校一年生の子と、二人手伝わせますと、プーとふくれて店に出るのです。それでお客さまに差し上げるのも、ふくれてやるんですね。お客さんの前で「そんな顔！」ともいえませんので、あとから、「あんたは今日、ふくれていたらけれども、気持ち良か

を知っている人間でなければならぬし、社会生活というものをいかにするかということが、重要な問題だと思っています。お母さんが、子どもがかわいいあまり子どもをつくしている、それがいつかよその子どもを傷つけているかもしれない、ということが宮沢先生のお話にもあつたと思います。このごろ私も気になるのは、社会が悪いとよくいわれるんですが、その社会をつくっているのは個人じやないだろうか、そこで結局人間がよくなければ、いつまでたつても世の中はよくなならない、自分の子どもに社会性を育てるといふ事がたいへん必要じゃないかと思っています。

い、つけどとか行儀とかいいますが、一体なんのためにそれをしてなければならぬかという、要するに他人に不愉快な思いをさせないために、お行儀というものは必要だと思っています。私は女の子だから、敬禮をしたり、三ツ指をつぎ、とくに重い言葉を使つたりということは考えませんが、ある意味において、礼儀というものはたいへん必要なことだと思っています。礼儀を欠くということは、社会人としての資格を欠くことだと思ひます。社会生活のうえでは、なるべく他人に不愉快な思いをさせないようにするという配慮が必要だと思っています。それが欠けると、自分の主張だけを通し、他人のいうことは聞かない。昔のお行儀が形式的であつたために、今の世の中でお行儀なんてものが馬鹿にされていると思うんです。

私はよく旅行して感じますが、自分の食べた屑をバットそこに捨てる。それを紙に包んでどこか持つていつて捨てれば、あとから来た人が気持ちがいい。そういうことがだんだん発展していくと思います。それをつちかうものは家庭であつて、私はお母さん方に注文、というとおかしいですが家にいる時はそれでいいやと

つた？」といふと、「お友だちはちつとも手伝いをしないで勉強しているのに、家は商売屋なので、手伝わせるから腹が立つた」といいます。うちがあるために、トンカツやコロッケをみんなが買いに来てくださつて、田舎で畑の中なのに、みんなが便利しているわけなんだ、お友だちはそれをしたくてもできない人もあるんだから、とてもいいことだと思ふけど、これからはふくれないで、母ちゃんも気をつけるから忙しい時だけは手伝つてほしい、人間はどうしても集団生活というものをやり、社会に役に立たなければならぬんだから、うちもお金がかかると、それを考えた、決していやなことではないと思うが、と断りました。それで商売を手伝わせますと、みんなが、お宅の子は感心な子だ、とはめるのです。私も顔色を見い見、復習があるとか何とかいうのを、学校から帰ると、きげんをとりとり手伝わせます。しかしまた、お客さんからほめられて、子どもがよい気にもなります。欲しいものは買つてやりますが、そうすると、増長するといふとおかしいですが、微妙な問題なんです。それでも、子ども二人にどつちか遊びに行かれると困るのできげんとつて使っているわけです。二人がそのまま進むとどういう人間になるかと心配ですが、このごろでは自分から、うちの商売が決して悪くない、今まで商売していい時と比べると、よくなつたのです。自分の誇りというものがわかつてきたのかと思うんですが、その点で私は子どもに社会性へ少しずつななるものを植えていっていると思うのです。

野田 中学生だつたら、勉強したい時にお母さんが用をいいつけたら、ふくれるのが当りまえだと思ひます。私はそれは人格の完成した大人にいうべきことで、子どもの伸び盛りに、誰れにでも愛

される者になれという、個性のない子で、ちよつとおかしいと思ひます。大蔵さんの場合は、あの気持ちはちよつと考へて、お店に出る人の立場も考へなければ、お子さんが試験があるのに配速するということは氣の毒だと思ひます。何時から何時までは勉強の時間だから、この間はお母さんは何もいひません、だけれど何時から何時まではお店が忙しいんだから手伝つてくれないかと相談して持つていくと、うまくいくと思ひますが。

久米 たいへんいい解決方法で、家の手伝いということですが、私は決して勉強第一主義じゃないんです。共同生活をしていくうえの、自分が守ることだけは必ずやつて、その中で勉強はしていくもので、家中の人の責任にして自分が優等生になつても、ちよつともえらくない。むしろそれは恥しいことで、今の大蔵さんは商売のために子どもに働かせるので通常の家事とは違ふと思ひますが、普通の子どもは爽にいやがるんですね。英知というものをういてつねに子どもを教育し、よりよき人間にしていくという氣持ちを持つならば、忙しいから手伝うのでなく、手伝うことを通して子どもをよりよい人間にしていくのが、母親の大切なことだと思ひます。それをなせ子どもは掃除をしなければならぬかということ、子どもが納得してくれるようにすることが母親として必要な事だと思ひます。私たちが、単に手伝いの人に頼むのと違ふ頼み方が、子どもの場合はあると思ひます。いま野田さんがいわれたように、ちよつと意見が違ひますが、自分がしたくない時にいわれるとふくれるのが当りまえだというのは、同感できません。理解があれば、お母さんに手伝つてくれといわれて、これだけのおさらがあり、二時間かかるからできないといへば、そんなに大変なら、母親なら何かしてあげようかという氣になると思ひ

ます。ふくれるのは当りまえだといふのは、教育の場としては、人間はふくれるべきじゃないといひたいんですが、それもいけません。ことに女の人は感情的で、ない人もいます。勉強したい時に、母親にいわれたらふくれないうちな子どもを育てることが、母親として大事でしょうね。甘やかすさうな問題で私もいるんない子を見て、小さい時にも少し厳格にしつた方がいい、という疑問をしばしば持つち、それは子どもの自由を奪うというのでなく、大きくなつた時、より多くの自由を築くためには、小さい時から秩序を守らねばならない。放つておくのは賢いことではない。教育というものは、ある程度秩序を守りながら、軌道のうえを走るような人間ですね。そういう人間にするには、ある程度のしつけが必要と思ひます。遠藤さんが、戦後の教育はわからなかつたが、やつとわかつたといはれたのは面白と思ひます。どういふことがわからなかつたんですか。新教育のどこが氣に入りましたか。

遠藤 戦前は、子どもが何かいつても、親の意見と合わない時は、子どもをおさいつけたね。親が、それは違つてゐる、といひますと、子どもの方が引つ込んだのです。ところが戦後は、堂々と意見をいつて、親を批判し口答えをし、最初は、これでもいいのかこれが新教育かとわからなかつたのです。現在では新教育の方が昔の教育よりも、子ども自身、伸び伸びとしていて、いいのではないかとわかつてきたような氣がします。

久米 新教育で、これはよくないから、この点をもう少し厳格にして、というような點を感じた方はありませんか。

遠藤 私が、ときどき子どもクラブの集まりに行つてみると、一つの話をしている時は、黙つて聞かなければいけないと思ひます

が、ガヤガヤしてよく聞いていない。会のやり方がまずいという點もあると思ひますが、そういうことで非常にこまると思ひます。先生にもうかがつてみますと、話を聞かないのも悪いが、子どもクラブは先生の手をはなれて、非常に解放されている時だから、とかくいふ必要はないといわれるのです。これは自分のことに關係があるからみなさん聞いた方がいいのではないかといいますとおばさんに怒られたと、というように、子どもクラブは自由に伸び伸びとしなければ面白くないと考へてゐるようです。それが非常に私の心に矛盾を感じさせます。

久米 どうですか。人が何かいう時に、話を聞いていないのは、話す人は迷惑だし、ほかの人も非常に迷惑ですね。ところが、そういう人が多いのです。音楽会の聴衆は、日本は非常に程度が高く、遅れていくものなら、演奏中はドアのところに立つて聴いていいます。あれだけの配慮をはらう人々が、他の会合などでひとのいうことを聞かないというのは、やつぱりある意味で自由のはき違へですね。私もよく友だちと話し合ふんですが、絶対的自由は、世の中に存在しない、社会生活をするとは何らかの制限が伴ないます。自分が自由にワフワフアするためには、他人も自由にさせねばならず、自分と他人の自由に伸び伸びする点が、どこかで付くわけですね。その道をみつめるのが秩序ですね。これがないと、社会秩序というものは成りたちません。私は子どもがガヤガヤするときは、ある程度怒つてもいいと思ひます。

斉藤 それについて経験があります。私の方に住職のいない尼寺があり、そこに学校の子どもたちがよく集まりガヤガヤ騒ぎます。母親も何十人かいました。先生は、どのようにこの場をじすめようかと考へていたようですが、私が「おおい、ちよつと待つてくれ

おれ、聞えない」とどなりました。そこで子どもが黙り、後で、どうしてあんなに騒ぐかたずねたら、どここのあんにやがやかましくするのでこのようになつたといひだしたんです。それで私が、話の始まりに「おひみな、早う黙つてくれ」といつたので、それに対し反感を持つていたかと思ひますが、とび込み方が、うまくとび込んだのかもしれない。子どもたちが用を頼むときも、その動機、瞬間が大切ですね。その時を逃せば、あまりいい氣持ちにさせないと思ひます。

遠藤 話ちよつと変わりますが、学校では、子どもたちが新教育によつて、自分のいいことをなんでも発言してよろしいと教へられてきて、一歩社会に出ますと、どうしても発言しにくくなるのです。就職先でも、意見をどんどんいうと結局不利になるから、じつと我慢しなければならぬということがあります。そういう時に私達母親が、どういふような態度をとつたらいいか、山梨の地方会議でも問題になつたのです。

石母田 なんでもいえる場ということ、文集活動を六年前から始めております。自分の胸にあることや、生活の記録を二カ月に一度ずつ文集で発行しておりますが、発言をしない人たちのためには非常によいようで、みんな喜んでやつています。

斉藤 話し合ひ場に行つてもいいえないので、一言でもいいから書きましようということをお願いしたんですが、どなたも書かないのです。農村は貧乏で忙しい人が多いので、子どもの教育までとてもやつていけないという観念的な氣持がうんとあるのじやないかと思ひます。でも社中にも考へていけば、家に帰つて子どもと接したほんの二時でも、何んか教育的なものが植えつけられるのじやないかと思ひます。

草野 文集で成功された経験をきかせてください。

石母田 二集、三集のうちはいろいろ非難されましたが、続けていくうちに、嫌しゅうと論の結論のような文集ができるようになってきました。やつぱり、やり通したことがとてもよかったと思います。今は一八〇〇人の会員が全部、回覧日記をつけ喜んでいます。会合に出られないような、底辺にいる人も、子どもの成長のためにも、文集を読むことによつて勉強になりますし、関心をもたない人がないくらいに普及しております。

久米 学校では自由に発言するように教育されているにもかかわらず、社会に出たらそれができないという原因、また、どうしたらいいかということなどを。

伊吹 子どものうちにいいことと悪いことをよく判断できるように育てたいと思いますが……

鈴木 正しいことをいつたために、みすみす子どもが損をするという場合に、親はそれを強行できるか、私はとても疑問を持っています。正しいことをいつたために、これからはあわせてあるべき一生が不幸になるという場合、親はどういう態度をとつた方がいいかということです。

石母田 発言に責任をもつということが、しつかりわかつていけば、あくまでもたたかっていると思つたのですが……

野田 定時制高校生で、本屋の店員さんをしている人に聞いたのですが、学校は生徒が社会にはまらぬのだから、結局店主のいふことは絶対服従しろということ、何んにもいえないことなるといふことです。

久米 あくまで正しいことはいふべきか、いつたら損をするといふ時、母親として、そんな勇気のない子になつてもいいくないか、と思う、その矛盾、これはどうしたらいいでしょうか。

石母田 子どもたちは損をするなんて感じておられませんから、子どもたちの思う通り発言させておきます。

久米 そついつてくださると心強く思つたのです。正しいことをいつて損をするような世の中自体が、非常におかしいのではないかと

思います。自身の価値判断の問題で、うまく休んで得をして、それで人生を終ればいいというふうな考えの人もあり、たとえ損をして正しいことはいわすにいられない、という人間もあり、どつちがいいかということを考えてみれば、自分たちの子どもの理想像としては、損をしてもいいべきことはいふ、という勇気のある人間の方が望ましいと思つた。

青藤 これが正しいと思つても、それが受け入れられない場合もあるし、その反応によつてこれは悪いのだという反省をする時もあると思つたのです。その時に素直に謝られるか。まわりがそれを素直に受け止めて認めてやれるという態度が少ないのではないかと思つたのです。正しいと思つたことを、少しくらいの自信はいえないという世の中はしたくないんです。

久米 同感です。自分のいうことだけは絶対に主張する。相容れないでずいぶん不幸なことがおこるので、やはり相手のいうことを認めていくという寛容さ、あるいは相手が間違つたことをいつても、許せる寛容さというものは特に母親には必要で、わが子、あるいは他人の子でも、そうして接していくことは大事なことでとは思ひます。

浅野 実際問題として、妻子をかかえている人たちは、職を失つたら一家が路頭に迷うでしょう。だからこつちが正しいと思つても泣き入りするのが多いでしょうね。

青藤 はじめからみんなに認められなくともいいことだと思つたら、

先ず母親として、徹めて援助をしてやりたいと思ひますね。それが社会を通してみなさんにわかつてもらえれば幸福です。

○ 母と子の関係について

久米 教育という問題とからみ合せ、母と子の関係ですが、これをどうしたらいいか。思うことをいふと、どうも口答えのような気がする、子どもも側からいへば、母親のほうは自分の意見を述べているつもりでも、子どもは叱られていふと思ひやすいしね。お互に世代が違いますが、相手の段階にどうして近づけるかということ。意見投合するには、相手の意向をわかつてやるのが必要で、同じようには考えられないかも知れませんが、お互に考えを尊重する風習がほしいし、理解をもつことが必要ですね。

石母田 いちばん上の中学三年の子について、そのように感じます。二人で話せばいい合ひになるので、家族全体が何人か一緒にいる場所二人が話し合つた方が、よい方法だと思ひますが。

久米 そうすると家族会議のようなものを持つことが望ましいというところでしようね。学校から帰つた時、寝る前、一緒に何かしているとき、そこに話し合ひの場があつていいと思ひます。どうしても子どものいうことがわからなくて、子どもには母親のいうことがわかつて貰えない、という経験のある方ありますか。

野田 家庭ではないのですが、若い人と話した時に、今のおとなは、私たち若い者を、非常に危なかつかしくて見てもらえない、十七才のハイティーンの青年の行動が今年のテーマを生み出したのかも知れないが、特殊な悪い子どもだけを見て、今の子どもは悪いという、そこで、ひとつお母さん方が英知を傾けて保護育成をしな

うのです。そして、むしろ保護育成すべきはおとなの方で、おとなはお金もつけのために、どんな悪いことも知らん顔をする、どうすれば世の中がよくなるかということなどは、横を向いて非協力的である、といわれました。

神尾 私は、改めて子どもと話し合ひはしません。たとえば、お隣りの奥さんとゴタゴタしたりすると、うまく解決する方法を考えて、私なりに処置する。お父ちゃんとかんかすると、どのように解決するか、ときどき教育的な意味を頭の中に入れてながら、カツとなるときもありますが、それを子どもに見せて、間接的にわからせるのも一つの方法と考えてます。

鈴木 子どもがずれがないかとときどき心配になります。福島の方会議の時にみなさんもいわれたので、私もそんな気がするといいましたが、実はいま久米先生のお話で、ずれているのが当りまえで、どこかで重なり合っているんだから、そこを説きおこすとうまくいく、ということを開いて、なるほどと思ひました。父親より母親の方に、たとえば成績が悪かつた場合、寝床にこつそり通信簿を持つてきまして、「お父さんはあとでね」と父親と子どもとの間の潤滑油のような役目を母親が引き受けていますが、そのことも大事だと思ひます。

大蔵 別に家族会議とかそういうものは開きませんが、テレビを見ながら画面に出る問題で、あの時にあの子はこういつたが、こうだよという、おれもそう思つた、それで今度あの子はどういふふうにするの、という、私はどういふふうになると思つた、私はこういふふうと思つた、といつてみんなも勝手にいふわけです。私の考え方と子どもの考え方が違ふときには、私はこう思つたけど母ちゃんはいひのかなあという、そうだといいいます。

そこかしこ子どもの気持ちをくみとります。私がコーラスに行く時、夕方は店が忙いので、風通しからいいます。子どもたちがはじめては感心して、あの年でよくまあ通うねえといひます。コーラスについて他の子どもさんのうわさをいろいろ聞いているうちに知ることが多く、自分の子どものもとも、わかつてきます。自分と子どもと大体同じ意見だなあと思うこともあるし違う場合もあります。

久米 親と子の話し合いというと、要するに好きなことをいわたらい、ということね。家に子どもがおりますが、私が努力して実践しているやり方は、何でも、どんなことでもしやべつていい、よく冗談にいうんですが、言論の自由はうちでは、百パーセント保障されているから、うちの中では何をいつてもいい、と勝手なことをいわせています。冗談にしてもいつちやいけないうことをいうと、聞いた人が不愉快になる、というようないいこととおききます。それで決して怒らないからいいなさいといつて、いつてからあとで、いうべからざることを、いつていいことを、区別していくようにするんです。はじめから、そういうことをいつてはいけませんとおさえつけると、いつていいのかわからないから、またどなられやしないかと、もういなくなるから、いうべからざることをいつたら、それはいうべきでないとかやんといつけるようにすれば、割り合い子どもは、親に対して何でもいうと思ひます。私なんか気が短かいし、子どもがなかなかいうことを聞かなくて、よくどなることがあります。すると子どもがどなる必要ないじゃないか、今のよう簡単なことを、いえばわかるのにと小さい子がいます。親が子どもに短気を起したときには、その批判でできるような空気が、遠慮なく話して、そして後でゆつ

くり、子ども側から親に対して、そんなことはしてもらいたくないといふこともあると思ひます。何を考へてゐるのかわからない子どものことを察するのには、よほどのことだと思ひます。初にお互いに好きにいわせるといふ空気がつくり、それを母さんが自分の経験と、賢さをあつて導いていくようにすれば、子どもとの間のギョツはできないで済むと思ひます。今の子どもはわれわれが子どもの時には、あんなことをしたら親に叱られたであらうと思ふことを、実際にけちりとした顔でやるんで、それを怒る必要は何もない、ということがよくあるのです。母親は冷静で、徹底的にならないこと、やつぱり英知というふうな言葉です。次の世代を育てていくかというときに、私たちはエロイズムをなくして、態度自体を理性化していくことが必要で、教育の第一として育てるんですから、腹を立てたらおしまいだ、決して腹を立てず、怒るべきは筋を通して話し、どんなことでも言論の自由を子どもには一応百パーセント家庭の中では保障してやり、社会へ出たら、いうべきことというべからざることを区別して、余計な事はいわないようにする。あらゆることをしやべつてみなければ習慣がつかないのなんですから。

○働く母親と子どもの問題

久米 共がせぎの場合の子どもの教育で、祖父母に頼む場合、すつかり任せるといふ問題ですが、この中にはそういう経験をしていらつしやる方は一。

共がせでなくても、職業を持つていて子どもの教育に専心できない人の場合は、自分問題があるわけで、私の考へをいいますと、子どもは母親が四六時中ついていなくても、母親が働いていても

立派な子どもさんがあり、私は自信を持つてゐるのなんです、

それには違つた考へをお持ちの方もあるでしょうし、ぜひここでお話を聞かしてほしいと思ひます。四六時中子どもについていられない母親の場合、子どもの年令により、乳幼児の場合、学令期の子どもの場合、思春期に入つた子どもの場合、いろいろあると思ひますが、また、その日の生活に追われてしまつて、子どもも見られないという家庭の子どもの問題等について、私たち婦人としてどのように考へたらいいか、話し合いたいと思ひます。経済的とかそういう意味ではなしに、ものを考へられない、考へようとしなない、また、そうせざるを得ない、そういう環境にあるような人たちにどういふようなことを私たちの力ですることができるか、というのを話し合いたいと思ひます。

まず、母親が働く場合に、どのような配慮が子どもの教育に必要なか、について意見をうかがいたいと思ひます。

山本 農業をやつていますので、毎日がほんとに忙いので、子どもと一緒に過ごす時間は少ないのです。一人遊びさせたり、おしゆうとさん任せにしている場合が多いんですが、昔自分たちの育つてきた時代のそのまゝを子どもに押しつけていく場合が多く、私たち自身も勉強しなければならいんですが、しゆうとさんとも勉強してほしい、という希望もあります。もつと自主的な生活時間の設計をやつていきたいと自分なりの考へで意欲を持つています。

久米 いま、子どもの面倒をみてゐる人に対して注文が出ましたが、その前に、子どもと接する時間の非常に少ない母親は、どんな心構へを持つて子どもを扱つたらいいか、母親はどうすれば子どもの教育について自分たちの影響を与え、力を与えることができる

でしょうか。

鈴木 いちばん下が中学になつた時、私が勤めに出了ましたが、今まで手をかけた関係上、子どもが淋しがるのです。赤ん坊のうちには、できるならお母さんの手で育てるのが理想だ、ということを含んで考へておりました。

久米 母親の役目は、非常に過重なものだと思ひます。純粋に子どもの立場から考へて、母親というものが働かない方が理想的なのか、それ以外の仕事をしたいという母親の希望をかなえざるということは、当然だと思ひますが、それによつて子どもが犠牲になるのか、それは無関係か、子どもは母親が四六時中ついていなくてもいいということなのか、そこところは、どうでしょう。青藤 私は、子どもにつききりでいなくても、それはできると思ひます。私の場合ですと、用事があつて出かける場合に、子どもが私に代わつて何かしてくれることがあります。私が子どものやつてくれたことに對して、心ではいろいろ思うが、我慢して、わるくても、ご飯の仕度ができたという、子ども自身のささやかな満足があります。それを大事にしてやりたいし、子どもも、家族に貢献できたという気持ちが強くあらわれるんじゃないでしょうか。久米 それも一つの非常に貴重な経験だと思ひますが、どうしたつて母親は家庭にいて子どもの教育に専心すべきで、あるいはすることが望ましい、という考へを持つた方が、このなかにいらつしやいますか。

草野 今の中学校と高校の教育の場合、本を讀なことが少ないですね。教師との接触も少ないですね。それで子ども自身、迷ふことがあるように思ひます。中学生以上なら母親は動めていいといふご意見を持つてゐるようですが、現在の社会の情勢の中では不安

で、中学生くらいまでは母親の助言が必要な場合があるのではないですか？

久米 でも働きに出ていても、母親は助言できないわけじゃないんです。

鈴木 そして中学校以上になると婦りが遅いですね。

それでは、婦人は、母であること以外に何にもなれないことになつてしまふのですよ。働きに出れば、子どもの教育がおろそかになる人多くの人が思ひがちなために、そうでなくするにはどうしたらいいか。今いわれたように、母親の助言が必要だということは、お母さんが家にいることが望ましいという根拠にはならないと思います。相談があれば、寝る前だつてもよつとできるし、何でも助言が必要というように育てるより、中学生くらいになつたら、自分の考えで牧事を処理していくように育てる必要があると思つたのです。日本人は、一般的にいって依頼心が非常に強いと思います。そして責任のなすり合が多く、誰がこういつたから、先生がこういつたから、お母さんがいつたからこうしたんだといひます。これから子どもたちは、自分のやつた行為に対し、動機がなんにもとづこうとも、自分で全部の責任を負う人間であつてほしいと思ひます。人間はしよつちゆう間違つたことをやるものだし、間違をやらないうにするのは必要ですが、同時に間違つたことをやつたら、それに責任を感じることが必要ですね。あまり度を過ぎると、子どもに結局依頼心を植えつけることになるから、感傷つて次の時代に送り出せる子どもにはならないように思ひます。ある年令に達したらそれでやつてみて、お母さんのいうことが正しかつた、自分の考えが間違つていたということに気づけば、その間違つたことに対する結果は自分が背負えればいいわけで、家の人であつたとこの人であつたと、あの人

たち、暗に、子どもはこういうもので、現在の世の中はこうだから、このようにしなければというようにいろいろ話し合つたり、また、それについて勉強していろいろ方たちを頼んでお話をしていたとかかすると、老人がいろいろ理解してくれたいと思ひます。藤原 家庭教育にも限度があると思ひます。「三つ児の魂百までも」とか、その間だけでも親の愛情で育てたい。共かせぎの場合、施設に預けてゐる方もありますが、ほんとうに愛情のない、義務的な育て方ではないかと心配します。

斉藤 今のお話ですが、子どもが三つくらいの場合ですと、猫可愛がりというやり方になりやすいんですが、育てるといふ高度な愛情に変化させたいと思ひます。反論になりますが、まあ「生みの親より育ての親」ということもありますが、ですから無理にお母さんじゃなくてもいいと思ひます。そういう気持ちで接してくださいる人であればね。

○ 育児施設について

野田 私共は共がせきをしていて、乳幼児を育てることにものすごい疑問を感じて、体力も続かず勤めの方をやめました。職場は大変に忙しく、責任が非常に重く、その職場の責任を良心的に果たすためには、仕事を家に持ち込まなければなりません。家庭における母親として責任もあるから、子どもの養育に専念したいと思ひますが、理想と現実がうまくいかないのです。長男は比較的体が弱く、今でも食べ物の好ききらいが、後から生れた子どもよりも激しくて、病気をしやすい。後の子どもは私が家にいて育てたためか、少し粗野なくらい丈夫なんです。それで職業をやめたことを後悔しないかという、惜しい気もしますが、それ

がこういつたからこうしたんだ、というせりふをいわないために、私は、その子どものそばについている必要はないと思ひます。子どもを任す人に対する注文ということは、その人が理想的にやつてくれれば問題ないんですが、人にまかせればうまくいかないという事は、誰も知ることなんです。それは、まれには自分のやるよりよかつたということもありますが、自分以外の人が子どもをまかすという場合には、母親がいつそう注意しなければならず、その足りないものを補つていかなければなりません。しかもその足りないものを、時間のない中で補うためには、どういふ決心というか、あるいはどういふやり方が必要か、ということなんです。

石田 両親は子どもを育てる責任があることを自覚し、おばあさんは子どもを馬鹿可愛がり甘やかしてはならない。側面から協力するおばあさんでほしい。おばあさんの自覚も必要であることを話し合いました。

親は子どもに対して絶対の責任があるんだから、自分で子どもをどのように育てるかという方針を決めて、PTAの場合も、お母さんが勉強してきて、おばあさんがお母さんに聞くようにしたら良いという話し合いになりました。

久米 いつも子どもについていてもいなくても、自覚だけは必要だと思ひます。ひとに任してあるから子どもの教育はできません。というのではなく、任してもほんとうに子どもを教育しているのは母親自身だという自覚が必要だと思ひます。

遠藤 お嬢さんが留守がちで、おしゆとさんに子どもを見てもらう場合は、注文をつけることは、かえつて年よりの感情を害することがありますので、これは老人クラブを作りまして年よりの人

でよかつたと思つています。学令までの子どもは、できた母親の手で育てたいと思ひます。職業を持ち家庭を処理する、そういうお母さんの手を助ける社会施設をもつと拡充していけば、お母さんも社会の一員として、職業に生きられると思ひます。

浅野 幼児期はお母さんの手で育てる方がいばん良いと思ひます。中学生くらいになつたら、子どもと母親の理解があれば問題なく、かえつて子どもと母親の協力がうまくいくんですが、自分の手で育てたいと思つても、経済的な問題で、母親が働かねばならない場合に、安心して預けられる施設なり保母さんなりが必要なのです。しかしちゃんと資格を持たない保母さんがほとんどで、施設へ入れましても、おむつの世話もできない。また保母さんが一人で何十人という子どもを扱います。一人の保母さんが十人以下の子どもを扱う程度で、安心して預けられる施設を作るといふことのほうが賢明だと思ひます。

久米 人間は食べるためにだけ働く場合もあるし、その人が働かなくても食べるにこまらなけれども働いている、という場合もあります。世の中の仕事というものは、ただ食べるためだけのものではないでしょう。子どもを預ければ可哀そうだろうという気持ちで、やつぱり少し理性化しなければならぬと思ひます。

社会の多くの子どもを頭におかなければならぬわけです。そういう施設が育つていくためには、そこに預けたいという意識を持つた人がたくさんいては駄目で、可哀そうだが預けるといふことでは立派な施設はできません。そういうところを利用する人が増えることによつて伸びていくと思ひます。ここに集まつていらつしやる方自身は、家庭を留守にすることにせざるを得ない人たちがたくさんいます。意欲すら持てない人もいますから、世

の中のスタンダードな中堅層というものが柱になって進んでいくべきで、そういう人たちが進んでそういう施設を利用するようになるれば、施設も立派になつていくので、われわれが見ていていけば不愉快なのは、お母さんの「ゴイゾムだ」と思います。自分の子どもは可愛いが、その子どもはそれほどもないというのは、反省を要すること、その「ゴイゾム」がもつと理性化されていき、社会化されていくということが必要というふうに考へていきたいですね。要するに、お母さんがついていける方が望ましいが、ことに健康上の問題などは、施設が発達して専門的な人がついて、この子どもにはどういう食事を与えるのが健康上いちばんいいか、というようなことで解決つく問題だと思います。

自分の子どもだけでなく、他人の子どもにも、世の中のすべての子どもにも温情を持つということをお母さんたちができれば……私は幼稚園の先生なんか見て、よほど好きでなければできないことだと、しみじみ思います。賃金と労働という問題から考えたら、あんな合わない商売はないですよ。子どもが好きで、意義を感じていけばこそ成り立つている仕事ですね。われわれは自分の子どもに選んでもらいたい仕事というのは、そういう種類の仕事ですね、ただ金のためだけになくて、仕事自体に生き甲斐を感じるような幼稚園の先生というのはいまに預けられるようになると思います。母親も、安心してそういうところに預けられるようになると思います。子どもの健康の問題、それから子どもが可哀そうだ、愛情のある人がいつもついていなければ可哀そうだということ、これは別に解決のつく問題じゃないかと思ひます。私はお母さんが働いていても、子どもは何とか育つと思ひますが、はなれていけるギヤツプを埋めることができるかという問題ですね。これは先ほど何度も話があつたんですが、預け

放しにして一年も放つておくわけじゃないので、その極める時間には、子どもも親も、もつと楽しんでやつていけるんじゃないかと思ひます。今日は一応この問題をはなしていきたくと思ひますが、どんなに家で不愉快なつまらない思いをしている人でも、養老院にいけばいいというのを聞いたんですが、それと同じで、施設なんかは子どもを預けるのは可哀そうとか、批判を受けるだらうという、いろいろ偏見を持つ限り、施設は理想的に育つていかないうちから、みんながそういう考えをなくして、進んで預けるようになれば理想的に発展していくと思ひます。いい保母さんがいて、立派な施設ということも、もちろん望ましいが、そういうことはいろいろ政治の問題とか一政治力の問題になりますね。

○ 学校差の問題

久米 今度は私たちの目を少し外に広げて非常に施設のいい学校と非常に悪い学校、それからいい先生のところ、悪い先生のところなどと、いわゆる有名な学校というものはいつぱい入学したがるという現象があるんですが、そういう考えをなくして、よい教育の場は子どもを預けるようにするには、偏入はどういうところからこの問題に取りついていいたらいだらうという、われわれの学校に対する態度ですね。それからもう一つ、こういう会議にも出られない人に、私たちは一家庭人としてまた一職業人として、どの程度理解を持たなければならぬか、ということをお話し合いたいと思ひます。

石母田 自分の子どもの学校は、あんまり施設もないし、よくない先生もいるし、うまくないから転校させた方がいい、という母親

もいますが、施設がどうしたらよくなるか、よくない先生がおつたらどうしたらそれがいい先生になるかということ、私たちももつと数多く学校に近づいて、みんなの力でよくしていく方法をとらなければ、ますます学校差が強くなるので、子どもたちが不幸をみるんじゃないかと思ひます。

佐々木 農村の子どもと都会の子どもと比べると、学習面でも知能面においても、農村の子どもはずつと遅れているということを開いておられますが、どのような方法によつて解決したらよいでしょうか。それから都会では、生活費の何パーセントくらい教育費にあてているでしょうか。

野田 知能指数を調べた場合に、そんなに差があるわけではないんですが、まわりの刺激が強いために自然に磨かれていくわけです。ところが農村は比較的おだやかなために、その芽が磨かれず、伸ばされないということが多々あります。実は福井県でも今のところは、高校が全然一区画になつていんです。はじめは小地区といつて、学区といふものがあつたんですが、二年程前にはすべるとたんに元の有名校とそうでない学校というのが差がついて、遠くから汽車に乗つてその大学進学率のいい学校へ通うわけです。なぜ自分たちの学校をよくするようになれないか。学校を良くするのもしないものもその地域の社会人のせいだと思ひます。先生が骨折つていても、どうも力がつかない。それで有名校にやらない親の気持ちもわかりますが、それだけではすまないと思ひます。

久米 ほんとうにそういうのはなまると思ひますが、アメリカではいわゆる天才教育ですね、できる子どもとできない子ども、知能指数一五〇くらいの子と八、九〇くらいの子と一じよに

教育するのは知能指数の高い子どもに迷惑だから、別にやるという考えがずいぶんあるんです。農村と都会と比べて、べつに頭の質が劣つていふことはないのでないですか。それで今の有名校にいきたがるというのはまことにこまつた類なんです。いばんな大きな問題は、おかしい教育の偏重ですね。大人たちがまず、そういう学校に対して敬意をはらうことはいにはちがいありませんが、出身校に対して出世の行く先が決まるような考え方があるいはまたそういうふうな自分の子どもをしようという、この気持が世の中になくならない限りは、この問題はなかなか解決できないだらうと思ひます。次に教育費の問題ですが、教育に金がかかり過ぎるという問題もあると思ひます。

佐々木 小学校の生徒一人に対して、生活費の何パーセントくらいを教育費にあてているかという話です。

久米 全収入の何パーセントかということですが、小学校は義務教育だから、あまりかからないと思ひます。

浅野 小学校の場合、やつぱりノート代もクレヨン代も全部親の負担でなし、それだけで大体四百円かかります。給食費をべつとして。

野田 一カ年平均ですが、一年生が六百九〇円というのを見たことがあるんです。二年生はちよつと少なくて、五百円くらいになります。それから年上がつて、それから学校以外のおけいこの費用を比べると、小学校では、女の子が一六〇〇円かかるんですね。

久米 それは義務教育の範囲外でしょう。

野田 義務教育、小学校教育だということになると、六〇〇円くらいから七〇〇円くらいです。

久米 ところで、ほんとうの義務教育といふことになれば、国家が負担しなければならぬと思つて、学校法といふものをどうやつてなくしたらいと思つたか。一体学校法をなくしたほうが次の世代にいいかどうかということ、これはどうでしょう。

青藤 私のほうは、ものすごく施設の悪い学校ばかりなんですけれども、村なり県なりからそれを充実するためにお金を出してもらう前に、私たちがまず今の段階で、よい学校生活を子どもたちにさせてやりたいということはやっぱお母さんたちが、学校の先生にお世話になつてゐるからという頭で、割合と何もいもないのはよくないですね。また学校の施設、ビンポン台とか、そういうものを独占する子どもばかりだとこまりますから、そういうことのないように学校でも指導してほしいと思つた。貧困家庭が多く、子ども同士は仲良く遊ぶんですが、はたの親たちは近付かせない、そういう感情をまずおとなたちがとり除いて、明るいおつきあいをさせてやるということが、やっぱり根本だと思つた。

八木 小学校、中学校における学校差は、施設だけによるものではないと思つてます。その原因は、主に先生にあるんじゃないかと思つておられます。一部の例外を除き、どうしても都市部に希望者が多いから、自然優秀な先生方が選び出されて学校に集まる。辺地はとかくその反対になるというわけです。これは政治的な問題になると思いますが、つまり都市部の方が田舎よりも給料が良い、というところから問題があるんじゃないかと私は思つた。

遺藤 現に私の子どもが、今度へき地教員ということになりました。行かなければならなくなりましたが、住宅もないのです。こういうようなことは、いかにへき地交流ということをやっても、

その村全体の人が、PTAなり教育委員会なりがしつかりしてくれなければ、教員のへき地交流といふことはできないと思つた。

久米 この点どうでしょう。一体いい先生というのは先生か、進学の受験を多く通らざる先生、それを祈つていい先生というのか。教員の方があまりじょうずじゃなくて、上の学校へは入れなかつたかもしれないが、その先生の教え方なり、その先生の人格が子どもに及ぼすような先生というのか。あの先生はいやというので、こそこそ家庭教師を雇つたりしながら、ただあの先生に預けておけば必ず上の学校に入れていただける、というのがいい先生か、これは母親の態度にも問題があると思つてます。お母さんが教育にどれだけの熱意を持ち、何をもちつてよき教育者となすか、どういう人を指してよき教育者となすか、ということにかかつてくると思つた。

野田 夫の友人に先生がおりました、ときどきうちに来ますが、今の先生は悩んでゐるんです。進学競争一本やりにならなかつて、考え、ほかにどんなに良い点があつてもその先生の価値を認めようとしてくれない。ところが進学問題ばかり取り組むと、生活指導の面がおろそかになり、いわゆる問題児が出てきて新聞面をにぎわすことにもなるのです。ほんとうに義務教育といふものは人間を作ることにあるんだ、学校の指示活動、グループ活動、学校全体の中で、エゴイスチックでない、いい子に育つてくれるらたといふ進学率が多少さがつても、そういう子どもを育てたい、そういう気持ちで親にわかつてくれるかどうかということなのです。

久米 だから、事実よき教育者ならば悩むんだらうと思つたが、それに対して母親がどういう態度で接していかなければならぬか、ということをお聞きしたいと思つた。

伊吹 私は進学中心に考えておりません。子どもの個性に合ったように、大学だけが勉強じゃありませんから、個人差によつて考えていけばいいと思つた。世の中の人全体がそういうふうな考えたら、義務教育の問題とかそういうことも解決するんじゃないかと思つた。

久米 あしたからすぐそういうことを世の中の人に考えろといつても不可能ですから、一人ずつこういう人をふやしていくということですね。それは心構えの問題ばかりなくて、実際の社会の政治の問題にも結びついてゐますから、実際にいい学校の方が学費もかからないとか、そういう現実の問題がからんでいて、ここで議論しつゝ、かつ解決できる問題ではないと思つた。さきほど底辺にあるという言葉をお使いになりましたが、そういう人に対してどういうことをなすのか、これはまた政治の問題になり、社会保障とかそういうことももちろん必要なんです、何もかも論じつゝされる問題じゃなくて、限られておりますから、子どもたちの施設の問題はいま片づいたけれども、次の世代のために婦人が何をなすのか、ということが題目の中心になり、それに関しても提案があつたのですから、そのことを中心として考えていきたいと思つた。

○貧困層の母親や子供の育成に

どのように協力したらよいか。

山本 ほんとうに身近に密着するグループを作つて、集まつた方々の

意見を聞いたり、話し合つていくということだけでも収穫があると思つた。

久米 地域の人たちをわれわれの仲間に入れて話し合つていくというやないかということ、それも一つの方法だと思つた。

石母田 たとえば私がこの会議に出席しなかつたら、うちのほうの人は全然こういうことも知らないわけですが、私が出席したことによつて、このことに賛成できるんじゃないかと思つた。一人でもいいからこういうところに出席して、みんなと一緒に勉強していこう、という考えのもとに出席したので。

久米 まあ近所から、そういう人たちの視野をひろげていくことができるというわけです。

鈴木 私、実は福祉事務所に勤めてまして、ほんとうに底辺といいますが、貧困なところを過去一年間見てまいりました。子どもたちの施設が福島県にいくつありますが、盲人のための点字奉仕とか、里親とか、お正月だけの里親とかいうような、婦人の善意に交えられてゐる施設もたくさんあります。そういうものにも目をむけてほしいと思つた。

久米 その問題に関心を持つということが、解決を促すことにもなりますが、関心をもつということによつて、みんなの心にそういうものがめざめてくれば、政治を動かす力にもなるのです。

大蔵 そういう家庭の人を、隣り近所があきらめてゐるんですね。たまたま私が、新聞週刊についてラジオでちよつと放送することになりました、みなさんひまがあつたら聞いて下さい、といったんです。内容については、お豆腐屋さんのおかみさんが、今まで絶対に新聞をみなかつたが、経済欄を見るようになったのです。それは豆の輸入のないため豆腐が値上りしましたが、いつ中共と

の貿易がよくなるかと新聞をみるわけです。そこでどういふ金額があるということにも、少しは注目するようになったのです。やつぱりそういう人と一緒にやるためには、まず小さなグループを作るということでなければならぬと思います。

久米 私たちが窮極にめざす目標は、貧困家庭がなくなるように、生活程度を上げるという措置が望ましいといつてみたつて、その健全な社会にするにはどうしたらよいかという事をみんな考えてみる必要があると思います。

ここで、特別オブザーバーの方にほんの一言ずつ、感想をいつていただいて、今日の会議を閉じたいと思います。

佐野（全国労働組合会連合会）

私は独身で、工場、とくに繊維関係の方の担当をしておりますので、中学出の若い人たちと同じようにこれから生活していこうという気持を持っています。子どもの問題については今まであまり関心を持ちませんでした。いまみなさん方の話を聞きまして非常に熱心にお考えになつていらつしやつて、これからの私の立場で、繊維関係に働く婦人労働者の人たちの指導の中に織り込んでいきたいと考え、いい会議に出席させていただいたと思います。

清水（ガールスカウト日本連盟）

ガールスカウト日本連盟の仕事は、とくに社会のよき一員としての人間、人格形成を目的としています。やはり人間を作るといふことは、いちばん身近な家庭教育に基礎があることを、私どもも痛切に感じているのです。子どもを通して、おとなの私たちが考えさせられることがあります。そして家庭で基礎教育された子どもが、洗練されていく場合は、やつぱり社会です。学校教育という場も、相当重要に取り上げられていたように思います。

が、それでは学校教育がすべてであるか、家庭教育ですべてがつかれるかというところ、もう少し考えてみたいような点があったように思います。子どもが指導者の話をよく聞かないで騒いだ話ですが、その姿を説明するようにもつていけば、結局それは国会で暴力をふるつたり、人のいうことを聞かないおとなも浮んでくるということで、社会にはやはり社会の、社会人の指導というものが必要だと思ひます。それで、学校の先生は学校教育の専門家、そしてお母さんは婦人として、社会人としてそれ自身が社会の教育者であるということ、それを私たち一人一人が自覚するということがいちばん大事ではないかとさきほどから痛切に感じました。

池田（全国漁協婦人部連絡協議会）

私も明治の世に生を受けたものは、非常に古いからを持つてゐるので、次の世代の成長について、みなさんともに悩み、育てていく知恵、その英知をこれから留得していかなければならぬと痛感しました。母親にしても教師にしても、真の愛情というものが次の世代の成長への貢献のために、活動の根本になるものであることを痛感しました。

大吉（東京地方裁判所）

私は昼間勤めて夜学へ行つておりますから帰ると食事をして寝るくらいしか家にいませんので、家庭に対する愛情とかそういうものは、あまりもつていませんでしたが、私が何かお母さん方に対する理解がなかつたことをすごく恥かしいと思います。それからお母さん方も私どもを大いに激励して、ほしいことをいわしてくださる、そういう家庭が私たちに、ほんのいい家庭じゃないかと思ひます。私たちもそういうお母さんの意見なら素直に受け入れられるような気がします。

（第一日 閉会）

○ 移動会議の感想

昨日の移動会議の感想をうかがうことにしましょう。

斉藤 三鷹の保育所は、○才から三才までの子どもを預かり、三才になると出なければならぬので、ちよつと心配しましたが、附近に私立の施設があるので、収容できる見通しもありホッとした。それから「都立青年の家」では、所長さんをはじめ、職員もユーモアがあつて、青年が自由な気持ちで同の拘束なしに使えるよう心がけているようです。

石母田 三鷹の市長さんは医学博士の肩書きをもち、保育施設についてはいへん積極的で、乳幼児の保育所はめんどろだからというのを、市長が絶対にやるといつて、やり通してくださつたことをきき非常にうれしく感じました。

私たちも、市長を選挙時は、庶民的な人々と話し合いました。斉藤 小さい坊やが、「おじさん」といつて、とびついて行つたら抱き上げてはほすりしていらつしやる、ほんとうに子どもたちの中に飛び込んでいくのですね、実行行動でいかなければだめだと思ひました。

山本 農村青年との座談会で、もつと切実な意見が出るかと思つたのですが、その青年たちは、みな経済的に恵まれていて、生活を楽しくやつてゐるんですね。

八木 保育所のことですが、料金は市から四、〇〇〇円、国から三、〇〇〇円の補助があるので、子どもの家庭からは最高一、五〇〇円です。中には共働きで、七、八万も収入のある家庭でも、一、五〇〇円の規定だけ。その他五〇〇円、一、〇〇〇円と幅があり、生活保護家庭からは一文も取らないそうですが、

第三部 会 第二日目

一四日 一〇、〇〇～一七、〇〇

最高の一、五〇〇円に何んか矛盾を感じます。

八木 子どもの年令で部屋が分けられていて、満一才までは十五人、それに保母さんが二人、欄の中に一人づつはいって、おもちやを与えられ、私がみた時は淋しそうに、一人で立っている子もあり、乳児食を与えられている子もあり、何んか施設にあずけるのはかあいそうだと思います。しかし科学的に育てない母親の手にかゝるより、保母さんや看護婦さんのいる、完備した施設にあずけたほうがよいと思いました。全国にああいう施設をもつとふやしていただきたいと強く感じた次第です。

大蔵 私たちは、水上小学校と日本橋の間屋街の住込店員さんとのお話を聞いたわけです。

水上小学校では、生徒が先生に対して、お父さんのような感じにいるんですね。とても感激しました。その先生方が、どうしてこの学校にきていられるかおたずねしたら、やはりご自分の希望だそうです。子どもたちのために、熱心に教育してくださるという幾人かの先生に、私はほんとうに心強く感じました。それから間屋街に行きました時に、店員さんたちが、昔の徒弟制度の時の考えかたと違っているというのを感じたのです。契にはつきりしていて、自分というものをよくつかんでいるということを感じたわけです。

遠藤 水上小学校にまいりまして、小さい子どもが親元を離れて生活している様子にほろりしました。こういう施設があつて、この子どもは幸福だなと感じました。それから商店街にまいりまして、問屋の店員さん方は、非常に恵まれていて、これよりもつと恵まれない店員さんたちと話しをしてみたかっただけだと思ひました。

龍外六

でした。そこでは、お母さんたちは僕らのいうことを聞いてくれないということが、いろいろでてきました。例えば兄弟を公平に扱ってくれないとか、父親には勝手なことをさせて、子どもがするといけないうつておこるとか、時には家出して死にたくもなるというのです。そこで母親も悪いことは素直に反省して子どもたちを理解しないと、よくしたいと思つても、反対に悪くするお母さんになるのではないかと思つたのです。けれどお母さんも人間で、いけないうと思つてもついでにやつてしまふのだというような意見も出たのです。

伊吹 愛育研究所では、結局お金が高過ぎるということですね、国や地方の補助で、もつと多くの人にも入れるようになったらいいと感じました。それから板橋の中学校では、ある子が、お母さんに叱られたので謝らうとしても、お母さんがふくれつらをしてるので素直に謝れないが、時が解決して、いつかもとの姿になるというのをいつたのです。私の場合、子どもとの間が義理だからというので、お互いに最後の線をいはいないので、摩擦なしにきたのですが、ほんとうはその最後のところまで、いわないといけないうのかしらという点で、疑問をもつて帰つてきたのです。山根 愛育研究所ではお誕生までは終日預かるが、二才三才の保育は、朝九時から夕方五時までで、保育料は月四、五〇〇円ということでした。普通のお勤めのお母さんだと、時間的に無理だと感じたのです。

佐々木 上板橋の学校に行つた時、農村も、都会の子も、考えていることは同じだなというのを感じてまいりました。

草野 私は第四班で三共の品川工場と、ガールスカウトの方たちと懇談しましたが、三共製薬は日本でも有数の製薬工場ではとんと

神尾 水上小学校にいつて、屋上に上がると川が見え、子どもたちの親が生活している船が見えるというところは、子どもたち安心を与える原因ではないかと思ひました。それから船への勤めというのについてお聞きしましたら、地上から勤務させるというの

は現状では無理なんです。船の家族全部が従業員だというお話で、まだまだ近代的になつてないと思ひました。

大蔵 船の子どもたちの中でも、仲間意識というのがあつて、だるま船とか、し尿船の子どもをばかにしてけんかするそうです。どこまでいつても親の職業というのが、子どもに影響しているのだと、とても悲しいことでした。

神尾 水上生活者といつても段階があるのですね。それからあの店員さんたちは恵まれてるやうですが、退職金制度のないことを不安に思つていようです。

野田 私は、愛育研究所と上板橋の第一中学校のホームルーム活動を見ていただいたのです。愛育研究所は、皇太子殿下のお誕生記念で作られたもので、お産をなさるお母さんや、小児科を中心にして、赤ちゃんを一年間預かるところで、綿密に研究された結果のブリーダーによつて、その赤ちゃんをうまく育てているのです。久米先生がいわれたように「専門家にまかせる」ことが、ほんとうによいと思ひました。けれど一カ月二一、〇〇〇円から三〇、〇〇〇円と聞いてもよつと淋しかつたのです。それから附屬施設として、心理学研究所や保育所、幼稚園もあるのです。精進の施設もあつて十七、八にもなるかと思ひ子がプランコに乗つて、遊んでいるのですが、下が水溜りなんです。何度もズボンが汚れてしまふのです。あのお子さんの将来を考えると気の毒で……。

それから、上板橋の中学二年の六十人のクラスのホームルーム

がオートメーション化されており、給料もよく、恵まれた工場に働いている工員さんたちを見てきたのです。高さを自分で調節して疲勞を少なくすることが出来る腰かけも使つていました。服装の点も、教室内の光が直接目に入らないように帽子のひさしを長くして、いき直しているのです。工員さんの要望でなく、工場側の思ひやりだそうです。また、成城大学で、ガールスカウトの話し合を開きますと、あそこは特に恵まれた地域の子どもたちで、とくにリーダーは非常に立派で感心しました。工場を経営している方が、自分のところの勤勞する少年との交流をお願いしたいかと質問したところ、交流はいやだというお嬢さんがいまして、いろいろ話し合つて、優越感があるのではないかと、考えてみたのですが、結局優越感があるなしかゝわらず、のびのびとしたところがいよいよふうに見てきたのです。

藤原 三共の品川工場の方が今の若い人は、わかるまでたずねてくられてはとくにいい。しかし一旦就職した以上、学校と違ふのだから、社会人としてのエチケットを身につけて欲しいと云はれてはとくに親としてそう思ひました。

鈴木 三共で、賞金に男女の差がないということが気に入りました。が、単純作業で同じことを繰り返しているの、何か気晴しにレクリエーションが必要だと痛感してききました。それからガールスカウトとの話し合いの中で、親から「あなたを信頼しているから絶対に親を裏切るようなことをしないでちょうだい」といはれるのがいちばん専任を感じるといわれたので、なるほどと思ひました。もう一人のお子さんが、あんまりうるさくいわれると抵抗を感じて、やりたいこともいやになつてしまふ、同じことを長々と話しするお母さんより、無口なお父さんの方がずっとこわいことがある

るといつていきましたが、反省させられます。
冬、いい施設がモデルとして、高嶺の花であつてもいいから、刺激になつてほしいと思つたのです。

久米 高嶺の花ということにたしかにそうであるかもしれませんが、例えば、私の友だちが、子どもができて仕事ができなくなつた。その人たちは収入の点からいへば働かないのもいいのですが、いろいろな意味で働きたいという人のために、愛育研究所に一年間子どもを預けているお母さんを知っています。お母さんがニョーソンの子どもを預けるという施設ばかりじゃない、社会全体を広く見て、それがあつて、どういふ方向に進んでいくべきかということは大いに教えられるのであつて、それはいいことだと思つたのです。私アメリカの友だちと話し合つたのですが、だんだん女中さんが得にくくなる。決して遊ぶために女中さんにいてもらうのじゃなくて、たくさんの家族をかかえてやつていけないのではなうに必要なんです。子どもなら愛育研究所に預けるといふこともできるけれど、複雑な家庭生活の婦人にとつては、手つだいかもしれない必要な場合があるわけなんです。そういう時にそれがどうしても得られない社会というのは、ずいぶん矛盾していると感じます。私なんかほんとうに職業婦人という意識をもつて、自分の仕事を非常に大切に、決して家事の事情というところを口実に仕事を休んだことはないのです。子どもや主人の病気の時に、たとえば、ホームヘルパーというものがあつて、電話一つで、ほんとうに必要な家庭に来てもらえる制度があるということとは、とてもありがたいことだと思つたのです。結局社会の進歩というものは、ギリギリの生活から生れるのではなく暇のある人たちの頭の中から出てくるもので……

のお嫁さんの気持が大切だと思つたのです。

浅野 私の職場でも共がせきが多いのですが、今の若い主人は家事を手伝つていますよ、ただおしゅうとさんのいる家では、おしゅうとさんが家事を引受けてやつても別になんとも思わない。お嫁さんの方も、働きに出てくるのだからというふうな態度をとらなければ、わりによりうまくいつていくようですね。

久米 家事は女がすべきものだという考えは、世の中からどうしても駆逐したい考へだと思つたのです。みんなの共同生活の家事だということ、自分のことは自分でする、そして合理化した日常生活を考へていくべきだと思つた。共がせきの場合、私は外で働いているから家事はしないというところは、逆にいえば、非常に古い考へだと思つたのです。昔の男がそうであつたように、新しい女がそういう觀念を持つていふとすれば、たいへん間違つた考へ方だと思つたのです。

石母田 次の世代に非常に関係があると思つたのですが、婦人会に一度最低限は出るのですが、今まで主人も子どもも非常に不満をもつていて、苦しいこともたびたびあつたのです。みんなのために働いているのだが、月給を持つて帰ってくるのではないので、そういうことをどうのようか、主人や子どもに理解してもらおうかと、今まで悩んできましたが、いくらかずつ成果があらわれることによつて、子どもたちもなつとくとして、私が出ることには文句をいわなくなつてきましたが、その点について教えていただきたいと思つた。

久米 次の世代のために婦人が何をなされるかという非常に大きな、何からでも論じられる問題ですので、散漫になる可能性があると同時に、何を話してもいいという自由なものであるので、それが

浅野 地方の保育所を見てくださるとよくわかるのですが、ほんとうに入れたくてもはいれない状態です。

○主婦が家をあげる場合の家族の協力

石母田 中学校に勤める母親で、おしゅうとさんがあるのですが、朝五時ごろから家の仕事を全部やつて学校に行くのですが、あれでほんとうにその職業がまつとうでできるのかどうか考えさせられます。おしゅうとさんが若いのだから、お嫁さんに代つて家の内の仕事をやる方がいいのではないのでしょうか……

野田 私も勤めたことがあるのですが、古い考へでは、女は外に職業を持とうとも、家の事いづい責任を持たなければ嫁としての資格がないと考へていたのでしようね、それなら職業人として女が生きていくのをどうしてくれるのか、人間の力には限度があるといふたくなるのです。久米先生のようにトップに立つて働いておられる方には、あまり家庭の雑事で精力を消耗していただきたくないと思つたのです。

鈴木 私、家の雑事をすっかり引き受けたばかり、お勤めに出るのに、それを娘が見ていて、私はお父さんみたいな人を主人には絶対にたないわ、というのです。女は外に出て一人前にやつてきたばかりに、家の仕事をする、ほんとうに女は損だということです。そういうふうな、子どもは正當に批判しているのじゃないかと思つたのです。

遠藤 このころはおしゅうとさんも、婦人学級へ出て相当理解を持つていふと思つた。ただその場合に、お嫁さんの方が、自分は勤めているのだから家事までさせられてはたまらないという態度をとると、そこに淋しい気持が起きてきますね、ですからその時

らはずれない限りは結局婦人の生活を合理化していくということが、次の世代につくすことになるでしょう。それで石母田さんの話は結局話し合いの問題だと思つたので、そのことについてどうぞ……

石母田 家庭をあげることに、子どもを犠牲にするかどうかということですね。

野田 私は下の子がまだ二才にならないので、家をあげることはほんとうにみんなに迷惑がかかるのですが、赤ちゃんのめんどろだけで終わりたくないのです。主人は、その気持はわかるが、もう少し子どもが大きくなるまでは、ラジオを聞いているだけで我慢しろというのですが、ラジオを聞いていると疑問がいつぱい湧いてきてしょうがないのです。そこで地域で話し合える友だちをつくつたのです。そこで話しをすると、すつかり気がはれてくるのです。主人に頼んで、家の事を頼一ぱいするから、どうか一カ月に一べん出してくれと頼んで、その日だけは、みんなに迷惑かけないよう考へて、子どもをおばあちゃんに頼んで、ともかく出てきてください、そうでないと私は生甲斐がないのだという、それはどういうならということを出してくるのです。

神尾 私もPTAとか、婦人会とかに出されますが、自分に才能も教育もないので、やりたいと思つても、なかなか職が持てないんです。私は家庭の仕事を職場と考へて、できるだけ合理的にやりたいと思つておりますし、会の仕事もたいへん不合理な、時間をとる無駄な会はもう少し考へたいと思つて、家の仕事との結びつきを合理的にするのを、今の会の目的として、だんだん改善してききました。それから地域として、農繁期に託児所をやつていのですが、なかなか保母さんがきてくれないので、私は思い切つ

つて、保母の資格をとつてお手伝いもしますし、保育園にパートタイムのように行っております。

藤原 小さい商家の人が、会合に出でこないということですね、私も販売しておりますが、夕方とお昼が一時的に忙しいもので、忙しく働いていてPTAにも出てこないのです。どうしてかという、つまり仕事の分組をしていないということがわかったのです。私の場合は、お得意さん回りが主人、私は家にいるお客さんの相手をする、そういうふうに分組して時間をつくつて、会合に出る、そうすれば教育の面も広がってくるのではないかと思います。石母田 あんまり出る人数が多いとどうも家事をするものではないかと……斎藤 お互の立場を手伝い合うということで勉強なり労働につながるというのを子どもにも体得させてやりたいと思います。

○ 貧困層の母親や子供の育成に

どのように協力したらよいのか。

浅野 三共製菓の工員の給料は中卒で初任給八五〇円、高卒で一〇五〇円で非常に恵まれていると思うのです。ところが私たちの地域は高卒四〇〇〇円で、八年も勤めて二十円上がっただけです。そのように経済的に低いのです。製材工場に勤める男の人は五〇〇円、女は二四〇円で日給制なので、一日休んでPTAに出るわけにゆかないのです。農家の子どもは田んぼのあぜで通い回っています。保育所はありますが、二才以上で就学前の子どもだけですから給食費すらろくにない状態です。

久米 そういう人たちはどうすればよいかということを話し合ひましょう。

野田 私のところは機業地帯で、女の人が機械のそばに箱をおいて

赤ちゃんを入れておくのですが、モチモチ歩き出すので、園技にはさまれて大怪我をしたことがあったのです。その時だけは、保育所をなんとかしようというけれど、役所にお願ひに行く時間がない。それから婦人会の人たちは案外無頓着でできればいいなというくらいなのです。

石母田 暇のある人たちが婦人会の会合などに出て、子どものことはさつぱり考えてくれないとの話でしたが、暇なので社会のためやるとか婦人会に出るとかいわれるとどうも……久米 暇のある人が社会を歩ませる、いいましたが正確にとらえていないと思いますので申しますが、昨日夕連が宇宙船をあげましたね、ああいう人が決して暇だとはいえないが、しかしあれに全部かけるお金と、あれだけに専心し得ることをもつて、私は暇と称したわけです。暇ということは遊んでぶらぶらしているという意味じゃないのです。もちろん底辺にある人の問題は重要で、貧困をなくするということがいちばん大きな目標ですが、しかし科学的にしろ、そういう中から生れてくるという時に暇があつて経済的に余裕のある人の社会的責任、ということに非常に関心するんですよ、できる人がしなかつたら誰がするだろうか、という責任感を持つべきだと考えて、遊んでいれば進歩するという意味じゃないんですから誤解のないように。それでさっきの問題にもどつて、どういうふうに私たちはその問題に近づくだろうか。山根 賞金の差を少なくして、貧乏を少なくすれば、PTAにも出かけるようになるし、また子どもを託児所に預けるだけの収入を得るような生活になる、そんな方向に声を大きくしてもいいかと思ひます。

久米 最低賃金を確保するような法律が、もつと強力にできるようになるとか、そういうものに婦人が感心をもたなければいけないと思います。

(休憩)

○ マスコミについて

久米 マスコミという問題、これは新聞雑誌からはじまつて、最近のものとしてはテレビですね。それから新聞や雑誌、広告等は見ないですむわけですが、駅へ降りると大きな声で広告をやつていふ。あれは聞きたくないから聞かないというわけにはいかないんです。それからどんな思想にしろ、マスコミの波に乗つて、ずい分いろいろと流れていく。それはいい影響もあり、悪い影響もあると思いますが、このことについてお話し合ひをしてみたいと思います。

藤原 青少年に及ぼす影響も、刺激の強い部分がたくさんあると思います。それに対して、子どもがたとえ刺激の強い場面を見ましても、それを自分で調整していくだけの力を養うようにしていかなければこまると思ひまして……

久米 どうでしょう。抵抗力をつけていくということですね。斎藤 私どもの農村の場合も、ラブシーンのどきつい場面があつてこつちにはつてあるんですね、それを無理に親が見せまいとするんですね、すると子どもがかえつて、それを話題にするんです。キッスの場面なんかみると、子どもなりにあんなことしてみつともない批判するんです。それでいいと思うんです。

久米 どうでしょう。非常にあくどい映画や、つまらないテレビの代わりに、もつと健全な娯楽をこしらえて見せるようにすれば解決つくわけですが、どのように抵抗力を養つていくかということですね。それから青少年の不良化の問題が、マスコミの影響だといふのでマスコミがずいぶんたかれるのですが、抵抗力がついてる子はいいいとしても、そうでない子をどうしたらいいか……

山根 抵抗力をつけること自体大切ですが、抵抗力がつかない子どももあるのです。それに対して、あくどい刊行物の不買運動などをしたり、また、私たちがマスコミを利用して、投稿欄にそういうものを出さないようにと何度も回を重ねて意見を反映させるようなことなど。

久米 子どもは不良化を、映画や不良出版物のせいにするんですね、ほんとうにそういうことだけが原因でしょうか。家庭的、社会的、政治的、経済的等の原因があつて、そういう状況の悪いところへ入つてくるから子どもが影響を受けるので、健全なところに入ってきたつて、それはど影響はないんじゃないか。だからまわりの環境自体をよくしていけば、問題が解決するのではないかと気がするんです。環境自体をよくしていけば、マスコミ自体は悪くないというんじゃない、自然と自然な形に持つていくことが望ましいと考へてゐるんです。

野田 母親が子どもに見せたい場面と、子どもが見たい場面と一致しないんです。そういう子どもの心理を考へて、母親があまり道徳的、教訓的なものばかりを子どもに押しつけないほうがいいと思ひます。

神尾 子どもに強制しないで、親も一緒に見ていろいろ話し合ひ、それで子どもたちの見るものをだんだん変えるようにしていつたらいよいよじゃないかという話がありました。

遠藤 電波の関係でテレビが入らないので、隣り部落で見せてもらうのです。各部落で子ども会のあつた時話し合つて、その家に迷惑にならないように見せていただくようにしました。子ども向き番組のある時は、喜んで見せてくださるし、子どもたちもすんだらすぐ帰るといふようにして、最近非常によくなりました。

藤原 私どもでは、小学校の子どもに映画を見せる時は連れていく

のですが、その他にも見たくてもしょうがないですね。そういう時、あの映画はどうだと判断の出来る場合はいいけれども、まわりの人も関心をもつて普導していかないといいなと思います。

久米 ある程度、親や先生の監督の届かない出版物なんかがありますからね。子どもの見るものを、そういいたい気をつけて見るということも子どもの教育上どうだろうか、ということですね。自分で読む本くらいは、自分で選ぶ習慣をつけるようにしたらいいと思うんですが。その次に、今はマスコミの悪い面をどのようか除いていくかということだつたんですが、これを利用して、社会問題に対する関心をいだけせていくことができると思うのです。たとえば新聞のニュースを読むとか、新聞の内容について子どもたちと話し合うとかすれば、テレビのニュースにも興味を持つということですね。積極的にそういうものを見せることによつて、教育できる面があるのではないかと思うんですが。

石母田 私のうちでは、子どもが勉強盛りなので、新聞だけはよく読んでいます。ラジオも軽音楽などを好んで聞くよう

久米 不良少年の問題ですが、マスコミの問題と関連するので、さきほど私は、それだけが原因ではないといったのですが、たしかに影響していることだと思いますので、この青少年の不良化は非常に影響されやすい子どもたちをその影響から守るということについてはどうでしょうか。

遠藤 山梨では青少年総合対策というものを立てまして、その本部長には知事、市長町長がなられて、官民一致でやっているんです。各部落に育成会を作りまして、子どもに運動場や、遊び道具を買つて与えるとかやっていますが、このように仕組ばかりよくしよ

でしょうか。

斎藤 テレビも買えない、生活様式も違う子どもたちと遊んでいると、親だけの考えで、あそこの子と遊ぶとか、近よるなどかいつて、わけもなしに引き離そうとするんです。そういうことも原因すると思います。それから、不買運動を起して買わないようにするなんていうのは、私はいっばん最後の問題であつて、マスコミならマスコミに負けないような、私たちの環境の浄化といひますか、それをもつとマスコミにたいはいんじやないかと思うんです。

久米 マスコミを利用してやるわけですね。

斎藤 不買運動を起しても、売る方は引つ込んでいないと思うんですよ。だからそれに負けないような環境をマスコミするんですね。

大蔵 マスコミが子どもに影響するということは、親の考え方にあつてではないでしょうか。不良になつた子どもたちの話を聞きますと、大体うちが淋しいとか、おもしろくないとかいつて、マスコミによつて不良になつたという、その根本はやつぱりみんな家庭からくると思うのです。

鈴木 非行少年のことですが、七〇パーセントまでが、家庭に対する不服とか、あるいは保護過剰とかが原因で、その次にくるのが社会の影響で、それもマスコミの影響でなくて、自己を主張して非行に走る面があるというふうなことで、マスコミというのは、それほど重大に考えなくても、家庭さえしつかりしていれば、不良化は避けられる問題じやないでしょうか。

久米 私もそう思います。おそらく皆さんは立派な家庭で、そういうものに脅威を感じていないでしょうが、案外所感文の中には多

うとしても、おとながしつかり勉強してやつていなくて、はたまたというふうな、反省の時に立っているのです。それから愛の鐘を鳴らすとか、家庭の教育カレンダールを出して、それには一日から三十日までいふことが書いてあつて、それを毎朝見るようにしてたいへんうまいつていふふうですが、子どもばかりいうふうにしても、おとながもう少ししつかりして、ふだんの言動をちゃんとしていふ、ということになつてお

野田 私の方に中学時代から不良の高校生がいます。たまたま新聞で、先生が子どもをなくつたという記事が出て問題になり先生が盛んに攻撃されたのです。そうしたらその子どもが、わが意を得たりとばかり、ますます増長しちゃつて、全然先生のいうことをきかなくなつちやつたんです。それで親と学校と協力して、その子が悪い方ではないようにするんですが、裏で近所のボスがいていたんです。そのボスと手を切らないとどうにもならないんです。こまつていふんです。

久米 そこになにかしら、婦人としてできることがあるんじゃないかといふことですね。自分の子どもは不良化しないからいい、といふだけじゃあなしに、そういう子がそばにおれば、自分の子どもたちも影響を受けるからやはり放つておくわけにいかない問題だと思ふのです。東京なんかではいふん、いわゆる学太者といふたようなのがいるのです。そして非常に抵抗力の弱い、放任してある子どもがそういうのに引つ張り出されて悪くなつていくのです。そういう原因を、単にマスコミと結びつけて考えるだけでなく、もつと社会的な、あるいは家庭のふんいきとかを考えなければならぬところがあるのではないかと、思ふのですが、どう

かつたのです。多くの人がマスコミのことを取り上げてそういうものにある程度迷惑や不安を感じているのです。マスコミの悪い影響をしみ込ませるような環境自体が問題なので、うちの中で淋しいとか、なにか刺激を求めるとか、欲求不満とか、そういう問題があるのです。それで、テレビでパタパタと人を斬るとおもしろいといふような、そういう中からめざめてくるのであつて、うちの中の健全な空気の中であつて、芝居として見て、それなりに終つちやうとができると思うんです。たとえば不良少年の問題としても、マスコミ自体が原因じやない、それを受け入れる環境が問題だといふことですね。

○農村の生活の問題

久米 それでは次に、農村の生活の問題を。農村の生活に魅力がないといふことから、農村を去つていく人があるし、同時にお嬢さんにくる人もないといふ問題。次に育児の問題、合理化の問題といふことなど、どうぞ。

山本 若い人が農村にいたくなくて、都会に出てしまふという大きな原因は、経済の面にあると思うんです。農村では年よりが財布を握つていふので、若い母親が子どもの教育費も、ほしいものも買つてやるのができないのです。そして、財布を握つていふその家の家長にいわなければお金がいらないから、子どもが母親を信用しないんです。それでお母さんのような生活は、もう二度としたくないといふ傾向が出たんです。

佐々木 老人学級をやつていて、嫁いゆとの間がうまくいつてい

神尾 老人学級というほどではありませんが、養老期の託児所をや

る時に、連れてくるのはお年よりなんです。そういう時に気楽に話をしながら、老人たちがお隣さんに対する態度とか、子どもに対するしつけとかをよくわかつてもらうように努めております。

大蔵 幼稚園の保母さんが教育の面で、お母さん方とおしゆうとさんとの間をよくするために骨を折つて、父兄会を、今度はお母さん方いらつしやつてください、今度はおぼあさん方どうぞ、というふうにふれを出すんです。それから遠足の時もそういうふうによつて、うまくいったという話を聞きました。

遠藤 お年よりを全部集めて、社会教育の主事の方を頼んで、お茶を飲みながら、年よりの好きな話から話していただいた、そうしたらたいへんお嫁さんにも協力するようになったり、子どもの面倒もよく見てくれるようになった、そういう例があるんですが、久米 そうすると、結局若い人が都会へ出てしまつとか、農村の生活に魅力がなくなるといふことは、やつぱり年よりに大きな問題があるといふことになるのですね。

(四・五人異口同音に) いやそれは違います。
藤原 一つは政府の施策じやないでしようか。零細農業をなり立たせないというような方針に。その面でほとんど都会へ出ているのなんです。たとえば、理乙科系の学校を出ますと究れ行きがよくなるということ、それが大きな原因ではないでしようか。

石母田 例をあげますと父親が財布を握つていて、若いものには全然何も聞かしてくれない。家計のわからないところで、家を離れて嫁をもらふといつても、もらうことはできない。それよりも自由に暮らした方がいいというんです。そのことから父親も、今までは一家の家長という考え方をしていたが、うちの経済状態や農家経営の方法をみんなにわかつてもらひ、そこで嫁をもらうようにし

生活が苦しいんです。そのうえ次男に八反やつて、こちらが一町

になれば、どうしても食べられないから、次男、三男は出てゆかなければならない。おじいさんたちは今の世の中を見てはいませんが、自分たちは体験していないし、子供たちはテレビを見て楽しめることがあるが、おやじさんたちはこの今の世の生活をどうしていくかというんで、金策で四苦八苦しているんです。そこへもつてきて親たちが都会の風潮を受けて、娘たちのために、経

もなにももらえなくて、反発して、いやいやながら仕事をするんです。そういう点で農村がしつかりしていかないと思うんです。私の実家も農家で、子どもが五人あるんですが、弟たちが教育を受けたために農家を継ぐものがなくてつぶれかかっているのです。その土地を共同化して、ほんとに百姓をしたいという人々にやらせたらいいのです。そんなに零細化して貧乏するより、そのように解決していけばいいと思うんです。

野生活活にこまづいてないからいいんですが、出ていくというのは、食べて行けないから出ていくんです。池田さんの農業基本法というのは農業を企業化して、アメリカ的な農業経営にしようというんですね。大きい農家はそれに応じて利益は分配されるんですが、小さい農家ではその配当を受けるわけにいかないでしょう。そうかといつて、田舎では食べていけないから都会へ出て行く以外ないでしょう。出ていくことに反対しませんが、出ていい道が開けるかどうかそのほうを心配しています。

不 農村に手がなくなつて立ちゆかなくなる、その点どうでしょうか。

藤原 昨日移動会議で「青年の家」に行つた時、青年が農村のしき

時代からのいろいろの借金があるんです。そういう面でも今の収入の全部を生活費にあてることは困難なんです。そのため四苦八苦しているのです。

野田 農村というのは案外見栄つぱりなんです。隣りで耕運機を買えば、うちでも借金しても買おう、あれをなんとか止めなければだめなんです。私のところで家をちよつと直したら、村中でお酒や重詰めを持つてくる、建前で一升瓶を七十本飲んだとか、そういうばかんなところにお金を使つて、へいぜいはお嫁さんに小遣をやらない家がたぐさんあるんです。若いお嫁さんたちはレヂスタンスを感じているのです。

浅野 生活改善運動は一体何をやっていっているんだろうといたいたいですね。

石母田 青年団、婦人団体があつて、そういう問題に対して、組織で解決して対処しています。

草野 私のところは沿岸漁業で、のりの養殖をしたところ、どういうわけか、たねが死んでしまうのです。顕微鏡で見たらたねがっついていないから、つけ替えなさいというんで資金の前でたいへん手間とりまして、新しくたねを入れたところもあつたんですが、また工面ができなくて入れなかつたところもあつたのですが、顕微鏡で見えなかつたたねもあつて収入が多かつたのです。入れた方が不作為だつたので、おやじさんたちが新しいものに對して、不信感があるのです。それに損害をだれが補償してくれるのか、そういう点も考えなくては思うんです。おやじの封建性を理解しながら、子どもの自由を認めるということ、どこで折り合うかということを考えていけばいいかと思うんです。

久米 農業というのは日本の基本的な大きな問題ですから、政府と

うことに結びついていいますので、なんの職業でも同じような生活が保障されているのだつたら、苦勞して有名校に集中することはないと思うのですけれども。

久米 収入だけの問題でしょうかね。

浅野 職業差による階級意識というのが、非常に強いのです。

石母田 収入の問題だけでしたら、商業出でも良い就職ができるのですけれども、子どもたちも、そうはいかないですね。母親から見ましても、同じ人間が、学校を出たのと出ないのではやつぱり違うような気がしますね。

藤原 私は子どもを二人大学へ出してあります。私のところは島なので途中で一泊しないと行けないんです。東京の学校へ行くよりも長崎の学校にいったのですが、思うような教育機関がないので、それで無駄なお金を使つて、苦勞して都会の学校へ出ようとするのです。そういう点で教育施設のバランスといいますが、そういうふうなことが考えられてほしいと思います。

八木 教育差だけの問題でなしに、やはり有名国立大学出と私立大学出を比較して、それで人間の価値を決めてしまふような考え方を持つていく人がこの社会に多いのではないでしようか。周囲の考えから、いい学校に行きたいという意識を強めるのではないかと私は思います。

遠藤 ある新聞に働く青年の投稿がありました。やはり中卒、高卒というのは、雇われてから非常に区別するのだそうです。そういうわけで、どうしても高校くらい行かないとだめだと卑下するのです。

野田 私の工場は、集団就職で中卒でくるんですが、その子たちは家庭環境が悪く進学できないんですが、どうも無節操なこともや

しても、考えたあけくあけく法律を出したんでしようが……それから、農村の青年が非常に非科学的、非合理的で、今もつて子どもを肌につけなければ育たないような考えですが、これは結局生活改善の問題だと思ふんです。これも農村の地域社会の中から、あるいは家族生活の中から封建性をなくしていく、非常にむづかしい問題だと思ふんです。それから生活自体を合理化していけばなんともなるんじゃないか。それからおやじさんたちが、新しいものを取り入れることに不安があるということが、かえつて若い人たちの進取の気象を伸ばしていくというようなことで、農村の問題をこの辺で切り上げたいと思います。

○進学至上主義について

久米 次に、進学至上主義の教育に対する批判、その中に精神児童、身体不自由児童の教育、ほんとうの教育とは何ぞや、ということを考えていきたいと思います。さつきの、青少年の不良化とマスコミの問題のように、やつぱり社会自体がそういうものを求めている限り、子ども自体が世の中に立たない、学校を出ていないことである限り苦勞をしななければならないという点について、大蔵 親自体が、進学率のいいクラスを持つた先生はいい先生、率の悪いクラスの先生は悪い先生と考えているんですね。親の考えをなおしていかなければ解決はつかないでしょう。

神尾 親たちだけが悪いのではないので、やつぱり大学出がいちばんいい生活ができるという社会制度ですね。どんなつまらない人でも、人間としての価値を認められるような制度ができなければとてもだめですね。

山根 これはやはり、有名中学、高校、大学、そして高い収入とい

ります。そうすると、やつぱり教育は受けさせたいと思ひます。

ところが今の母親たちは、その子どもを進学させるのがいいのかそれとも、何か技術をつけてやつたほうがいいのか、後者のほうがいい場合もあるのに、無理に学校に入れる場合がたぐさんあるわけですね。それは親の見栄ですね。ほんとうに能力のある子までが、大学進学なんかばかきさいといつてしまえば、社会は成り立たないと思うんですけれども。

神尾 埼玉の場合、東京に近いから、進学と関係のあるもぐり入学というのが多々あります。学校の地域差があるというのが問題なんです。法律で決まっているのに、犯してもそうするといふことが当りまえになつていっているんですね。子どもがそういうことを当りまえだと思つて成長していくと、やがては秩序を乱す、自分勝手な事をする社会人になるのではないかと心配します。

久米 そういふこともたしかにあると思います。世の中の人々が、それぞれの能力に応じて立派な社会人になれる基盤は、高等学校くらいの間につちかうならば、その後は自分で勉強することもできるし、どうしても大学を出なければというものではないように思ふのです。

斎藤 私の方から大学へ行ったのはこの十年間に二人きりなんです。みんな高校出なんです。中卒の者は専門の職業教育を一年やつて農業につくのです。私の考えでは、金もあり、向学心もある人は進学して、それをみんなのためにいかしてもらふということではないかと思ふのです。

大蔵 受け入れ側の社会が学校に重きをおくということ、それがいちばん問題だと思ふのです。大きい会社に入りましても、大学出、高校出を区別しているんですね。それを現実味味づけている人は、

わが子はけしきとして大学へやらなければいけないというんで、無理してやるのです。

野田 職業選に対して社会の観念が変つていかなければいい学校や大学へやりたいという気持はなくならんと思うのです。

久米 高卒と大学出と同じことではまずいので、出発点は違つても、上がるチャンスを得るという資金体系、みんな同じだつたら今度は、大学へ行き手がなくなるといふ現象が起きてたいへんですから、しかし大学卒でなければという事はおかしいことで実力本位でいかなければならないと思いますが、特に官吏は学歴を重んずるのではないのでしょうか。そうでなくては、木は大臣か局長になれないということでしょう。そういう社会のあり方が有名校へ向かわせるということなんですけれども、どんな仕事でも感銘を見出して、まともな人間として感銘を保持するような生活ができさえすればいいのです。職業の貴せんは問わない、ということが世の中に行き渡らなければ、なかなか進学至上主義は止まらないでしょう。けれども外国の人から見ると、日本の社会の仕組みが奇妙だそうで、実力には無関係にトロコソミたいに上がつていく、非常におかしい事のようにです。日本特有の、そういうことを打ち破つていく必要があると思います。もつと切実に進学至上主義というものを母親の立場から審処できる道はないでしょうか。子どもが夜おそくまで入学試験準備をしますが、その子の体力や能力を越えた勉強をいられて、いい学校にいけということとは、すぐに母親として直しうるものではないという気がするのですけれども、もつと身近な問題をどうぞ。

野田 高校へいくことは、地方だつたらまず普通にまじめに勉強していればそれほどむづかしい問題は出ていないのです。だから、

進学特別指導なんかしなくてもいいのですけれども、少し能力の足りない子どもはまた塾へ通わせるんです。

久米 東京は大変ですよ。気遣いしています。

野田 昨年までは全員入学制でしたが、今年から試験制度が復活したので、けれども現実には全員が入学しております。

青藤 私の部では進学希望の三割くらいしか落ちていません。ところが今はいいのですが、今の中学二年生が進学する時は半分落ちることになるので、おそまきながら学校を建ててもらうようにみんなで陳情しているのです。

石母田 ある先生のお話で進学をあまり重んじない方がいいということでした。それは、いい大学を出て就職しても、短年退職となつた場合、なんにもできない無能力者で退職金を使つてしまつて、あとどうして暮らしていかわからない。つまづいたり、あつちこつちでぶつかつて、きたえられて生活していつた人間の方が最後には勝つんだという話でした。

久米 自分の例を申し上げますと、弁護士という職業で、あの人はどこの学校を出たんだらうというのを校友関係ではいうこともありますが、その人の成金の一部として問題になることはまずないのです。それがいけばん歳じいの官僚だと思ふのです。今でも日本官保主義で、彼所の方には悪いけれども、人民の下僕だという感思はないんです。やつぱりおかみですよ。一生が楽しく暮らせるような有意義な人生を送るためには、一流大学を出なければいけないとはいわなくてもいいんじゃないかと思ひます。

私が進学のことでいちばんいいだと思ふことは、ほんとうに遊び盛りの子どもが、健康な体を作り、そしてほんとうに伸び伸びとしなければならぬ時期に、寝ても起きても勉強勉強といつ

てさせられるのは、割れないような気がするんです。それは一生の間にとり返しがつかないような気がするんですよ。人間として、どこか欠けた、おかしな性格ができるんじゃないかというのを心配するんです。世間でいわゆる立派な人といふなかに、家庭生活が満足に行かないとか、いい父親でないという人があるわけで、そういうとき、その人の受けてきた教育にどこかに欠陥があるんじゃないかと考えられます。いちばんものを考えたり、精神的、肉体的に伸び伸びしていこうとする時期に、受験受験とやられるというのを、社会的にとつとも損失だと思ふんです。

自分たちは自分たちの能力に応じた学校に入つて、人生を大事にしていくように考えますが、みなさんはいかがでしょう。

野田 私の方では学区制を廃止したんです。それは有名高校を出た両親の子どものいい学校へ入れないために、政治的運動をして廃止したんです。

○ 精薄児と身体不自由の子どもの教育について
久米 それから精薄児と身体不自由児の問題をどうぞ。

青藤 私の方に、小児麻痺で身体の不自由な子どもがいるのです。頭の方はなんともないのですが、入学許可されないのです。その母親がとても悩んでいるのです。そういう子どもが一人や二人じゃないと思うのです。

青藤 新潟にそういう人のための施設が一つありますが人員が限られていてなかなか入れないのです。

鈴木 精薄児でも、いろいろ段階があるんですね。施設に入る者は大体入つていますが、それほどでもない子どもの入る特殊学級

というのがあるもので、そういうのをあやしていただきたい。

久米 精薄の子を持つ親は、自分の子をよく見つめ、子の幸福のためにどうした方がよりよく教育ができるのだということだつたら、いさぎよくそうしてあげた方が、実際問題としていいのではないでしようか。

神尾 ケイスイカの方が調査に見えても、かくしてしまふのです。その知能の程度が親に理解できないからでもあるのでしうね。

久米 誰が見ても全然あはれ、というのは別ですが、これは特殊な教育をしなければ伸びていかないかということはちよつとわからないですね。

草野 天草に近いのですが、精薄児が多く、その原因は近親結婚にあるらしいのです。ですから結婚改善をしていかなくちやならないと思います。

久米 いわゆる純粋の精薄児というのは原因があるんですね。梅毒とか近親結婚とか妊娠中絶とかそういう原因から考えて、なるべく数を少なくしていくということも大事なことでと思います。精薄の人たちも導き方によつて立派に社会に生きていくことができるんです。そのためには一般の人にも十分に理解を持つていきたいと思います。

○ 宗教・道徳教育について

久米 それから、宗教教育というのはどういう面から子どもの教育の中に受け入れたいと思ひますか。

山根 外国ではしつけの場とか社交の場というのは、子どもの時から教会をもとにして持たれたということでした。そのためにキリ

大抵我ではないけれど、教会へやっております。そのころ幾度かは「ありがたや神」とかいう歌が流行していましたが、宗教に対する考え方として、母親や子どもが何かを求めるという姿が宗教だ、というように考えました。という話が出ました。

久米 宗教教育が必要かどうか、これは人間の肉面的な問題だから、人にしるわけがないし。

石母田 結局宗教は特定のものを信ずるというよりも、感謝の気持ちと反省という意味で名づけて、地方会議では解決になりました。自由ですから、それは。

青藤 私ども土に生きる人間は、やはり折りが常に必要であると思うのです。それは、土と天が相手ですから、ただ折つては事をするといいことであつて、自然、折りというものはあつてもいいと思うんです。

久米 それは人間の肉面的な問題であつて、神でも仏でも、そういう一つのものの、なにか超人間的な力ですね。それによつて私たち人間の生活における苦悩というものを解決していくという、そういう態度ですね。だからここで、宗教教育が必要かどうかということ論ずるよりもむしろ道徳的なものとしてですね、折りとかが必要であると思うのです。道徳教育もまた復活しているようですが、皆さんが将来どう考えていつたらいいか。

鈴木 一応宗教の問題とからみますが、近くのミツシヨンスクールの学生が、学校でしつけというものを非常に強調される結果、学校にいる時の態度と解放された時の態度とが全然違うということをお聞きしました。何か二重人格の感じがしますが、そんなのは道徳教育の失敗ですね。

久米 道徳教育は必要でしょうか。

子どもが真直ぐ、ゆがまずにいくんじやないか、こう考えるのです。

野田 私も根本的にはそう思うのですけれど、何んでもありますが、それがいいのかというと、ものの本質をごまかしてしまつて、ただありがたがれというようでは変なことになると思うんですよ。

宗教家は、宗教のもう一つ手前で解決できることでも、宗教で解決するようにする。その前にいろんな方法があるのに無理に神や仏様に結びつけるのはおかしいと、思います。

久米 道徳教育は賛成すべきであるとおつしやる方その点どうぞ。

野田 その方法がよくわからないんです。

草野 先生自身迷つていらっしゃるんですが、先生はやつぱり親には奉行させたいとおつしやるんです。さつきの、遊びにつれていくという先生の話を聞くと、やつぱり行動の一つ一つを取り上げて、実際に指導して、そこから道徳を教えていく、私もそう思います。母親でも日常子どものしたことを取り上げて、その態度を教えていくということであれば、それで生きていくんだらうと思います。

久米 さつき新しいモラルが確立されていいのではないかと、お話を聞きましたが、結局一体何が道徳か、ということを見きわめることが大事だと思うのです。道徳というのは固定したものではなく、時代とともに動くものだと思うのです。封建時代は主人とともに行動するというのが職場の道徳だったが人間の尊厳というところの方が、主従の関係よりもっと尊いものであるというふうな、価値の置き方が変わつてきたわけですね。やつぱり一人一人の人間が、人間としての価値を認め合つて生きていけるような社会を作りたいという思想が、その道徳の基礎になつてくると思うんです。世の中をうまくやつていくために、道徳教育をやつぱりど

浅野 必要ではないとはいへませんが、私たちが習つてきた修身が、道徳とか自己責任とか、それから忠孝、そういうものが美徳と考へられた教育が、全部置き換へられてしまつて、何を私たちが自身の修身にしていけばいいかわからなくなつてきているのです。そろそろ私にしろも、それから若い世代の人たちも共通のモラルといったようなものが、生れてきていいんじやないかと思ひます。私たちがのなかから自然に生れてくるもの、そういうものを求める心が、このごろ私にはあります。けれども、それがどんなものかといわれると、ちよつといふできませんが、そういうものを基本にして、そういうところから何か生れてくるんじやないかと思ひます。

石母田 私は、よく道徳教育が必要とは思ひませんが、今の民主主義を、ほんとうに子どもに身に付けさせることによつて、それに代わるんじやないかという信念を持っております。それがうまくいかないの、あつて道徳教育だと強ひけるのはよくない。民主主義を、みんなでもう少し勉強して身に付けるようにしていただくことが、真の道徳教育ではないかと思ひます。

大蔵 私道徳教育というものはあまり賛成しませんけれども、うちの方の学校では、道徳教育の時間に先生は週間誌を配っている。子どもたちは嫌いでいる。またある学校の先生は道徳教育の時間に外に遊びにいって、たとへば子どもが花を折つたらそれはいいけないとか、そういうことから道徳教育を身に付けるように教えるのだと思ひますが、先生もなにかあやふやな方がいるんじやないかという気がするんです。

藤原 毎日の暮らしの中に、ほんとうにありがたい、すみませんでした。そういうことが宗教にながつていっているんじやないでしょうか。たえず、そういうことを家庭の中で養つていくことによつて、

うしても必要だと思ひ一人なんですけれども、昔の修身教育というものは全く不愉快な教育だつたと思ひます。

それで私は、小さい時イソツブ物語のオオカミが出てきたとき、そをつく話を聞いた時、ほんとうのオオカミが出てきたければ、ウソをついてもいいのか、という疑問が起きてきたのです。またナポレオンが子どもに切手を送つてあげた話、その当りまえのことかなぜ本にのつていのか、非常にばかばかしさを感じていたんです。それで、女学校に入つて校長先生の話を聞くにいたつては、どうしてこう偽善者みたいなことをすましていえるんだらうと感じました。ほんとうに新しいモラル、時代に即応したものは何かといへば、何が道徳であるかよく見きわめてやつていくことが必要だと思ひます。

それから親孝行のことですが、私たちが子どもの時に慣えつけられた親孝行というのは、親がとんでもない親であつても、子どもは絶対に従順でなければならぬということでした。親がお酒を飲みたいというのでさかしていくと、俺の水が酒になったとか、母親がほしがるときの話を、息子が、冬なのにさがしに行くとか、雪の中にあつたとかの話など、いかにも人間の人格を無視したおかしい規範のうゑに打ちたてられた話で、それよりも親がほんとうに子どもを愛して育てたら、そこに自然な感謝の気持ちが起きてくるものだと思うのです。いまの物語のようなことを親孝行というなら、学校で親孝行をしないというふうな教育は、どうしてもやつてもらいたくないと思ひます。年とつた人は一応世の中で働いてきた人ですから、それを大事にしてあげるといふことは、われわれ若い者にとつては、当然すべきことなのでしょう。私たちが社会生活をしていくうちに、どういふことを守らなければいけない

いか、といえは一つは生きていくうえでの人間のルールですね。これはやつぱり守る必要があると思うのです。社会のルールというものは、どうやって作っていくかということをやつち立てていくことが、浅野さんのおつしやつた新しいモデルというものの一つの基準になるのではないのでしょうか。私はそういうところから道徳を考えていきたいと思うのです。

長崎の学芸大の先生に聞いたのですが、人間とは何か、という、社会的動物である、しかも教育的動物であつて、道徳的基準というものは一つも変わらないのである。なぜ変つたように見えるかといえは、心理的時代のずれによつて変わるのだ、いつの時代にもモデルはある。しかもそれは時代によつて変わらないものであるとおつしやるのですか……。

久米 その道徳の基準というのはなんですか。

鈴木 ヒューマニズムとか、人間愛とかでしよう。

久米 そうでしよう。ヒューマニズムは新しい考えなので、西洋だつて、ルネサンス以後にでてきた思想で、それ以前にはキリスト教の思想の中にはヒューマニズムというものが、でてきませんでした。けれどもね、だから現在の道徳の基準はそういうものだと思いますよ。しかし過去に現われてきた道徳は、やつぱり時代によつて違つていたんじゃないでしょうか。人間の力によりき道徳の基準を打ち立てていく。それは人間が中心になる、人間が最高であるところの基準は変らないと思います。けれど過去に出てきた道徳が、立派なものだとは思いませんかね。

八木 道徳においても、あるいくつかは不変のものもあるが、時代によつて、変わつていくものもあると聞きました。

山根 地方会議の話し合いで、道徳の基準は、人に迷惑をかけない

ということとで、これで子どもに接しようということになったんです。

久米 いちばんやさしい言葉でいえはそういうことになるでしょう。自分のしたいことはひともしないであらうという、そういうルールをみんなが守つていけば、ひとに迷惑をかけることはないし、ある時は甘んじて受けなければならぬ場合もあるというところだろうと思います。私も道徳教育は必要だと思ひますが、その内容が何であるかということが重要なんで、次の時代の人たちに教える道徳ということになると、すいぶんまだ研究の余地があると思います。

それでは一応ここで、特別オブザーバーの方に一ことずつご意見を願ひいたします。

清水(ガールスカウト日本連盟) 私たちはもつと卒直に、よいものはよいとして認めて、どういうふうなこれからの歩みの中に取り入れて、実践していくかということが、次の世代の子どもたちのためになるのではないかと感じました。

母親が外に出るということは、自分を高めるというより、子どもの母親であると同時に周囲の地域の子どもの母であるというように、一歩外に出れば先輩であり、師であるという抱負をもつた使命が課せられるのではないか、ということを感じました。

道徳教育のことですが、子どもたちにかかわりやすい、一日一冊をスローガンにして、ボーイスカウト、ガールスカウトは全国に共通に手を結んで、あたためたい友情に結ばれて進んでいきます。

大吉(東京地方裁判所) 中学を卒業すれば一応義務教育を、全部終えたので、社会的にもまた、お母さん方にも人格を認めていただきたいと思ひます。高校くらい出ていなければ仕事ができない

とか、能率が違うとは思わないのです。上の学校に行かれない子どももたくさんあるということを忘れないでいただきたいと思ひます。

久米 なにか質問がありましたらどうぞ……

石母田 言論の自由ということとお話し合いをするようにとのことでしたが……

久米 言論の自由といえは——逆に圧迫しようということによつて、すべての革命的な思想なんか、みんな圧迫されるような結果になつてもまずいことですね。こつちを圧迫しようとするれば、片方のよい方も両方切つてしまふというような結果にならないように、言論の自由という大前提をおいて考えたいということで、マスコミの問題からそこにくんじやないかと私は思つたんですけれど……

草野 近よりがたい壁を持つた人々と、グループを作る何かよい方法はないでしょうか。

石母田 そういう人を祭り上げて、なんとかうまくいつているようです。

久米 なかなかまとまりにくいお話し合いではありましたが、最後には締めくくりにして、次の世代を育成するために、婦人に何ができるだろうかということを出して、どういうことにいちばん重点を置くべきか、すぐになしうようなことで——。

山本 大人がいうことは実行が伴なつていないと思ひます。

浅野 動物的愛情で子どもを愛さないで、英知のある愛情で子どもを見守つていきたいと感じました。

石母田 岩手のお母さんたちともつと勉強して毎日の家庭生活、社会の生活において、ほんとうにこれで満足するという行

動、生活をしたと思ひました。地域の施設に、もつと積極的に関力を出し合つて、一日も早く実現して子どもにのしあわせになれるようにしていきたいと思ひます。

遠藤 母親たちがしつかり横に手をつないでいかなければと感じました。

神尾 社会の基盤になるものは家庭ですから、家庭の運営についてしつかりやりたいと思ひます。

斎藤 いつも、自分は親だ親だという頭でいましたが、これからは子どもたちの中にとび込んで子どもをよく知るよう努めたいと思ひます。

草野 みなさんと話し合つたようなことを時間をかけて、落ち着いてやつて行きたいと思ひます。

伊吹 今までの話し合いを話し合いだけでおわらせたくないと思ひます。

佐々木 農村の女性は、もつと勉強しなくてはならないと思ひました。

野田 自分の考えは絶対正しいんだ、というふうな思ひ上がりはないで、グループの中でよく話し合つてやつていき、また地域の

人達と保育所を建ててもらふよう努力したいと思ひます。

神尾 施設のことですが、余裕のある人が、そういう呼びかけをすることは、非常にいいことだと思ひました。

山根 お金のある、レザヤリのある個人主義の人を眼の前に見てどうしたら、自分たちの話し合いのグループに入れたらよいのか、考えておきます。

藤原 子どもは母親の手で育てなければと思ひましたが、施設の話も聞いて、安心して預けようと思ひました。

久米 どうもありがとうございます。話し合いの中から、何かしら収穫があったことと信じます。結論が出なかつたという事で、失望なさらず、この会を機会に今後の進歩、発展をご期待いたしたいと思ひます。

たいへん不行願きでございましたが、長い間ご協力をありがとうございました。

(閉会)

第四部会

北海道	藤田 栄	(農協書記)
宮城	市原 清子	(無職)
茨城	瀧島 正枝	(教員)
千葉	向山 とよ子	(無職)
富山	永井 智美子	(商業)
長野	塩川 きく	(音楽教室経営)
三重	中野 イツ	(図書館職員)
京都	八木 京子	(無職)
兵庫	浜村 和子	(無職)
鳥取	伊藤 道子	(医 師)
島根	石川 美智子	(無職)
広島	川島 晶子	(無職)
徳島	岸 原 子	(電話局勤務)
福岡	水城 千鶴子	(無職)
大分	高司 文子	(会社員)

特別アドバイザー	勝部 真長	(お茶の水大学教授)
	新嘉 喜 静	(沖縄婦人連合会)
	石井 あや子	(婦人民主クラブ)
	小林 時 枝	(日本婦人有権者同盟)
	原 かよ子	(日本青年団協議会)
	仙頭 道	(慶応義塾大学々生)

第一日目 一日 二二・三〇・一六・三〇

○ 問題提起

勝部 みなさんが各地域で大勢の方と話し合い問題を持つてお見えになつてゐるのですから、それを提起していただいた中から、共通な問題、特殊な問題を取り上げましょう。それをしてみますと今度の婦人会議のねらつております次の世代の健全な成長に、いかに私たちが貢献していくかということ、単なる論議や批評でなくつかひことができるので、私たちが地域に帰つて具体的にどうやつて生かしていけたらいいかというところねらいを持つていきたいと、考えております。この部会は五十代が一人、四十代が五人、三十代が六人、二十代が三人ですが、そういうこととらわれずにどうぞ活発に自由に発言いただきたいと思ひます。個人的な御意見もお持ちと思ひますが地域の事情を汲みとられて、イブになつていただくようにおねがひします。

藤田 私たちの住んでゐるところは、大分県の山で、北進道の特長が、あり、開拓地です。赤い土を掘いたりおぼつてゐる生草が上からみません。必ずおかせつばなしということになります。ですからおむつも満足に服替えてやれません。それを可哀想だと思つて親は赤ちゃんを連れていくのですが、開拓地は虫が多く蚊咬にさされる。それじゃかわいそうだということでは生草が上からない。どうしても暮らしていくにはそうやつていかなければならないのです。保育所を建てるには、あまりにもめいめいが離れていてむずかしいんです。隣りとの間が二キロ三キロもあるのです。そういう時に親たちはどうしたらいいか、引越してしまえばいいというかもしれませんが、農家の引越は、土地建物が付いていて、そ

を簡単にできないで、現実に預けてやっている人もいます。それが、それがより悩まなう。

市原 次の世代の成長に貢献するのは、子どもたちのおかあさんたちで、それは家の財政に負担を掛けている農家の皆さんなんです。せつかくの農家のお休みの時には、おしやうとさんといくらかの小づかいをもらつて、どこか町へ親子を連れて出かけるようなことがあつて、乗物を利用するとき、母親が子どもに「おかあさんは小づかい少いから、おまえは今年から小學校に上がったんだけれども、その小づかいとして幼児学級だといつて電車賃にだけいづてくれないか」というのが非常に多いんです。この中から健全な子どもたちを育てるということは、地域の家庭の改革も必要でしょうが、やっぱり地域のおかあさんの集まる婦人会、農協婦人部、その他いろいろの団体のおかあさんの結束した力でどうにか建て直していきたい。このように思つております。

福岡 次の世代の子どもたちの成長をはばんでいるものは、その原因の一つに、おとなを信用しないということが上げられたのではなないかと思うんです。こういう例を持つていてるんですが、PTAの会合がありまして、たくさんのおかあさん方が集りました、その会合が終つたあとの会場が非常に汚れておりまして、生徒が整理して掃除をしていました。その時に、二年になる男の子が椅子を乱暴に扱つていましたので、その子にどうしてそういうことをするのか、学校の道具はみんなが使うものだから大事にしないといつたんです。ちやうど、その子のすぐそばに優秀な生徒がいましたので、お先生の今いつていることどう思う」と聞いたところから、その生徒がはきはき私にいいました。「先生、実はよくたち今ここへ入つてきたら、あまり会場が汚れてるので、おとな

の集りのあとにこんな形に汚れるのが、大人の人は偉そうに、とをいうが、自分たちの集まつたおとなはどんなに汚れてるんで、おとなに失望した」というのです。

岡山 千葉県は京葉工業地帯の造成が盛んで、生活形態が変つてきたので、それが激しく子どもたちに影響をあたえたと思ひます。そのことがたいへん問題で、最近の統計によりますと非行少年なども増加してあります。また漁業の不振から、九十九里などはほとんど貧しくなつて、おとなたちは労働者になつておりますが、忙しさにまぎれて子どもの存在も忘れてる状態です。また、子どもを働かせせているところもありました。それには婦人会も働きかけておりますが、さでどういふふうにしたらいかが解決のメドがつかないのです。五、六年前からすでに千葉県は、重工業が盛んですので、その青少年の問題と取り組みました。私たちの子どもの青少年という社会を構成している以上は、労働者の立場に立つていなくてはできませんので、学校と職場という二つの場から、実体調査をしたんですが、その結論としてどうしても社会の子どもの集団組織の中に吸収する必要があるということで、カールスカウトを結成しまして、盛んに活動しております。

永井 私は次の世代に貢献するためには、子どもの声を聞くことだ、といふことを聞いたんです。その中で中学校二年生の子どもは、毎年婦人週間になると、婦人の地位を向上せよと新聞、ラジオでやかましくいつてゐるが、いくらさわいたところで一軒一軒の家庭がふり返つていかなければだめだと思ひます。しかし何より第一にけんかをしないということです。父母が何かけんかをしていますと、何をしてもおもしろくない。しまいは兄弟けんかをし、宿題もやりたくなくて、とうとうしなないでいつたことがあるという

のです。まして阪としようとのけんかは年がら年中たを聞かぬい。しやうとと縁がうまくいかないので婦人会の会合にも心よくいくことができず、またおもしろいテレビがあつてもよく見ることもできないのです。それで家族全員で嫌をいたわりたい、という声を聞きました。やつぱり私たちがまず反省することが大事なのではないかと思ひました。

塩川 長野市は昔から貧しい家庭が多いようです。小さい企業で商売をやつてゐるが、工場をやつてゐるとか、そういう方がたくさんあります。そういう奥さんたちが中学を卒業して何も知らない使用人に販売のこと、技術的なこと、領収書一枚よく書けないのをいろいろ教えて上げようと思つて、機会をもうけて、熱心に教えてあげたところ、しばらくすると、もつと大きい立派なお店にいきたいといつてやめてしまふし、販売のことに全然関心のないものばかり残つて、仕事もうまくいかぬし、外出するひまもないという声がよく聞かれるんです。もう一つは、のみ屋のお子さんなんか、狭いうちの中でお客さんと応待している態を子どもに聞かれたくないので外に出してしまうのです。たまになら子どももおもしろく遊んでくるが、そのうちに冬は寒くてお友だちのうちで「もう帰らないとおかあさん心配するんじやないの」というと「うちへ帰らないほうがいいから」といふんですが、何かそういう人たちが学校から帰つてくるまでの時間を過ごす場所があつたらいいんじやないかと思ひます。

中野 私は中小企業に働いてゐる人の声をじかに聞きたいと思つておりましたが、その場にならずと発言がないんです。学校にいた時は生徒会、ホームルーム等で意見の発表の経験があると思ひますが、それが一年たてないうちに人前で、発言できなくなつた、

そこは問題があると思ひます。たいていの人は自分の不満をいえないのです。そこで誰かいつたといふことは決していいわいから、みなさんがよくなるんだから」といつても意見が出ない。「それじゃ今度はどうかいふと、会合を持つとかしたとかいふふりにしたらいふですか」と聞きましたところ、旅行にいきたい、といふのです。誰も会合を持つて少しでも教養を高めたとか、いふ発言がなく、旅行をしてパツと氣を晴らしたいという要求でした。若い人だから無理もないと思ひますが、このことについて考えてみたいと思ひます。グループ同志で手を組んで婦人少年室を通じて経営者、企業団体、あるいは労働関係の場合はいろんなその筋に頼めば、いくらでもよくなるという方法を、婦人のグループが手を取り合つて、働いてゐる人たちのためにつくしたいと思つております。

八木 就職することが青年たちを孤立させないで、だれか常に話し合いの相手になつて、広く不満を聞き出し、それを解決してやれる適当な方をお世話していただいたり、またその人たちの交友の場、健全なレクリエーションの場、そういう施設を作つていくはうに努力したら、考えております。それから男の子の成長過程についても母親の愛情が大事だといふことを常に考えさせられております。それで家庭におきましてなるべく話し合いの機会を持たい、そうしてどういふことを考へてゐるか、どういふ希望を持つてゐるか聞き出していくことは、私たち母親の立場にあるもののつとめじゃないかと思ひます。長男が小学一、二年ごろとてもわんぱくで、けんがしたり、正をから苦痛を持つてこられたりしたので、何とか円満な性格にしたいと思ひまして、担任の先生と相談のうへ、子どもをシツと見つめて母親と教師のノート

の交換をいたしました。常々子どもが口にする「行動と毎日書きとめて、それを先生に届け、また先生が意見や感想を書いてくださいました。家庭における母親は、従来の母親のように、主人や老人たちの意見に服従するだけではない、子どものために勇氣を出せ」ということを知らされました。

浜村 第一に家庭内でおとなを信用しないということは、貧乏だから電報賃をこまかすということもありましようが、子どもの成長は喜びながら、子どもで通用する間は子どもの電報賃を払おうというのが世の中のおかあさんの共通性ではないかと思ひます。しかし、そういうことが子どもに知らず知らずのうちに、おかあさんはえらそうなことをいつているが、電報賃をこまかしているじやないかと、子どもは申しませんが親に対する不信がはつきりと種え付いておるんですね。だから、ほんとに英知を持たなければならぬということはおそれるんです。不信を抱いた子どもが大きくなつて欲求不満になつて青年期の反抗ということになると思ひます。青年期の反抗はどうかあかあさんが悪いということをお先生方がおつしやいます。それからうちでも家族会議をやつてみるんですが、どうも立場が違ひます。父親、母親、娘ということになりますと、経済的な責任は父親、母親にあつて、子どもは経済的に無防備で強いことはいえないような状態におかれていて、同じ資格で話し合ひの家族会議ができないわけなんです。どこか家族会議がうまくスムーズにいつているところがありましたらお願いいたします。

伊藤 ここにまいります前に中小企業の印刷工、レーヨンの女工さんと話し合つてきたんですが、あなたたちは何を望むかといつたら、みんなお金がほしいといふことで、食ひ賃金にあえいでい

るのです。前途に何も希望を持たない子どももたくさんいるといふこと。それから少しお金のあふる家の子どもは、のびのびと育てるといふことで、放任主義にしているが、果たして、このことが社会的にいいのか悪いのかわからないといふのです。政治的にも右につくか左につくかといふことで、そのためにどうしたかといふことが私たちの大きな課題になつてゐるんです。婦人団体と青年団体との間にはあひ路がありました。青年団体は私たちに話してくれようとしません。たとえ話そうとしても、だんだんと通じるものが少なくなつていくんじやないかと思ひます。私たちの頭はどうしても古く、若い人たちのところへ食い込んでいく幅広いものでないんです。そういうことに対してみなさんのお智慧を拝借したいと思ひます。

石川 二、三年前に市内で大学生が引き続いて自殺したとあります。遠いところへ大学に出しているおかあさんは心配で心配でねむれないという相談を受けたことがあります。その時感じたことは、親と子どもが違ひ考えを持つてゐるということでした。おとなももう少し勉強して、子どもたちが何を考へてゐるかということ、一端でも知るような努力をしなければならぬと思ひました。私が引つ越していつたところ、いつも部落の子どもたちが十人ほど寄りますが、その子どもたちが、生活は普通ですが精神的にみじめであるといふことをじみじみ感じさせられました。川島 私の知人が、近所の子どもを世話してゐます。熱心に教師を招いてお話しを聞いたり紙芝居を見せたり電話を話して聞かせたりして下さつたが、最初のうちはお子さんの親もでてきて熱心に協力して下さつたが、二年二年とたつうちに脱落者が出て、そういう方たちは今度は協力をしないばかりでなく、「あれは好き

だからやらせておけ」とか「あれはもの好きだから」とか「さういふふうな目つきで見るようになったか、せつかく子どもを守らう」といふことでやつたが、何かやりにくくていけないといふていま

す。脱落するだけでなくて、人の足を持つて引きずりおろすような人々たちを、前向きな姿勢に向きなおさせるにはどういふ対策がいちばんいいだろうか、みなさんにうかがいたいと思ひます。それから直接子どもに聞いた話ですが、保育所で遠足がありました。近所の子どもにも遠足をすると話したら「おかあさんと一緒にいくのはつまらない」といふんです。おかあさんと一緒にいくのはいやだといふのは、おかあさんは自由に遊ばせてくれない。あそこへいつちや危いつていふがばくらだつて危いことも、いけないことも知つてゐる、頭からいけない、いけないといふ。ばくが先生とお話してゐたりお友だちと話をしていると、おかあさんがみんなこわしてしまふと、こんな小さい子どもでもおとなへの不信をこらういふふうに表明してゐる。婦人の英知といふことが問題になつてゐますが、おとなへの不信を、婦人を含めて全般的におとなが反省しなければいけないと感じました。

岸 私たちの職場でいちばん問題になつてゐるのが託児所の問題です。職場の中で女の人が二百四十五〇人おりまして、そのうち既婚者が六〇〇名くらゐいるのです。それなのに託児所といふものは全然考えられないんです。それを獲得しようと思つて、全組合員が一致団結したんですがだめでした。地域でその託児所を作るかどうか、作るのにはどういふふうにして作つていつたらいいか、また託児所、保育所はあつてもその内容ですが、私の職場の人は、子どもが三才以上にならないと預からないといわれ困つてゐるというのです。それから道徳の問題とか、そういうふうな面でもス

コミの問題、その中で子ども自身も「これはいい」とか悪いこととを見わけ力をどういふふうにして身につけていくかといふことをぜひこの機会に話し合つていきたいと思つてゐます。

水城 家庭でも職場でも学校施設においても地域社会でも、人間関係、人間同志のあたかみといふものを、もう少しゆたかにできないかといふことを感じたのです。自分の子どもを通じて社会の子どもがゆたかな人間になるよう、いちばん身近な社会は家庭じやないかと思ひます。次は地域社会だと思ひまして、地域のおかあさんと呼びかけて子どもを会をして、子どもを通しておかあさん方と、手をつないで、自分の子どもと同時に他人の子どもを見つめて、自由に育てていきたいといふのが、私の理想です。それから貧困家庭のいろいろな悩みを聞く機会が多いんですが、親の生活が恵まれないために子どもの生活が暗くなりますので、子ども会はその手段ですが、そういう形でグループの中にその子どもも入れて、遠足にいくなら同じおやつ、同じお弁当で、子どもも劣等感をなくしていく、そういうことが貧困家庭の子どもが、まがらずに育つていくのに役立つんじゃないかと思ひます。なお自分の家庭が恵まれて、一応の線までいつた場合には、その先は隣人を愛せよといふ言葉がありますが、隣りの子どもも同じようにしおわせになつてゐるかどうかといふことをみんなのおかあさんが見てくださつたら、この世の中はもつと住みよくなるんじゃないかと思ひます。

高司 親の職業を継がせようとしても継ぎながらない子どもがおります。それでお父さんが自分の職業の跡を継げなけといふことを強制するので、余計いやになるといふんです。そういう問題につきましても子どもは能力といひますか、そういうものを見極め

なからリードしていく。それは母親なり家庭のものの英知ではないかというふうな感じがします。それから勤労の場について、看護婦さんの場合、正看護婦さんの資格を取らせるために、看護婦さんの仕事をしながら勉強をやらせるが、両方合わせると十七時間、じゆうぶん休暇を取らなければならないのに、重労働、勉強でたぐたぐになってしまふ。そういう、働きながら学ぶという美名の陰にかくれて、重労働と低賃金に押さえつけられているというところを、いつしうけんめい訴えていました。こういうことは、実業学校とかそういうところで看護という科目を設けて、普通の高校に通うようにしたいということでした。それから商店の雇うほうの主婦から発言があつたんですが、事業場でやつている職業訓練は、年少労働者にとつては、その訓練の時間と、事業場に帰つてからの働く時間とで、二重労働になつてしまふ。有ちざかりの年少労働者の健康も害することになりはしないか……それでそういう年少労働者の健康状態、労働時間の問題を考えなければいけないのではないかと。いうことでした。その場合におかあさん方の立場からは、日本全体の子どもをよくしようということとを自分自身の問題としてとらえてほしい、といつておりました。

勝部 これ十五人の方の問題提起がすみました。北海道の藤田さん、宮城の市原さんの問題は、農村の生産が高まらなければならぬならない。生産が低くはくらくら労働をふち込んでも、そこからある程度の利潤が上がつてこない、教育も何も頭打ちになつていくという問題でして、次に茨城の福島さんは、おとなへの不信の問題、向山さんは、近海漁業が不振で、一方、工場増設で金が回つて、かえつて青少年の非行が見られるという問題。富山の永井さんは家庭のあり方、特に夫婦げんか、あるいは嫁しゆ

うとのけんかをめぐるという問題。長野の塩川さんは、事業場勤務における子どもの問題、三重県の長野さんは中小企業と青少年の問題、京都の八木さんは、主として家庭のあり方、人間関係の問題でした。兵庫の浜村さんは、家族会議の工夫、鳥取の伊藤さんからは、婦人団体と青年団体との関係について、お蔭がかりました。鳥取の石川さんも新しい世代との関係について共通の理解の場が失われていること。広島の高島さんは、指導者の足を引く張るという人があるというところ。それから徳島の黒さんからは、職場における託児所設置の問題、福岡の水城さんは、やはり子ども会の問題と生活の知恵、人間味ということもわれわれの活動の支えではないかという提案がありました。大分の高田さんからは、職場の問題を取り上げておりました。ここで最初の会議のねらいにもどりまして、それぞれの角度から問題を検討していきましようか。これからの家庭の問題、第二に学校施設の問題、第三に職場の問題、第四に地域社会の問題ということをやつていきたいと思います。

浜村 私どもの県に青少年保護条例というのがありますが、みだらな看板を出すことはいけません、ということになつております。しかし道にはいかかわしい看板などがあふれておりますし、家庭には週刊雑誌、その他附録ですね、それはマスコットの問題ですが、そういうことも地方会議でたいへん問題になりました。

勝部 保護条例は県全体にですか。
浜村 そうです。昭和三十三年からです。それが果たしてどういふふうに守られているかわからないんです。そういう看板を見ている子どもを見まして、それをどこにいつていつたらいかわからないんです。ですからそういうことなんかもひとつ……

勝部 それから水城さんのある程度生活が成り立つたなら、隣りの子どもにも愛情をかけるようにいふふうに受け取つたんですが、水城 気持ちの上では人間味ということと呼びかけたんですが、自分のところの生活が安定しますと、自分の家庭がよければそれでいいんじゃないかというのがあると思ふんです。自分の家庭は苦しくて追われているから、それで仕方がないと思ふんですが、食べるに困らない程度の生活、そうして少しでも家としてゆとりのあるその人個人によつていくらあつても足りない人は足りないでしようし、主観の問題でしようが大きいえレジャー無料奉仕ということになりますか私自身それでは何とかなしたいというところです。

勝部 つまり家族の利己主義が強い。個人の利己主義でなくて、家族のことはいつしうけんめいおるが、家内安全世間ごたごた主義で、あとは安定モードでテレビを見て楽しんじやおうと、自分のところがよければおさおさ出ていくことばないという……八木 京都では人命を尊重する人間になつてほしいということが出ておりましたが、性道徳転換しますが、マスコットと家庭教育の影響、その対策もどうしたらいいかということをおとで取り上げていただきたいと思います。

母 母親と子どもとの考え方の相異があると思ふんです。それをどういうふうにして、どういふところで共通のものにまとめていくかということをお、加えていただきたいと思います。

○ 家庭内の調和

勝部 では最初のねらいにもどつて、きようお出しになつた問題点を検討していただきたいと思います。第一は家庭における子ども

に、どういふふうにしてわれわれが知恵、英知をもつて貢献できるか、具体的にはおとなに対する子どもの不信があると、それを家庭の中でどうやって取りもどすか、今まで出されたのは、けんかをやめてほしいということ、それから家族会議をどうやったら有効に持てるかということ、それから家庭が同時に職場である場合はどういふふうにして家庭生活と職場生活の調整をはかるかということ、あるいは団体活動をする場合に主婦としての家庭生活というものとどういふふう調整させるかと、こういったものがあるかと思ひますが、それについていかがでしょうか、どなたか高司 炭住街の商ですが、やつぱり炭住街は夫婦げんかが絶えないんです。それはお金が少ないということなんです。なぜお金が足りないんだらうか、おとうさんはいつしうけんめい働いているのに金が少ない、それを夫婦で労働資金の問題の勉強をして、その家庭生活を通じて原因をつきつめていくことができたなら、その人たちが夫婦はインテリでなくても解決できる何かがあるという例があります。

伊藤 私の娘は十八で、友だちとけんかをして帰つてくると、何もいわないの、「そんなにあんたの思ふ通りにはいかないものよ」といふと、「おとなはだれでもそういうことをいうじやないの」といふのです。親に対する不信の言葉だと思ふのです。それでは娘より少し年長で、私が信頼できる友だちにお願ひして話してもらつたところ娘は納得したらしいんですが、よい友だちを作るといふのが大事だと思ひます。

市原 私の主人は非常にうぬが貧しかつたために昔の高等二年も満員に出でおります。学問がないので今もつて自由労働者です。それで、子どもを教育することになると非常に困る問題が出てく

るんです。主人は何かしら私に対して劣等感を持っているような気がするんです。これは子どもを育てるうえにいいかげんいけなと思ひまして、何か子どもが親に相談したいようなことが見えな場合に、決して私から息子に偉そうなことをいうことはありません。そして夜、主人とよく話をしまして、次の日に主人から子どもに話させることにしております。それで夫婦間の波風を立てないようにしております。

水城 結局私は人間味一本やりになりますが、思ひやりでそれなれが嫌、しゅうと、兄弟、親子であつても、相手の立場というものもいつも考えていたら、不和も少なくなるんじゃないかと思うんです。そうしてやつぱり長い人生の中で顔突き合せていけば、意見の相違もあると思いますが、建設のための意見の違いであれば、子どもに影響することが多いと思います。

塩川 私もまったく同じなんです。それと同時に犠牲になつちやいけないと思ひます。お互いに話し合ひ一点張り、互いに進歩し合えばけんかすることはなくなると思ひます。

浜村 話し合いによつて解決できる問題とできない問題があると思ひます。自分たちの力で考え、やつていける問題と、あるいは既成事実のあつた嫌、しゅうと問題は、どうしても自分の入り込めない問題で、そういうところに入つた場合、なかなか話し合いがつかないと思ひます。しかしそれが社会のために子どもたちのためにしあわせだということで、犠牲になつてしまつておるといふことは、間違ひだと思ひます。もし小さい波風を立てても、次の世

子どもの英知を借りた次第です。

永井 なかなか話し合いの時間を持つことができないので、家族会議の場を持たなくても、自分の意見を出したりしてやつております。

八木 私の実家では妹たちがそれぞれ中学、高等学校で、妹たちが家族会議をやつて六人が二人ずつ組んで記録を残して、三つのグループをやつています。私の家庭でもやりたいと思つたんですが、うちは父がとてつ建物的でして、それに主人が高校の教師をしておるんですが、話しがきらいで読書ばかりしております。主に主人の弟たちと夕食のあとなんかみんなが団らん的な気持ちでおります時に話しをして、意見を交換するんですが、父や主人は聞き役でしたが、だんだんこちらの考えを理解してくれるようになりまして。

福島 よく家族会議というお話しを聞くのですけれど、たいへんよくいつていらつしやる家族会議のことは聞くんですが、構成人員各自が平等な立場で話し合いをしているのでしょうか、だれかお話し合いの中に入つていけないというふうなことはないんですか。

中野 それについてですが、私動めておりますのでみなさんのように特に家族会議の時間がないものですから、出張から帰つてきて報告する時が家族会議なんです。長男が中学の二年になりましたが、それが司会をやりますが、下の子どもたちがまるで学校の生徒会をやるような気持ちで発言しております。それから私のう

代に正しい方向づけができるならあえて波風を立てるのもいいと思ひます。

勝部 筋を曲けてしまつてはのちにはお返りがくると。藤田 私どものところはいひいんです。負債が二十万から二十五万はあるんです。北海道の完全原野は六十万町歩からありますが、千円の借金でもたいへんなんです。私どものほうは平均七町五反ですが、今度増反して十町歩になります。日本の平均は一町二反ですが、北海道はたばこがいくつあると七地が買えるわけですが、但し開拓地です。

勝部 開拓農村は要求するところがないわけですね。

藤田 いえあります。

勝部 どこですか。

藤田 相手はお役所です。

勝部 つまり補助金を取るとか。

藤田 そのための事務整理をする人員が不足です。そのためにお役所の人間をふやしてそのための経費をつけていただきたいということ。

勝部 一応筋を通すのが主婦の英知であるということですね。家庭では次に家族会議の問題がありました。家族会議を実際にうまく盛り上げていく、そういうやり方で何かありませんか。

伊藤 私のうちも主人が封建的で話し合いの場が持てなかつたんですが、子どもが私を代弁して父親に申し込んで、このころでは子どもが中心になりまして、家中で話し合ひ機会を作つています。

ちはみんながおふろに入つた時にもやるんです。ほだかになりましてので解放的になるので、効果があります。福島 家族会議がうまくいつて、自分の考えを発言する習慣がついていることは大切ですね。そうならば先ほどどなたでしたか、聞く青少年にいろんな意見を聞きたいと思つたのに話が出ないというふうなことがなくなるのではないですか。

浜村 私がこの問題を提起したのは、子どもにしゃべらせるのではなくて、おとなが子どもと平等の立場に立つて、そういうふうな気持ちで話ができるかということを聞きたかつたわけですね。おとなさん、おかあさんと気持ちを聞いて話し合ひができる家庭があるかということを聞きたかつたのです。なかなか子どものそういうふんいきをこわさないで、おとなが話すことができるかということをおみなさんにお聞きしたいと思つたのです。私の家では、落書き帳をこしらへまして、あなたの思つていることを書きなさいといひましたら、そこに書かれていたことは、おかあさん外に出ないでくださいということでした。それから高等学校になるとなかなか通函簿を持つてきません。なぜ持つてこないかという裏には、点がよくなかつたということもあります。子どもに話しづら

い時は私が子どもに手紙を書いて机の中に入れて、子どもと通信をいたします。そういうことで子どもと交流を持つてきたのです。勝部 残念ながらも時間があります。きょうは家庭の問題に取り組みまして、取り上げた問題は、結局波風を立てないということとだけでいいかという浜村さんの提案に対して、あえて波風を立て

でも、物を進すとが次の世代の成長のために必要だという場合には、そこで主語がしつかりしなければならぬ、そこで主婦の英知が必要なんじゃないかと、という一つの考え方が出されておられます。それから家族会議というものはなかなか持ちにくい。そしてうまくいく場合とない場合があるわけですが、たからといってあきらめないで、そういう家族会議という形式張ったものよりも、夕食の時にそういう気持ちで主婦が運営していくのも主婦の英知で、あるいはあるの中で背中を流しながら話す。それから子どもに何をさせると子どもが喜んで発言する。それから悪いことは発言しにくく、ノートに書かせたりする。また高校生ぐらいになるとうまくいかないと、外にうとめに出るおかしな人は子どもの要求をどうするか。そういう導入の段階ですが、今日はこれで終りたいと思います。

（第一日 閉会）

○ 学校教育について
勝郎 きょうは、学校や施設における次の世代をどうすればいいかということ、話し合いたいと思います。

高司 大分県の地方会議で出た問題ですが、ある方がいふのは、自分のところの子どもは家庭ではたいへん明るくて、ほかからな子どもだけども、成績が悪い。けれどもたいへんやさしい子で、またホットケーキなんか作るのが好きなんです、そういうふうな方向に伸ばしていきたいと思つたがテストの点が低いということ、を考え合せて、学校を出なければ、生きていきにくいという社会に不満を持つている、という発言がありました。

水城 私のところには二人子どもがおりますが、姉は成績がよくなくて、弟はいふんです。その点でいろいろ考えましたけれども、姉はいわゆる社会性に富んでいるといいますが、とても人のお世話をすることが好きです。通信簿なんか学科の成績は悪いが、人物の評価は姉の方が人が多いのです。姉弟が見せ合つたら姉のほうがいい子なんだということで、弟に反省させ、姉は試験の点数をもう少し取らないと、弟に負けるといつたりしておりましたのでうれしい気持ちになつたんです。けれど、今おつしやつたように、成績本位でいくことは親の方の態度にも問題があるんじゃないかと思ひます。

川島 親の態度の問題なんですけれども、私は学校に勤めておりますが、子どもが家から帰つて帰つた通信簿を見ましたら、たしかに二がついていたのに四とか五に変わつてゐるんです。よく見たら自分で書いてゐる。その家庭はおかあさんがすごくやさしく、点数に関してものすごくがみがみいふので、それでついうそをつ

第四部 会 二 日 目

一四日 一〇、〇〇～一七、〇〇

きたくなるんです。「なつを見せたらどんなことをいわれるかわからない。兄弟の手前もあるの、仕方ないからうそをついて見せる。結局母親の英知の足りなさが子どもにうそをつかせて悪くしているというわけです。実際考えなければいけない問題だろうと思います。」

岸 きのうの移動会議で私は上板橋の中学の生徒さんと話し合ったんですが、おとなに聞いてもらいたいという中で、成績の問題が出ました。おかあさんは「上の子はしつかりしている」というようなことをよくいうんですが、そういうことをいわないでほしい。どうしてもひがんだりやうといっていました。やはり気をつけなければならぬと思います。

福島 先ほど成績の問題が出たようですが、おかあさんたちは点がいいとか悪いとかの評価を重視すると思うんです。高司さんがおつしやつたホットケーキを作るのが得意な子どもは職業課程の奥技の面ではいいのでしょうか。何んでもかんでも国語や数学だけが得意な子がいいのではなくて、学校教育はいい条件で就職させる、いい点をとつていい学校へ上げることではなく特性を伸ばしてその子に合った職業を見てあげるのが目的だと思います。私もその地方会議で出たことですが、学校差をなくするというのが理想だというんですけれど、現実の問題としていい学校へ集中するのが親心であるので、それを解決するのはどうしたらいいかというところが問題になって、結局優秀校といわれる学校で優秀な生徒ばかり集めないで、いわゆる問題児なども収容してみたらどうかと、一つの解決方法として話し合いました。

向山 たゞいま福島さんがおつしやつたような方法で学校教育をするのがほんとに理想だと思います。一般的にはPTAでも学校側で

ますが、それがゆがんだ過大な期待だと子どもには重荷だと思ふのです。子どもがほんとうにしたいことは何だろうということを見抜いて、それに力を貸すことが親の目的じゃないかと思ひます。市原 私、今年小学校の卒業式に出席しましたら、校長先生が一人一人を呼び出して卒業免状を渡しなから、一人一人のいいところをほめてくれるんです。あなたは非常に走ることがじょうずで、郡の大会で一等を取った。あなたは礼儀が正しくて、先生方が非常におかあさんが涙ぐんで聞いていました。卒業式が終わってからPTAの謝恩会でおかあさんたちに聞いてみたら、今まではあの子はできる、うちの子はできないという劣等感があつて、できる子どもの親に対してひげ目を感じていたが、それがなくなつてほんとに安心していらるんです。こういうようなことがおかあさんたちの競争意識をなくするとか、劣等感をなくするとか、子どもたちにはよい影響になつていらないかと思ふんです。

勝部 今の学校教育というものが画一的で非常に数を多く背負いこんで、人間的な影響力ではひ弱なところがあるんじゃないかという点が出てきました。日本の社会は、教育という学校教育だけが教育だと思ふくせがあります。教育は学校だけでなく、家庭教育と社会教育と三つの調和がとれていることが、国の教育が盛んだということ、学校だけが教育の場所でないということは、考えればわかつていることですが、日本は教育イコール学校教育で、それは先生におまかせするという考えがあつて、そのために家庭教育、社会教育が育つていないのです。

福島 先ほどの先生のお話しに、学校教育が画一的で人間的な交流がないということが今の教育の欠陥であるということですが、生

も学問だけがほんとうに子どもの幸福の近道と考えておられます。そのほかにばかり熱中しすぎるのです。そのような教育を進めておられますと、中学の義務教育だけで終わるという子どもたちが取り残されてしまう。そこに欠陥があると思ふんです。

浜村 私のところでは三番目の娘はあまり成績がよくないので、高等学校も二流どころを卒業しました。高等学校の先生と相談して、大学へ入れようといつていたんですが、娘はどうしても体育大学へいくといつて、東京の日本体育大学に入つたんです。今は、学校のびのびと運動をし、とてもたのしそにしています。親は子どものためにやつてあげること、ほのかな満足を感じ方なしにしているわけです。

勝部 今のお話しをうかがつていて、教育とはこういうことだといふことを考えたんですが、教育とはエデュケーションといふことが、エデュウスというのは、引き出すという意味のラテン語で、だから子どもの持つているものを引き出すことが、教育の第一に大事なことだといえますね。親は自分ができなかったことを子どもによつて進みたいと親の願いを子どもに押しつけるのです。ところが子どもというのは個性があつて、たとえば梅にしかならないものを桜にしようと無理をする。梅は梅としてじょうぶに花を開き、桜は桜として、子どものペースでいくのがいちばんいいといふことを見抜くことができない。何でも世間的標準で親が期待をかけすぎるといふところに、人間形成の阻害が起こるんじゃないでしょうか。浜村さんはご自分の期待をある程度調節し、子どもさんのペースを生かされたところに、うまくいった原因があると思ひます。親が何も期待しないのもまずいと思ふんです。親から期待されるといふことが張り合いになることもあると思ひ

徒が悩みを持った時に、先生に打ちあけないということがあつて、それについて中学校で懇談をいたしました。その時理由もいろいろ出しましたが、結局先生は信用されないのだと失望したんです。だれに訴すかという問題を起こしたのはおかあさんで、そういう場合は問題を起こしたおかあさんが話しをする対象になるというたんですが、学校教育だけが教育でなくて、社会教育、家庭教育も全部一しよになつたほうが子どもたちを伸ばすというお話しで、先生は信用されない場合も、おかあさんが信用されているといふことならば結構だと思つて意を強うしました。

川島 私福島さんと同じようなことがあつたのですが、学校教育が画一的になるといふ大きなガンは、すし詰め教育で、五十人からの子どものつれていると、一人一人に当たるといふことは絶対できないという現在の状況なんです。そういう事も理解していたのかねと……

勝部 それは、理想的な学級は三十人です。一人の教師が一人一人を見て、一人一人に当たつて話しができるという範囲は、三十人か四十人でしようね。文部省の今の計画では五年後にはすし詰め教室を解消して、四十人の教室にしたいと発表していますから、徐々によくなると思ひます。それだけにまた家庭で、おとなが子どもから信用されていないといふことの二つは、やはり教育者としての資格が親に不足している、特に父親に不足しているといふことじゃないかと思ふんです。教育者というものを培えますと、民法八百二十条にちゃんと規定してありますが、教育の権限義務は、親権の中に、教育、保護、子どもを守る、未成年の間守るといふことを規定しているんで、教育権の根拠は先生にあるわけではなく、学校は親の教育権の委託をされたものじやな

いかと解釈しては、その教育者を持つてゐるのが親だといふ自覚が非常に大きい。特に父親に大きい。教育は学校にまかせ、足りないところは親がやれということ、実力がないから自信もないんで、肩をいかにして見すがされてしまふのです。やはり子どもの不信を回復する道は、少なくとも、ものの考え方とか、人間の生き方というもののについては、親がある程度子どもの話し相手になれるというだけの勉強をしなければいけないんじゃないかということを感じました。

向山 私のはうの地域の青年たちと話し合ひをしたら、みんながまずいつていたことは、親が、ただ一流会社就職すればいいんだという考えでは、就職しても一生過重な負担を課せられていて、耐えきれないといつていたことと、それを親に訴えたいといつていました。

勝部 そこで親の考えの中に、自分が教育する力がないものですから、学校にばかりまかせてしまふわけです。そして日本の社会全体が、いい学校を出た者がいい教育を得たという肩書き尊重、学歴尊重の考え方がありますね。だけどそれはおかしいんで、今いつたように、梅は梅になることがいちばんいいことだとすれば、素直で明るくてホットケーキを作ることじやうずな子どもは、いわゆる勉強よりも手先で、コックになれば一流のコックになるかもしれない。誰も彼も高等学校へ行つたり大学へ行つたりすることはないと思います。

高司 私がホットケーキのじやうずなお子さんのことをいい出したんですが、その子のおかあさんは梅の花だから梅の实を作らせようと思つてゐるんで、そのような子どもの特性を伸ばしていきないうということに気がついてゐるんですが、おかあさんが家庭でや

つていける世界もあると思ふんです。それは社会の現実が、やっぱり成績のいい子を優遇するといふふうになつてゐるでしょう。それでその子が社会に出るまでに、社会が価値づけようとするものと、おかあさんが価値づけようとするもののギャップがあるんです。そのところを、おかあさんが家庭の中で子どもさんを導かれようとしても、その力にも限界があるんじゃないかと思ふんです。それで、成績のいい子が価値が高いというふうな社会の現実も直していかなければならないと思ひます。

勝部 それは程度の問題もありますね。あまり読み書き計算もできないようじやあ、やはり困るんで、ある程度基礎的な学力、少なくとも義務教育が要求している程度の学力がなければ、新聞を読んでも、社説も論議も、政治面も経済面も読めないというのは選挙をする時でも公平な各政党の理解ができない。それで正しい選挙ができない。それで自分としても欠陥を生ずるので、義務教育、中学までの学力に達していないと困るということです。

高司 学校で点をいわれるために、かえつて勉強することがいやになるということもあり得るのじやないかと思ふんです。

勝部 そこはやはりおかあさんが賢明で、たとえば算数は弱いが、国語はいいんですよ、一か所自信を持たせると子どもは自信をもたして、他のこともよくなるということもあります。そういう教育法を家庭で補わないと学校のペースに引きずり込まれてしまふわけです。

水城 私のところの、上の子が、ホットケーキの方ですが、自分では赤ちゃんが好きでたまらないので、産婦人科の看護婦になれば年中赤ちゃんを抱いていられるし、あるいは保母さんになつたらよいと思ふんですが、反面六十点なんか取つてくると、親の心お

だやかでないんです。母親に自信がないんです。

○ P・T・Aのあり方

中野 私はP・T・Aが、学校内で子どもたちにどういふ影響を与えてゐるかということを話したいと思ひます。たとえばP・T・Aの参観日におかあさんたちが衣裳比べのようになつてゐることをよつて、子どもが劣等感を持つたりします。どのような影響を与えてゐるかというのをもう少し反省する必要があります。どうしようか。それからもう一つ、現在のP・T・Aが、本来のP・T・Aの姿かどうかということをおかしいと思ひます。

藤田 学校の先生にうかがつたら、このごろのおかあさんは熱心すぎて、学校のことば学校にまかせてほしいといつてました。

向山 P・T・Aと子どもの学力が進んでゐることはたいへんいいが、果して社会人として適切な人間関係のできる子に育て上げられてゐるのかについて、疑問をいだいてゐます。私の例を申し上げると、先生が家庭訪問にいらして、「お宅のお子さんは私のクラスの問題児だ」とおつしやつたんです。何が問題児か、よく考えて思ひつたことは、私の子どもが小さい時に、人まねからドモリになつて、それが余りにも大きな障害で、だんだん発言が少なくなつて、自分の行動に責任を持たなくなつた。どうしてもこの子を明るくしたいと話し合つた結果、この子の好きなことをやらせようということ、前から好きな伝書鳩を買つてあげたら、あるいは喜んで仕事に熱中するかもしれないと買つてやりました。そして伝書鳩を通じて、仕事をする熱意、やり通す熱意が自信になつて、学校の勉強もやり成績もよくなりました。子どもをよくするといふことは、子どもの悩んでいるところを見付けて、それを解

決してやることと、その子の持つてゐるよいものを伸ばしてやる親の真心であると思ひます。

勝部 やはり子どもに自信を持たせて、あまり同一化してしまわないうことが成功なつたんだと思ひます。先程提案された、P・T・Aというものが、おかあさんの衣裳比べになつたり、自分の子どものことでうるさく要求するといふことで、学校に行けば学校の先生にまかせてくれという例はありますが、それ程ひどくはありませんか。

伊藤 それ程ひどくはありません。

福島 そのことでは、もう少しよく思つていただいていいと思ふんです。もつと関心をもつていただきたいと感じております。

勝部 藤田さんのところは特殊なケースかもしれませんが、それはP・T・A内部で是正していかなくやいけないでしょうね。

八木 私の子どもは小学校では、P・T・Aの時には婦人会の会服を必ず着て行くといふきまりで、衣裳比べなどの問題はないんです。それからあまり教育熱心すぎて困るというお話しがありました。ある先生が、学校にまかせつきり、せつかく設けてある月一回の参観日にも入学以来いらつしやらない方がいて、そして学校の先生がどうのこうのというのが困るということでした。それから先ほどの、父親の教育ですが、京都の地域集會の時に、父親の問題をどうしたらいいかという話が出ておりました。京都の一部では、日曜日に授業をして、その時は父親が授業参観して、効果があつたといふことを聞いたんですが、それをうちの学校でもやつてもらいたいと思つてゐます。

福島 おとうさんが素直にお出になるんですが。

塩川 私のところはみんなやつております。その日はおとうさんが

こないと思身がせまう思ひます。

八木 ちようど保育園の入園に主人が仕方なく行きましなら、百六十何人のうち男は四人くらいで、とても勉強になつたそうです。

勝部 父親をこの父兄会に、いかにして出すかという問題らしいですね。フランスの心理学の本を読んでいたら、父親は朝おそくまで寝ていて、学校に出かけるまで起きないで、夜は寝てから帰ってくる……しかし寝てゐる間も、「何々しなさい」とどなつてゐる声だけで決断と勇気を学ばうというんです。父親のない家庭は、男の力がしなないというだけで、勇気・決断を学べない。従つて母親が代りになるからきつくなるということです。それくらい父親の影響力が大きいということを目覚めすれば、大きく立ち直ると思ひます。

浜村 今のF・T・Aの問題ですが、それはFの方に、Tの方にも問題があるんで、ある先生は、あまり干渉してもらいたくない、学校にまかせてほしい、というし、ある先生は、もつと来てほしい、というし、そこに問題があります。それから父親学校ですが、アメリカでもそういうことはなかなかできにくいということ、日本ではF・T・Aが満足してまだ間がなく、母親自身がそういう状態ですから、父親はなかなかだと思ひます。時をかせいで若い父親に呼びかけて、そういうプロセスを作ることが大事です。男の方は困つたことに、權威とお金に弱いものですから、P・T・Aの席を利用して、熱心に来てゐるなあと思ふとその地方に立候補するところがあるものだから、そこをところをよく見分けて、そういうことに使われないうちに、ということも女の英知で判断していきたいと思ひます。それから子どもを教育するの、何かソロバン勘定をしてゐるんじゃないかということを、反

省しなきやならない時間と思ひます。何か勘定してゐるらしい自分を見つけて、さびしくなることがあります。

勝部 おつしやる通り、将来の自分のために子どもをある程度手段に考へてゐるという事です。子どものため、子どものため、と思つてゐても、その底辺には自分ということが坐つてゐるんじゃないかと思ひます。

八木 子どもの教育を、投資だという気持ちが、母親の中にあるのではないかと感じます。

勝部 時間の関係で、今まで学校教育を中心にお話ししましたが、もう一つ施設ということが残つてゐますので、これも合わせてお考へいただきたいながら、発言させていただきます。つまり、施設というのは、最初に岸さんからも提案ありました育児所、保育所ですね。あるいは幼稚園の問題、あるいはその他の施設ですね。

○ 学校施設の 問題

伊藤 私、医者ですが、身体虚弱者、身体障害者、精神者を収容する、あるいは教育する施設が日本には少ない。少ないというより施設がないところがあるんじゃないかと思ひます。

塩川 きのう愛育園の養護学校を見させていただいたんですが、この中に入れば、精神であつても能力一ぱいな教育を受けられるのに、親は恥かしいと思へ、世間体を考へて、家の中にかくして置く。それが、施設の伸びない原因だとかがいりました。

勝部 それはやはり、親中心の考へですね。子ども自身の次の世代の成長を考へれば、それに向いた教育をしてもらうのが、先々のためにいいわけです。

福島 それから、意欲があつて進学できない子どもの施設を考へて

みたいと思ひます。地方会議に出ました時に、農村の方のお話になつたことを伝えたいと思ひます。その方は進学したい希望があり、能力もあると思つたが、家庭の事情で進学できないので、中学でやめてゐますが、農業が忙しくて通信教育も受けられない。馬車馬のように働くだけの生活をどうしたらよいか、と訴へてゐましたが、そのような人たちに何かの施設を与えてあげたいと思ひます。

向山 非行少年が青年になると、収容所から帰されるのですが、家庭や社会に、その青年の受け入れ態勢ができてゐない場合があります。それから収容所に入ると、かえつて悪くなるものもあります。勝部 まあ、少年鑑別所なんつてのは、行つてきますと、かえつて入れられる前よりも悪くなるようですね。よくなるよりかは悪くなつて出てくるということですね。

向山 温く迎えてくれませんので、家へ帰つてくるともつと悪くなります。

藤田 道徳不感症という家庭がありますから、そのままおいていいかどうか問題です。

伊藤 そういう保護施設が、小さな費用でまかなわれてゐることが問題です。

浜村 私の地区には、肢体不自由児、小児マヒの施設があつて、最年少は小学校からで、小児マヒになつた子どもを、治しながら義務教育を与えることに、涙ぐましい努力を払つてゐます。それから、そこに働く先生の問題ですが、第一は先生の質の問題だということです。どんな子どもでも、先生から受けるものは大きいから、先生はいい方を施設に派遣していただきたい。ところが、いま来ている方は立派な方で、その方が重労働に耐えてゐる

が、ほんとうに労働以下のお給料だというんです。適切でない給料の中でいつしうけんめいに献身的な働きをしてゐるというところです。それが、それ相応に優遇していただきたいと思ひます。小児マヒから子どもを守る会を盛り上げて、政府の予算や、薬品の無償交付までおあさんたちとやつていききたいと思ひます。

勝部 いまうかがつていて感じたことは、みなさん方、いろいろ希望意見があるが、われわれの手ではすぐにはできない、たとえば国会で代議士にも発言して議論してもらいたいこと、明日からでも帰つて地域で実践に取り入れられる問題とにわけて考へていきたいと思ひます。単なる婦人評論家オプザーバー、アウトサイダーとしてすませないように、できるだけ地域で実践に移せる問題にしようと思ひます。

伊藤 地域に帰つて話しを進めていくことも大切ですが、私たちがしつかり話し合ひをして、これだけはぜひ国家に、政府に訴へたいことも持つてゐるんで、私たちの訴へも聞いていただきたいんです。

勝部 どうなんですか。そもそのねらいの、次の世代の為に婦人の英知を貢献するということですが、英知というのは何ですか。ここは、おそらく私の理解では陳情の場所ではないと思ふんです。意見を交換して世論を高めていくことは、日頃そういう考へで各地域各家庭で生活していくこと、そして教育の理解をここで持つということが第一のねらい。そしていい知恵があつてそれが実行に移されるのが第二段階じゃないかと思ひます。時間も迫つてまいりましたので、次に進みたいと思ひますが、ここで特別オブザーバーの方にご発言いただきたいと思ひます。

石井(婦人民主クラブ) お話しをうかがつておりました。感じた

ことだけを短い時間に申し上げます。ここにいる婦人の方は選ばれた方で、人数も割合を高めるためにいい人数ですが、問題は、問題が流れてつながつていかないと、一人の方が発言した内容をみなさんの問題として発言いただきたい。たいへんいい問題が出ておりましたが、たとえば母親たちがたいへん成績主義に抵抗を持っているが、母親には限界があつて、社会のそれに対する考え方を直していかなければ、やり過ぎることができないということが、お二人の方から出ておるわけですが、それを一体どうしたらいいかということを一しよに考えていただき、たかつた。先生が親切にやつていただくのはよろしいですが、少し先生が結論を出しておしまひになつて……そうではなく、みなさんの方から結論を出していただいて、そのことを助言していただくというところに持つていった方が、皆さんの話し合いになるんじゃないかと思ふんです。それから一昨日、母親が勝利にならないで、波風を立てても勝利にならない決意した方がよろしいという発言がありました。それは私が、父と母の不和の為に苦労しつづけたので、どんな波風が立つても筋を立てるということは大賛成ですが、それを女がしますのには、周囲の支えがなければできませんし、また、生きていくことが保障されなければならぬので、就職の自由もなければならぬ、再婚の自由も理解もなければならぬというところに話し合いが進んでいかないと、ここに物足りなさを感じるのです。ここで解決できないことは、国内の大勢の婦人の力を借りて、政府を動かすというところに持つて行きたいと思ひます。

勝部 大要結構なご忠告をいただきました。控室で助言者同志集りまして、去年のように、生活時間をどうするかという具体的な問題と連つて、テーマが抽象的なものですか、これをどうしほるかと、かなり助言者の方が選択してやらないと、なかなか深まらないんじゃないかという悩みを持つたのです。その点が調節がつかしいと思つて、多少私の方からきつかけを出したようになっています。このあとの時間で親が子どもの成績を気にするという問題、社会全体が成績主義ということをどう調節するかという問題を探めることにしようか。それとも、それを結びつけて他に問題がありますか。

○成績主義の風潮

岸 普通の学校に通える子どもは幸福で、それより特殊な学校とかいろんな施設とかの方がもつと問題にされていい時機じゃないでしょうか。それを討議したいと思ひます。

藤田 家庭が非常に教育不熱心というが……不干渉で、全然教育ができない、それで不良化してしまつた子どもがあるんです。それを放つておいて、いいとは思ひません。さつき先生のおつしやつた、子どもの成績に対して理解があつても、社会で限界があるという問題を深めていいと思ひます。

勝部 普通の学校にいけない子どもの問題ということもありますが、極めて広範な共通問題として、成績主義の考え方をどうしていくか、これを深めれば普通児でない場合でも連関して出てくると思ひます。

伊藤 さのう成城学園でガールスカウトの方にお話した時に、ガールスカウトの発言の中に、私たちはここへ来て非常にノビノビとした、官立大学に行こうとしてガングツしているような人は、全然私たちにはお話しにならないという発言があつたんですが、子

どもに学校を退校させるということが第一条件であろうと思ひます。まあ、点數主義主義というのは、今の社会機構が、成績がよくなければ、官立あるいは有名校に入らなければ、私たち親の子どもに対する希望が満たされないというところに、親の悩みがあり、盲点があると思ひます。地方の大学でいくらがん張つても、地方でも会社の幹部は全部中央からきた方がなつて、地方の大学生は、ヘンなところにとられていくんです。それがどうもなつて得できないんです。やつぱり社会機構がまちがっていると思ひます。

浜村 今の社会の成績主義を変える特効薬は、どうやれば出るかというところが問題です。そのために社会機構の無駄ということも出すことは結構ですが、決して特効薬的なものは見付からないと思ひます。

川島 特効薬を見つけることはむづかしいが、婦人の英知で解決できることで、たとえば越境入学の問題も、有名校にその子がぜひ入りたいといつて入る場合は少なく、父親や母親が、あそこに入らなければならぬんだから、幼稚園の時からさあ行けといわれて、自分は近所隣りの子と近所の学校に行きたいと思つても、そんなさやかな夢はこわされてしまふ、ということも婦人の英知で少なくなるんじゃないか、そういう英知の働かせ方によつて少しずつ懸念を切りくずすことができるんじゃないか、みんながこういう気持ちを持つたらいいなと思ひます。

中野 三重の場合は、今年学校の定員をへらしたんです。それでおかあさん方が寄りまして、公立校へ入れたという願いを県の文教委員のところに出し、結局成功し、百人くらいの人が公立に入る結果になりました。私たちはこんなに簡単に成功すると思ひなかつたんですが、今年のごとき自信を持つたのです。そのことが

特効薬にはならないが、一部分を果しているということがあるんです。

向山 母親たちが、あまり子どもに依存して、自分の余生を子どもに頼ろうとする考え方がそういう結果になるんだと思ひます。自分が果せなかつたことを、子どもを通して何とか果したいと、それで期待をかけすぎて子どもに負担をかけるようになるんです。昨日三共の工場を見学しましたが、労働課長さんに最後に、若い人たちの教育法について困難なことはありませんか、とききましたら、世代がちがうのでたいへんむづかしい点がある、だから学校で社会性を身につける教育をしてほしいといわれて、考えさせられました。そこに矛盾があるんですが……。

勝部 社会性のある卒業生がほしいということですね。

向山 そういう要望をされていながら、やはり学校が……。

塩川 先日長女の中学の入学式について行つたんですが、今年は昨年に次いで多く、君たちは、とにかく勉強して好きな上級学校に行きたい、行きたい、とおつしやつたんですが、では進学できかない子どもを先生はどう考えているのかと不安の念にかられました。たくさん入学すればいいというのは間違ひじゃないかと思ひます。

勝部 それではどう考えればよいでしょうか。

塩川 先生はもつと人間形成ということも考えに入れて、たとえば質が悪くて進学できない生徒があつても、先生の質がそれによつてさがるということはないんだと自覚していただきたい。

勝部 そういう人間形成ということは、親こそ子どもの人間を育成するのであつて、教科の高いところは学校にお願ひすると。

塩川 いくら、成績にこだわらなくてもいい、といつても、子ども

だち同様にいますから。

福島 今の塩川さんの、先生があたりすぎるといふ意見は、おかあさんが結局進学率のいい先生がいいということと要求されるから、そういうことになるんです。

藤田 長男が高校三年になりましたから、そろそろ就職の心配をしまして、ある知り合いの会社にどうしたらいいかとききましたら、特技をつけてほしいといわれました。小さいうちから子どもの能力を見きわめて、性格に合った技術を早くからアドバイスして、そうして就職するといひんですね。会社の方できつと喜ばれると思うんです。

浜村 いい学校ということがどういうことかということを、母親の一人一人がもう一ぺん考えてみたいと思います。ほとんどの学校で入学式にそのF・Y・Aの会長さんが、みなさん方には有名校に入つたからともしあわせだ、その進学率は何%でこうこうだと、はばかりすいていて、母親たちは、まことに満足していた、と。こういう母親がたさんいる以上は、おそらく解決できないと思います。そうでなくて、子どもには何がよいのか、ということをして一人一人が考える時に、解決できるんじゃないかと思ひます。結局今年のスローガンにうたわれているように、婦人の英知にかえつてくるんじゃないかと思うんです。そういう社会に早くしたいと勉強しています。

市原 私、卒業期がきまして、就職の時機になると考えるんですが、いつだったか、秋山ちえ子さんの書いたもので、私の子どもは今度高校卒業して、大学へは行きませんが、望みがコックさんなんです。そして、おいしい、どこの誰にも負けないライスカレー屋さんになるというて、というんですね。それで家族の皆が門出

を拍手で送り出したというのを読んで、非常に感服しました。私たちがそういう気持ちになつたらいいと思ひます。

藤田 先生は浜村さんのおつしやつた、有名校で進学率がどうのこうのといふことになつていっているおかあさん不幸だと思ひますが、実際には、それを乗り越えて、自信を持てるようなところに英知があるわけですが、こういう自信を持つにはどうしたらいいでしょうか。市原さんのおつしやつた、コックさんの技術で、職業人として一流になればいいだろうというふうな……

市原 一流といふのか、おもしろくて多くの人を喜ばせるような職業。自分の仕事に誇りを持つてということじゃないんですか。

勝部 そのところを掘り起こして、成績評価でない日本の社会にするんだといふことはどういふところから出てくるんですか。

塩川 名コックさんは結構ですが、大体職業によつて収入の差が著しいところから一つの原因があると思ひます。職工だつたら日給いくら、と。いくら努力してもそれ以上収入が得られないということになれば、生活のゆとりはできないんで、精一ぱい働けば安定した収入が得られるといふところまでいかないとだめだと思ひます。

勝部 そうしますと、日本の社会ではお金をたくさんかせぐことが一つの基準になつていて、低い収入では希望が持てない。そうすると進学の高い学校を出れば、収入が高いということになりますか。

伊藤 大企業になれば、身分の保障と社会保障と、将来の見通し、老後の安定ということが得られるわけですね。

高司 世の中の人に喜んでもらえる、そういう面に進むといふことが、私たちのほんとうの社会モラルだと思ひます。たしかに立

派な労働基準法、教育基本法、憲法もあるんですが、そういう中で現実を守らうとするものとのギャップがあるんです。私どもはもとより求めるのは、やはり喜んでもらえるような職業について、ちゃんとやつていきたい、そういうモラルは既成のものの中に当てはまるのでなく、気が付いた人がそれをしつかり守つていこうとすることによつて、だんだん多くの人にわかつてもらえるようになるんじゃないかと思ひます。

勝部 今高司さんのおつしやつたことからいきますと、婦人の英知は、何が人間の幸福か、ということをしつかり見極めることにあるんじゃないか、何が人間の幸福かという、モラルだと思ひます。仕事に精一ぱい取り組むことになれば、生活が安定し、保障されるように、憲法なり何なりができていて、それを実現すればいいんだと、いふことになりませんか。

高司 それを守ろうとするそのことに、かなり、抵抗があるといふことでも、そういう現実があるといふことに気付いている人が手をつなぎ合つて、憲法なり、教育基本法を守つていくように育て上げていくことがいいんじゃないかと思ひます。

向山 個人的な幸福に貢献するといふことから、社会的に貢献するといふことになりませんか。先日、県の婦人会議で出たんですが、積極的な個人主義と、消極的な個人主義と、道徳的な社会主義と分けて、昭和五年から統計をとつた大学の先生の表を見たら、積極的な個人主義は、お金と名誉というものを望むんでしようが、そういうのが中位で、のんきに暮せばいいという消極的な個人主義が絶対に多いんです。それが、高校生で調べてみたら、道徳的な社会主義はずつと少なく、それが現代の風潮だと思ひました。このような社会の現実を見ます時、私たちにできることは、

努力ですが、地域の中の集団組織の中で、あるいは職場の中で、ほんとうに一般教養といふことを勉強して、家庭での子どもたちの教育では、そういうふうな、しむけることが日々のできごとじゃないかと思ひます。

勝部 今の向山さんのお話しは、高司さんのお話しとつながつてきますね。結局何が幸福かという場合に、自分だけが楽に暮せばいいという消極的な考え方ではなく、積極的に社会のみなさんと一緒によくなつていくんだという考え方をそこに求めていくと、われわれの目が変つていかなければならないと考えた場合に、さつきの進学率のいい有名校ばかりを目ざすということがなくなつてきますか。

福島 有名校というレッテルのあるところに集中することはまぬがれないと思ひます。どうしてレッテルがついたかといふと、その学校の設備がいいといふことで、能力はそんなに違わないと思ひます。いい設備のあるところはいい指導ができるというところに集中するんじゃないかと思ひます。私たち教師の現状を申ししますと、マシンや調理施設がないんです。そういうところにも力を分けていきたいような気がいたしますが。

藤田 有名校有名校といつてゐるのは、親たちの方じゃないかと思ひます。子どもたちはもつと積極的で、具体的で、たとえば高校を卒業するとブラジルへ行くといひますが、母親が理解できるかどうかと私は考えております。

八木 有名校に集中するのは、親の考えが古いからで、とにかく上の学校へやつて教育をつけたいといふのはこの時代では必要ですが、今の若い人の中には、現在楽しかったら、睡眠時間を短くして語学で上の学校に行かなくても、早く社会に出てお金をも

う付たいという考え方が多いと思うんです。野球の選手とか相撲取りとか、莫大の興味が何百万円とか、賞金が何本かつたとか、という、社会の一面を見せつけられたために、お金が万端だという考え方があんなにやないかと思うんです。それを正しい方向に向けてやるのが母親の英知だと思います。

川島 今の社会は、人間が生きていることの価値を忘れすぎていると思います。人間が真に生きる価値を考えると、婦人の英知を働かせる場所や時があると限ります。

勝部 私は二十年前、東京女高師、お茶の水大学に勤めていたが、一番二番の成績のいい子は、卒業して結婚生活をして、うまくいかない。不幸になる、という傾向があります。むしろ成績の下の方がかえって楽しくあわせにいいおかしさん、奥さんになつています。正確なパーセンテージは取っていませんが、長い経験で、あまりガメツク成績を気にした人はそういう傾向があります。私は東京大学を出て、友だちを見ていて、いい成績だつたものは、社会に出て意外に伸びていない。むしろのんびりやつて、あまり成績を気にしなかつた人が、かえって社会で伸び伸びと仕事をしているというのを見かけます。それはやはりバランスのとれるということ、いちばん大事なことで、知能でなくて知恵、英知はそういう平衡感覚が必要じゃないかと考えます。で、成績成績といつて一辺倒に走るのは、すでにバランスがくずれていることです。人間としても片寄つたものが出てくる。そういう者は、最初は引きついても、長い間の働

きというものはそういうところからは出てこないんじゃないか、と考えます。勝部さん、今の幸福とか、ほんとうの英知というものは、いま申しましたようなところでありやしないかと考えます。婦人の英知というものが、特色を發揮するのは、やはりそういう均衡のとれたことを見抜き、直観的につかんでいくということにあるんです。そこに今度のテーマの婦人の英知というものがうたわれ、根拠がありはしないかと、きのうきょうお話し合いをしながら感じております。決して結論を先きにだしていきやありませんので、お話し合いの材料として、お話し合いを展開していただきたいと思います。これで午前中の話し合いを終わります。

○ 勤労の場への貢献について

勝部 それでは職場、勤労の場における次の世代にどう貢献できるか。今までの問題とつながりながらもあつていますが主として職場、勤労の場の問題を取り上げてまいりたいと思います。もちろん、どなたからでも……

中野 私、きのう日本橋で商店員の生活についての見学しました。働いている女の人が、夜間の大学に行きたいのだが、その職場が六時までで、学校に行くのに一時間おくれで出ている、そのことを職場の上の人にも後輩にも話さずにいるという報告がありました。私もその子どもが自分の子どもであつたら、その子どもの要求をきいてやると思うんです。ですから主人の方に自分の子どもだけだに、その他の子どものためにも、この道を開いてやりたいと思います。また働いている子どものグループを作

つて、グループで相談したことは取り上げていくらかでも改善される方法をとつていきたいと思います。

福島 勤労意識の問題について、今の若い人たちは勤労意欲、道徳観念の面で欠けているというように、地方会議で若い人の口から出ました。このような反省が、若い人から出てきたというのは、むしろがやがや希望にみちあふれていると思うんです。

藤田 私、お店の店員さんの場合に非常に大へんだと思うんです。家族的にお小遣いをもつて、二年三年とやつておきまして、それがどうなるでしょう。退職金もありません。お店をもたしてもらつて約束ごともないんです。女中さんも同じようになると、思います。……北海道の場合は、酪農場の住込みお手伝い、奥習生というような形になります。これも退職金もなく、月に三千円五千元ともありますが、あと定期の昇給もないんです。

高司 私のグループでも会議の時に出た問題ですが、中学を卒業して看護婦になると、看護婦の仕事させられながら、看護婦の資格をとる勉強をします。勉強の時間を合すると、一日十七時間だといふんです。それで勉強させてやるのだといふことで、賃金がうんと安くて一カ月の看護婦の仕事に対する賃金が八百円にしかならないんです。中学卒業の年少労働者が働きながら学ぶという美名にかくれて、重労働と低賃金を押しつけられているのです。普通高校の中に看護科を作つて学べるようにして、看護婦として働けるようになったら、ちゃんとした賃金ももらえるだろうし、そのように働けるようになりたいという訴えがありました。

勝部 今の一月八百円ですね。ほかに問題ありませんか。
向山 先ほどの坂西先生のお話しにもありましたように、意識の問題だと思ひます。さう私たちがガールスカウトとお話し合いを

しました時の中心問題はそれでした。働くことが非常に立派で、自信を持つて少年たちは働いているんだから、年少労働者の生活のありとを、経済面だけで低いものと考えることが問題で考え直さねばならないと反省したわけです。

浜村 働くことの立派さを教えることはたいへん大切なことで、つかしいことだと思ひます。私の所属している奈良生活協同組合ですが、その御用さきの方は高等学校を卒業して、その人たちがこぼすことは、同じ友だちでも神戸大学に行つて、その人を見ると、自分がカコを下げて自転車に乗つていくことが、はづかしくてどうにもならないといふんです。こういう場合私たちは、どういつて上げたらよいか私自身にもわからないし、困るんです。が、何かもつと適切な勤労意欲を促す、指導貢献といふことはないでしょうか。

伊藤 そういうのを一つ一つ処理しようとするたいへんむづかしいですが、その地域にある職場の人が集つて一つのグループを作つていきます。それをこわのおかしさんのグループ何人かと話し合つて、はじめは話しがむづかしいのですが、根気よく話し合つて、あなたの勤労はすばらしいし、期待しているんだといふことを向うにも納得していただけるようにしていけば、若い人たちの勤労意欲を高めることができるんじゃないかと思ひます。

塩川 この場合、みんなに徹底してそういう気持ちになるようにするには、放送、マスコミを利用することがよくはないでしょうか。放送機などに、働く人々をテーマにして、それが個々に美しく健全に生きていく、というふうなたとえ話に持つていつたらわかりやすいと思ひます。

市原 私の家へ毎朝中学三年生が新聞配達にくるんですがね。寒中

に手袋もしてないんです。父親が酒呑みでその子の母金まで
のんでしまふようで、その子とも愛情が欠けていて非常に反抗
的になつてゐるんです。近所の人とお話して、毎朝「どくろ
うさん」といふことわざをうたふ言葉をかけてやりましようと言
合つて、私も近所の人も実行しています。そのようなことから、
働く境遇の悪い人たちの心持ちを引き立てるように、社会の人が
自覚して、目を向けてやつていかなくやらないのではないかと
思ふんです。

高司 働きながら学ぶ人たちの健康の問題も考えなければなら
ないと思ひます。肉体的にも精神的にも過重なことを、美しいんだ
ということにすりかえることは危険だと思ひます。

浜村 私たちの年代では、それによつて不満を何とかまぎらわ
そうとして、たいへんあやしげなものを持つてゐると思ふんです。
だから今の若い人たちの盛んでゐるものは、センチメンタリズム
でないもつと裏付けのあるものを望んでゐると思ひます。それに
はどうしたらいいか、いろいろねざらゐる言葉をかけてやること
も結構だし、そうして勤労意欲を鼓舞させることもいいが、それ
が甘さだけでなく、建設的な裏付けのあるものを若い人たちは望
んでゐると思ひます。

藤田 町や村でそれきめた定休日は、みんなが協力して守り、
店員さんを休ませてやりたいと思ひます。農村も、農休日や部落
全体、町全体できめていかなければ、農村の青年は休みがなくて
つまらないと思ひます。

勝部 中野さんが最初の報告の時に中小企業における従業員指導の
問題をお出しになりましたが、ここでひとつ……

中野 私たち三重県の婦人グループで婦人少年室と相談して、働い

さえも弱くしてゐるという青年をどのように処理していくか、ど
う救ひ上げていくかというところのための仕組みが考えられなけれ
ばならない。この両方の線が出ておつたと思ひます。

特に青少年が悩みにしてゐることは、学歴がないということと、
賃金が安いということの二点です。収入の面で同一なら何もそこ
にひけ目を感じることはないわけで、今の立身出世主義や、今の
考え方で固定してゐない日本の社会もどんどん変わつていけば、あ
るいはそういう方向にいくのかと思ひますが、そうなれば一つの
問題は解決するわけです。一方で学歴のないことを社会が問題に
するため、本人もそれを気にし、本気に勉強したいということ
と、肩書きをつけたいということがあると思ひます。学歴はな
くとも、社会教育なり家庭教育、職場の中で技術を磨いた人がド
ンどん強みを持ち、発言権を持つようになれば、この問題はいく分
緩和されるんじゃないかと思ひます。ことに今の学校教育は、ほ
んとうの意味の学力を付けるよりは、殆んど肩書きをつけるだけ
と思はれる面もかなりあります。

ここに私は婦人の英知というか、もつと基本的に、何がほんとう
の生き甲斐があり、いちばん価値があり、しあわせになるかとい
うことを目ざしておいて判断していくことが必要だと思ひます。
この、職場における問題は、ほかにも、共稼ぎのための子どもの
処置、勤め先で先輩の婦人は後輩の婦人に対して冷たい態度をとる、
あるいは年少者に、せつかく休みを設けても余暇の使い方を知ら
ぬ為にかえつて小遣い銭を必要とする、休みが少しも疲れを慰す
ことなくてよけい疲れてしまふということ、等の面にも婦人の
英知を貢献する機会があるんじゃないか。
その点、いかがでしょうか。

てゐる青少年たちの会合を持っています。余暇の使い方について
も、おあさん方が若い人たちの要求を聞き出して、できること
は協力しています。中小企業組合の方で週休制にしても、おあ
さんの方でそれを守らないとくずれるというので、この点でも協
力しようと中小企業組合と、実際に働いてゐる少年とおあさんの
グループが、いろいろの角度からたびたび話し合つて解きほぐ
うとしています。

向山 先に労働省から資料をいただきましたら、若い人たちがい
んな悩みがあつても、相談するのは親でも先生でもなくて、お友
だちだというのが圧倒的に多いようでした。働く少年たちも悩み
が多いのですがそれを少しでも教つたために、定時高校に行く人た
ちの生活を綴るものとか、俳句でも詩でも手紙のページでも何で
も寄せて記事集を作り、部数も十五万二千部で、ほとんど六年間
続けて資金を出しました。これによつて、前科のある人も心洗わ
れたように人生が楽しくなつて、それに悩みが寄せられると、一
々人生観を示してくれるという編集の仕方、微力ですがこれは
私たちのやつてゐる例です。

勝部 今までの発言を整理しますと、二つあると思ひます。一つは、
微力であるができる範囲でやつていけること。今向山さんがおつ
しやつた雑誌を作るとか、悩みの相談相手になつて上げるとか、
やさしい言葉を投げかけて上げるとか、定休日には買い物に行か
ぬようにするとか、そういう非常に微々たることでも励ましをす
るということが一つの線として出ておつたと思ひます。けれども
そういう甘さといふんですか、そんなことだけでは間に合わない、
もつとしつかりした仕組みとして社会全般について勉強したいが、
勤労が重くてなかなかそこに力が入らない、過重な労働の為に体

岸 私は中学校から出ていけません。それで中学校を出て今の電話局
に勤めたわけですが、それまでは自分だつて勉強したかつたし、
夜学へは行きたかつたが、職場の関係で行かなくてなかつたの
で劣等感を持つていました。やがて組合活動に興味を持ちその中
に入つていろいろ勉強し、どうしても勉強は続けなければならな
いという気持ちを持つようになりしました。組合運動に入つたお
かげで勉強する気持ちになつたし、自分の人生に対する考え方も学
んできたのです。それで、年下の後輩も入つてきますが、最近の
人は高校を卒業した人ばかりで、私たち先輩は高校を卒業して
ないその中で、自分たちは高校を出てゐるんだという、上の人を
軽侮したようなところがあるんです。それじゃあの人たちはだめ
だな、自分で教育をつけてゐるということだけで人を見くくす
というのは、何のために学校で勉強してきたのかと思ふことがあ
ります。

高司 おあさん方が賃金の本質を勉強していけば、私たちのそ
ろつていうものも質的に変わつてくるんじゃないかと思ひます。

藤田 農村をいやる青年がゐること、農村から勤労青年が渡つて
ゐるということをいろいろ聞かれます。部落で話し合いをし
すと、農業がいやなのではなく、農村がいやだといふのです。なぜ
農村がいやかといふと、百姓という言葉をいやだ、母親たちは何
もやることのないから仕方なく百姓をやつてゐると思ひてゐるん
じやないかといひます。それが悪影響をして、若い者が農村をい
やがるのです。農業は、非常に立派で楽しみがあるものだと思
していただきたい。今の場合若い者に希望を持たせなければ、結
局農村は立つていけない事態になります。

川島 人間の価値というところについて経験を申し上げます。中学か

ら高校に行く時に父親がいなくて百鬼をしなければならぬ子
どもがいまして、学校へも行きたくない性格もいし、非常に悩
んで、私もどういつてやるかと思いましたが、その時「あなた
がお米を作ることはすばらしい。そのお米によつてそれを食べな
人が、たとえ科学者の湯川さんであるとか、そういう人たちが
自分が育てているんだという大きな誇りと責任を感じなさい」と
いつて励ましたら、その子は喜んで、それじゃ自分も敢然とやる
んだと、もう迷いがなくなつたと喜びました。そういう時に大人
がその子の立場に立つて思いやりのある言葉によつて励ましてや
ることも大事だと思いました。

勝部 今藤田さん、川島さんからも出ましたが、農村に働く青少年
が勉強できないという悩みを持つていふことと、劣等感を持つて
いると、そのために浮き足立つていふことが上げられました
が、第一に農業というものは、生産的な仕事であるといふことと
第二に親子兄弟一しよに働ける、第三に空気のいいところに健康
的な環境で働ける、それからとにかく食べ物には困らぬといふ良
さを持つていて、更にそこに文化的なものが加わつて一つの高い
価値というものが自覚されれば、もつとも引け目を感じることは
ないじゃないか。あとは賃金が労働の割りに低い、生産が低いと
いふ点が農村の弱身になつていふが、その点の工夫も大事だとい
う事を感じます。それじゃそういう勤務の場に働く人で、しかも
学校にいけなかつたといふ場合、どのように考えていくかといふ
時に、岸さんがたいへんいい例を出してくださいました。勉強は
一生の仕事で学校だけが勉強でなくて、一生勉強をして人間を作
つていくんだといふことが岸さんが一つも学歴なんか気にしない
そんなものを鼻にかける者をおかしいと思うくらい自信を持つ

ていくつしやる。それは大事な点だと思ひます。それから他の方
の、今の勤務青少年が、自分自身なりに勉強していくといふ見
通しをつけられよほど違つてくると、誰も彼も有名校に入りたが
つたり、大学を出たがたりしなくなると思ひます。年を取つて
からでも、教育の機会が得られるといふような社会体制になるよ
うに希望を持つようになればいいと思ひますがね。現在の学歴
尊重、有名校尊重といふたものに一边倒でなく調和をとつていく
バランスのくずれたものを戻していくといふところが婦人の英知
の働き場所じゃないかと考えました。

ちやうど一時間になりましたので、問題はありますが、この勤
労の場、職場における問題を一度ここでやり上げて、次の地域社
会およびマスコミの問題に移りたいと思ひます。その前に、特別
オブザーバーの方からご発言をいただきますようか。日青協の原
香代子さんどうぞ。

原(日本青年協議会) 先ほどから出されている意見だけに限ら
ず、私たちの団体でも話し合ひにはいつも二つの流れがあります。
一つは欲求が通らないのは社会のしくみが悪いんだといふ考えで、
もう一つは自分自身がよくならなければ社会自身もよくならな
いといふ考えで、私たちはより多く両方共存の関係の中でやつてい
くじやないかといふことですが、家庭内での母親の占める役割は
大きいですから、家庭のふんいきをよくする母親になりたいと思
ひ合つています。先ほどから労働の問題がでておりますが、たし
かに給料をもらえる娘はまだいいんです。農村で小遣さえもらえ
ないみじめさを訴えられましたが、そのような労働をどう評価し
ていくか、その辺も考えなければならぬと思ひます。社会性
とか英知とか、たくさん意見がでていふんですが、青年たちの中

でよく出るのは、青年活動をやつていふ娘は良くいわれない、
落古ごとをやつていふ娘は良くいわれると。やつぱりその辺に新
しい英知をふみだつていふ問題点があるんじゃないかと思ひま
す。青年もむちやをいう時もあるんですが、それを素直に聞いて
そのうえで意見をもつてもらえるような母親になつてもいいだ
いんです。私たちが考えて、何かやり出そうとするとあの娘は出
やばりだといふ。会合の場ではいいことをいわれるおあさんが、
うちの娘だけはやつぱりうらさにならぬ娘でいてほしいといふ
願ひがあると思ひます。それは娘に社会性を育てるという考え
からいくと、停滞させる原因でもあるようです。

勝部 ただいま原さんからたいへん結構な発言をいただきました。

特に具体的な例とともにものの考え方として二つある、この両方
がバランスをとつていくといふ考えが述べられましたが、有意
義な発言だと思ひます。青少年といふものは各々が調和のとれた
考えがでないで極端なラジカルな行動、意見でジグザグコース
で成長するものです。そういう場合に話し相手になる時、そのバ
ランスを考えて、その極端なものとの対立点を話し合つていくとい
ふことも青年自身が発展するために、私たちの胸を稽古代りに借
りて怒りながら述べていつてくれるといふ広い気持ちで、ジグザグ
いふことをきいてやり相手になつてやるのが大事じゃないかと
感じました。また、働く青少年のための施設を考えること。青年
の家が各県にでき、子どもの家もできる計画のようですが、子ど
もの家、青年の家がセンターとして作られていく傾向に私たち
が力を貸していくことも一つの貢献だと思ひます。民主主義は話し
合ひだといふますが、職場で働いていふ少年は話し合ひではエネ
ルギーのはけ口にならないんで、柔道、ボクシングの稽古をする

とか相談をするとか、体を使つての団体行動も一方で考えてい
かなきゃならぬんだと、それを地域の中で、国が、政府が、一般
が、やつてくれることが望ましいことと痛感しました。それでは
第四の地域社会及びマスコミを含めての、問題に移りたいと思
ひます。

○ 地域社会における貢献について

伊藤 私は共働きですので、家庭で子どもを見てやる時間が少ない
んですが、そんな場合、子どもの友だちについて考えますが、そ
の地域においてみんなが仲よくするといふことが必要であると思
ひます。友達に重点をおいて、親が口出しをしないことに努力し
て私の家庭ではスラスラ伸びています。

永井 私、地域社会での状態について知りたいと思ひまして、小
中学校の生徒にアンケートを取つたり話し合つたりした結果、最
近はマスコミの影響によつて批判力を持つていますが、そのお
り実行力が伴わなかつたり、大ぜい集つた場合に群衆心理とい
うか、付和雷同するといふ傾向が見られるんですが、そういう子ど
もに正しい判断力を持たせることが、英知の働かせ方だと思ひま
す。大人がよき社会の一員であるといふことを示すのが第一と思
ひます。

岸 徳島の地域社会として、特に特殊児童の卒業後のことを考え
てやりたいと思ひますが。

藤田 北海道の開拓は非常にひどいと、ひどいところばかり書かれ
るのですが、明るい面もマスコミで取り上げてほしいんです。そ
して希望を持たせてほしいと思ひます。

勝部 つまり農村生活の暗黒面といひますが、そうじゃなくても

と農村の将来に希望が持てるような報道の仕方としてはいいというわけですね。

浜村 実状をばかさないで報道することは大切だと思います。マスキミの方がいいと思います。よろしくお願いします。

勝部 向山さん、千葉県の工場進出に伴う社会的変化が始まって青少年の非行が見えるという、これをひとつ。

向山 私の単位団体は行商の人が多く、進歩村だから都会的な場所もありますので、小さい子供たちがそのまゝ放り出され、交通が激しいので、署名を取って保育所を作り、千葉市としては児童会館を、婦人会で提唱して設立したり、具体的なこととしては、青少年たちを集団組織活動の中に入れるということです。ただいまではガールスカウトが七つできています。婦人会中心にしたということが地域社会を改善する力になりまして、子どもを教えるというだけでなく、私たちも目を開いて勉強していくということが婦人会活動のプラスにもなると思っています。

勝部 それから子ども会の話しもありましたね。

向山 それは、婦人会が中心になり、現在八十歳あります。現在では学校でも校外指導で子ども会として育てています。

勝部 もう一つ子ども会のこと、最初に川島さんから何か報告がありましたね。

川島 団地アパートでは、あの人たちは好きだからやつてくれるんだと、子ども会の活動を熱心にやつている人に対して白眼視したりあるいはひどいになると悪口をいって足を引く張る、という言葉は悪いかもしれないが、そういう傾向が見えてくる場合、どうにしてそういう人々を前向きな姿勢に変えることができるかというのをききたいと思っています。

人は部落でもボスの人で、誰かが会長や世話役になつたりすると、いつとするとね。非常に邪魔をするんですが、そのよう

な人に負けないように、刃りのおかあさんが手をつなぎ合つて對抗していくことが必要じゃないかと思うんです。子ども会も勉強して、今ではおかあさんおとうさん、学校の先生なんかも、口出して子どもを指導しなくても上級生がリーダーになりました。

勝部 どうやつて魅をぶち破り運動を進めて行くかということについては、そういう足を引く張る人のことは気にしなさんナ、ドンドン信念に従つて進んだらどうかというんです。結局子どもを心をつかんでいるのが勝ちで、どんなに邪魔を入れて干渉する者がおとなから出て、子どもの心が集りてつかまれていけば、その会になることが喜びで、親が止めてもどうしても行きたいということになれば、親も考え直すんじゃないかと思えます。結局指導する人が子どもの味方であり、子どもの心にはいり込んで一体になつてさえいれば勝ちです。

福島 実際は中学生時代の青年前期の集りで、その指導が大事だと思うんですが、どうしても中学あたりの子ども会は、小さい子どもたちと比較して伸びていないようなので、中学生の子ども会がよくやつていっているという例がありましたら、おたづねしたいと思

います。

浜村 私の所属している奈良生活協同組合の子ども会と中学生グループの会では、夏休みに昆虫採集に大甲山に行つてくるとか、高

校の先生がいらして中学生のサークルを集めてくださったり、おかあさんの留守にお昼ご飯が作れるようにと簡単なライスカレーお菓子などを男女ともに集りをするのです。そして作ったものをサークルに出して会をする、そういう年令になると意欲を

水城 私どものところは、いよいよお祭りさわぎと申しますが、そういう意味の組織を作るための子ども会ではなくて自分の子を含めた地域の子どもの社会性を養うというところで始めたものです。レクリエーションなんかにしても喜びをともに分かち合うという気持ちで、会の後援を決めるという場合にも、その人は小さい子どもをいじめから役員にすまいということでもみんなが仲よくし、名前も「仲良し子ども会」とつけて子どもが仲よくなつたというところでも母親同志も仲良くなりお互い円満にしております。

勝部 今、川島さん水城さんから出た問題は、子ども会によって青少年の健全な発達に貢献しようとして努力している場合に、きまつて行き結りが出でくる。地域社会で何らかの組織なり運動を進めようとする時、ある段階でつき当る壁だと思えますが、その壁をどう打ち破りさらに高め、足を引く張るのを乗り越えていくにはどうしたらいいかという問題だと思いますが経験したことのある方はいませんか。

浜村 私の娘のやつていますが、カブ・スカウトのお世話で、本当の無報酬でやつていらっしゃるんですが、いちばんいやなのはカブ、スカウトに出している家のおかあさんだということです。カブ・スカウトに子どもを出していることは保育所に預けているような態度をとられるそうです。子どもたちはいい子どもで、楽しいお仕事だといっています。

市原 私たちの地域は東北の農村で、おかあさんの教養も低いし生活程度が低いんです。そういう中で昭和二十六年から子ども会が育つて、今までにいろいろながあつて、足の引く張りが合いて子ども会がつぶれるようなこともありました。足を引く張るような

持ちますので、そういう会が何年も続いています。

伊藤 私は世のおかあさん方の、婦人団体に対する考え方を改めていただきたいと思ひます。婦人団体に入つてくださいという、ああいう偉い方がいるところには入れないとか、忙しとか、団体活動をしなさいというのが世の中堅固に非常に多いことなんです。インテリであり、能力をお持ちの方はドンドン入つていただきたい、もう少し関心を持つていただきたいと思ひます。

塩川 そのことについて疑問があるんです。むりに団体に入らなくていいと思うんです。大きい団体や組織を起すことも、ちよつと方向がまちがつたらこわいと思うんです。それよりも小さいグループで勉強されることがいいんで、たとえば私は婦人学級を作つて四、五人のグループで、テレビラジオを利用してから社会を見るような努力をしています。

中野 婦人会なんか組織が大きくなつて、政党内に入っている人が社会団体の長をしているのです。小さい婦人グループができて自主的にやる場合に、大きな組織の上にあぐらをかいて、邪魔をするのです。地方の社会教育課の場合はどうしても、大きい団体に調査や連絡を流すんですね。そして小さいグループでも、いいことをやろうとしている人には流れないんです。このほうがお役所としてはやりやすいわけでしょうが、私たちが婦人団体というものをよく考え、会合にしても、運営にしてももう少し考えるべきだと思います。

勝部 つまり、組織ができると大きくなるほど機械的ではんというの魂がうすれるおそれがあるようですね。

中野 反対に動きに対して水を流すということになるんです。

高司 婦人会の中で、私どもがやろうとしていることをやらなくと、

利用されることがあるんです。選挙なんかの時に利用されるのです。まとめて、どこか温泉につれていって会費も払わなくてよくて、いつの間にか選挙に利用されてしまうことが大いにあるんです。グループ作りの婦人の英知の働かせは、そこにあると思ふんです。

勝部 となたかの発言の中に付和雷同する子どもをどうするかという問題がでましたが、私たちがおとなが群集心理に弱くて、命令でブドウ酒を呑んでしまふ。それを英知でどうくい止めていくかというところを取り上げたいのです。

福島 組織の力を無視することはできないと思います。

勝部 先ほど、日青協の方がいったように、方向が一つでそれ一方になつてはだめで、個人の力と社会の力の両方でしうね。

浜村 大きい組織の会長さんは「うちの会へもつてらっしゃい。私が右向けといえばみんな右向くんですよ。買えといつたらみんな買ふんですよ」といいますが、私どもの会員は反対をはつきりいうように訓練しております。

勝部 反対というのは余程判断力がないとだめなわけですね。

浜村 絶えず勉強を怠らないとだめです。

○ マスコミの問題について

勝部 先ほどマスコミの問題としまして、藤田さんから現地のボが少し暗い面に片よりはしないかということで、マスコミとのつながりが出たんですが、さらにマスコミの問題と地域社会の問題とをもう一度考え直してみたいと思います。営業主義、売らんかな主義のために健全な若い世代の発達が阻害されているといわれていますが、そういうことを地域の私たちの活動でどうバランスを

とつていくかという問題もあるかと思ひます。この問題をどう我々の英知で正しく軌道に乗せることができるかどうでしょう。

高司 私たち新聞やラジオで聞いておりました時と現地へ行つてからと、私たちの問題の受け取り方がたいへん違つていたというところに気が付きまして、報道ということに目を向けるようになったんです。報道がほんとうに正しいことを報道してくれない。そういうことでマスコミへの不信が現地の子どもたちにも広がつていくというところを見たら、三池とかあいう問題はいろんなむづかしいものを含んでおるといふことを抜きにしても、私どもは単にあの時間問題になつた乱闘だけを大きく過大視するよりも、それがなぜ起こつたかという問題の本質をもつと解説してほしいと感じたわけです。マスコミの中で働かれる人々にも勇気を持つてもらいたいと思います。

市原 私たちの地域にもボツボツテレビをとりつけるようになりまして、子どもたちがテレビに集中して家にいなくなつてしまつて勉強しないんです。どういうふうにして、テレビを学習とが子どもたちの生活の指導に利用したらいいか皆目分らないんです。

八木 家庭の教育にあまり影響が大きいからといって、子どもたちの目をふさぐことは不可能ですから、テレビの影響を恐れずに母親も一しよに見て、それについて話し合つてお互いに学んでいくようにしたらどうかと思います。特に社会科に役立たせるようにしたらどうかと思うんです。時間を制限して見せたいと思います。

岸 移動会議で、中学生との話し合いの中で、見たい番組を見せてくれないというのが出ていて、ある程度しほらなければなら

と思ひますが、できるだけ見たい番組は見せて、その見方をどうつけさせるかということと母親が特に考えて気をつけてるという方向が大事じゃないかと思ふんです。

浜村 私たちがマスコミに流されないということが大切だと思ひます。テレビ、ラジオの普及で子どもがナガラ族になつていくことはまぬかれないと思ひます。それを、あれを見ちゃいけない、これを見ちゃいけないというのでなく、自主的にどういう番組を切るという技術をつけさせるほうが大切で、切ることの技術の勉強を子どもとともにしたらよいと思つてます。

勝部 そうしますと今までのお話しで、マスコミに対するわれわれの態度としましては、マスコミがどんなに商業主義、売らんかなで迫つて来ても何もかも拒否することはできない。その中で流されない工夫が大事だと、そのためには選ぶ目が必要だし、テレビやラジオの場合はそれを切る技術、見方を、母親はもちろん子ども自身にも身につけていくことだと思ひます。

新聞を読んでも、これはおかしい、こういうことはあり得ないという批判の目を持つことが、一方的に引きずられないために必要だという理解になつていくかと思ひます。今まで、学校、施設、職場とやつてきましたが、もう一度全体をふり返つて問題を掘り下げてみたいと思ひます。何か全体に共通する基本的な点、或はもれた点、を一つか二つ大きくとり上げていただけませんか。

○ 全体をふりかえつて

八木 子どもに特殊部落ということを知らせるにはどうしたらいいか、黙つていずに学校で適当に教えるべきかというお話しと、現

在親たちがそういう人たちの偏見を持つて見るということとなくすことが第一だと思ふんです。同じ日本人ですから区別しないで、お付き合いすれば子どもにもしみ込んでいくと思ふんです。

塩川 部落の人たちは偏見で見られるものですから、働きたい時に職業が得られない場合が多く、自然と食べるために悪いことをしたりするので、悪い印象を与えるんじゃないかと思ふんです。特にそういう人たちに職業技術を身に付けさせるような教育に重点をおいていただきたいと思ひます。

川島 事実その子どもたちはそんなに考えていないんです。

勝部 残された問題は結婚問題だけです。

中野 マスコミの問題ですが、マスコミに流されない方に比べると流される方が多いんです。流されるといふ意識がなくて流されている方が多いんですから、マスコミ関係者はそういうことを意識して、企画の面でいろいろ考えていただきたいと思ひます。

福島 いろんな事件がさかんに報道されたり、マスコミに乗つて流れていく場合、生徒と話し合つたんですが、かなり批判的で、あれはあれであつて、僕たちは僕たちでこういう生活であるというのが多いと思ひます。ですからあまり心配してはいけな

中野 子どもはたしかに民主教育を受けているから批判は持つていますが、実際の力を持つてい

子どもが批判力を持つてい

勝部 われわれはできれば一方的な言論は脱ぎたいか、不買同盟とか、ということではできないわけではないわけですが、そういう形で意志表示もできるわけですね。ですからわれわれがやはりしつかり

監視していれば、自由な言論の民主社会で憲法表示が可能だ。
伊藤 今日朝からすいぶん英知について勉強させていたんだん
ですが、広い視野のもとに子どもとともに歩んでいくことによつて、母としての英知が得られると坂西先生がおっしゃるんです
が、非常に勇気付けられるような言葉を教えていただいたと思う
んです。

向山 子どもを見ておきますと、孤立した子どもはやっぱり親も孤
立しているんですね。人と人とのつながりがないと民主社会じゃ
ないと思いますし、先ほど婦人団体の問題もありましたが、あれ
も大きい小さいという事でなく、体質的なものを大なり小なりつ
ながりを持つていつて、少しでも社会的成長のほうに向けていつ
たらいいんじゃないかと思うんですが。

藤田 家庭を暖かくするために花いっぱい運動をやつて、子どもた
ちもまじえて学校を整備したいと思っています。

塩川 日本の現在を正しく理解して、それを守つていくことが今の
社会における基準になつて、秩序が保たれるんじゃないかと思ひ
ます。

浜村 子ども負担にならないように絶えず勉強していき、ともに
歩んでいく、それで「親」というような重い言葉をかぶせないで、
先輩であり、同じ道を歩く人間同士だということ、そこにより
どころを持つて歩んでいきたいと思っています。

高司 子どもの成長に貢献するということを考えても問題が大きす
ぎるんで、それぞれ持ち場、持ち場があるので、分担を受け持つ
ていくということで、お互いに手をつないでいけばいいと思ひま
す。

勝部 そうしますと、職業をお持ちの方は職場を通じて、また、家

勝部 大へんありがとうございます。もと婦人課長でいらした新妻
先生何か・・・。

新妻 皆さんご立派な意見がお出になつたと思ひます。特に具体的
な問題が出たのがいいと思ひます。しかし具体的なだけに視野
が狭く、もつと教育の問題にしても、学校教育がどうなつてい
るか、文部省のあり方がどうなつているか、社会の問題からくると
思ひんですが。

石井 (婦人民主クラブ) 次の世代のために貢献するということ
ですが、それはたいへん勇気がいることだと思ひます。次の世代
の成長をはばんでいる大きな力が社会にはたくさんあるので、そ
れをはねのけていくには母親が英知をもつて抵抗し、反抗もし、
拒否もしなければいけないんじゃないかと思ひますが、そうし
たものが一向に出てこないようです。そうした本質の方に話しが
進まないわけですね。どこに原因があるのか私も考えているので
すが、何が基本かということを考えて、きょうまとめて出されな
いでしたら帰られてから十分にお話ししていただき勇気を持つて
考えを得るために、貢献しなきゃいけないんじゃないかと思ひま
す。それから自信を失つたという言葉をうかがいましたが、どう
したら自信を持たせてお帰しできるか、大変心配になります。

勝部 自信を失つたということは、非常に固定した考えを持つてそ
ればつかりに振り廻されるのは手がつけれないが、やはり集団
討論の中で一べんぶちこわして、もう一度組み立てていくところ
に思考の柔軟性が出てくるんで、自信を失つた方がいちはばん進歩
されるんじゃないかと思ひます。さらに、婦人が解放されるた
めには何が必要かというと、一方にはオシヤベリ屋がいて片一方
にはダンマリ屋がいて、その中間がない。良妻賢母と愚妻愚母、

庭の人は、家庭の外にのびのびと水を求めて、その中で何らかのこ
とができる、さらに力を結集して地域社会全体に反映させて大きな
仕組みにし、そのパイプを通じて届けるということもできるとい
うことだと思ひます。日本の社会には愚妻という愚かな妻という
愚妻愚母があり、一方には良妻賢母というのがある、どちらも
今度のスローガンと一致しない考え方、愚かさというものの意
味は私はかなり深いと思ひます。愚か愚かといふがほんとなら
うは利巧な奥さんで、良妻賢母といつても教育意識が強く、子ど
もを教育し、事主の尻をひっぱたいて公金横領に追い込んだもの
もあるわけで、貢献とは、新しい社会を築り進んでいく新しい婦人
の英知の貢献という意味だと思ひます。そのつながりがつか
ないもんだから、そろそろいいわけ、そこをなげいていけばば
つきり地域に帰つて大きな声でいえるんじゃないかと思ひん
で、ここで特別オプザーバーの方から感想、意見を伺いたいと思ひ
ます。

小林 (日本婦人有権者同盟) 私はこれまでにこのような会議に二
回出席していますが、今回のがいちばん身になつたと思ひます。
実は部会を拝見した時は、問題が抽象的で総花的になるんじ
やないかと思ひましたが、いろいろ意見を拝聴して参考になつた
ことをお礼を申し上げます。私に高校三年の娘がおりますが、や
つぱりその子どもは二人とない大切な子どもですから、その子に
はその子の持ち味が、その持ち味を信じて伸ばしてやりたい
と自分に打ちつ時の材料にしているわけです。婦人団体の中で
足を引つづけるという話がありましたが、婦人もその方の持ち味
を尊敬し合うようにならなければいけないんじゃないかと思ひし
ているのです。

そういう両方を打ち破つて、英知のある、移り行く社会に適應でき
る女性というもののイメージが大体つかめたらいいんじゃない
かと感じました。先ほど石井さんが指摘されましたところの、何
を基準にしていくかということを持ち下げてまとめたいと思ひ
ます。

中野 私たちの地域は、切実な母親の願いがら出たことが、政治的
な目で見られて阻害されるのです。

伊藤 私が疑問に思ひますことは、資本主義国でありましたが、社
会主義国でありましたが、私たちがほんとにこれはしなければな
らないということは、次の世代がしあわせになるということなら
ば、政府も資本主義社会を形取っているみなさん方も、もつと平
たく簡単に公平に考えていかなきゃいけないと思ひます。私た
ちの英知は微々たるものなんです、社会の男性の方たちもパツ
クアップしていただくように、どう働きかけたらいいかという
ところに苦しみがあるんですが。

浜村 小児マヒから子どもを守る運動がアカ呼ばわりされますが、
これなど超党派でできるのですから考えていただきたいと思います
です。

向山 私の小さいことですが、どんな場合でも人を押しのけて自
分さえよければという考えをどうにかならないかと思ひます。

高司 さつき勇気を持つてといひましたが、大きな圧力に対して勇
気を持つて、その勇気こそ女らしさであるということ、金国の人
に心から呼びかけたということ、マスコミの悪態を直す良
識を私どもは期待しているわけです。それで目覚めた人たちが団
結していく、そのことがしつかり成り立つていくなら私も幸
福、平和というものを願うその気持には賛小隊はなく、至るとこ

藤田 家庭がいちばん大事で、それを更に支えてくれるものは組織

です。先ほどお昼休みに、せつかくとうして顔を合せて、それから中断させることは残念で、グループをもつて組織活動をやつていきたいと話し合いました。

原（日本青年団協賛会） おかあさんが、自分をもつと大切にす
るということをお忘れしないでください。ああもしよう、こうもしよ
うということ、早く年をとつて、農村の母たちは四十くらいに
なるとしわが寄つて腰が曲つて小さくなつていきます。私たちは
そう、いう母親になりたくありません。一つの例をとりますと、農
村は産前産後の休暇もとれない、その結果が四十くらいになると
更年期障害とか、婦人病の形であらわれてきます。私は今の若い
母親が、産前産後に休むとか、病氣の時に早く医者で診てもらう
とかいうようになつてほしいと思うのです。そのことが私たちが
将来母になる希望であるんじゃないかと思ひます。

中野　今の原さんの発言にちよつと質問したいんですが、農村の組合なかなかそういきません。休むと人を雇わなければならぬのです。農前産後の休暇は大事ですが、農業組合で保障を与えて上げて、産休の間の補助がない限りそのままでは休めないのです。農作物の価格の問題とか、社会保障的な問題です。農政的な問題に対して原さんはどうお考えですか。

原（日本青年団協議会） 戦政の問題をおろそかにするというのでなくて、問題のつかみ方はいろいろあると思うんです。産休はな
んでとれないかということからいくと、戦政の問題にぶつかつて
きますが、なぜとれないかということに意識をもつていない母親
がたくさんいて、生活を合理化すれば解決できる点があるんじゃない

考えてみますと何一つ解決はみなかつたように思ひます。しかしはじめからそれでいいのだというふうに考えておりました。もとも今度の主題が生活習慣をどう生かしていくかというよりな、技術的な生活技術の問題でなくて、広く生活態度、生きていく態度に広げてありますので、どうしても問題は広がらざるを得ませんし、そこにかゆいところに手が届かないうちみがあつたんです、これは、すぐにおにぎりをもらつて食べるという態度でなくて、最初から柿の種を持つて帰つて、それを育てて一本の木にしたらから果実を収穫するといふ意味で出発するといふことで、これから何かがつかめればいいと考えておりました。特に考えられましたことは、特別講演で宮沢先生がおつしやつたように、日本の社会が弱肉強食の生物的な段階にとどまつたのではない、突きつめていえば生物の世界は弱肉強食の生存競争ですが、子どもたちに望むことは、たくましく生きる力を持つてもらいたいと思ひますが、同時に、自分も他人もとにもよく生きるといふことに高められなければ人間ではないと、その点を先生もご指摘なつておられたと思うのであります。こういうふうに集りまして、北は北海道から南は沖縄まで。いろんな条件の下で暮らしている広い視野をつかみ得たといふこと、そして下を見ればきりが無い、上を見ればきりが無い日本、そういうものを一連の下に肌で感じて、あらためて地域の社会を考える。そういう機会を得られたと思ひます。私たちが共通に理解できたことは、決して学歴を一边倒に考えるのではなくて、勉強は一生の仕事で、家庭教育、学校教育、社会教育は一生を通じて私たちが勉強していくんだという線を見極めたならば、子どもたちにそれをつかませることができるといふことと思ひます。無理して体をこわしてまでも何らかの

ないかと思ひます。見栄とか皮榮で、耕運機なんかも、その家の経営ではいらない場合も、同じ耕地面積なら買わなければならぬとか、洗濯機にしても、隣の家が買ったから買わなければならぬということ、余つた金で買ふんじやないからよけい働かないければならぬというわけです。そういうことを当り前だといふ母親が農村にはたくさんいるのです。やつぱり人間らしく生きていく方向に向つて一つ一つ入つていかないと無理だと思ふんです。

新嘉喜（沖繩婦人会） 今回沖縄から特別参加させていただきました。したことに深く感謝しています。ご承知の通り戦争のために祖国日本と離れてみじめな気持で生活を送っておりましたが、みなさんの物心両面の援助のおかげで立ち直りつつあります。文化、経済も祖国に一步一歩近づきつつあります。三日間のみなさんのいろいろの発言は非常に勉強になりました。沖縄児童についても、家庭の教育またはマスコミなどが特に取り上げているのは、青少年の非行の問題だと思っています。特に沖縄は非行問題にとっても困っています。非行児、不良児の五〇％は家庭に問題があるとされています。家庭環境といつても、家庭における個人個人の生活態度、子どものしつけなどもあり、子どもの不安定を除くためには、健全な家庭生活を営むことで、常におとなの愛情と期待が必要で、それが非行児をなくすことだと思っています。沖縄というのは都会もあれば、ランブ生活というみじめな生活をしている人もたくさんあります。今後もちょういり会議に参加させていただいてお話し合いをさせていただきたく思います。

勝部 それでは時間が参りましたので、一ことまめの冒険を仕上げます。この会議でいろいろたくさん問題が出まして、不発弾みたいに十分爆発しないで終わつたものもたくさんありますじ

資格を取るといふ態度でなくて、時機がくれば、また、教育の機会を得られるという方向に考え直していき、社会そのものが学歴尊重、優秀な尊重ですが、これも社会はドンドン移り変つていくんですから、考え直される時が必然的にくるが、その時に実力で、身についた技術が何よりであると考えてよいと思います。そうしますと、断片的な知識のつめ込みでなくて、人間としての成長、初めに人間味というようなことが出されたのが記憶に残りましたが、人間味のあるわれわれの生き方というものは、單なる知識とか教養ではなくて、英知というものがつながつてくるのではないかと感じました。人権尊重の人間の見方というものを貫いていくためには、もう少し掘り下げて人間を感じ、人間の特徴、個性を重んじ、そうして子どもを信じ相手を信じ、自分たちを信ずるといふ信頼関係を、人間の世界に内包してくるということがやはり子どもがおとなに持つている不信をなくすために必要な手段ではないかと感じました。そのことのためにいろいろの措置がなされなければならぬということは、一昨日以来出されたことです。そのためにわれわれの婦人会議が役に立つて、もう一度、自信をなくした方も、さらに強められた方も、地域に州られてから、新たな構想のもとに、出発してくださるならば、決して無駄でなかつたと信ずるものであります。

総 会

会議報告と話し合い

第一部会	牧 瀬 菊 枝
第二部会	梅 田 澄 子
第三部会	鈴 木 京 子
第四部会	川 島 晶 子
司 会	西 清 子

西 これから討議に入りたいと思います。婦人会議には六十人の会議員の方が四つの部会に分れて、それぞれ熱心に話し合いをなさったわけです。先ずそれぞれの部会でどんなことが話し合われたかというのを各部会の方々にご報告いただきまして、そのあと各部会を助言してくださいました先生方から、また一言づつ付け加えていただきたいと思います。

まず第一部会から、おねがいます。

第一部会（牧瀬） わたくしどもの部会では、まず世代のずれの問題が出しました。十代の子どもの気持は二十代の青年にはわからないし、二十代の人たちの気持はわたくしたちおとなにはわからなくなっているような状態の今日、私たち母親はどんなふうにしてそのずれを埋めていくか、あるいはいけるのかということがいろいろ話し合われました。五十六才の会議員の方は、十五才の子どもさんから警鐘を乱打されて、自分の心にある古い壁を壊い去るには新しい心の母親になろうとして勉強していらっしゃる話をうかがいまして、感動いたしました。私たちは、このような世代のずれを埋めていくためには、愛情の問題だけでなく、みんながなんとかして力を合わせていきたい、そのために岐阜県の会議員の方は、地域の教育委員会会長やPTA、青年団、地域婦人会という団体が協力して教育の政策、あるいは内容の問題について、徹底的に納得のいくまで話し合う教育会議というすばらしい活動の報告をされました。それからいまの青年たちの状況について話し合いましたが、青年たちに希望がないということが出ました。なぜかと申しますと、農山漁村の零細な経営の中で、子どもたちには働く場所がありません。それから暗い人間関係に絶望して子どもたちは村を出て行きます。そういう子どもたちは町

の零細な商業や工業に働き出しています。北海道の呉服屋さん
にいたる店員さんは、六年間も勤めているのに一日の休暇ももらえ
ません。それを労働基準監督署に訴えて上げようかとある母親が
申しましたら、ご主人にも迷惑がかかるからわたしががまんすれ
ばいいといっている。そういう状況のもとに働いているわけです。
その他ジェット機の基地、自衛隊の駐屯によるなやみが出されま
した。また、刃物を持たない運動のことも話し合いました。

結局、この部会の話し合いは、わたくしどもの内側にある弱さ、
立身出世主義を打ち破らなければ、あいまいな母の心では子ども
は指導できないのではない、科学的な心を指針して子どもを導
いていかなければならない、そのためには社会科学の勉強もしな
ければならないということが結論ではなかつたかと思ひます。

伊藤 今年のテーマは非常にやさしいように受け取れますが考えて
みるとこれほどむずかしい問題はなかつたのではない。結論か
ら申しますならば、やはり全体としてはもの足りない、食ひ足ら
ない、しかしある程度まで問題も出たし、話し合ひもできたと思
えております。その中でも多少特長と申しますならば、世代の違
い。わたくしの部会には、今年の会議員の中でいちばん若い
二十才の方や、八人の子どもの母親など、いろいろな立場から
二十代三十代あるいは四十以上、五十以上という方々の集りまし
たが、それぞれ食い違ひということよりも、お互いに歩み寄り、
あるいはお互いに話し合ひなければならぬようなずれがはつき
り出たということ。農村の生活と都会の生活、その都会の中で
も大きな企業と小さな企業、さらに農村の中においても貧農の問
題、また、零細漁民、沿岸漁業の問題などがたくさん出て、そう
いったところで希望も薄く、しかもなんとか成長しようとしてい

る若い人たちの問題が取り上げられました。

第二部会（柳田） まず教育の問題として、長崎の学校の先
生が中学生のゆんかに対するなやみとして暴力の奮発をどうい
うに教えたらいかが、という話が出されました。進学や就職の
きびしい競争の谷間に忘れられていく子どもがけんがの原因にな
っているという、その子どもになんとか心を配れ合いたいと思
う。一日の中で、声をかけ手を触れてやりたいという気持ちでさえも
現できないという話が出ました。

つぎに地域の問題として、職業とか貧しさということが、母親
たちのグループ活動、また子ども会などでいつもなにかの障害に
なつて出でくる。それは親が貧しいということをはひがんだ考え方
をして子どもに植えつけているのではない、子どもというものは
そんな貧しさというものはあまり感じないものだ、そういう方も出
ましたけれども、それに対して前に保母の経験のある方から、
幼稚園の子でさえ、持つてくるおべんとうの貧しさからそういう
ものはきびしく身にしみて知つていっていることが出ました。結
局貧しいという事実を事実として認め、話し合ひでそれを見つめ
るところから、なんとか解決する方法を考えなければならぬの
ではないか。結局身近な問題からきびしく見つめていく、そうい
うことから近ごろ学校などで制服を着せる傾向があるけれども、
制服については是非かという議論が出てまいりました。

それからつぎには地域の問題として、朝から晩まで真つ黒にな
つて働いて、夜になるとねるだけで希望のない生活をしている工
場に働く少年の中から、新興宗教に取りつかれて、いろいろな懸
念な問題を引き起している四国の離れ島の貧農の子どもの話
また東北の集団就職できた少女たちの「日本残酷物語」のような

悲惨な事実があるということをお聞きしまして、頭から打ちの
められたような気分になりました。なんとかしなければならぬ
というあせりだけが残つたやうでわたくしたちがもつとそういう
ことを勉強して、その勉強の輪を拡げると同時に、一人ぼつちで
働いている若い人たちが、お互いに仲間になつて、考える青年に
なるような仲間づくりのお手伝いなら私たちでできるのでは
ないか、そのために、たとえばある時は後援を指されるようなこ
とがあつてもくじけないで自分の回りの愚劣しさを払いのけて生
きていく、そのことが真敵ということになるのではないかと話し
合いました。

磯野 わたくしはいく度か婦人会議に出席しましたけれども、日本
の婦人の方々の成長がずいぶんめざましいものだと感じます。わ
たくしは少しご婦人の方に甘すぎるのかもしれないが、そうい
う感じをしました。報告にもありましたように、第二部会では、
まず重要な問題について真剣に考えようということがあつたように
思ひます。そしてみなさんが多かれ少なかれなんらかの英断をし
ていらつしやるということ、それがみなさんいろいろな重みをつけ
る。そのように私は感じました。そして自分で主張するということ
とよりはいろいろな方の意見に耳を傾ける、それがわたくしは進
歩ではなかつたかと思ひます。でも少しいろいろな考えで横断性
的なのかなという感じがしなかつたわけではないのでしたが、そ
の視野もずいぶん広がられたと思ひますし、ものごとを科学的
に認識していかなければならないということ、そうしてくじけ
ないでやつていく、そういうことがあつたことはたいへん結構
なことだと思ひます。

第三部会（鈴木） 六つほどにしばつて報告申し上げます。

はじめにどういふ人間像を理想とするか、ということについて話
し合いました。それについては子どもの自主性を育てて、どんな
ことが正しいかと教えて、具体的には寛容の心、責任をなすり合
いしない、他人に不愉快な思いをさせないように礼儀を守ること
そして正しいことを正しいといえないような社会をなくしよう、
ということでした。

二番目に母と子の間の理解ですが、それは話し合ひするやうにこ
とに尽きました。親は子どもがほしいといふことはどんなことでも
聞いてやつて、そのあとでいいか悪いかということをはつきり指
導することだということです。

三番目には共かせぎと子どもの教育のことについてでした。子
どもは、しよつ中母と一緒になければならないといふことではない。
家事は女だけがするものではない。中流階級の方たちが子どもを
施設に預けて、自分の子どもだけはよくしたいといふお母さん
を捨てることによつて施設の価値が高まり、社会をよくすること
ができる。それにつけても、農村にもいい託児所がたくさん欲し
いと思ひます。

四番目にマスコミについてですが、悪影響をさほど心配する
ことはない。それをあまり問題にしますと言論の抑圧になるおそ
れもあり、問題は家庭にあるから家庭の受けとめ方がしつかりし
ていけば、たいした問題はない。楽観的な結論になりました。

五番目に人格問題で現在の社会制度にも問題はあるにしても、
学歴至上主義を直すことで学校を出た出ないではつとめた場
合待遇が違ふという現実の問題がある。それにしても有名校の集
中とか教員施設の増設等をなくすることによつて、あたかも青春
時代を勉強だけで終るかわいそうな子どもをなくしたいという話

ていらつしやる十九才の青年でございます。

青藤 僕は第一部会に出席いたしました。ほくは中小企業に働いて
いる十九才の青年で、次の世代をになう一員だと自覚しておりま
す。今度の会議で感じたのは、親自身、親を見直したということ
です。このことは、いままで親というものは忙しいうちで毎日追
われていて、このような問題について全然関心をもっていないの
ではないかと、きめて見直しました。しかし、まだこのように、こ
れから働かされる人、これからの世代、これからの労働者、こ
れからの成果などを、職場や地域に帰って広めるのが、今度参加され
た六十人の会議員の任務だと思ひます。

それから僕たちは、このごちなんだかんだといつて口答えする
のですが、このごろは母親にばかりがいたいこと、なやみ、
不満などをもち明けたという気が強い。だからなやみ、不満、
つたと頭から思わないで話し合つていってほしいと思ひます。拍
手) なお、職場で働く若い女性が、自分の働く環境とか労働条
件について全然関心をもっていない傾向が強いところに、職場の
良くなる原因の一つもあると思ひますが、職場をよくしてく
ださることも次の世代に対する貢献だと思ひます。

司会 それでは次に河合さんにお願ひします。河合さんは目
下、大学で勉強していらつしやる方です。

河合 私は主に第二部会を傍聴させていただきました。そこでは、
子どものため犠牲になる、子どもだけにはなんとかしてというお
母さんの自負心をこれからはなくして、女性という一側の見解を
持つ婦人として、自分自身の人格を尊重するところからはじめ
るのが、次の世代に貢献するまづいちばんの近道だといふふうにお

思ひます。

(△印は会場の発言者)

△ さきは十九才の印刷工をしていらつしやる男の方から、職場
の女の人たちが自分たちの労働条件について熱心に考えていない
と、とても痛いご批判をいただいたのです。わたくしもが職場
でひとつひとつ労働条件を積み上げていくことがそのままた次の世
代の労働条件につながるのだということで、次の世代の成長とい
うものの一部分を、そういう点にわたくしもは受け持つていま
いるのだと教えています。しかし、もしもすればお母さん方は、良い労働
条件を獲得しようと私たちが努力する時、アカハタばかり振つて
いるというので変な目でみていらして、手をつながないというな
ところがあると思ひます。わたくしはそういうところで、同じひ
とつと目的をもつて手をつないでいかなければならない。部分部
分で受け持つていられるのですから、わたくしもがそういう労働条
件を良くしようとしていられる時には理解してくださつて、手をつな
いでやつていけたらいいと思ひます。

司会 いまのご意見は、飾り方たちをどうぞお母さんも一緒に
理解していただきたいということでございますか。この問題につ
きましてなおご発言はありますか。

△ 昨日の移動会議の模様をラジオでうかがつて、どうもいい面
面を放送して、一般の人たちがあれを聞いておられますと、こんな
職場というものは恵まれて理想的にいつているのかしら、なぜそ
んならば商店街やその他貧しいところの子どもたちの問題がたく
さんあるのだという声があるのです。そういう点で昨日の移動会
議の模様は残念に思ひました。零細な中小企業の救われたいとこ
ろに働いている子どもたちの様子をもう少しこういふ風に大きく

願ひが通らないのです。そのことを非常なうれしく思ひます。
お母さん方もこれからは、一個の人間として私たちと一緒に次の世
代に貢献するために、いろいろ見聞されたことと、興奮するだけで
なしに、社会の矛盾に對してなにかよくしようという方向に実
践をもつて若い世代と一緒に進んでいきたいと思います。

司会 若い方々のいかに、平直な発言、会場のみなさん方には、い
へんうれしく思ひます。あるいは、はげしく思ひます。この
をいつしやいますけれども、もうお一人、沖田さん、お母さん
をオプザバーとして出席いただきました。新嘉喜さん、ご感想
をうかがいたいと思ひます。新嘉喜さんは一人のお母さんのお母
さんです。

新嘉喜 沖田では毎月十月一日から一週間を婦人週間として、こ
ういふ会を催してありますが、この立派な会議をおみやげに仲間
のみなさんにお断したいと思つております。この会議に出席させて
いただきました。うれしく、ほんとうにありがとうございます。こ
れから会議員の方と会場の方とご一緒に話し合ひをしてほ
めたいと思ひますが、申し上げるまでもなく次の世代の成長への貢
献について、いままでいろいろご報告をお聞になりましても、た
いへん複雑な大きな問題です。世代もいろいろありまして、小
な子どもから思春期の子どもまで、あるいは学童の中の問題、あ
るいは職場の問題、地域としても、農村とか漁村とかあるいは都
会でもいろいろ問題があります。教育、マスコミ、経済の機構の
問題、その中でいつた若い世代というものをどう考えていつた
らいいか、私たちがおとなは、青少年の成長のためにいつたとい
うことができるのだからかといふことをしばらく一緒に考えて
みたいと思ひます。ご意見なりご質問なりお出しただきたいと

思ひます。

(△印は会場の発言者)

みなさんに知つていただいたほうが私ども母親の反省の材料にな
るのではないかと考えたのですが、今日出席の会議員のみなさん
はどんなふうにお考えになりますか、その点をちよつと。(拍手)
第一部会(牧瀬) 私ども見学させていただきましたのは、日本橋
の問題屋さんの中でも日本一といつてもいいくらい、モデルゲー
スである店員さんの宿舎を見せていただいたのです。それが日本
の全部じゃないことはもちろんで、労働省のご配慮でこういうも
のを見せていただいたと思ひます。私も感動すると同時に、
ためいきをいたしました。陽のあたらない零細企業で働いてい
る青年たちにとってもあんなふうじゃありませんし、私も普通のサ
ラリーマンの主婦でもあんなちゃんとしたお風呂や台所はもつて
おりません。そういう意見でモデルとして拝見したような、それ
でああいうモデルがある以上、あの方向にむかつて日本の零細企
業もなんとかできないものだろうかという意味で見ていただい
たのじゃないかと思つております。

司会 部会で、ほんとうに底辺といわれまふところの働く人たちの
問題を取り上げられたところもあつたようですが。

△ 会議員 わたくしは繊維工業の会館をしてありますが、そこで
扱つておりますのが東北のたいへん貧しいところから出てきた子
どもを扱つております。最低賃金制がありますし別に労働条件が
悪いのでなくして、親元が貧しいために、この人たちの措置、環
境をなんとかしなければいへんなことになるといふので問題を
もつて出てきたわけです。

磯野 いまのお断では具体的なお断にならないといふところの問題
をお断じになつたと思ひます。いまの方は会館でいらつしやるの
ですが、ほんとうにそこにきていられる子どもたちのことを思い

愛情をもつてあつたことを覚えてやうに思ふわけだ。

△ 会議員 悪い環境で働いている子どものことについて、町の指導機関の人さえもそんなことは普通のことだといふ。いわゆる封建的な町の空気に抵抗を感じて、なんとか子どもたちにもしあわせはないかと考えたのですが、私も日本一の商店街を見学してまいりましたけれども、こんないいところもある半面、わたくしどもの町の子どものように不しあわせな子どももある。ほんとうにいい面と悪い面の両端を見たわけです。

司会 中小企業あるいは零細企業に働いている若い青少年男女の問題とが、わりあい世間に知られていないのではないかと、そういうことをもつともつと私たちは考えなければならぬというお話がいつぱんに出てくるのじやないかと思ひます。そういうことについて、たいへん努力してこんなふうになっているんだということがありましたらお話しやつていただきたいと思ひます。

△ 会議員 いまのことは農地帯のいちばん深刻なやみで、それに対する経営者の全員の努力が被る重ねられて、働きながら学ぶ学校が工場の施設でできたのでして一週の中三日働いて寮生活をしております。三日は高校の課程でまじめに勉強して自費をもつた職人として、また義務教育だけで足りなかつた教育を身につけるといつた阿立ができているところがあります。ところがそれが昭和二十八・九年の不景気の時にどうしても工場がその学校の経営ができなくなつて、どうしたらいいか放つておけないというので、みんなで運動して県立高校にもつていつたのです。そしてその学校の生徒は普通の高校生にひけを取つてゐるかと、スポーツ面などは福井県第一でがんばつてゐる、少しもひがんでいない、ですからそういう経営者の賢い英知がもつと働く人たちに

に子どもが育つてゐるのですが、主に平野郡の子どもは高校を終え進学する人も多いのです。山村とか漁村ではたいへん少ないのです。その差をどういうふうに薄めていくか、また世代間の考えのずれをどういうふうに薄めていくか、それが私も婦人が次の世代に貢献する役目ではないかと思ひます。子どもたちは学校で労働基準法などを習つて集団列車で就職しますが、現実と理想のかけ離れにびつくりしてしまふ。ことに山形県ではみなさんが言葉づかいとかアタセメントを笑うのです。その言葉のうえのコンプレックスから、自分のがつかりした気持とか心境とかを伝えるすべさえないわけですから、それで私も考えますのに就職率で何パーセント就職させたからとそれで安心したということもなく、就職した後もその子どもたちがどういう状況かまた学校、安定所を結んでなおそれ以後の努力をしていただきたいと思ひます。

それから子どもたちがほんとうに「こんなにちは」といつて安心して相談に行つたり、手軽に頼みにいけるおばさんというそういう方があつたら、ほんとうに子どもたちは思はれるのではないかと思います。庄内地方では中学を終えて就職していく子どもがたぐさんあり、小さな胸の中で非常になやむ姿はほんとうにかわいそうだと思います。それで中小企業にもなにか政府が援助して、若い青少年たちの世話をみてあげることができたらと痛切に望むものです。

司会 たいへんお話しにありましたように、いまお母さん方がやつていらつしやる、またやううと考へていらつしやることに對して、実際働いていらつしやる若い方の立場に立てば、どういふことをしてもらふのが必要なのかといふことをお話しやつていただきたい

に思ひます。それは希望のもてゐる点です。

司会 その経営者は経営者自身がそういうことを考へてなつたのでしようか。あるいはそれ以前に雇ひ主が考へてなつたのでしようか。

△ その経営者は自分かまず進んで女中や公家からたまたま出てきたかつたのを自分だけでくひ止めたといふお話しやつて、自分が経営者になつた時にそういうふうなことをされたのです。

司会 たいへん明るいお話です。この話に関連してもう一つとおうかがいたしたいと思います。

△ 私は三重県の方ですが、婦人少年室で、中小企業の組合員の方、婦人団体の方、それから婦人少年室の相談員の方々に呼びかけて、青少年の人たちとの会合をもちました時、私も参加して、みなさんのしてはしいことなどなこともいいですからお話しやつてくださうと申しました。その時、余暇の利用の問題がふつて、これについては、婦人のグループと経営者と婦人少年室と相談員等みんなが委員会でも作つて何か役になつたと話し合いました。

司会 次代の育成といふことに、いろいろと努力なさつたお話ですが、けれども、私も会合を傍聴させていただきましたが、若い方たちがそのことに興味を持つとかもたないとか、そういう問題がたいへんあります。そこらあたりがおとなたちの考え方もありましようが、若い方たちにどういふふうにしてあげるのがいいか、いまいだらうかといふことを、もう少し突つこんでいただけないでしょうか。

△ 私は山形県からまいりました。山形県では山村と山村、それから海岸線の漁村といふようないろいろな職種のいろいろなところ

いと思ひます。

△ 僕の会社も若い人が半分くらい寮に入つてゐるのですが、いちばんなやみでゐることは、八時から四時まで勤務時間を終えたあとの時間の過ごし方が全然わからないのです。何かサドルをつくつてやうとしても、借りる公会堂が高かつたり、ただ遊びといふふうに取り残されておとなの理解がなかつたり、そういうことが困るのです。そこでいちばんおねがいしたいのは僕たちが自主的にサドルをつくるのをあなたたちが見守つて、公会堂なども安く借りられるよう運動したり、僕たちが一緒に遊ぶふんいきをこわさないでいただきたい。

△ 移動会議の際にガールスカウトの常会を福井の加藤さんがごらんになりました時に、たのしい子どもたちのふんいきを見ていて加藤さんが、あなたたちは私の預つてゐる子どもたちのお家だになつてくださいますかと所をおかけになりました。その時子どもたちははなつてあげたいという子どもと、なんだかひがんで私たちと一緒にならないのじやないかという声が出ました。おとなたちはおとなたちらしい批判をしたと思ひます。

でもいまの若い方の発言を聞きまして、やつぱり若い人たちはは階級を越えた仲間つくりとか、仲間を通しての社会人としてのたのしみがあると思ひます。企業者または母親あるいは社会人がそうした境遇の悪いために、働らいている子どもたちのためにも労働時間以外のものをできるだけのしい仲間づくりができるよう協力すべきではないかと思ひます。

少なくとも私もガールスカウトは、喜んでそういう方々でもお仲間に入りたいと思つてゐます。

司会 それではお話が職場に働いてます若い人たちの間に入つてお

りますけれども、それ以外にも問題をお出しただきたいと思ひます。

△ 私たち次代を生きて育てる婦人として、小さい時からいかに大事なこととは宗教心を植えつけることじやないかと思つてゐるのです。これは、何宗に限りませんが、ものに感服する、ありがたみという気持ちを持つことだと思ひます。さきほどから各部会の報告を拝聴いたしました。なかに邪魔になるような宗教の語がちらつと出たのですが、なにかそういう宗教もお話に出ましたでしょうか。

磯野 わたくしの部会ではさきほど報告がありましたけれども、四國の農漁村、そこにはたいへんな勢いで抵がつております新興宗教、それがあつたといふれば結構なものですけれども、お話を聴いていけば食物が出てくるとか、なんかそういうことで、ほんとうに働く意欲を育てるのではなくて、むしろその反対になつてゐる、それがひとつの強いグループになつて他の者を阻害する、そうして全体としてそういう人たちが他所にいても勤労の意欲がないものでやつぱりうまくいかないで村へまたもどつてくる、そういう例が出ておりました。私たちの部会の考え方でも、ただありがたいうといふことだけではだめで、必ずしも、だろ、もつとこの世の中を広い視野をもつて社会にあるいろいろな問題を、事実を事実として認めて、そこを理論的に考へていくというそれが大切だといふこと、そういう一面的なことをいつてゐるわけではありませんでしたが、もつと人間としての、いろいろな困つてゐる人に対する同情の気持、そんなものも大切だけれども、そういう同情とか善意だけではことがすまないと、部会では議論が進んでまいりました。

ちた保育所の状態をおかつていただくのがいばんと思ひ、おじいさん、おばあさんの参観日をつくつてときどき見に来ていただいておりますが、そういうところからわかつていただくのがいばんいい方法ではないかと思ひます。

司会 子どもの教育というところは両親がなさるだけでなく、もつとおじいさん、おばあさんにもわかつていただくという努力をするといふお話ですが、ひとつ教育の問題について家庭の中のいろいろなわずらわしいことをお話しくださいませんか。

△ 私も第一部会の時代のずれに非常に関心をもちたのでございすが、ただいまのご意見のように、私も老人組に入つておりました孫と若夫婦との同居生活で、年を取つてどういふふうにしていいつたらいふことが気になりましたが、やつぱりそれは年寄りから若い世代へ、ほんとうにいままでの卑屈な時代に生きてきた私はすつかりぬりかえなければいけないものだと思ひます。それでみなさんはおじいさん、おばあさんが、自分の勉強をするようにということが出たと思ひますが、私どもはそういうことは年寄がまずぬりかえて経験というものを活した時には、むやみに老人だと片付けられないし、人格を自分で鍛えた時が、若いお母さんたちにも非常に期待される立場になると思ひます。そういう関係で年寄りが勉強してと笑われたこともありましかれども、年寄りが時代をわきまえて勉強した時に家庭が円満になると思ひます。それで老人ホームにいくといふことは非常に悲しかつたことですが、このごろ新しい時代を見つめて勉強した時に自然に若い子どもたちが自然におばあちゃんおばあちゃんといつて期待して、家の中で邪魔ではなく、なにか必要になつてきたように感じてうれしく思つております。

司会 それでは他の問題に移りたいと思ひます。

△ わたくしは北海道の開拓の問題をもつてまいりました。二万八千戸の北海道開拓において、一般の農家の方よりも設備がよくてステレオ付テレビがあつたり、ベランダ住宅に百三十万もかけたという家もありますが、八割までがまだひびの開拓のなやみで苦んでおりますので、そのことを考へたいと思ひます。いつでもマスコミに取り上げられて、開拓はたいへんといふことをいわれても逆効果で、お母さんがこないといふようなことになつてしまつて、広く全国のみなさんが手をつなげる開拓に役立てていただきたいと思います。

△ このほど老人ホームに知人が入りました。わたくしがそのホームにまいりましたら、隣の室が高官の家の老人らしくて、その二人の話しは子どもは高い教育をさせるべきではない、子どもは平凡に育てるのがいばんいいといふことを話していらつしやるのでとても悲しくなりましたが、母親たちもそういうことをおつしやる老人に、子どもはやつぱり教育は必要であるといふことなど、教育を正しく理解するように、どうやつてお年寄りに耐へてあげたらいいか教えていただきたいと思います。

司会 各家庭における教育の問題をはさんで、その世代の対立という問題がやつぱりあつたと思ひますが。

△ ただいまのお話のように、老人たちはいまの子どもの教育というものについて、どうしても家の中で話し合うだけでは理解してもらえず、子どもを育てていくためにも老人の教育に対する理解の点で困るのです。そういう意味で私は保育所に勤めておりますので、保育園の子どもたちは家庭ではおばあさんの手をわづらわすことが多いので、そのためにはおばあさん、おじいさんた

司会 お年寄りが家庭内にいて必要な存在になるように勉強したらどうかといふことですが、それではその世代のずれといふことにつきましてもお母さんたちなやんでいらつしやる方が多いですが、若い方たちからひとつと預言ねがいたいと思ひます。

△ 世代のずれといふのは結局僕たちとお母さん方の価値の基準の違いといふことになるのじやないかと思ひます。というのは僕らのもつてゐる歴史の概念と、おばあさん方の教育されてきたものの違いがそこに現われるのじやないかと思ひます。それで僕らが親に対して、批判したいなことをいふと理解つづけて若いのだといふことをおつしやる方が多い。そこに僕は世代のずれといふものがはつきり出ていると思ひます。昔の素直さといふものは、親のことを素直に聞くとかか理屈をいわずそのまゝ聞き入れるといふことでしたが、僕らの素直さは自分が正しいと思ふことをはつきりいう素直さ、それから正しいことに對する素直さと思ひます。そういう意味で親にいいことがあつたらいいのですから、批判するといふのじやなく、親を批判できるだけの一定の感覚をもつてゐるといふことを理解していただきたい。全般的にいつて親を批判するだけの理性をもつた人といふのが結局親の苦勞をほんとうに理解して、ほんとうに感謝するそういう人間じやないかと思ひます。だから世代のずれといふことで片づけしないで、正しい知性をのばすようにお母さま方はどうかこの問題についてほくらに近づいて欲しいと思ひます。

司会 それではまだお話があると思ひますが、助言者の先生方に最後のおまとめをしていただきたいと思います。

伊藤 みなさんがお聞きになつた通りですが、補足させていただきますのは、若い人自身が向上しようといふ気持をもつていない場

合にはまたべつですが、私の部会の滋賀県の村田さんは三十一才
でいまは保母さんをしていらつしやいます。二・三年前まではお
手伝をしていられた。それが去年熊本から来たお友だち（クリー
ニング屋の小僧さん）と自分たち働く若い者だけで勉強しようとい
うことで、「めだかの会」をつくりまして、そのころは五十人
しか集まらなかったのが百五十人になつてゐる。そこで勉強した
りみんなでたのしむ、そういう時に雇つてゐる人たちがそういう
時間に出してやるという事業主の理解がなければ成り立たない。
そういうことに対して地域の婦人会がその「めだかの会」を後援
する、あたかく見守つてあげるといふことで、連絡をしてやつ
ておられます。そこから生れる大きなものを期待するよりも、み
んなの方で私の次の時代にのびてくる人たちを考えていこうとい
ふ姿があり、その人たちが自身が自からのびていくという意欲があ
るといふ点にたいへん特長があつたのではないかと思います。

磯野 ちよつと補足ということにさせていたきたいと思います。
働く少年などの施設ということなどはもとより、最低の必要でし
て、最低であつてそれだけではすまない。なんとしてもいまの伊
藤さんのお話にもありましたが少年たち、青年たちが未来
に対しての意欲と申しますか希望というものをたなければこれ
はどうにもならないわけです。それはまた既成品のようにしてつ
くるわけにもまいりません。なんと申ししても前の世代の方が
次の世代を引つぱるとか押すとかいふことより、それよりなによ
りも自分たち、前の世代がのびていくということがなにより大事
なのだといふこと、それが私どもの部会でのみなさんのご意見だ
つたと思ひますが、私もまだそういうふうに思ひます。

久米 会議の延長みたいなことだと思いますが、今日ここで若い力

の批判を聞きまして、会議員の方にもお役に立つたと思ひます。と
いうのは昨日をうけ、年取つた者が若い世代にどういふことを貢
献し得るかといふことが年取つた側ばかりで話し合つて、若い者
と話し合うという結論は出たにしても話し合ひなかつたからあま
り学ぶことがなかつたのですが、今日若い人の門を開いてよくわ
かつたと思ひますが、ほんとうに手はじめていくことが山の
ようにあつて、それほど大きく婦人の英知が進んで来るというこ
と、むずかしいことを考えなくても、ほんとうに若い人たちが理
解しようといふ心をまずもつて、日常のことから遊ぶ時間の使
方まで、まず理解を掲げていくことによつてずいぶん貢献できる
といふ具体的な結論が出たのではないかと思います。

勝部 わたくしは明治以来の日本の教育といふものがゆがんでい
ないか、たとえばあの人は教育があるといふと学校を出たとい
う意味でありますし、あの人は教育がないといふと学歴がないと
いふ意味で、教育といふものが学校教育一点ばりで、職場で技術
をみかくといふ職場の教育といふものがどうも隠れんじられたの
ではないかといふ不幸をもつております。ところが私の部会にお
出になりましたいちばん年の若い岸さんがおつしやるには、自分
は中学を出ただけで電報局に勤めてゐるが、それを苦にしていな
い。組合に入つて勉強はじめた時に勉強は一生張の出事だといふ
ことがわかつて自分はず勉強してゐる。それを高等学校を出
た友だちがばかにしたような顔をして見る時に、せつかく長く勉
強しておきなからあんな考え方をしなくては逆におかしくなつ
てくるといふことを聞きまして、これこそほんとうにこれからの
力だ。学歴が問題ではなくて学問を一生の勉強を、そういう職
場で勉強される方がほんとうに実力者になるのではないかといふ

ことを痛感いたしました。（拍手）

司会 いろいろたくさんお話をしてくださいましてありがとうございます。
いました。若い世代の貢献と申ししても古い世代、若い世代が
お互いに理解し合い勉強し合い、この時代をともに手を取り合つ
て生きていこうじやないかという結論になつたと思ひます。

移動會議

四月十三日

第一班

三鷹市立東保育所視察

東京都青年の家視察

農村青年との懇談会

懇談会出席者

会議員

藤田 栄	(北海道)
石母田 ハツミ	(岩手)
高橋 みさ子	(山形)
斎藤 千代子	(新潟)
西川 輝子	(静岡)
堀田 福子	(岐阜)
村田 節子	(滋賀)
寺川 達子	(奈良)
八木 京子	(京都)
山本 瑞枝	(鳥取)
山口 美也子	(広島)
八木 喜美子	(山口)
水城 千鶴子	(福岡)
平井 礼子	(佐賀)
木尾 綾子	(鹿児島)

東京都八王子近在の農村青年 六名
司会 東京都青年の家 中条副所長

司会 第十三回の婦人週間にあたりまして、労働省では、去る十二日から第九回の全国婦人会議を開催中ですが、本日はそのかたがたが班別にわかれまして、この青年の家で会議を行なうことになりました。皆さん、ご一緒に進めてまいりましょう。

このまんな中に集まっております青年の方たちは、この付近の町村の農業に従事している若い二十才前後のかたたちです。それからまわりにおいでになるかたがたは、一連一府十三県からいらつしやつた婦人会議の議員の方です。最初に、問題提起といった意味で、青年のかたがたに話し合つていただいて、後半、皆さんがたとお話し合いをして、青年の気持を受けとめていただきたい、こう思うのです。

現在、農村といひましても、非常に都市化してまいりまして、とくにこの地域は、八王子を中心にして軽工業地域ができて、農村も耕地を非常に少なくされているわけです。その中で先進農業に従事している皆さんにお集まりいただいたわけですが、まず自己紹介の意味で地域の特長をお話しくささい。

青年(男) 私どもの地域は、多摩川梨の中心地というところで、農業面では、その梨をはじめ水田、畑もあります。みんなせまい土地の中でいつしようにけんめいやつていようところなんです。

青年(女) 同じ状況です。

青年(男) 八王子市から市外のほうへと徐除に住宅、工場地にせめられて来るような土地で、いままでは米麦を中心にしていたのですが、最近では果樹、畜産、蔬菜というふうな面で伸びております。

青年(女) 多摩動物園ができましたところ。私と母とが主にやつておりまして、いままでは米麦中心だったのですけれども、

西洋野菜のほうにむいています。

青年(男) 酪農を中心にして今後やつてゆきたいと思つております。

青年(男) 年々住宅とか、工場が進出して来て、徐除に農業が追われるような現状にあるのです。いま農業です。

司会 まず考えられるのは、皆さんがた若いものと、親との間にもの考えかた、見かた、語しかたについて、ずいぶんずれがある、非常にこまづいていふことがあるのじやないかと思ふのです。生活の中に具体的なことをとり上げて、こつこつ問題があつた、そしてこれに対して自分はどう考えようかというふうなことをお話し合ひするといふ思ふのです。

青年(男) 往々にしてあります。僕なんかの場合、何かやるに

つて、いつも家で相談するわけです。そして僕はこうだといえ

ば、そのようになつちやうので、それほど気にとめる点もないんです。

司会 家中で相談するということですね。たいへんいいことだけれど、その場合、何かつまづいたようなことはないですか。

青年(男) 高等学校を卒業した時に、「お前も学校を卒業したのだから、一人前にやつていかなければいかん。ある程度経営面も責任をもたせるからやつてほしい」といわれて、それから親父は相談にのるだけで、経営面に口出ししないので、そういう面では恵まれているわけです。

司会 お父さん、いくつですか。

青年(男) 六十です。

司会 みんな息子さんまかせ。

青年(男) ええ。

司会 何か親と子の間で、まあ女の人ならば、衣類の柄の問題なんかもあるでしょうけれど……。

青年(女) そうですね……。親は見栄をはるわけじゃないんです。しょうけれど、人並みのことをさせたいという気持があるんです。私はそんなことを考えないで、自分の思つたことをやりたいと思ふんです。

司会 おかあさんが見栄をはるというわけですね。

青年(女) 見栄というが、習慣なんです。しょうけれど……。

司会 あなたがたは、そういう見栄を考えないでやるといふことは、結局、合理化とかそういう面できつめていきたいという考えですね。

青年(女) そうなんです。

司会 なにかおかあさんのほうでもう少し考えてもらいたいという点がありませんか。

青年(男) 私のところは家族が、両親と年寄りが二人と兄弟が三人、いちばん下が妹です。八人家族で、経営面は水田が六反、畑が四反くらいです。それでうちのほうでもやはり習慣から抜けられないところがあるんです。仏教というが、つまり仏に關することをずいぶん深く考えるんです。

司会 顔をまく時には目を落とすといふことはありませんか。

青年(女) 栽培面にはないのですけれど、冠婚葬祭は多少そういう態度にこだわることはあります。そういう日があるんだから、無理にわるい日にやることはないというわけです。

司会 おかあさんがそういう習慣から脱せないために、あなたがたと意志の疎通をする場合、どんなふうな問題がありますか。

青年(男) 母にいろいろですが、経済とか社会の発展によつて時代

も変つていく、生活も変つていくことを知つてほしい。そういう話をしても、風潮とか、習慣といふことでぶつかります。

青年(女) 母は婦人会に入つていて関係で、新しいニュースなり、方向づけというが、冠婚葬祭に關しても、徐々に理解していく面があります。

司会 婦人会に入つていて、新しいふんいきを知つていふので、割合に理解が多いというわけですね。

青年(男) 私の部落はまだ農業がほとんどで、蔬菜とか酪農方面に力を注いでいる人が多いのです。自分もこれからはその動機を中心にしてやつてゆこうと考えております。父は現在中学の先生をしていて、親との衝突という面はほとんどありません。弟は今、大学に行つています。夕飯時には、自分の経歴状態とか、そのほか一般的な社会問題なんかよく話し合ふんですけれど、このあいだの安眠問題の時に、弟はデモをさかんにやるんです。そういう場合はあまり行き過ぎないようにとかいろいろ注意していたようですけれど、自分の立場からみた場合、ある程度、弟にうんとやつてくれというふうな気持がありました。自分も関心がありましたが、なかなかよく出て、いろいろ話し合つたんですが、やはり若い青年として、ある程度思つたことをやり通すという意地は必要じゃないかと思ふのです。意思の強い青年ということですね。

司会 意思を強くすることですが、そういう自分の正しい判断力というふうなものは、どういう時に作るように努力しておられますか。

青年(男) 友達の中に自分が入つて行つた時に、人から教えられる

るという点が非常に多いです。会社に出て、ああこれでは自分はいけないのだと思う時が多いので、会社に出ることを自分では断っています。

司会 おかあさんと意見の相違がありますか。

青年(女) 母とはあまりありませんが、経営の面で父ときどきやつちやうんです。父は古い経営の頭でやるし、私は農事研究会なんかに入っておりますから、そつちのほうから受けた知識でやりたいので、よく衝突します。同じ作業にしても、新しい方法と古い方法とありますからね。肥料のやりかたにしても……。

司会 その場合、お母さんはどういう立場になりますか。

青年(女) うちの母は、年とつてから農業をやり始めたので、全然知らないのです、そういう時だまっています。でも私のほうに応援してくれますよ。

司会 どなたもわかるお父さん、お母さんのように問題が少ないうすが……。いままでのところ、家中がよく相談しているから無事にいっているというお話、それから、親が見栄が先になつて、実質があとになるというところ……。年寄りが習慣から脱しにくい、だけれどもお母さんが婦人会に入っているために、たいへんものわかりがよろしい。またお父さんが学校の先生で、農業は自分にまかせられてゐるから、自分で独立的な考えをもつて進めなければならぬので、知識の正しい判断力は友人から得ている。やはりよいサークルに参加しているということがいい条件だというようなことですね。年寄りは自分の経験したことをたよりにする、そのために意見の衝突があるけれど、新しい知識を得るために、お母さんがたいへん協力してくれるというたいへんいい条件ばかりですが、何か日常の生活の中でありませんか。

青年(男) 僕のところは親二人で、どちらかといへば、僕たちは簡単なことが好きなんです。一つの仕事でも、簡単にして成果があるならいいじゃないか。それに近ごろは都会的な風潮も流れて来たり、日通百進も多くなつてはきたんですが、やはり親利ですから、つぎあいついことがあつてはきつて、そういう近所のところでもできるだけ簡略にしたいと思つてはつて……。

司会 ちやうど近所の問題が出たので、交際というふうな面でも問題点をあげて下さい。さつきも冠婚葬祭の問題が出ましたけれど、戦後生活改善ということがずいぶんいわれていますが、なかなか実行が伴わない。他人の場合には簡略にというけれど、自分の家の場合は、金をかけちやうというところがあるんじゃないか。

青年(男) 近所のつきあいで、いい点もたくさんありますが、もう少し簡単にしてもいいじゃないかなと思つてあります。このあいだも葬式に、親中が出てうちの親二人も三日間も手伝ひに出ました。道路の修理作業も定期的にあります、あまり成果があがるというえないし、時間的にもルーズです。

司会 やはりそれは習慣から来ているんですね。

青年(男) いままでそういうふうになつてゐるから……。もう少し合理化して、能率をあげることが必要だと思つてゐます。そういうところでも時間を使つていながら、適当な休日というのはないんですね。

青年(男) 東京都の近郊に属して、片方では新しいものを入れ、片方では農業の古い習慣が残つてゐるわけで、うちのほうでも冠婚葬祭は派手です。葬中といつて、部落の十軒乃至十五軒くらいで、一つの組合のようなものになつていて、お葬式にする、結婚式にする、必ず出席するようになつてゐるのです。

司会 でも前からみると、ずつと簡素にはなりましたね。

青年(男) ずいぶんよくなつてきました。私の地区と、そのまた奥とは生活様式が變つてきています。

青年(男) 現在僕のまわりは、ほとんどの人が勤め人なんです。家だけが依然として農業を続けているようなわけで、よく父がくちをいうんです。葬式の時なんか僕はいつもひやかして半分、年をとつたら若く生きなければいけません、昔のことをいつまでもいつてもしょうがないよという、それで話が終つちやうんです。だからうちのほうは、そういう風習というのは、八分どおりなくなつていますね。

司会 皆さん農業をされていて、機械は、どんなものを使つていますか。

青年(男) 僕のところは、農具の名のつくものはほとんど全部入つています。耕運機をはじめとして……。親たちは見栄から三輪車を買えというのですが、経営にそれが必要ないからいらぬのだ。単車だけで大丈夫だといつても、買え買えというさくいつていたのですが、やつとこのころ観念していなくなりました。

青年(女) 普通の発動機とか、そういうものはありますけれど、耕運機は私じや使えないから。地形のこともありますが、働かせないです。それまで知識がないから……。近所では必要でないような家でも軽三輪車なんか持つてゐるところがあります。うちでは出荷する時に備えて単車だけあります。

司会 あなたが単車で運ぶんですか。

青年(女) ええ。

青年(男) 小型耕運機をはじめ、だいたい農耕作業用のものは入

つています。発動機、もみすり脱穀機、その他細かいものも……。

司会 機械は近所隣りの競争で買つてゐるということでも間違いないですか。

青年(男) そういうふうなことは早いにいふ方が早いんじゃないでしょうか。

青年(女) うちでは、三輪車と大型耕運機を近所の人たちと共同で使つてゐます。耕作面積も同じくらいなので、市販なんかにも交代で行つてゐます。

青年(男) 買える余裕ということも問題でしょう。ほとんどの家では動力噴霧機の古びたのでやつてゐますけれど、要するに農業だけの所得で買えるまでにはいかないというのが普通じゃないかと思つてます。

青年(女) 買えないわね。

青年(男) ほとんど都会がひろがつて宅地化してくるので、そういうところでは非常に高価に土地が売れるから、現金がどかつと入る。私の家の近所に、最近ゴルフ場ができたんです。大きな興業会社が広い面積を買つたわけですから。そういう土地を手放した現金で、テレビが入つたり、いろいろな機械を入れたり、また家をなおす人もありますし、要するに、そういう面での現金が入るからできるというほうがほんとうじゃないかと思つてます。

司会 不健全消費をやつてゐるわけですね。

青年(男) たしかにそうです。近所で山が売れたので耕運機を購入したんです。私は持つてないので、その人にやつてもらつていますけれど、結局、農業の収入から、そういうたものを生み出すということになると、なかなか購入できないのじゃないかと思

のです。

司会 つぎに、農業経営について、だんだん都市化して、土地も少なくなつてくることに對して、皆さんはこれから先、どんなふうを考えていますか。

青年(男) 僕の代だけのことを考えて、あとのことは考えないことにして……つまりあとの者の自由ということになりそうですからね、僕の代だけは、今の道で食べていくつもりです。つまり高級園芸ですね。

青年(男) 僕は現在、勤めているのですが、今後の方向としては、兼業でゆこうと思つています。日雇百姓的なつちやうのですけれど。

青年(男) 僕は、農地がなくなつてもやつてゆこう、案外やつていけるんじゃないかと思つてます。梨の場合は、今までは市場に出荷するのが主でしたけれど、それよりも観光果樹園という形で梨を作るといふより、売ることをいっしょけんぬに考えています。

司会 お嫁に行くのだつたら、どういふところにいきますか。

青年(女) 兼業農家にはいきたくないです。やはり農家のほうがいいと思つてます。

青年(女) 私は家にいます。旦那さん次第ですけど、私は兼業をずっとやつていくつもりです。結局、兼業になるかと思つてますけれど、いま洋菜類がわりとよくなつてきましたし、養鶏を始めようかと思つています。

司会 時間もないので、このへんで会議員の方々からの質問に移りたいと思つてます。

寺川(奈良) 男のかたは、みんなあととりさんですか。

司会 みんな長男です。

寺川(奈良) 大学出のかたもおられますか？ また高校は普通高校でしょうか。農業高校でしょうか。

青年(男) 私は農業高校を卒業して、現在中央大学の通信教育の二年です。

寺川(奈良) 他のかたも高校以上でしょうか。実は私どもの地域では、高校以上だと、あと家についてくれないからやらないといふのが多いのですからうかがつておられるわけですが……

青年(男) 私は大学までいきました。あととり息子ということをやつていけばそれなりにたのしみもありますからね。

寺川(奈良) 学友の中には、やはりあきらめておられる人も、親の不満を押し切つて外に出た人もあるでしょうね。

青年(男) 中にはありますね。

齊藤(新潟) 米を中心の農業から、果樹園芸に向けていきたいというお話をしたけれど、それに対して、おとうさんがたは、あなまたまかせたといふことですが、たとえばいままで米を中心にして作つてきたといふ郷愁といふものは何親になくて、簡単に切換えをさせていくことができたか。

青年(男) 私は高校卒業して、二年ばかり勤めたんです。ところが親も年とつてきたので勤めをよせといわれたんです。その時に、それなら今後の経営方針はいつさい私にまかしてくれませんかと思つて押したんです。全部まかせるといふので、それならやろうということではじめたんです。

齊藤(新潟) 生産面だけじゃなくて、経営面もあなたが勤つていられるのですか。

青年(男) 経済のほうは、母と私がきつています。

水城(福岡) 福岡県で三反百姓というか、少い農地でギリギリの生活をしていらつしやるおかあさんが切実な問題としておつしやつたのですが、長男はとて勉強が好きだから大学に入れてやりたいと思つた。そのためには田畑を売つても大学に通わせたいと思つた。ところが次男は、勉強が好きでないから百姓をしたいといふ。そうすると田畑を買つても百姓をやらせたいと親は思つた。

両方の個性をのばすためにどうしたらいいだろうかといふことをおつしやつたのですけれど、それに対してどなたも答えられなかつたのです。子どもの立場としてはそういう場合はどんなふうにお考えなんでしょうか。

青年(男) 農家の父親は、要するに土地と家を離さないで、しっかり家を継がせるといふ考えが強いんじゃないでしょうか。土地を手離してお金を作つて学校に通わしているという例はあまりありません。農家のあととりの人でも、定時制が近くにありませんから、そこへいつてから家に入るといふくらいで、あとは昔からの金持ちとか家柄のあるかたで、僕の場合は例外でして……

木尾(鹿児島) 鹿児島は、零細農家が多いのです。だから母親たちは、自分の生活の苦しさの体験から、自分の娘を農家に嫁がせたくないという傾向が強く、農家の青年たちにとてもこまつていふのです。こちらはいかがでしょうか。

青年(女) うちのほうの母親たちも、そういう考えのかたもあるのですけれど、でも自分の息子には、農家のお嫁さんを欲しいのじゃないかと思つてますよ。いままでの農家の古いものを取り除いていかなければ、お嫁さんたつてこないのじゃないかと思つてますね。

司会 その場合、東京都と他県ではずいぶん違いますね。近郊は留

要地が近くにあるので、生産物をさばくのがたやすいのですが、他県ではたいへんですね。農業経営の合理化を十分図つていくといふことが、農家の娘にとっては魅力をもつので、そういう点に努力されるといふことを、今まで青年を扱つていまして感じますね。

二十一、二十くらいまでは、勤め人といふことを考えているのですが、都会の生活を身近に見ているから、都会より農村のほうがいいなといふことで、二十四、五才になると、農家に嫁ぐという傾向になつてきているようです。

山口(広島) 純農村で、平均一町とか一町五反という百姓ですけれど、このころの若い人たちは、高等学校を卒業すると、職を求めて農村を出て行くのです。どうしたら青年が百姓するようになるだろうかといふ相談を受けたのです。

青年(男) 出してあげてください。

青年(男) このあいだ宮城県の方と青年学級を開いて話したのですが、親と若い者との権力斗争だといふのですよ。そういうものをなくすると、若いものはその土地にとどまるのじゃないでしょうか。

山口(広島) その青年が出ていくと、一町以上ある百姓がでなくなるわけですね。親や年寄り、いろいろな気持をとつてとめていふのですが、そんなことには無頓着なんです。私たちは、そこのおかあさんがたがもう少し勉強されて、子どもを引きとめるのではなく、自分から百姓をするような気持ちをもつていくのは、どういふふうにしたらいいかといふことを考えたらいと思つたのです。一厘出てしまつと、帰つて来ないといふのです。

青年(男) それにはあきらめも手伝つていふと思つたのです。はじめは家族の改善、経営の改善から図つていくことだと思つてます。

それに普通学校にやられたことも問題だ。農業経営者には農業そのものの学校にやられたほうがよかつたと思うのです。

青年(男) その地域にある青年団とか、青年学校、4Hクラブというサークルには無頓着なんです。私たちの仲間には、学生もいますし、農業をやるやらないは別問題で次三男もおります。そういう同じくらの仲間のところにいる話をすると、とても勉強になるんじゃないかと思えますね。

司会 普通科にやつたところにお母さんのほうの考えがちよつとまづかつたという感じがしますね。いまいわれたように、そういう環境を醸成するというのが親の方に足りないということになるようですね。

藤田(北海道) 私の町でも、この問題が出た時にこういわれた人があります。「私は農業は嫌いじゃない。だけれども農村というものがないやなんだ。」ということ。この辺には因習とか封建制というのはいないでしょうか。

司会 戦後ずっと農村を指導してきて、この地域はやはりマスコミの影響で、気持もよほど都会化しています。バスが通つたり、電車が通つたりすると、人間の気持も変わつてきます。そういう関係から親の理解が深まつているということは事実です。しかし一方、因習的なものも相当根深くあるということも事実です。でもある程度、若いものの意見を吸収しようというふんいきが親の気持としてあるようです。

平井(佐賀) 佐賀のようにお米ばかり作つていて、旧態依然のところでも、農村の若い芽生えがあるということで、私、案外樂觀しているのです。今日の方々を見ると、佐賀のへんのお百姓さんみだいにやなく、みんなスマートで、ハンサムでいらつしやる

ので……。そんな意識に革命なんかをすわけにはいかんから、デモは遅くても、若い芽があちこちで出ていますね。

石母田(岩手) みなさんのお母さん方は勉強する機会があるので、それはどういふところですか。

青年(女) 私から見ると、自分でする気がないと思うのです。婦人会に入つていいることは入つていいるけれど、あまり出ないんです。これが一しよになつて合同の講座をもつ時もあるのです。そういう面でもかなり勉強しているようですね。

斎藤(新潟) 若い者まかせにさせてもらうということの出来ない人もあるわけで、いやいやながら百姓しているという青年を、どういふ機構の中で体系づけていいたらいいかということ、その点、どうでしょう。

青年(男) 違わないですね。ただ私自身の場合は、今まで学校でしかけれど、農間はその人が野良で働いているところを、自分だけ背広を着て出かけるというのは、何だか、苦しい、いやな感じがしますね。

斎藤(新潟) たとえば農業経営を切りかえるという場合にも、ただ農業高校だけじゃ困ると思うのですよ。そういう人たちは、何かの機構の中で……。

青年(男) 僕なんかの場合は、切りかえといつても、一応学校で習つてきたことと、参考書なんかをみたり、納得ゆかないところは普及員と相談するわけです。

青年(男) 技術的な問題だけじゃなくて、指導者がほしいですね。藤田(岐阜) 皆さんのように大学の通信教育を受けたら、和農家で4Hクラブなどの会合に出ていける人はいいいのですけれど、兼

業農家で、農間は工場に行つて働いて、日曜だけ百姓をやつている人たちの修養の場というふうなものは、どんな形で持たれてい

るのでしょうか。

青年(男) 僕なんかの場合は、青年団に産業部というのがあつて、農事研究会を十人で形成しているわけです。農事研究会といつても、最近はいかに自分の土地を高く売つて、安い土地を求めるといふほうが先決なんです。

八木(京都) 私どものほうでも、百姓の娘さんが農家に嫁ぎたくないというのが多いのですから、いまお二人から、農家でずつとやつていきたいということ聞いて、非常に意を強くした次第です。これまでの農家でしおしゅうとさんがいつまでも財布をにぎつていて、お嫁さんにゆずらないので、自分の小づかいも子どものものも思うように買つてやれないという不満を聞いていますけれど、この辺はそういうことありませんでしょうか。それからまた家庭をもつて、いざれ子どもができましたら、赤ちゃんとのかかえて百姓するということにもなると思えますけれど、そういうこともお考えになつていられるのでしょうか。赤ちゃんと

な面の発育も、また自分の労働というものに対して、母親の健康を守るために不安があるという声があつたのですが、そしてそういう乳児を扱う託児所が欲しいということも切実な叫びとして東京でいつてきてもらいたいということだつたのですが、保育所などは、どうなつていきますか。それともおしゅうとさんとか、お留守の方にあづけて働かせるのですか。

青年(女) おしゅうとさんと協力してやつていくのがいいと思います。

藤田(北海道) 農業をやつていきたいとおつしやるのですけれど、

お嫁さんをもつと、お嫁さんを農作業にお使いになるつもりですか。それとも町の奥様方のように家の中のことをやつてもらつてもいいですか。

青年(男) 僕の考えは、できる限り家におきたいと思つて、取り入れなどの時には手伝つてもらつてくれ、あとは家で十分子どもを見てもらうという考えです。

青年(男) 自分もそう考えています。

司会 たしかに、農業基本法の問題にもありますが、そういうところに追いこまれてくるだらうと思つて、次の世代のものは、どうしても農業を企業化して、家庭と職場というものを分化していくということになるんじゃないかと思つて、そこで最後に、何かお母さんにこうしてもらいたいということをひとことずつ……。

青年(男) いまお嫁さんの話が出ましたが、親は、自分が好きなら、どんな人でもいいから連れてこいといつても、親としての条件があるのだから、へん矛盾しています。

青年(女) 母親は、こういう機会に勉強するのですけれど、父親たちと会う機会がないのです。だからこういうところに出てきた方が、おとうさんの教育をもつとよくしていただきたいと思つて、すね。

青年(男) 親は自分の息子の個性とか、そういう才能を十分に生かせるような環境にもつていつてもらいたいと思つて、農業をやらせたいなら、あえて農業にとどめる必要はないですね。

青年(男) 古い因習やならわしにこだわらないで、新しいものだけにふつかつていってほしいと思つて、す。

青年(男) 家の中で話し合つたらわかると思つて、すけれど、若い

青年にはやりたいことをやらせてやるならいいんじゃないかと思
うのです。

斉藤(新潟) 皆さんのごつかいはどうでしょう。

青年(女) いまは協賛に勤めています。家にいる時は月給でも
らっています。

青年(男) 僕なんか自由です。自分で持つてゐるから……。

青年(女) 私の収入は五アールの田んぼからあがる収獲で、どう
やら一年間、間に合います。

青年(男) 私の場合は酷業をやつていて、その内何割と決めて自
分の小遣いにしてゐます。

青年(男) 家に入つたばかりで、これからはつきりと帳面をつけ
てやつていきたいと思ひます。学校にいつてゐる時は、奨学金と
アルバイト、あと家から小づかいとして二十円もらつていまし
たが、やつていけない時がたびたびでした。

司会 いろいろどうもありがとうございます。時間ですのでこれ
で終わります。

以上

第二班

東京都立水上小学校視察

日本橋問屋街並びに店舗附属寄宿舎視察

日本橋問屋街青年従業員との懇談会

懇談会出席者

会 議 員

佐藤 久美子	(北海道)
青村 伊志子	(青森)
熊川 淑子	(山形)
早苗 恭子	(群馬)
神尾 せつ	(埼玉)
牧瀬 菊枝	(東京)
遠藤 みも子	(山梨)
大蔵 静子	(愛知)
中野 イッ	(三重)
藤本 智恵子	(大阪)
浜村 和子	(兵庫)
川島 晶子	(広島)
貞広 しづ子	(香川)
高塚 栄子	(長崎)
高司 文子	(大分)

日本橋問屋街住込店員 十名

リーダー 伊藤 昇

司 会 磯野 誠一

東京臨海少年会長

司会 こんにちは、皆さん。拝見しますと、二十を過ぎたぐらいの
方も、今年中学を出たばかりのような方もいらつしやるようです
ね。先ず、皆さんのご郷里からうかがいましょう。

従業員(女) 私東京の葛飾で、通勤です。

従業員(男) 私は新潟です。

従業員(女) 私は東京で通勤です。

従業員(男) 私は大阪です。

従業員(女) 私は山梨県です。

従業員(男) 私は埼玉県の浦和です。

従業員(男) 静岡県です。

従業員(男) 岡山県です。

従業員(男) 山梨県です。

従業員(女) 八王子市です。お店の寮に入つてゐます。

司会 東京の方も、二、三いらつしやいますけれども、ほとんどの
方がご両親のもとを離れて、東京でも名にしおる問屋街に住み込
みとして働いていらつしやるわけですね。今日はみなさんに、働
いていらつしやる日々のいろんなことを聞かせていただきたく
と思つてうかがいました。拝見しますとたいへんいいお店ばかり
ですが、もう少しこうしてもらいたくないかと、こういうことは
どうしてもしてほしいとかいうようなことがありましたらどうぞ。
従業員(男) まだ入つたばかりで、よくわかりませんが、満足してゐるん
で満足しています。

司会 人間はこれでもいいということはないので、もう少しこうなつ
た方がいいなというように、何かありませんか。みんなの意
見ができるだけ通るようになってください。みなさんの意見
従業員(男) 会社そのものに対しては、割合に満足してゐるんで

すけれども、われわれは彼等、一人であつてゐるので私生活の面で比較的不便なんです。具体的にいいますと、洗濯ですね。こちらでも週休制になつていますが、そのほかの休みは与えられていないんです。そこをもう一歩考えを進めていただいて、それは全部の仕組みということは認められないと思いますが、ある程度ですね。内容によりまして、全部の仕組みがなくなつて、一部分ですね。それでも与えていただいたら……。ちよつとまあ希望ですけれども。

司会 そうすると、もうすこしお休みがほしいということですね。毎週の休みですけれども、せつかくの休日をそういつたものに費すことは非常に惜しいので、さらにもうすこし考えてもらいたいということですね。

従業員(男) 決して遊びだけじゃないと思うのです。パートに行つて陳列の研究をするとか、座談会するとか、いわゆる商売に結びついたような使い方ということも、ある程度はできるんじゃないかと思ひます。

司会 皆さん方はお休みの日は、みんなで、どこどこへ行つて研究してこいというようなことをおつしやるご主人もあるんじゃないのですか。だつたらみんなで一緒に行かれるわけですか。

従業員(男) 毎週日曜日は自主的に使ひます。会社からは、日曜日からこうしろとはいわれていないんです。

司会 お洗濯の話を。通勤の方はべつとして、皆さん宿舎にいられて、電気洗濯機は……。

従業員(男) 今度新たに入りました。

従業員(女) 私数世帯の家にありますが、自分でやつぱり……。

司会 大へんいい意見が出ましたけれども、皆さんはお休みをど

うしていらつしやいますか。お休みの使ひ方ですね。遊びに行きたいんですけれどもお金がかつてくるのか、毎週のお休みは大切だけれども、行くところがないとか、いろいろあるでしょう。従業員(男) 僕が入つたころはあちこち見てまわつたけれども、なんだんくたひれて(笑)日曜日は洗濯したり、映画見に行つたりなんか……。

司会 ほかに何か……。従業員(女) うちの会社の場合ですと、私の仕事には、まあ余裕があると思ひます。朝九時で夕方六時ごろまでだから、日曜日にしなくちやならないものがたまるということはないんです。だから朝と日曜日は朝から晩まで使ひます。

司会 働いてゐる時間が短かいから、あとの時間があるというわけですね。皆さんの中で、お若い方たちはから勉強といひますが、日本橋には大へんいい青年学級もありますが、そちらに行つていらつしやる方、ございますか。だれも青年学級へ行つていらつしやいませんか。朝九時から夕方六時ごろまで、終つたあとの時間を、何かもつと勉強したいが、お店の方でどういふふうに考えくださるといふようなことは……。もう少し便宜をはか……。

従業員(女) 私学校の友だちがみんな上の学校へ行つたんです。大学に。私高卒で、だから新宿へ行くとき友だちに会つから、とてもいやなんです。だから朝九時から六時までなのを、朝七時からでもいいんですが、夕方五時ごろまでにして、夜間でも学校へ行きたいと思ひます。

司会 そういふようなことについて、まだお入りになつたばかりでしようけれども、どなたかに相談なさいましたか。お店のご主

人とか、職場の上の方に。

従業員(女) まだです。問屋は全部朝九時から六時ごろまでですから、私のお店だけ五時までにしてくださいということとは……。

司会 それはお店全体はできないでしょうね。ですけれど、どうでしょう、一人のお友だちが一日働いて、夜なんとかして学校に行きたいと思つていらつしやる、それに対して皆さん、どういふふうにお思ひになりますか。

従業員(女) 一時間というのはいちよつと無理でしょうが、私の同僚の人の希望というのは、たとへ三十分でもいいといつています。六時から始まる学校が比較的多いので、お店六時に出で、いちばん近いところでも、行く時間だけで、たいてい三十分はかかります。それで、まあ昔に比べればほんとうに楽になりました。六時にもちゃんと終わりますから、できますならば三十分早くしてもらへば、学校なりなんなりへ行くことができるわけなんです。そういう希望の人が割りと多いんじゃないかと思つていますが。

司会 そういう希望の方たちは、今どうやつて……。従業員(女) 無理してやつておりますけれども、一日中働いておりますから疲れますし、でも努力すればできないことないですけれども、学校におくれますし、どうしても三十分間というものを、できれば早くしていただきたいです。

司会 今の方のお話は、なんとかして学校へ行きたいけれども行けないということでしょう。一時間ずらしていただければとても助かるということね。あなたの場合は三十分という時間をつくつてもらわなければなかなか大へんということですね。そういう場合、なんか皆さん方全体でもつて、一人の力じゃできませんけれども、それをよく考えてあげて、そしてみんなでご主人に相談

してあげるといふことはできないことでしょうか。

従業員(女) 今までにはそういうことはないですけれども、朝早く出て交代にすればできないことないと思ひますけれども……。

従業員(男) 学校を卒業して社会に出まして、さらに教育を受けるということですが、私の会社の就業規則では、あらかじめ、学校には行けないことを、採用するときにいひます。忙しいし、まして七月から三月ごろまで猛烈に忙しい。従つて学校に行くことで、からだでもこわすといけないし、次の日に差しかえるというので、そのことを了解のうえで採用するわけです。私ここきて七年になり、入つた当時は相当きつかつたけれども、最近はおやじは、多少そういうことを考えてきていふと思ひます。柔道や剣道を習に行くといいようなことは許すようです。ですけれども、女子の場合は、そろばんに行くのも絶対夜は出さないんです。まあよく考えれば、大事な子どもを預かつてゐるんだから、万一のことがあつてはといふことを、第一に考えるわけでしょうと思ひますけれども。

司会 今の方がおつしやつた、男の方にはある程度の自由があるようですけれども、女の方には大へん厳しい、それは悪意じゃなくて、大事な娘さんにもしものことがあつてはいけないということ、ご主人の御好意だといふふうに思つて、感謝すべきかもしれせん。けれども、案にいらつしやる方で、おけいこととも夜はいけない、お店の施設だからこの案にいななければいけない、これをどんなふうにお考えになりますか。

従業員(女) でも私はそれはと頭屈に感じないんです。十時の門限まで出かけることだつてあります。うちの場合ですと、お花は奥さんがあつてくれまして、寮へ来てもらつて週に一度

やりです。團體などは日曜日を利用して習っている人もあります。
従業員(男) 特別な用事は仕方ありませんけれども、夜出ること
は一切いけません。

司会 そうしますと、寮なんかでは何か自治的には、やっていますか。
しやないんですか。自治体というよりなものがあつて……。

従業員(男) それは四十人からおりますから、会を作りまして、
一昨年からやっていますけれども、まじめなところも、なかなか
かまともにくれい。また図書館なんかも一通りぐらいて、本でもた
くさん買つてくればいいですけれども、もうけるのがやはり第
一になりますから(笑)なかなかそこまではいけないようです。
うちのおやじはなかなか意見が強いので、われわれ十人で十口
しやべつても、おやじに一口いわれれば、おしまいですね。しか
しあとで考えてみると、なるほど正しいと思うことが多いです。
ためたという理由を、あらかじめ話してくれまうから、なつとく
するんです。ただだめだじやあ、人間ですからカッとするときも
ありますけれども。(笑)

司会 そうしますと、皆さん方の寮では、お互いに話し合つて、自
治的にうまく仲間づくりをやつて、みんなで盛り立てていくこと
にしても、なかなかうまくいかないから、少々やかましくても、お
やじの方がやつてくれた方が、まだよろしいということでは……。

従業員(男) 現在そういう状態です。それでも、このごろはだ
んだんわれわれでやり始めつつあるんですが、最初はこまかいこ
と、めんどろなことは社長一任ということになつちやう。僕ら入
つてから七年もたつので、どうしてもその後入つた人とは考えに
差がついているんですね。新しく入つてきた人には、僕らの考え
をいつても腑がわからない場合がある。時代が変わつてますから

ね。奥の五、六年変わります。だいたい考え方も違ひます
からね。

司会 そうしますと、逆に新しい若い方には、七、八年いらつしや
る先輩の方の気持がわからない、というよりなことですか。若い
方はどうお考えになりますか。

従業員(女) 先輩の人たちには先輩の人たちの考えがありますし、
私たちには、また私たちの考えがありますから、若い人たちの考
えと、年寄りの人たちの考え、(笑)こめんなさい、先輩の
人たちの考えを、まづすぐに切つてしまわないで、ちやうどそ
まん中の辺をとつていけばいいんじゃないかと思ひます。

司会 なかなかあなたうまう導き出さないことをおつしやるけれ
ども、じやあそれができますか。

従業員(女) わからない場合は、先輩の人たちに従うのがよいと
思ひます。それだけの経験があるわけなのですから、それはかな
いせん。

司会 こういうようなことをよく聞くんですけれども、いなかの中
学校、高等学校を出て、東京のお店に働きにいくと、先輩の人た
ちが自分たちのことをめんどろみしてくれない。べつに言葉に出し
ていうわけじやないけれど、何となく冷めたいというが、そんな
感じをひしひしと感ずるというのです。だからご主人とか奥さ
んがいろいろか悪いということより以上に、一緒に仕事をする先輩
のほうが、自分についてくたさることや、してくたさることのほ
うがひしひしと感ずると、若い方はおつしやるんですけれども。

従業員(女) うちの場合は、すぐ先輩のところへ来たがります
ね。小さい子見てみると、とてもいいと思ひます。

司会 皆さん喜んでいらつしやるわけですね。きつと先輩の方がよ

く氣をつけて、お店はこんなふうで、こうだからと、先輩の
方がよくお話になつてくたさるのでしようね。

従業員(女) そうですね。女の人同士の場合はそういうことあま
りないんですけれども、男の方はよくしてくれまう。

司会 女の人は知らん顔してまうか。

従業員(女) 仕事の面ではいろいろ教わりましたけれども……。

司会 ほかの面では男の方が……。

従業員(女) 女の人の場合は、私の会社は全部通勤なんです。私
たち先輩、先輩とか、そういうことはあまり念頭においてなくて、
高校卒業程度の年令で入つてまうと、そういうことはあると思
うのですけれども、中学卒でまうから。

司会 今若い方の氣持がわからないというお話がありました。皆
さん方同士じつくり食つてお話し合ひをする、こういうような機
会はいかがですか。

従業員(男) 僕ら入つてから一年たちまう。また今年新しく入つ
て来た人がいますが、いろいろ何か教えたりするけれど、相手に
してみればうるさいらしいこともあるようで、これなんだと思
ひます。同士の会というのがあつて、月に一度ずつ集まつてや
つてはいるのですが、そういうところで、いつも不満だとかなんだか
話し合つてまう。

司会 そうしますと、皆さん方は、お休みの日なんか人と一緒にと
いうようなこと、何かありますか。

従業員(男) 同じ仕事をしていれば同じ時にご飯をたべながら話
し合へますけれど、仕事が違うと、はなはだしいときには寮生同
士でも一日に全然頭も合おさないという状態もあるわけですね。そ
のままじやあ、ほんとに先輩、後輩の心のつながりが深められ

ないので、そういうことをなくすために、日曜日にみんなでス
ーとなんかやつたりして、先輩、後輩みな同じ屋根の下に住ん
でいるんだということに親睦を深めてまう。特にわれわれ感ずる
んですか、そういう日曜日、うちの場合は、月一回ずつ寮会
というものを開きまして、先ほどどなたかおつしやたけれども、
不平不満を取り上げ、寮長、副寮長と二人おつしやして、寮の意見
をある程度試験的にまとめて、寮長が社長にこういうことをした
いというふうにしなから、だいたい改善の方向に進んでおつし
や。そういうふうにある程度自分たちで討論していくという方向に
つておつしや。

従業員(男) うちの同士の会には親睦会があるんです。そこで
役員が選ばれ、野球大会などがあるんです。

司会 ここにいらつしやる皆さん方は、お勤めになつているお店が
理解のあるお店だから、大へんおしあわせだと思ひます。けれ
ども、その中であつても、これが困つておるんだというよう
なことはありますか。内容によつては、それをその町全体として
あるいは商店の組合でやつていただけのこともあるだろうと思
ひます。さきほどの、学校に行きたいというお話はまだ問題決
していませんけれども、それはあとで考えることにして、どう
しようか……。働かれるようになってから一年ぐらいたちま
うと、おくに帰りましたか。年次有給休暇というようなので。

従業員(男) 帰りました。

従業員(女) 私はお正月なんか四日ぐらひ。

司会 その四日間は、帰つてもお給料はもらへる。

従業員(男) この辺では日給は少なく、大体月給です。一
日休んだから一日分引くなんていつたら、働く人はとないんじや

ないかと思ひます。

司会 あなた方、将来の希望は何かでしよう。

従業員(男) この間も社長から、全員将来の希望、こうしてもらいたいというのを書かされたけれども、将来の希望といつても、一口にいって、なかなかうまくいかないのが普通のような状態で、ビシからキリまであるんです。私昭和二十八年に入つたんですが、入つたところは、まだ店も小さく、そのときは徒弟制度のようで、のれん分けのこともあつて、そういう意味で給料は少なかつたし、給料の明細なんかもなかつたのですが、今はそれが月給でしよう。ちゃんと明細書がついてきますし、それだけの開きが出ています。そのかわり、かりにもし将来商売したいと思つても、どの程度援助してくれるとか、そういうことは話さないわけです。人数も非常に最近ではふえて、十五、六人のときからみますと七十人くらいになつていきますから、一人一人ののれん分けたら大へんですが。司会 七十人一人一人におけたら、お店ののれんがなくなつちやう……。従業員(男) 従つて、しょうがないからいつしようにけんめい蓄金して資金を作りまして、これだけあるんだから貸して下さいといへば……。

従業員(男) 僕も、できれば小さいお店でいいですから独立したい。社長さんは、よく勤めてくれたら、支店なんか作つた場合、支店長として出すといつてゐるんです。

司会 それから、退職金の問題ですが、何年勤めたらこうとか、お店がいろいろな社会保険に入つてゐるとか、そういうようなことはどうですか。

従業員(男) うちの場合、中堅幹部をこのまゝ集めまして、そういう将来の希望、保障といひますか、ある程度そういうことは話

つて下さるのですか。

従業員(女) お花代は自分で払つて、月謝はお店から。

従業員(女) うちの場合は、お花代というので、毎月出していた

だいてゐるのです。

司会 お花代だけもらつて、習わない人もあるそうですね。

従業員(女) 仕事の時間との関係で、花だけ持つて帰るというこ

ともありますね。

司会 そういうような場合、習つてゐるんですから、もう少し考えてもらいたいというように、みんなでお話し合ひになつて、ご主人におつしやるようなこと……。

従業員(女) あんまり女の人はそういうことしない。でもひまな時期と忙しい時期というのがございますね。そういうとき何かしていただけたら……。商店というのは必ず忙しいときがあつて、お仲元、お歳暮というのは想像以上にはんとうに忙しいわけなんです。だからお正月というのがほんとうの休養だけになるという

ような状態です。

司会 日本の中でもいい商店街とされている、そういうところでお働きになつてゐる皆さん方に、いろいろお聞きして、おかげさまで私ともたいへん勉強になりました。男の方も女の方も、それぞれしつかりしたものをお持ちになつて、ほんとうにござつぱだと思ふのですよ。さつき、お友だちが大学に行つてゐるので働いてゐるのがいやだとおつしやいましたが、どういうことでしよう、恥かしいということですか、勤めてゐることが。

従業員(女) 東京の仕事はなかなかの仕事に比べたら、いくらたいへんだといつたつて、すごく楽なわけです。いなかで田舎をし

てゐる、草取り、まきをとつたりということからみれば、いくら階

されました。退職金制度があるということも、そういうことを聞

いた場合に、心のゆとりというか、いちばん安心感を感じますね。

特に寮生の場合なんか、通いの人よりは貯蓄するといひますか。

そういうような心がまえが強いんじゃないでしょうか。

司会 そうすると、やゝ希望をもちながら……。

従業員(男) それは皆さんそうですね。

司会 目的をはつきりつかめない不安はあるわけですね。自分はこ

ういう目的を持つてゐるけれども、はたしてそういうふうにい

かどうかという……。

司会 そうしますと、毎月ともかく何でもいから貯金しよう、将

来は将来だ、というところですか。

従業員(男) しかしそういう考えだと、その場に当たつて考える

そういう方向になつてしまふのですね。それではあまりに危険性

が大きいんじゃないかと思ひます。たしかに二年、三年勤めま

す、あくまで独立して商売するよりも、中堅幹部に将来はなる

といふふうになるんじゃないかと思ひます。

司会 いかですか、女性の立場から……。どういふ希望とか、ど

ういふ生活設計をお持ちになつてゐますか。

従業員(女) 男と女とは全然ちがいますから、お嫁入り前の、普

通のサラリーマン的なふうなんでしょうか、そんなふうな……。

司会 将来、折を見て結婚もして、ということになりますと、やは

りそれについていろいろと、忙しいばかりが能くはないので、あ

る程度のことばやつて覚えておきたい、そういうことになりま

すね。どういふことを、皆さんおやりになつていらつしやるの

従業員(女) お花をやつております。

司会 ほかに……。どこでもお花ですけれども、お花はお店で買

段を何十回上がったたり下つたりしたつてはほんとに楽なんです

ね。そういうことを考えれば、夜学校へ行くことなんかなんてない

んです。時間だけあれば私は行けると思ひますね。

司会 そういう意味でいやなんです、働くこと自体がいやとい

ふのじやなく……。

従業員(女) やつぱり、みんな学校へ行つてゐると思ふといやで

すね。

司会 そういう意味でね。それはやはりよく考えてみて、いいお友

だち、いい先輩の方に相談し、ご主人にもそうお話しして、私いつ

しょうけんめい働きますから、何とか皆さんより一時間が三十分

早く出していただけてほしいと、何らかの方法で自分の

気持ちをわかつてもらつた方がいいと思ひますね。そしてお友だち

ができれば、みんなでもつて力を合せてご主人に話していけば、

いつかきつと実現できると思ひます。だから希望をもつていた

きたいと思ひます。

従業員(男) 僕がいちばん最初に、もつと休みがほしいといつた

のは決して自分たちは休日之余けいもらひということ、サラー

マン気どりにしたいというふうな、そういう意味じゃないと

いうこと、付け加えたいのです。

司会 商売に結びついた有意識な使い方ということで、休みをふやし

てほしいということですね。

従業員(女) サラーマン気どりのというのは、何も悪いことじやないです

よ。皆さんサラーマンだし、おそろくだれも誤解はしてないと思

ひますよ。

ではどうもありがとうございます。会員の皆さん、お聞き

の通りでございますので、ただいまから約二十分間、おひさ

緒にいろいろお考えになっておられることや、お聞きになりたいことをお話し合いになっていただきたいと思います。

佐藤（北海道） さきほど、学校に行くのに、時間的に余裕がないということでは……。

従業員（男） 時間的にもないですけれども、商売というものは非常に忙しいし、商売をきらっている人も案外多いようです。

佐藤（北海道） 就職するのなら丸の内あたりの大きいところというんですね。しかし商店はこつこつ働かなければならんですし、そこにおのずから精神修養のようなことが必要ですね。また月給の点や設備、その他あんまりよくないんじゃないでしょうか。私の方で、昨年新聞募集で四十人ぐらいの予定だったのが、たつた七名くらいしかこない、そういう状態です。だから横山町、馬喰町あたりと、丸の内界隈とは、格段の差があるということがあるということがわかるのです。

従業員（男） 今の問題について、そういうふうに新しく就職する連中が敬遠するというのは、その会社自体がもつ設備改善や労働条件の改善を中小企業だからといっていないで、会社自体でできるだけ進歩的に計画していけば、ある程度緩和されるんじゃないかと思えます。

司会 自分のところは絶対に人を募集するのに困らないと、さつきいった方もありますが、どんな状況ですか。

従業員（男） うちの会社は、女子は学校から直接もらうし、男子の場合はほとんど野球をやっている人、そういう人は団結心があるというのでまああくまでも商売第一ではありますが、ほとんど野球で採りますね。社長の考え方は一致協力、野球というチームワークですね。あの線を大きく伸ばしているわけです。

司会 若い人たちが何を一番希望かということと、お店のこととを立さしていらつしやるわけですね。

熊川（山形） お祭りなんかで休暇をもらつて、おくに帰られると、友だちなどとお話しが出来ると思いますが、来年卒業する人就職希望の人たちには、うちの会社はどうだから、あんた方もぜひいらつしやいと、自信をもつてすすめるわけですか。それとも自分はこれでまんするけれども、人にはそういうことはすすめられないということですか。

従業員（男） そんなことは各個人の考えによつてずいぶん違いますから、自分の意見を述べる程度ですね。こりいうところだというだけで、君も来ないかということはいえないと思います。

中野（三重） ご自分の会社の中では交流があるかもしれませんが、各商店相互の交流といえますか、お互いに職場での問題点を出しあつて、お話し合いなさるという自主的な集まりはありませんでしょうか。

従業員（男） それがないんじゃないですか。

従業員（男） 社長など同業者間にはありますね。

従業員（男） お互いにそういうことしたいという空気はありますね。やはりいつまでも、今のままじゃお互いに進歩しないですね。お互いに欠点を指摘し合い、それでいい方法にもつていくということが必要で、こりやつていけば問題も自然と改善されていくんじゃないでしょうか。

高町（大分） NHKの放送を聞いていると、若い人たちが、品間働いて夜間学校に通う方がずいぶん多いんですね。そういう方のお話聞いていると、一日働いて学校へ行つて、また予習、復習するというのがとつても過重になつているというお話です。それで

皆さん方どうしても学校に行きたい人は、ちゃんと普通の学校に行けるような制度にならないのだからと思うのです。学校を卒業してから働けばいいと思うのです。金がなくても、だれでも行けるような制度になれば、ほんとうにいいと思うのですけれども。

従業員（女） 私が高校を卒業するときに、英語の先生が「学校へは行けます。大学の門なんかなんぼでも開いている。もし自分が就職するから行けないんだというのは間違っている。どうしてか」といえば、ほんとうに行く気があるならば、ちゃんとすれば行けるんだ」とおつしやいました。私東京へ出て来て、東京の人たちは怠け者だ、（笑声） といつてはわるいけれども、（笑声、拍手あり） 金く働かないということはありませんけれども、いなかの仕事はほんとうに大へんで、田舎えなんか歌を歌いながらするといふけれど、実際してみればそんなものじゃないんです。坂だつてこんな急な坂を上つて農作業をする。東京の人は、階段を今日は何回上つたとか、荷物を何回運んだからえらいとかいつているけれど、そんなこと、いなかの仕事からみたら、問題じゃないと思うのです。いなかの人が出てくれば、東京の仕事は割合と楽ですから、学校へ行つて平気ですけれど。

司会 惜しいところで時間がなくなつてたいへん残念ですが、この続きは、私たちが話し合いますし、皆さんも会館にお帰りになつて、また今晚でもお話し合ひしていただければと思います。大体ここにいらした若い方のご意見は非常に割切つて考えていらつしやるので、その点で非常に私たち安心いたしました。それでは、これで終わらせていただきます。

皆さんほんとうにありがとうございました。

（ホーメルームでの話し合いをきいたあとで。）
吉村先生 それでは、お母さん方と子どもたちと、話し合いをして
みたいと思います。
最初に、お母さん方の間で、こういうことをとくにここで話し
合つてみたい、あるいはとくにこういうことを感じた、というこ
とがありましたら、出していただきたいと思っています。
島田（熊本） いまままでのお話し合を聞いていまして、ショツクを
受けました言葉が二つあつたんです。それは、おとなの気持ちには
あなたにはわからないとお母さんからいわれたとき、とてもシヤ
タにさわつて家出をしたと思つた。次は、子どもの言葉が違つ
ても、お母さんは興奮しないで欲しい、いつまでもそれにお母さ
んがこだわっているの、おとなはともしてシヤタにさわつて自殺
したいと思つた、といわれたことです。
いつか新聞かなにかで、日本中の子どもがいま家出をしたがつ
ている。というふうな記事を見たことがあるんですけども、そ
んなことを子どもが思うようでは、父や母の立場がなくなると思
つたのです。とくにどんなときに家出をしたと思われるか、あ
るいは自殺をしたと思われるか、もう少しお聞きしたいんです
けれど……。
福島（茨城） 私も中学の教師をして、二年生とお勉強しています。
きよう皆さま方のお話し合いを聞いて、とても身近に自分の生
活と結びついているものですから、とても面白く聞かせていた
いたんですけれども、いまのお母さんがおつしやつたように、あ
なた方がなにか思いつめたときに、家出をしたいとか自殺をした
いとか、なにかご自分でいろいろ悩んでいらつしやるときに、先
生方のご相談をなさらないんですか。
生徒（男） それは先生なんかというの、なにか恥しいから、話す

第三班

愛育研究所視察

上板橋第一中学校二年のホーメルーム傍聴

上板橋第一中学校生徒との懇談会

懇談会出席者

会 員

福島	大月	松南	清水	野田	塩川	伊吹	山根	山下	石川	岸下	大下	遠藤	草野	島田
正枝	千代	敏子	英子	幾久	きく	和子	久代	智子	美智	原子	富子	幸子	貴子	まき
(茨城)	(栃木)	(東京)	(石川)	(福井)	(長野)	(大阪)	(兵庫)	(和歌山)	(島根)	(徳島)	(愛媛)	(福岡)	(熊本)	(熊本)

上板橋第一中学校二年

生徒

特別オブザーバー

新嘉喜

青藤 忠

雄 静

司会 上板橋第一中学校

吉田先生

気にはならないんです。

吉村先生 先生に話す気にならない？。〇〇君、どうですか。

生徒(男) ぼくは、おとなというのとはみんな同じだから、誰でも先生でもうちの人でも、いうことは同じだから、というふうにいわれてきましたから、うちの人をそういうふうにいえば、先生も同じだろうというんで、先生にいう必要もないし、同じような意見だろうと思つて、かえつてバカにされるかもしれないと思つていいません。

生徒(女) いうと、なにか先生の方から家の方にいわれるような気がして、いわない。

生徒(男) そういうふうにお母さん方はいうけれども、そういうふうにはぼくなんか思いつめたときは、先生にいうどころじやなくて、自分自身が思いつめたやつで、そういうことが一年に何度かある。どん底というか、そういう気持ちになつて、ひとにいうなんて考えは、全然起きないと思います。

生徒(女) 一つの原因というのは、先生の気持ち、おとなの気持ちかわからないからじやないかと思うんです。先生の気持ち、こういうことを話していいんじゃないかということがわかれれば、いうんじゃないかと思ひます。

岸(徳島) 私はまだ皆さんのお母さんじやなくて、お姉さんぐらゐなんですけど、だから皆さんの気持ち、私も経験して間がないからわかるんですけども、そういう場合に、誰かに相談してそういうふうな秘密とか、自分の気持ちというものを話したいという気持ちにならないでしょうか。

松南(東京) 私も大体同じように、誰かに話したら。現在自分の気持ち、誰ならいちばん安心して話せるという方は、どなたで

しょうか。

生徒(男) それはやっぱりお母さんだと思ひます。お母さんがそういう原因を作つて、ぼくにそういう気持ちを持たしたからにはお母さんがそういうあたにかい気持ちを聞いてやつてくれればいいと思ひます。

生徒(男) そういう原因を作るのはお母さんでしよ、ケンカなんかしたときは、やっぱり親しい人とか、そういう人に相談する。生徒(男) やつぱり女性に女性、男性は男性で、やつぱりお父さんだと思ひます。自分たちも、やつぱり長男なんてのは、いちはお父さんに近いわけですからね。どうもお父さんというのには、気が合います。だから女のお母さんというよりも、どうしてもお父さんがいいと思ひます。

吉村先生 そうすると、いまの場合は、そういうようなこととがあつた場合、話し合いをする相手を誰にするか。学校の先生というのには、おとなで頼りにならない。……(笑) どうもぼくも頼りにならないらしいんで、一回もまだ相談受けたことないんだけれども、いまの話のなかで、たいへん面白い意見があつたと思ひます。それは、やつぱりそういう原因を作つたお母さんと話し合うということですね。そういう点で、どうですか。ほかの方いま聞いていて、〇〇さん、どうですか。

生徒(女) うちではお母さんが……。

遠藤(福岡) 私にも、いまちようどあなた方と同じ年ごろの子とかがいるんです。それで、たいへん面白くお話ししていただきました。聞いていますうちにだんだん感じましたことは、皆さんは母親というものを、公平な裁判官のようなふうな立場のものであつて欲しいと期待していらつしやるような感じがしました。家庭で

は、やつぱり兄弟の間なんかで、私もできるだけそうありたいと思つていんですけども、家の中ではどうしても、母親というものは忙しいんです。そういうことにかまけて、つい感情的になつて、公平さを失なうという場合が、時々あると思ひます。で、お母さんたちも人間のそういう弱さを持つていんだというふうなことを、もう中学校の二年ぐらゐになつたら、少しわかつていただけじゃないかしら。そういうふうな希望を持つてくれれば、むずかしいことかしら。

吉村先生 お母さんも人間なんだから、やつぱり君たちがいやだと思つたとき怒つたりすることもあると思う。そういうときに、どういう気持ちでお母さんに接し、あるいはお父さんに接するか。

生徒(男) ぼくらだつて、お母さんの気持ちがわからないことなんです。かえつてわかりすぎるくらいなんです。そういうときお母さんの方から、お前なんかにはわからない。ということいわれると、こつちだつてそれくらいのことわかるんだけれども、お母さんの方からそういうふうにいわれちゃうと、もういう気がなくなつちやうです。

生徒(男) さつきお母さん方が、子どもたちがお母さんを裁判官のように思つていられるというでしょう。それはぼくなんか、公平な目でもつて見てもらいたいということは、いつでも願つていることなだけけれども、お母さんがその一言でもつてぼくの気持ちを動かしたんだから、やつぱりお母さんがそういう機会を自分でもつてみつけて、そして、ぼくなんか反省していることは重々しているんだからね。やつぱりそれはお母さんが、そういう明るくなるきっかけをみつけて、ぼくたちに相談してくれたらいいんじゃないですか。

松南(東京) そういう場合にお母さんと朝ケンカして出ていつて帰つてきた時にお母さんがまだふくれつツラしている。そういう場合に、家庭は非常に暗いわけですね。そういう場合に、お母さんがふんいきを明るくして欲しいのに、いつまでもなにかグズグズふくれツラしているけれども、ご自分でも欠点をみとめて、ほんとうに反省されているとして、子どものあなたの方からも話しかけていくというか、お母さんがふくれていながら、自分の方もすねているんだということでは、そのあとはどうなるんでしょうか。なにか自分から……自分ではどういうふうな努力したい、というふうにお考えになつたことはありませんでしよか。

生徒(女) 私なんか、家を出て学校に来て、その時はわかるんです。反省してみらなう。そういうことで、思つてはいるんですけども、なにか話しづらくなつて、心の中と思つてい

松南(東京) そうするとそういう場合、親と子どもと、いつまでもなにかしこりが残るようなことにならないでしよか。心の中は何か持つていれる。親も持つていれるし、自分の方もなにか、はつきりしないものを持つていれるんですね。そうするとなにかおかしなことになつて、いつまでもたつてもうまいかないんじゃないでしよか。

生徒(女) だけど、うちではみんなと違ふでしよ。うちでは、うちの者、すぐ仲よしになつちやう。

生徒(男) ぼくんちでは、お母さんがとても頑固だからね。ぼくなんか、学校で面白いことがあつたら、そういうことを話したり、お母さんの方にもなにか話しかけるようになった。そういうき

吉村先生 うまく親を懐柔する方法、(笑)これはやつぱり新しい時代の子どもは考えなければいけない。

生徒(男) さつきあそこの太谷さんが、自分でもって反省している気持ちがあつても、いう機会がない。恥しくていえない、てれくさくていえないといったけれどもね、ぼくは家へ帰つてね、やつぱりいまいつたように、同じようにね、いえないんだけど、自分の方はさかんに、お母さんにいたくて、いつたらいいだろうかと思つて、きつかけを探しているんだけど、その前にお母さんが、ぼくが帰つた拍子に、まだ暗い顔して、目を、線をはずす、そういうことをやられたら、こつちは、お母さんが向うで反省してくれるまで、ぼくは自分でもつてお母さんにそういう弱いことを絶対にいわないという、そういう覚悟を決めちゃいます。(笑)

生徒(女) うちじやお母さんも動いているから、帰つてくるとたいていおんなじような立場だから……。

野田(福井) 私は皆さんより、もう少し小さい子どもが二人いるんです。十年ほどお母さんとして勉強してきたつもりなんですけれども、私自身も皆さんのおつしやるように、たいへんひとのいうことをなんだか素直に聞けない子どもだつたと思います。それがいまお母さんになつたんです。ですから皆さんのおつしやる、おとなは悪いことしていても反省しない。涼しい顔して、子どもはつかり悪いんだというようにいうけれども、だけれどもお母さんの方も反省しなくちゃね。時には家を出したくなる、死にたくなるとおつしやるけれども、私もその気持ちはずよくわかるんです。だからいまの皆さんは、決して悪くないと思うんです。素直とか伸び伸びと育つていらつしやると思うんです。だけれども、

態度をとられた場合には、どういうふうによつて処置するか、聞きたいと思います。

石川(島根) 私は中学二年生の女の子がおります。そして主人は、やつぱり中学校の社会科の先生でもそれをお願いなんですけど、どんなにいいことがあつて、いいにくつても、やつぱりお母さんについてください。私の子どもも、数学の点が前の学期より悪くて、心配したことがあります。「どうしたの」といつても、なかなかいいませんでしただけでも、私のお裁縫している箱の中に、数学の点が悪くて許してください。」と書いて置いてあるんです。私はそれを泣いて読みましたけれども、やつぱりどんなにいいづらくても、お母さんにはいつてください。これはお願いです。

大月(栃木) お母さんは、ご、ご、ごとも多いけれども、結局いちはん断絶するというのはお母さんだ、といつてくださるんで、ほんとにうれいんですが、たとえば、お互いにケンカして出てきたあと、お互いに話しいるときと、話しづらくいときとあると思うんです。で、どんなときにもいちはん、ほんとうに自分が安心して話せる、という場合があるんじゃないかと思うんですけれども、ちよつとその辺を聞かしていただきたいと思います。

生徒(男) それはお母さんが直接にぼくにね、「どうもすみませんでした」なんて、そんなことは望んでいないのね。ただお母さんが明るく、なにか呼びかけてくれたりしてね。なにか「学校のことはどうだつたの」とか、そういうふう自然に明るく話しかけてくれれば、ぼくもそれに応えていくと思うんです。

生徒(男) いまの意見と同じなんですけれども、お母さんにこういうふうにしてくれというを、みんな同じだと思うんだけれども、ただ、そういうことをよく考えてからいつてもいいんだけど

人間だから、時にはやはり間違ひがある。そのときは、自分のやったことを静かに反省してみよう。大事じやないかと思ふんです。私も四年生の子どもが勉強しない、つ、い、「なんで勉強しないの」と怒つてしまふのです。そういうとき子どもが「ぼくはつかり勉強せんのじやない」というんです。それで、「もうだいふテレビも見だし、あなたも勉強しておかないとさまるでしょう。お母さんも用事すんだから、お母さんと一緒にしない」というと、素直に聞いて勉強するんです。だから、お母さんの方にも悪いことがあるかもしれないけれども、あなたの方

も……。

生徒(男) なんだかんだいいますけれどもね、やつぱり長男が、お母さんから見れば頼りになるんですよ。だからぼくなんか、そういう頼りになるんだから、それだけの誇りを持つて、やつぱり自分のやりたいことはやりたいことでもやんといつて、それでお母さんも怒るんだつたら仕方ないけれども、自分たちもやつぱり、なんといつても頼りになるのは長男なんだからね。それだけ誇りを持つた方がいいと思うんです。

生徒(男) 家族がいつたときは、謝まつて、というよりも、そういうふうにしてなければ自分もものがいえないんだからさ、だけれどやつぱりお母さんだつて、自分の生んだ子どもがかわいいたるうから、(笑)なんとなく、親子なんだからさ、やつぱりいつか、そんな気がなくなるといふことがあるんじゃないの。

生徒(男) それはね、やつぱり血がつながつていいるんだからね、目がたつていくうちにね、それはもちろんそういうことは自然に解決されていくと思ひますけれどもね。そういうことが年中あつたらこまると思ひます。ですからぼくの立場だつたら、そういう

いうことなんです。なにもそういうようにしてもらいたいということじやないんです。

生徒(女) 私の方で、悩みをみんなお母さんに聞いてくださいといつて、時にはいいたいと思つていられるけれども、お母さんの方でなにか変なふうにとるから、なにかいえないくなる。だから、いつても変なふうには怒らないようにしてもらいたいと思うんです。

遺藤(福岡) 今度全国からこんなふうな、忙しの中をみんな寄つてきましたのは、そんなふうなトラブルをどうしたらいいかしらんというお話し合いをするためなんです。だからこれは私たちの勉強なんです。だからその勉強の結果から、お母さんたちがもう少しあなたたちをよく見て、なるべくそんないやな感じを起させないような暮らし方をするように気をつけたいと思ひます。どうぞあなたたちも、そんなふうにお母さん方に協力してくださいませんか。

吉村先生 この学校の先輩で、斉藤君(特別オプザーパー)が来ているんだけれどもね。斉藤君、いまのお母さんたちのお話を聞いて、どうですか。

斉藤(特別オプザーパー) ぼくもきのうから出ていたんですけれどもね。こんなような意見があつたんです。近ごろの子どもはすくすく伸びているというんです。それについていろいろ話したんですけれどもね、すくすく伸びている代わりに、素直にハイハイと答えないようになった。ぼくはそれだいいと思つただけでもハイハイといつて聞かずに、また今までと同じような事態をくり返すと思うんです。だから父親や母親のいうことをなんでもハイハイと聞いて育つていくことは、ぼくは間違ひだと思ひます。だから自分の思うことはなんでもいって、お互い

に話し合っているならいいんじゃないかと思ふんです。

吉村先生 素直にということば、ただのイハイというんではなくて、逆に自分の意見をはっきりいふことがほんとうの素直じゃないか、これが先輩の斉藤君のお話です。

福島(茨城) 今のことにして、今までは家庭内の平和を保つために、お母さんが、自分さえ我慢すれば、私が黙ってれば家の中が平和になるんだからといって、黙っていたと思ふんですね。それはべつの言葉でいえば、お母さんの犠牲において家庭の平和が保たれていた。しかし新しい時代のお母さんとしては、そういう態度は、子どもに対する影響からいってもいけない。お母さんたちはもつと、英知というんですけれども、賢さを持たなければいけない。そのためには、あえて家の中に、ケンカ、いい争いですね、そういうことが起ることがあつても、それはあなた方が伸び、家庭が進歩するためには仕方がない。一つの時代の変化ではないか、そういうことをお話し合いましたんですけれどもね。ですからさきほどのお話のように、お母さんと感情的に何かある、そういうときは我慢しないで、少しは何かあつても、伸びていくためには、いい争いでも口論でもいいのではないか、私、そう思ふんですけれども、いかがですか。

吉村先生 いまの茨城のお母さんのおつしやつたことは、非常に大事なことだと思ふんです。で、ぼくはホームルームでよく君たちに、ケンカをしないといふでしよう。仲よくしなさいとはいわない。ケンカするといふのは、お互いに意見をいい合ひするということでしょう。さつきのお話だと、お母さんが黙つてじつと我慢をして、犠牲とおつしやつたけれども、我慢強くなつていけば、君たちの家庭が平和だ、ということだつたけれども、やつぱりお

いうふうにいふたら、それはお母さんも悪い点があつた、だけとお前の悪い点は気がつかないか、お前の良心に聞いてみてどうだつたか。こういうふうにいふてくれたら、ぼくもそれはこういうことが悪かつたと思つたら、謝ります。

西下(和歌山) 私は皆さん方との中間にゐるんで、皆さんの気持ちよくわかるんですけれども、いまお話がありましたように、お互いに意見をいい合ひすることによつて、だんだん問題が解決していくんじゃないかと思ふんです。それでお母さんも、自分の思っている通りに人に強制するんでなくて、そのことをいい続けて欲しいと思ふんです。私はこう思ふんだけど、ということばかりいい続けていたら、いつかはだんだんその条件が変つてきて、それでこういうことをお母さんが望んでいたんだから、自分もこうやつてあげようかなとか、あるいは、子どもがあいつていたからしてやろうかな、ということが出てくるんじゃないかと思ふんです。こうしなさい、ということがだけじゃ、みんながいがみ合つて、すぐケンカになるんじゃないかと思ふます。とにかくいい続けることで、強制しないことじゃないかと思ふます。

生徒(男) そこにいらつしやるお母さん方は、ぼくたちを理解してくれているんですけれども、ぼくたちのお母さんたちが、みんなが全体的に理解してくるかどうか、問題なんです。もし理解してくれなかつたら、やつぱり叱つたりなんかするでしょう。だからそういうことを理解してくれなかつたら、どうしたらいいですか。

西下(和歌山) 一遍に解決しないでしょうけど、ぼくはこう思ふんだということば、いい続けて暮したらどうかしらん。いつかはお母さんがわかつてくださる時があるんじゃないでしょうか。

お母さんだつてどんなふうな必要があるんじゃないか。お母さんの方が悪い点があつたかもしれないけれども、お母さんだつて、いいことをとんとんいふつて、そして君たちもそれを受けとめるという、それは大事なことでないかと思ふんだけれども、そういうことはどうですか。家庭の中で、大原則、どうですか。

生徒(男) さつき、家庭でもつてそういうトラブルが起きることが、だんだんとその家庭が進歩していくことだといひましたね。それはもつともだと思ふんです。だけど、そのトラブルのやり方ですね。ただ同じことを何回も何回もくり返されていたらんじやだんだん情しみ合ひだけでもつて、なんにもならないと思ふんです。ただ、ぼくなんか反省しているんだから、お母さんの方もそれによつて少しはやり方を交えてくれ、そして、たとえばぼくが帰つてきたとしたら、一回受け身に立つてみて、「朝はあいうきついいことをいふたけど、少し叱りすぎたからね。お母さんも悪いところがあつたから、でもお前も気を付けなさい」といふてくれれば、ぼくもその時、謝まるべき時だと思つて、ぼくだつてちゃんと手をついて、おかしいだろけれども、ぼくも悪いことしたと思つたら、「お母さんねそういうことをいひしたのは悪いと思ひますけど、ぼくもこれから気を付けますから、お母さんも悪いところがあつたらいつてくたさい」というふうにいふて、ただそれによつて黙りこくつてゐるんじゃないか、何かいいことがあつたらいつてくたさい。ただいふことは、ただ、お前がいけない、お前がいけない、というんじゃないか、何かいいことがあつたらいつてみなさい」といふてね。そうしたらぼくは、最初から全部、「お母さんはこういうことだ、こういうことだ、こういうふうにいふけれども、それは完全に間違ひだ」そう

遠藤(福岡) いまお母さん方のお勉強の会が、あつたところであるんです。NHKの婦人学級とか、各グループでゐるあるんです。そういうところではどういふ話が出るかという、きつと子どもをどう育てたらいいか、ということがいつも問題になつてゐるんです。ですからお母さんもおうちにばかりいらつしやる、と、そういうお話し合ひを知らなくて、今の新しい子どもたちがどんなふうに出てゐるか、わからないんです。そこに先生方のずれがあつて、お母さん方はむかし習われた教育方法で皆さんを育てようとなさるし、皆さん方は新しい教育で育ていらつしやるから、そこにギャップがあつて、先生方のやり方と家のやり方と、すごく差があつて、あなた方はその中であつて迷われるんです。だからお母さん方をお勉強の会に出してあげなさいといふと思ふんです。そのためには、皆さん方ができる家事は手伝つてあげなさい、とても助かるでしようと思ひます。

吉村先生 大谷さん、どうですか。お母さんが助めていらつしやる、と、家に帰つたとき「お帰んなさい」といつてくれるお母さんがいらつしやるなければ、やつぱりさびしくない。

生徒(女) やつぱり私も、家へ帰つて「お帰んなさい」といつてくれた方がいいと思ひますけれども。

吉村先生 いやあ、そろそろまともに入らなければいけないんですけれども、お互いにいいことをもう少し……。

わなによりに飲んでいる。

吉村先生 それはお母さん方はどうでしょう。いまのことではなくても結構ですけれども。

遠藤(福岡) いま私たちに話してくださいなことを、直接ご自分のお母さんに、そんなふうにお話しになったことがありませんか。

生徒(男) あります。

遠藤(福岡) そんなふうなことを、どうも聞かせてあげてください。お母さんも気持ちが悪くて聞かなくていいことがありますね。なるべく思っていることを、その通りお話しやつてくださいますか。

島田(熊本) 今まで私どもがいまのこと、また今あなた方が話してくださいなことを、お母さんにそのまま話していただければ、日本中のお母さん方は、それこそほんとうに皆さん方を頼みにしていますから。そして、皆さん方をほんとうによくしよ、よくしようというところで努力していらつしやるんですから、今お話しやつたことを皆さんのお母さんに話してこれこそお話し合いの場をもつとたくさん持つていくとい

いと思うんです。

大月(栃木) さつき、あなたがたのことを理解のないお母さんがたくさんいるかしら、そういうお母さんをどうすればいいか、というお話しがありましたけれども、もしご自分のお母さんがご自分の学校にもいらつしやるなくて、理解のないお母さんという場合に、皆さん方はどういうふうにしてお母さんに聞いて欲しいというふうな、なにかお考えがありますか。私どもとしては、理解のあるお母さんになりたいために、こうした勉強会を持つてい

わ

けなすけど、皆さん方は、自分あつていうふうにしてほしいとおつしやるんではないか。

生徒(男) やつぱりそれは、家庭における会話が、そういうものを何回もやつたらいいと思います。

松南(東京) そうすれば、きょうこの働きのように、お互いに非常によく話し合つてどちらもいい勉強になるんですが、そこでお母さん方がなにかさういふ話し合いの場に出られるように、皆さん方の生徒の方から働きかけるというところはできないでしょうか。そういうことはお考えになつていらつしやるないでしょうか。

会議員 話し合いというところは非常に大事なことで、わかるんですけれども、話し合わなくても親と子というのは、お互いに通じ合うというところがあるのではないかと、私は思っています。今、私が会議へきますのに、私はあつとも子どもには相談しませんでしたけれども、子どもがそういう言葉を発して、お母さん、ぜひ行つて勉強してくるといい、さあ、行きなさい、行きなさい、といつていろいろ仕事の面にもよく手伝つてくれました。それで私が仕事で疲れて帰つてきますと、子どもが肩をもんでくれました。たり、お風呂をたいてくれました。子どもも何もいわなくても、いろいろ思いやりをかけてくれます。そういうふうにお互いが思いやりをかけ合うようになったら、そんなに話し合いの場なんて、そんな話し合いの時間もないのに、そんなことを無理にしないで解決がつくんじやないかと、私は思っています。

会議員 私、さつきからそう思つておりましたんですが、いろんな問題が出てきましたけど、家出とか死とか、ほんとうに母親として考えさせられました。ほんとうに皆さんの立場になつて考えなければならぬと思います。しかしいまの方がお話しに

なりましたように、親子だから話し合わなくてもわかるというのは、それは古い時代の考え方であつて、これからは親も子どもともに勉強して、時代の波に乗つていかなければならないと思うんです。それで皆さんには、理想のお母さん図というものがあるんじゃないかと思ひます。だからそれをぜひ聞かしていただきたいと思うんです。そして、そういうお母さんに私たちはなりたいと思ひます。

吉村先生 さあ、理想のお母さん、こういうお母さんが私がいちばん望んでいるお母さんだという、どうですか。理想のお母さん、出てこないですか。やさしいお母さんだけ？

生徒(女) 私たちがなんにも悪いことしていないのに、自分の気分によつて怒らないようにしてもらいたい。

生徒(男) いま吉田さんが、怒らないで、怒らないでというんだけれども、ぼくなんかその反対なんだけれども。日本中でいちばんいいのは、やつぱりお母さんなんだからね。ぼくはだつて、いちばん尊敬しているのはお母さんだから。お父さんはいたつて、やつぱりいちばん尊敬するのはお母さんでしょう。だからお母さんのこともよく考えて、お母さんも理解し合えば、そんなに怒らないでということなくて、お母さんを理解すればうまくやつていけるんじゃないかと思うんです。

生徒(男) その怒り方に問題があるんじゃないの。やつぱり同じ怒るにしても、怒り方によつて違うんじゃないかと思うんです。

生徒(女) 私がいつたのは、お母さんの気分によつて、私たちがなにも悪いことしていないのに怒るから、そういうことはやめてもらいたいということです。

生徒(男) 悪いことをしたときはいつてくれればいいんだけど、

遊ぶときは一緒にちやんと遊ぶ。

吉村先生 一緒に遊ぶお母さん、ね。

生徒(女) うちのお母さんは、あまり怒らないですよ。だから怒るときは、やつぱりもう少し怒つてもらいたい。

生徒(男) さつきぼくがいつたことで、まだ解決がちゃんとい

ていないと思うんです。だから、ぼくがどうしてもらいたいかわからないことを、もう少しわしてもらいたいと思うんです。それはさつき河合君がいつたように、朝お母さんとトラブルがあつて出ていつて、帰つてきた時に、普通「お母さんなさい」というでしょう。そうすればその一ことでもつてぼくは、「ああ、お母さんはぼくのことをちゃんと考えてくれてるんだなあ」と思えば、それでもつてぼくも謝るといふか、そういう機会もあるけれども、もしかしてお母さんがそれをいいそびれるとか、いわなかつたら、お母さんがさういふふうに考えるときがあるんだつたら、なにか呼びかけてくれたり、あとからでもいいですから、ぼくのことを、学校のことやなんかでもつてちやんと聞いて話させてくれれば、そのことについてぼくはちやんと意見を言つていきますからね。さういふふうに二段階あると思うんです。だから、もしかさういふふうになつた場合には、さういふふうにしてもらいたいと思います。だからお母さん方が、ぼくのような立場に対して意見があつたら、いつてくだされ。

生徒(男) やつぱりお母さんばつかりあてにならないで、ぼくたちの方からも謝つた方が、お母さんもそのことを願つてい

から、ぼくたちの方から謝つた方がいいと思うんです。

生徒(男) 最後は「こといいたいんです、なにをしてもいい」といふんでなくて、加藤君がいつたように、ただ「お母さんさ

い」ということではないが、ぼくたちが学校から帰って、お母さんがブスツとしていられるといやだし、ただ「お帰んなさい」のことで、ぼくたちは生き生きとしてくるんです。だからよりやりそんなことをいわなくても、日常生活の中で使っているような言葉で、いいお母さんになると思うんです。

吉村先生　じゃあ最後に、お母さん方は、今までのお話の中で、母親としていちばん、うれしかったことは、どんなことでしょうか。

生徒(女)　女だからといって、いつも迎えにこないお母さんが、たまに迎えに来てくれると、とても嬉しいんです。

生徒(男)　もうせん、ぼくあつたんです。けどね。お母さんといいいい、合いをしたあとに、お母さんがこういうことをいつたんですよ。ぼくに、「こつちに来なさい、お母さんの待つたを思いきりぶちなさい。」といったの。ぼく、そんなこといやだ、といったの。そうしたら、「そんなに自分のお母さんが憎いか」といったの。ぼくは「憎いとかそんな問題じゃない」といったの。そうしたら、「お母さんにも悪いところがあつたけれども……」といって、ぼくはその時こそ、ほんとうに涙を流してね。おかしいと思うだろうけれども、ぼくはそのとき、いちばん、うれしかった。

吉村先生　それではもう時間ありませんので、お母さん方、どうぞしようか。

会議員　母は子どもの鏡である、といわれる通り、これからぜひ、よいお母さんになりたいと思います。

吉村先生　これは先生が一つ不思議に思ったことがあるんですがね。それは、お母さん方は非常に勉強しようと思つていらつしやつた。お父さんたちはいらつしやらないんですね。それから、それでも

つて、子どもたちはお母さんとの間にいちばん問題があつて、しかもお母さんが頼りなんだ。お父さんのことはあまり問題にならない。ぼくもお父さんの一人なんだけれどもね。ところがちよつと思案なことは、ここで発言する人が、男性が多いんです。女の人は少ない。それで一方の発言されるお母さん、ここでもって発言するのは男の子が多い。これはどういうことだ。これも一つ、これからの課題でしょうね。

それではそんなことも一つこれから問題にしてくださいに、きょうの会合を終わりたいと思いますが、よろしくごさいますか。どうもありがとうございました。

以上

第四班

三共株式会社品川工場視察

ガールスカウト成城団員との懇談会

懇談会出席者

会議員

佐々木	滋子	(秋田)
市原	清子	(宮城)
佐々木	さと子	(宮城)
鈴木	京子	(福島)
向山	とよ子	(千葉)
中田	幸子	(神奈川)
永井	智美子	(富山)
加藤	のり子	(福井)
梅田	澄子	(愛知)
井上	幸子	(京都)
伊藤	道子	(鳥取)
河村	象子	(岡山)
浅野	八重子	(高知)
藤原	敦子	(長崎)
片山	裕子	(宮崎)

ガールスカウト成城団員

十五名

特別オブザーバー

清水	俊子
小林	時枝
池田	りゆう
大吉	真由美

清水 (団員)　みなさん、こんにちは。

スカウト団員　こんにちは。

清水　今日は、できるだけ卒直に、自分たちの体験していること、考えていることを、与えられた時間の中でお話し合いをしてください。うしろのほうにたくさんお客さんが見えていらつしやいます。あとで皆さんとお話し合いをしていただきます。皆さんにとつてはおぼさま、おかあさまという方々で金国から婦人会議のために出ていらした方たちです。では、おしりを向けていらつしやいました。ひとつ歌で歓迎いたしましょう。(一同合唱)

合唱

司会　それでは、私たちは毎週ミーティングをやっていますから、その形式でやつていききたいと思ひます。

(スカウトの歌合唱)

(誓いの言葉)

司会　きょうはお客さまをお迎えしていますが……。私たちは長い人は二年半ぐらい、スカウト生活をしていますが、その中いろいろなことがあると思ひますから、ディスカッションをやつていきたいと思ひます。それでまず、私たちがこの東京六団を作るに当つての入門の動機から、話していきたいと思ひます。

私たちはどんな気持ちでこの団に入ることを望んだか、いちばん最初から松本さんは入つていたので……。△ 中学の時からガール・スカウトつてとてもいいなと思つていました。そのころはなくて、この学校にきてガール・スカウトというものをやりたいというので、そういう人がすごくいっぱいいたでしょう、だからそういう人たちが……。

司会 ちよいとい機会だから。

△ キャンプでやることなんかわからないとがあるから、そういうのを知るために入ったんじやないと思つて。

司会 それから、途中からお入りになつた方はないですか。特別には、その理想つていうのは、明瞭で将来立派な公民となる基礎を作る目的ですね。はじめからそういうことを知つて入つたんですか。それともそうでなくて、入つてはじめてこういうことを知つたか……。

△ 大体のことはわかつていたけど、経験したことがないんでそういうことをやつてみたいという気持ちから……。

司会 ほかにどうですか、同じような動機を持っていますか。

△ 共同生活がたのしいでしょう。特にガール・スカウトはそういうことがあるんじゃない？ だからいいナと思つて。

司会 責任を持つて実生活に入ると、いちばん最初におきて、ということにぶつかるんで、そのおきては、私たちが神にかけて、たのしく生活できるようなものとなるように心がけることを、おきてとしてゐるわけですが、おきてについてどんな点が守りにくいとか、どんな点がよく理解できないとか……おきては十あつて、

一 ガール・スカウトの名誉は、信頼されることであります。

二 ガール・スカウトは忠実であります。

三 ガール・スカウトのつとめは、人を助け、人に役立つこととあります。

四 ガール・スカウトは、すべての人びとの友だちであり、他のガール・スカウトとは互いに姉妹であります。

五 ガール・スカウトは礼儀を正しくします。

六 ガール・スカウトは、生きものをかわいがります。

制服を着ててもね。

△ おなががすいたら食べなきゃね。

司会 それでおきての中には、すべての人々のために楽しく「この間二月でしたか、国際的な友好を目撃にして、その学生ホールで、アメリカのスカウトとの懇談会のようなものをやりましたけど、その中には白人、純粋のアメリカ人と、それから黒人なんかもいたようですけど、そういうことについて友好は割りど自然にいつているんじゃないかと思つたんですが、その時に感じたことありますか。

△ 全然普通の人と同じように話していたわね。

司会 よく向うでは、汽車の待合室も白人用、黒人用と分かれていて聞きますが、全然そんなことがあるというのを感じさせないような生活でしたけど、それはスカウトの間だけでしようか。

リーダー 実際、この間たのしかつたでしょう、やつてみて。

△ やつぱり制服脱いだとたん、あの人きらいになつちやうつていうこともあるかもしれないけど、そういうの人柄によるんじゃないかしら、まるきりこういうことに入つていなくたつて、人々につき合う方法知つてればそう差別なくできるし、ガール・スカウトになつても、自分の心が小さければ制服を脱いだとたんきらいになつちやつたりして……。

司会 何か外国にベン・フレンドがいるとか、そういうことありますか。私はドイツのリーダーをやつてゐる人と、いろいろお話しを書いて送つてゐるんですけど、何かエピソードがあつたら……。

リーダー 全校キャンプにいった人は。

△ 外人が少なすぎて、あの時はそんなに親しくとか、そういうこと

七 ガール・スカウトは規律に従います。

八 ガール・スカウトは快活であります。

九 ガール・スカウトは儉約します。

十 ガール・スカウトは、思いにも言葉にも行いにも純潔であります。

というのがあるんであります。それに基いて「備えよ将に」とか「一日一善」とかいろいろのがあります。たとえば通学する電車の中でお年寄りとか身体障害者に会つた場合、席を譲るといふことも、一つのおきてを守るとか、スローガンにそうとかいふことの一つだと思ひますが、そういうことについて、どの点を私たちが最初よく守つてゐると思ひますか、どうでしょう。

△ 制服を着ちやうと、やらなきゃいけないと思つてやるでしよう。そういうことでものすごくいいんじゃないかしら。

△ こういうような制服を着ると、団体がそういうものだという觀念から皆さんが見るでしようだから背段、悪く言えば義務付けられた形でだんだんやつて、それが毎日習慣になつて。はじめは人が見ていなくても皆が見てゐるようで……。

司会 まず服装面によつて義務付けられてしまふということですが、具体的にはおきてについて、洋服を着なくても実行できるのは……

△ 生きものをかわいがり、なんていうのは、背段好きだからね。

△ それから、すべてのお友だちになれるんじゃない。

△ はずかしがらないから、ずうずうしくなつて、割りど……。

司会 全校のキャンプだとか、適当に接し方がなれてきて、自然と仲よくなるようになったんじゃないかと思ひます。

△ 快活になるわけですね、明るくね。

△ 儉約しますというの、あまり守られないわね。(笑聲)

とはできなかったけど、その人たちがきていなきゃできないような行事があつたでしよう。そういうのがたのしかつたと思つけど。

△ 外人は仕事はしないようだけど、私たちがみたくに雨の中でご飯たとか、そういうのはやらないみたい。進んでね。言葉のせいもあるかもしれないけど。

△ 向うの方は、おかずなんか向うで出るのかしら。それとも日本人みたいにすべて作るのかしら、向うは缶詰とか……。

司会 一戦がそうなんじゃないかしら。

△ そういうことはあまりないみたい。火を使うということが。

司会 それでは、スカウト生活をやつていて家庭での理解ですが、夜が遅くなつたり、日曜、祭日にもしつちゆういゝんな行事があつて参加するとか、学校の帰りにミーティングがあるとか、そういう時家族はどういうふうに送つてくださるか、おうちを出る時、それからいゝんな行事に参加する時どうですか、理解ありますか。いやな顔をしますか。

△ 口には出さないから。ガール・スカウトで遅くなりましたというたまつてゐるのは、理解しやないかしら。

リーダー ガール・スカウトであつたことをおうちでいう？

△ だまつてゐるみたい。だけどバザーの時作るのをそばで見ても伝つてくれるし、そういう時は楽ね。

司会 それからキャンプにいくのは普通許されないのに、リーダーがいるということと全然疑問な点がないと思つてますが、そういう点どうですか。

△ 全然信頼されてゐるわね。

司会 みんなリーダーの名前を出せば、絶対的な信頼があるというの、ガール・スカウトのすごい力だと思つてゐるんですが、どうです

か。

△ 学校なんかでも、部活動と同じように部室をいただいたり、行事に参加するにいろいろの努力をしてくれと思うんですが、学校の協力でこんなことがあったとかいうことを、具体的にどんな文化祭のことについて……。

△ 食堂やつたじゃない。

△ 一応理解されているかわからないけど、ガール・スカウトは備えているなんて、ほかの委員の方はわかっていただけても、普通の生徒の方が使い方をわかっていただけないのが残念だね。

△ 特別の団体ということだね。

△ 孤児院訪問の時に、衣類とかそういうことで協力してわかつてくださるけど、スカウトだけだったらあんなに大きいものにならないけどね。

△ みんな持つてきてくれるからね。

△ リーダー みんな協力してくれたわね。部屋なんか、特に自分たちで持つてくる場所ってなかなかないと思うのよね。

△ ちゃんと改造してくれたわね（笑）

△ でも学校全体も協力してくれるけど、私たちが花壇をいっしょうけんめい作つても、ほかの生徒は……。

△ リーダー それはしつがが悪いから。

△ 司会 あれは根気がいるわね。

△ 何度もやりかえすぐらいじゃないとね。

△ 司会 学校のことが出ましたから、スカウト生活をしていて、放課後もやつているが、そのために成績が悪くなったとか、あるいははげみになつてよくなつたとか、そういうことはありませんか。

△ 時間が足りなくなる時ありますね。でもどうせ学校から帰つて

もしや、部活動じゃないでしよう。

△ 通く帰つてできないっていうことではないわ。かえって部室上があるみたい、何となく。

△ 利益になるほうが多いわ。

△ 司会 勉強の点について関係ないと思うけど、私たち六回なら大団というものは、スカウトとそれからスカウトの父兄に当る団員

の二つから、団の活動ができるんです。それで、きょうのお集まりなんかは団員の方がいっぱいいる準備をなすつてくださいます。が、特別な理解が父兄になければいけないが、それについて少しづつお話し合つていただきたいと思います。

△ リーダー 創立の時にテントを作つてもらつたり、それから……金銭的にはすごく後援をしてくださつてるけど、そういう点では恵まれているわね。

△ 父兄の方もそれだのしんでいらつしやるのじゃない？（笑）

△ リーダー 親子ハイク、主役はいらしていただけたけど、キャンプファイヤーの時はうんといらしていただいて。

△ 年取つたなんていうけど、たのしそつたわね。うちにいるより健康的ね。

△ 若い人たちがつきあつてるとね、自然とね……。

△ お化粧しなくつたつて若くなつて、美容のためにね。（笑）

△ リーダー みんなはいろいろスカウト活動に不満もあり、もつとこういうふうにしたほうがいいのか、こういうところはいいか、もつと具体的にあらんじやない。

△ 金銭キャンプなんかいいとわかるわね、共同で生活するうえにね。

△ 私たちばらばらでも、国際的には同じことを学んでいるんだだけ

れど、顔や色は違つても、背が高くて共通しているのね。そういうことで話題見つけて話し合せていけるわね。

△ 私たち今まであんまり苦しいことをした経験がないんで、キャンプについて薪がしめつたりしてとてもつらいの。そういうのいい経験ね。

△ いちばんつらいのは、時間が細かく区切つてあることだけど、きびしいわね。時間の概念が強くなるわね。

△ 少しぐらいおもしろいものがガチガチでもがまんしてたべたりね。

△ リーダー それから率仕つていうこと、三回やつたけど、ああいう社会奉仕は……。

△ でも続けるといつても効果ないみたい。

△ やろうという意思はあるの。

△ 司会 三度の訪問で、最初にいつた時はまだ制服のないところで、犯罪を犯した人の一時預り所（少年鑑別所）というか、そこにいつて、小さい子どもでも何かすくくて、私たちは引つ張り回されたようなこともあつたりしたけど、割りと素直だつたわね。その次は普通の託児所、それからもう一度今年の冬に一時預り所（少年鑑別所）について、そういう経験を三度ばかりしたんですけど、どうですか、いつてみて。

△ いくべきだつたと思うわ、向うの子どもがすごく喜んでしょ

う。

△ もう一度いきたいと思つた。

△ 司会 はじめいつた時は「殺してやるゾ」といわれてびつくりした

けど、かえつてそういう人たちのほうが……。

△ 三回目は年の多い人がいたから、ひねくれられるかと思つたけ

ど、最後はうちとけられたわね。

△ それはガール・スカウトだからで、普通の慈善団体だったら反対されるわね。

△ そうね、制服を着ていくからね。

△ 司会 そういうところへいく時に、制服を着ていくのと普段の服装を着ていくのと、どつちがいいと思ひますか。

△ あまり影響がないんじゃないかしら。

△ リーダー ただものを持つていくだけじゃないほうがいいと思うの

よ、ものを持つていかなくても、いろいろ与えるところがあるよ

うにならなやね。

△ でも歌とかそういうものでも……。

△ 歌はいいわね、その場で教えられちゃうから。

△ 司会 そのほかガール・スカウトの活動状況というのには、キャンプファイヤーをやつたり、ハイクをやつたりミーティングをやつたり、追跡をやつてガサガサとやつたりしますが、一度追跡を

やつていて、道の両側を分れて、ものほしというか、しるし

を見つけてキヨロキヨロ歩いていたら、「何か落しものをしたん

ですか」つていわれたんですけど、そういうことはスカウトでな

ければならないことね。

△ 司会 ほかにありますか。

△ 学校の男子は兵隊さんがきたつていうし、ほかの人もこんな恰

好をして道の中を歩いていると、これ見よがしに歩いているとい

われるけど、そういうことをいわれると、虫のいどころが悪い時

はカッとするわね。理解してもらいたいと思ひますよ。

△ 司会 私たちはこれからは、スカウトというものが、よき公民とな

るための活動だつていうことを、努力していることをみんなにわ

かつていただけるような行動をしていきたいと思います。これで

「おデイスカッションを終わりたいと思います。」

リーダー お母さまがたごいしよに……。

市原(宮城) 先ほどお聞きしました誓いの言葉の中で、神にかけてという言葉があつたように思いますが、神というものは何れも偶像を崇拜する意味でないと思ひますが、その神ということによつて

司会 私から申します。神と申しましてもいろいろの宗教がありま
すね。そのめいめいの宗教、無宗教者でも広い意味の神、すなわ
ち宇宙に対するものですね。そういう意味での神についていふと、
別にこれといった特別の宗教とか、いままでもカトリックとかプロ
テスタンとか、そういうものでなくて、全宇宙というものに対す
る神です。そういうことです。

市原(宮城) 宇宙について申しますと、自然的なものということでは
ないか。

司会 私はそのように解釈したんですけれど、すいません清水先生と
うか……。

清水 あなたのお言葉でいいのよ。ガール・スカウトの神は誤解さ
れやすく、クリスチヤンに入れないんですかという質問があり
ますが、その心の中にある信仰であれば何でもよいのです。とこ
ろが日本の家庭は長い歴史と家庭の習慣から、一人一人の子ども
が宗教を持つというとは非常に少なく、それでは子どもたちは
何にも認めないかという、子どもたちはやはりキヤンプしながら、
美しい自然を眺めながら「きれいな」つていいながら、そこ
に神秘さを、大自然の美しさとか、偉大な力に対して、子どもが
何か荘厳なものを感じる、それが神ですけれど、それでよろしい
ということにしております。ですからここに十何人かおられますが、

みんな違つても、今のお話さんの気持はそれでいい、あるいはどな
たか「私は仏教です」とはつきりいえる子どももいると思ひます
が、ただ神とか仏を全部否定して、そういうものは絶対ないとい
う方は、それは苦しくなつていられないと思ひます。やはり
このグループに入つておられますと、はつきりしたものでないが何
か神にすがりたくなるそのものを持つてしよう、自分がいつもそ
の気持に忠実である人間でありましようというのが、約束の中に
あるわけですね。

鈴木(福島) ガール・スカウトの具体的な腕章とか、手に付けて
いらつしやるもののアウト・ラインだけお教え願ひたいんです。
いま、司会の方が下のほうに付けていらつしやるそれは何ですか。
司会 (司会)は、たくさんの方の腕章をつけている、それを一つ一つ示
しながら)まず私たちが入団いたしましたから、まずここに東京と
ございませうね、これは私たちの所属する府県のものです。私東京
で、その中で六面、六と付いていて、青いのは普通のガール・
スカウトの、今テスト・ケースですが、初級が青い台。それから
これは初級二級三級とありまして、私たち二級章を付けています。
ほかに、技能章というものを、試験によつて取ることができま
す。その技能章がこの一つ一つで、自分はどういうことが人のために
お役に立てますというしるしです。トラップのハート、クラブ、
ダイヤ、スベットの模様、赤い台に背で刺しゅうしてあるこれ
がゲーム章、これが接待章、そのように公衆衛生とかキヤンペン
グとか、一つ一つ意味を持つていて、大体数は八十いくつ、九十
近くあります。それを取ることがはわれわれいちはん努力のいるこ
とで、つらいことですが、いちはんやりがいのあることです。
佐々木(秋田) ガール・スカウト、ボーイ・スカウトの交歓は?

司会 ガール・スカウトとボーイ・スカウトというのは同じ理想の
もとにできていますから、やはり男と女とでは、方法、や
ることは細かいことに違いがありますが、でも理解することは必
要ですから、一緒にハイキングをやつたりして、いろいろ助け合
つてやつていきます。

リーダー うちの団は一年間を計画しまして、ボーイ・スカウトと
しよつちゆう行動できませんから、年に何回ということ、春は
親子ハイイク、で、今度秋に運動会をやることになつてます。運動
会はずいぶんいろいろの行事をやりますので、教団法なんかとつ
ているものから、それのお手伝いを一緒にしようじやないか
ということ、デントを張つて救急の訓練をやり、秋にもう一度
ボーイ・スカウト、ガール・スカウト合同のキヤンプをやつて、
大体三回合同の会を持つております。

会議員 たいへんお立派な、きつきのデイスカッションなんか感心
してしまつたんですが、もう結団されてどのくらい経ちますか、
先ほど歴史とおつじやいしましたが、入団する時どんな気持ちで入
つたかという、そういうことを……。

司会 三十三年の十月にガール・スカウトを作つたらという話しが
クラス担任の先生からあつてみんなに呼びかけたところ、やり
たいという人が三十人ぐらいて、それで準備をやつて、三十四年
の二月十四日に結成式をして、それで今年の二月十四日で二周年
を迎えました。

会議員 それからもう一つ、上級スカウトとは……。

司会 私たちがシニア、上級ですが。

会議員 それではきょういらした方は、初めから上級として結団さ
れていたんですか。

司会 二名の方は中学のガール・スカウトができていたかつたもの
ですから、中学校の時から一緒に入つて行動をとるにしてい
しやいました。

会議員 その時はリーダーはこちらの皆さんがお集りになる前に
リーダー 私は初めからリーダーではなくて、本部の先生が講習会
をお受けになりました、リーダーとしてお入りになつて、面倒を
見ていただいて、その下に副リーダーがおりました。正式な講習
会を受けて通つた方がいないと、結団できないんです。

清水 参考までに申し上げますが、ガール・スカウトは上級スカウ
トとかいろいろありますが、ガール・スカウトは十才から十八才
までで、今、日本でも十才の小学校五年生、十八才は高校の卒業
の年で、それが一緒になつていては上のものが不服で、今は十五
才以下をガール・スカウトといい、十六才十八才までを、上級
スカウト、といつています。ブラウニイは七才から九才で小学校
二、三、四年がそれに当ります。

会議員 先ほどおきてが守れないというのに、儉約をあまりしてい
らつしやらないといわれましたが、お小づかいほどのくらいです
か。

△ その程度は人によつて違ひましようが、三千円くらいです。

会議員 それは学費も全部入れてですか、ノートの税金とか。

△ ええ、そういうのも全部自分で払うんです。

水井(富山) 皆さんガール・スカウトの活動の面だけでなく、
おうちにお集りになつて、あつてもらいたいとかこうしてもら
いたいという希望ありませんか。

△ 私はうちで母に、学校であつたことなんかすべて話しちゃうん
です。だから母も一緒に喜んで聞いていて、べつに……。

司会 普通のお友だち的関係で。

△ それかちの学校は同じ部活の子がいるでしょう、だから交際とかそういうことも全然気にしない。

永井(富山) みなさん同じようでしょう、だから年令がわからな

いんです。ちよつときかせてください。

リダー ここにおりますのが大井高校以上なんです。高校一年生が二人、そしてあと四人ばかりが三年、あとは今度入学した大学生なんです。一人だけここに二年生がおりまして、中学生はお

ません。

加藤(福井) スカウト活動をおうちのの方が理解していらして、お母さんが一緒に楽しんでいらつしやるといわれましたが、私たち親と子のすれをみんなこまづたこまづたといひ続けてるんです。それをお母さんたちと仲よく遊んでいらつしやるといふことを、くわしく聞かせてほしいのです。

△ うちのお母さんはなかなか来る機会はないけど、たとえば料理なんか作るとして、そういう時、お客さんを招いたりする時の勉強などもできて、集まる機会が、父兄会だけでなく楽しそうに見えたりです。たぶん楽しいだろうと思つて。

リダー 実際いうと、そういう具体的にいろいろ話しをする機会はありませんが、お母さま方理解してくださるので、こちらが料理を取りたいという時に、機嫌草というものがいいもので、それから、その時にきていただいて、いろいろ批評していただいたり、そういう時の交流や、あとは一緒にキヤンプ・フアイヤーをかこんで楽しんだり、また、国際友好の時に各国の方と一緒に話しをしていただいたりしています。

清水 制服を着てなくても、おうちへ帰った時のおかあさんとのふ

合いの中のことです。

リダー 今の清水先生のおつしやつてのような、家庭とお母さまとお話になる時、岩本さんは……

加藤(福井) 私たちもとてもいい母親になりたい、子どもから心底愛される母親であり、おとなでありたいが、昔は少し自信があつたということもありましたが、このごろわれわれ自身が自信を失なつて、子どもたちは悪いとかおなかがすいたという時はやつてきてくれるが、それ以外はお母さんたちをどう思つてくれるのかとまどつています。おとうさんの場合もですが、昔さんがおとなに抵抗を感じる時というのはどんな時か、おとなのことがいふところを抵抗を感じちやうとか、それがたまたま家庭ではそういうことはちつともないという親子の関係も、たぶんありだろうと思ひますけど、皆さんがいいお嬢さまなのか、お母さんがいいお母さんなのか、あまり抵抗を感じにたらないのか、お母さんはどう思つても私はどうだということを、うかがわせていた

だきたいと思ひます。

司会 私なんか地方から親類のうちへ下宿してはいるんですが、うちのものから、信頼しているから裏切らないようにといわれているのがいちばんこわくて、かえつて細かいことにあれがどうかといわれるとうるさいなと思ひけれど、全部信頼されていることにはこりを持つていますし、いちばんつらいことです。みんな同じようじやないかと思ひますが。

△ 大体どの方もうじやないかと思ひますが、母のほうがあればしちやいけなことをしちやいけなことをいうことになるんですが、それが「そんなことをわかつているわ」ということになるんです。父はそういうことをしないでまづつています。それ

△ やつぱりあまりいい感じは持ちません。

△ それは私個人の考えですが、大体成城は恵まれていて、私は小学校は公立ですから、成城を受けた時に、まさきり進つて、公立は何となくじめじめした感じがするんです。はじめで成城中学校にきた時は、はなやかで開けつぱなしで、ずいぶん明るい学校だと思つたんですが、それがなれちやつていますが、小学校の同窓会なんかいくと、何となくじめじめして、東大受験者なんかがついて、お話しにならないんです。それから、高校に

きたんだけどいけなという劣等感というものが、高校生やなんかにあつて、いきなと思つていて学校にいつている人たちがその上に学科外の活動をしていたりすると、たしかにうらやましく思ひます。そういうできないことを、これ見よがしにやつていてという気がたまつちやつて、それでもつて暗くなつちやつて、それが家庭にいればお母さん、お父さんに発散されると思ひますけど、よその家に働いていてとでできないから、中で燃えていて外に出さないから陰険な人になるんじゃないかと思ひます。

梅田(愛知) そういうことがお聞きしたいと思つてきました。今お話ししたような働いている人たちは、こういうガール・スカウトには入れないでしょうか。

△ いえ入れると思ひます。そういう働いている人たちは、今おつしやつたように朝から晩まで働いて夜ねるだけで、それでなごや体がもたないからできないという場合が多いんじゃないかと思ひます。

司会 そうではなくて精神的な面、こういうスカウト活動をしてお感じになったことでもいいわけですが。

がずつと母よりこわくて、母の、あれをしちやいけな、これをしちやいけなというのは耳になれてしまつて「またいつている」という調子なんです。だまづてこれをしちやいけなといわれ

てあとだまづつていて時のほうが、こわいです。

司会 お母さまのほう反ばくの弁はありませんか、そうはいつても

△ 女の子の場だけということはないけど、すごく尊敬していることはたしかね。

会議員 一つ質問したいんですが、先ほどのお話し合ひの中で、ガール・スカウトの服が見せたくて歩いているといわれると、カツとするとお話しが出たんですが、そういう人たちはどんな人だと思ひますか。

△ やつぱり上級生とか同級生、それから同じ学校に学んでいてもそういうことに反感を持つていて、全然理解がない人は、見せ

びらかしているように思ひますね。

会議員 見せびらかしているというのは、うらやましいという気持ちもあるんですか。

△ ある時もありますが、全然反抗を感じて、まるつきり否定して

いるんです。

梅田(愛知) 私のところは小さな鉄工場をやつていゐるんで、皆さんと同じぐらいの子どもが一日働いて、夜は食事をしてくれるだけという生活をしているんですが、そういう子どもたちが、明るい活動をしている皆さんがうらやましくてそういうことをいうんじゃないかと思ひますけど、そういう人たちがあなたたちと一緒に同じ時代に生きているということに対して、どんな気持ちをお持ちになりますか。

如神(福井) 私のもちもちと皆さんと同じ年ごろの子どもたちが就職してきているんですが、その子どもたちのお友だちになつてやつていただけるかということをおうかがいしたいんです。

△ 私はお友だちになりたいと思います。

司会 まるきり世界が違ふ、私たちは何げなしに学校へきているという場合と、それから責任を持つて社会の仕事をしている人に、非常にいいほうの興味を持つて理解していきたいと思うんですが、そういう境遇が違つても同じような年なら、考えが共通するところがあると思います。だからそういうことを話し合えばいいと思います。

梅田(愛知) うちで預つてゐる子はうちが貧しくて、皆さんのお手紙をいただいてもとても幼稚な返事しか書けないし、皆さんと同じ話し合いができないと思うんですけど。

司会 私たちはそういうことでなくて、もつと精神的な友だちになりたいということで、みんなそうだと思いますが、どうでしょうか。

△ お友だちになつたりするのはいいけど、やつぱり私たちは優越感なんか持たなくても、向うで劣等感を持つてしよう。

△ こつちがなつてあげよう、なりたいたいという気持が強くても、受け入れてもらえなかつたらならないですよ。

井上(京都) 京都のガール・スカウトの方が、北山寮という両親のない女の子たちだけを集めている寮へ三、四回いらして一緒に遊びたりあるいは一緒に料理を作つたりしてたべたりしましたが、今にそこが園ができると思うんですが、劣等感を持たれるということはないんで、必ずみんなが一緒に約束とおきてを、自

分たちの建設の中にも出がすかということですね。

会議員 北山寮の場合は子どもたちが中学生で、大学生とか一般の婦人が顧問にきてくださるんですが、おかしな代り、おかしな代りとしていたわけ、ごちんの場合とは立場も違ふと思うんです。だからごちんの場合はお友だちになりたいと思つても、向うのほうにコンプレックスが、ひかみも多少ありましようし、話したところでどうもお嬢さんじゃないかという壁を作るおけです。だからむりにそういう人だちとお友だちにならなくてもいいと思うんです。先ほどから聞いていますと、若い人たちがこんなに健康で明るい建設的な生活態度でいるなら、次の日本は明るいものが約束されていると思うんです。ただそういう人たちは一部で、これからは数をふやしてもいいと思います。

梅田(愛知) 私はもちろん預つてゐる子どもたちと、おそろく皆さんがお友だちになつてくださる気持があつても、受け入れないだらうと思うんですよ。ここにいらつしやる恵まれたお嬢さんとは、ますます落差が多くなると思ふんです。しかし子どもたちが手を結んで伸びていくように何か考えてはしくて、それを皆さんがどうつかまえていくかということですね。

会議員 ここにいらつしやるお嬢さんは、お父さまが会社の重役とかあるいはたいへんな資産があつても、あしたからこまるという状態に陥るという可能性はあると思ふんですが、そういう時のことは考えたことありませんか。

△ それはよくちいわれています。

清水 いわゆるたたい家庭のお嬢さんと、働く境遇の恵まれない若い人たちというふうに考えますと、手を結びたくても結べないこともあるかもしれませんが、でも今日の話し合いで、園員は、

会議員 成城学園の女生徒の何人ぐらいが入つていらつしやるんでしょうか。

リーダー やつぱり一人のリーダーに対して多くて十二人ぐらいが収容しきれぬ限度で、初級は苦勞しましたが、今度大学にいらした方が自発的に面倒見てくださるとおつしやつたので、大体一人に十人ぐらいはできるんです。大勢入りたい方がいるんですが、みんなをお入れしたいのはやまやまですが、全部お入れすると徹底した指導ができないんです。それでお母さま方もお帰りになりましたら、講習会を受けていただいて、リーダーにおなりになっていただいて、そういう入りたい希望者は収容していただければと思います。日本の状況ではリーダーが少ないですね。アメリカはリーダーが、家庭にお入りになつても余暇をリーダーとしてやつていただけるから、活動がずいぶん活発ですが、日本でも若いお母さま方はおやめになるんで、リーダーが不足のために活動が停滞しているんじゃないかと思ひます。しみじみ感じますことはリーダーがいなくて活動ができないということですね。

事務局 これからいろいろお話が出そうですが、こういう機会にスカウトの方にお目にかかれたそのことが、一つの私どもの大きな新しい収穫です。それを機会に私どもスカウト活動というものの理解を深めさせていただいたと思ひます。厚くお礼申し上げます。私どもは中年の花ざかりだと思つておりますが、スカウトの皆さん若々しく、人間として非常に大事なプライドもお持ちになつておられて、ご立派でした。人間はいろいろ生活環境がちがいますが、同じ若い仲間といふ生活形態を理解していただきたいということ、何かがしてスカウトの活動の中で皆さんの持つていらつしやるものを、ほかの仲間にも分け与えていただき、また

同様に持つてゐるものをつらねて、いいものを分かち合ひ
というようなお気持ちで、いろんな生活環境の人々にも目を向けて
いただきたいと思ひます。さうしてこの会を開くに当りまして、こ

スカウトのPTAの方々が具体的にご援助くださいまして、こ
ういふことで若い人たちの活動の助けにいくことも生きた勉
強になりました。この年令の違ひます世代が集りまして、言葉の
足りないところもあつたと思ひますが、ほんとうにいい機会を持
たせていただきました。この後も良い回活動をなさいますように
よそながら祈りいたします。

清水 ひとことご挨拶いたします。私個人といたしましては、こ
ういふ会に出席させていただきまして、たいへんいい勉強になりま
した。そのためにいつそう尊敬の意と感謝の意を捧げたいと思ひ
ます。ありがとうございます。お母さまに信頼されること、お
じさまやおばさまやお友だちに信頼される社会人になるのが、私
たちの目標ですね。そういうことでいろいろあると思ひますが、
二年半の歩みは間違ひでなかつたということを、その気持ちを続け
ていただいて、ほんとうに役立つ、信頼される社会人になるため
に、もつともつと正しく進んでいくことをお願いいたしま
す。ご忠告もいただきましたが、よく話し合つて自分たちのもの
にしていただきたいと思ひます。ただご参加下さいました方に、
成城のガール・スカウトの思ひましたのをご覧いただきましたが、
こゝろに思ひました箱入り娘のスカウトもあります。働かなけれ
ばならない子どもたちも立派な社会人になつてほしい、そういう
子どもにはそのようなスカウティングをやつております。日本中
の子どもがピンからキリまで入つております。なお身体不自由児
まで、盲の子ども、つんぼの子どもまでこの会に入りまして、い

特別講演

婦人はどんな態度で貢献したらよいか

評論家 坂西 志保

今年の婦人週間の目標について、「貢献する」ということ、次に
「変動する社会における婦人の役割」ということ、最後に「婦人の
英知」ということについて考えてみたいと思ひます。

「次の世代に貢献する」ということは親が子どもを指導し、命令
してひつぱつていくことではなくて、むしろ子どもと一しよにほん
とりに子どもと手をつないでいく、しかもそれが自分の子どもだけ
でなく、社会のあらゆる子どものために自分自身はなにか一つのこと
をしようという心算を持つていくことをいふのだと思ひます。

今もしみなさんのうちで、十代の子どもをお持ちになるかたが、
「次の世代の成長に貢献すること」を議論しにいかけていくのだと
正面切つていつたとしたら、子どもは目をむいてこゝろこゝろでし
よう。いらいおせつかいはやめてください。こゝろこゝろ失礼なこと
をいう子どもをお持ちでなければみなさんは非常にしあわせだと思
ひますが、卒直にいつて今日の若い人にとつて親ほど重荷はない、
子どもは親をしよつて歩いている。そして子どもが成長するにつれ
て親はますます重くなるのであります。幼い子どもは親の保護、愛
情によつてはぐくまれますが、それは子どもにとつて必要なもので
す。親だけではどんなことがあつても傾りになるという感情は、親子
の情の基礎になるもので、それだけに独占欲というものも強いわけ
です。しかし成長するにつれて子どもの中には仲間意識というもの
が強くたつていきます。この仲間意識は今日の子どもたちの大きな特徴

ある活動してゐることを紹介したいと思ひます。どうも子
どものためにご協力くださいますようにお願いいたします。

以上

だと思ひますが、この仲間意識と、親のおせつかい、独占欲をどう
調和させていくか、この点はぜひみなさんに聞きたいところであり
ます。

子どもが、親の旺盛な独占欲からやつと抜け出したあとにくるも
のは何か。それは野心的な親であり、いわゆる立身出世のかたまり
である親なのです。そして子どもは、いよいよ処置なしというこ
ろに追い詰められるのであります。従つて子どもは、成長するとと
もに親というものが負担になり、一定のときに達すると、衣食住の
心配さえなければ、親がない方がよいのではないかとさえ思ひよう
になるわけです。

そういうときにみなさんはどうするかということが、今年の話し
合いの課題の中に大きく含まれていて、私は考えるのです。

たとえば、親の教育熱が盛んであるというところは非常に望ましい
ことだと思ひますが、一方この教育に対する親の意識過剰というも
のが、いかに子どもの成長の邪魔になつてゐるかと、いふことを考
へたいと思ひます。こゝろこゝろ例は身辺にたくさんありますが、教育に
関する親の意見——多分立派な先生の議論を拝借したものなのでし
ようが——を、自分の子どもに当てはめるときに、子どもを個性を
もつた個人として考へてゐるかどうか、どういふ根拠でその意見を
自分の子どもに押しつけるのか。機械をぐるぐる回して出できた答
に自分の子どもをはめていく、こゝろこゝろ意識過剰も子どもに大きな
重荷を感じさせるものではないかと思ひます。

こゝろこゝろ自分の根拠のない意見、受け売りの意見をどこま
でも通せようとする親でありながら、社会的に、あるいはこゝろこゝろ
職に出て来ると、非常に自信のないようなことをいふ。そこで、そ
れを正礼通り受け取つておいて、そのお母さんのいふことを聞いて

ます。家の主人は教育に関心を持たない、父親の存在は子どもにとってマイナスである。自信のない母親、そこに存在することによってマイナスになる父親、そういう親に教育される子どもというものを考えていたのだと思います。

こうみてみますと、十代の若い人にとって大切なことは親から解放されることではないでしょうか。そういうことを認めるのは私一人ではないと思います。また、そういうところから陳腐な考えの親があるという事は、子どもにとって非常にありがたいことだと思えます。そこから始めていただきたいと思います。

そこで今日では、「親があつても子は育つ」ということなんです。しかし重荷になるような親であつては困ります。従つて、子どもの世代に貢献するという前に、非常に健康な気持で自分を見つめていただきたというのが私の願いであります。

私は、教育には二重の矛盾があると思います。自由に楽しく伸ばしてやらなければならぬ面と、厳しくしつけなければならぬ面とで、これは非常に矛盾しているようですが、決してそうではありません。今日の社会に必要なしつけというのは、茶碗や箸の持ち方を教えるだけでなく、子どもの持つている本能的なよさを正しく導くことだと思えます。お家の黒いスワンを殺されたという話が問題になっていますが、毎日のように猫や鳥などが殺されています。これは子どものしたごととして見過がされてるかもしれませんが、小さいときにそういう残虐な性格をためておかないと、体力を持って実行にできることができるようになつたとき、それが殺人あるいは傷害、暴行というやうなことになるのであります。こういうことは大きくなつてからでは処置が難しく、子どもものうちに手を打つておく。しかもそういうことを子どもに善美に

教えるためには、今日の教育では禁句である、つたり、たいた、りという言葉を、小さいものからいふ時代には止むを得ない。それまでしても教える必要がなければならぬ面が、教育にはあるという事を記憶していただきたいと思います。

こういうことから始めて、次に親は、近隣の社会の教育のために共通の目的と意識を持つて進んでいかなければならないと思います。そのためにいちばん大切なことは、みなさんが、自分の考へと疑問を持つことだと思えます。先程申しましたように、親が子供の負担となつてゐる大きな理由は、親の考へが正しいという、押しつけがましい態度であると思えます。

もう一つは断乎としてやるという事です。私はこのことを全く不賛成を称えているのでありません。しかし日本の社会では、労働組合や政党の代議士などで、なんでも断乎として反対する人があります。ところが女性の大分は断乎として賛成するのです。あるいは賛成しなくても断乎としてついていくのです。これは非常に困つたことだと思えます。戦後十五年、考える人になれとさんざんいわれて、相当考えるようになったはずですが、何か事があると、つ口をつけたときすでに石油具がつたというのに、万歳という命令で断乎として飲んでしまったのです。こういうことをやはり断乎に考へていただきたいと思います。自分の行為に疑問を持つと同時に、それがどういふ影響を持つかということを考えることです。いいかえれば、解放されるためには何をなすべきかということです。

そこで、解放されるための有力な手段として、発言し話し合ひということがあります。私は最近二、三の婦人の会合に出て発見したのですが、婦人の会合はだんまりやおしやべりの二つに分かれ

ていて、おしやべりは最初から自分の固定した観念を持ち、相手

が何と言おうと平気で、鐘の御旗をふりかざして相手に迫っていきます。だんまりや自分の主義主張はないやうな顔をしていて、いさ探検といふことになると、周囲の人々の顔色を見て自分の考へを決めるのです。ところが子どもの会議を見ますと、子どもは与えられた状況によつて自分の立場を考へて、それを何かの形で議論づけ、自分の考へ方を正しいものにして努力しています。自分の意見に固執するのではなくて、いろいろな情報を集めて意見に肉づけしていくのです。もう一つの型は、自分の問題についての論議を頭の中で非常に詳しく分析して、他の人がいうことは自分の考へ、合うかどうかを検討して、合わないものは却けます。しかし、この子の考へは固定しておらず、しよつちやう動いていて、たえず自分の考へに肉づけして方向を与えようと努力しています。私はこういう態度を非常に頼もしいと思ひました。どうぞみなさんも、このような態度で会議に臨み、話し合いの中で一段一段と進歩のあとに残していただきたいと思います。

教育の目的は決して人を虎目にして出ることではありません。みなさんの頭の中には自分の子どもが大きくなつたらどうあつてほしいというイメージを持つていらつしやるでしようが、結局子ども心の目を開くこと、知的な理解を持つことのできるやうなよい環境を与えていくことではないでしようか。そしてこのことはみなさんにも要求されていることなのです。

こう考へてみますと、みなさんが次の世代に貢献できる分野というのはい、広い理解に立つて物事を正確に判断するということではないでしようか。どこまでも人の意見をきき、子どもの意見を聞いて、その上に立つて一つの基準を立てていくのです。お母さん力の中に

は、すべてを丸く治めることにはばかり気がつかつてゐる人がありますが、丸く治まらなくてもいいから、物事をしつと見極める習慣をつけていただきたいのです。「自然の法則」という大変よい言葉があります。世の中のこととは自然の法則に従つていけば、それでいいのです。聖書の中に、よい羊飼ひというのは、羊のあとについていつて、羊が穴に落ちないように見守り、草を食ふたいときには草を食へさせ、水を飲みたいときには水のほとりに連れていつてやり、そして日が暮れたら連れて帰るというやうな羊飼ひのことだと書いてあります。私は、母親はこういうものであつてほしいと思ひます。

世の中はいま、めまぐるしく変貌しております。今まであなたが立派だと思つてゐた人たちが、技術の点でもう役に立たなくなつてゐるかもしれません。日本ではまだそこまでいつていませんが、競争の激しい国では、そういう役に立たなくなつた人間を養つておくことは置けません。ですから、子どもを将来何にするということではなく、よい羊飼ひになつて、子どもが穴に落ちないように後からついていくことです。

こういうことをもう少し幅を拡げて考へてみましょう。婦人は値上げといふことが大好きなんです。値上げの好きな人はいないでしようが、値上げがきらいだといふ理由で値上げに反対するといふのでは、私は非常に悲しいことだと思ひます。今出前の問題が取上げられていますが、これは店で食へても出前をしてもどちらも殆んど同じ値段です。これは出前だけではなく、お手伝いさんの給料なども大変低い。これを最低賃金法によつて最低賃金二万円といふことになる、出前の値段も、女中さんの給料も上がる。そうするとみなさんは渋い顔をします。しかし、あなたが自分の子どもをばやの出前

にするといいことであつたら、どうでしょう。すべて人ごとのように考えずに、こういうふうな問題を考へていただきたいのです。このようにして安い賃金が上がつて、賃金の格差が少なくなればなるほど、私たちの望む福祉国家というものに近づくわけなのです。一方で福祉国家を待望しながら、一方でそれを阻止するような矛盾を犯してはいけなと思ひます。蘇州では大学の先生の俸給と自動車運転手の俸給と同じです。そうだとしたら、あなたのお子さんは、かた苦しい大学教授になるよりも、口笛吹いて暮らせるタクシーの運転手になつた方がいいと思ひかもしれないでしょう。大学の先生よりもペンキ屋や大工さんの方がたくさん給料をとるといふような社会のことを頭に入れて物を考へていただきたいのです。

私がいろいろと具体的な例を上げてお話ししてきましたが、これは何を意味しているかといふと、人権尊重の基本的な条件に關係することなのです。出前さんや女中さんの給料を値切ることとは、人間の権利を傷つけることになるのではないかと、どこまで考へ及んだとき、始めてあなたの『英知』ということが浮かび上がってくるのです。

『英知』というのは知恵とか、百科辞典をぶら下げているような物知りのことではないのです。むしろ、どんな小さいことでも自分の頭腦の一部として正しい判断を下すことのできるような人間であることです。素朴な人や経験の乏しい子どもにも納得できるような言葉を話し、経験を経むことであらうと思ひます。

私は先日ある地方の県大会に出たのですが、今年の婦人週間の標語がバタクさいというのです。ではその根拠は何かとときくと、答えてくれないのです。もし、こういう感情あるいは感覚といふものを持つていたならば、それは本質的にどういふものなのか、それをは

若い者の考へ方

映画監督 大島 渚

この頃の婦人會議のテーマについて、私の考へていることをお話しし、それに対する質問をいただいて、この問題を深めていきたいと思ひます。

今年、このテーマがとりあげられたのは、『次の世代』の人々についてよくわがらない、ほんとうに私たちは貢献しているのかどうか、あるいは貢献できるのかどうか、という気持ちが根本にあるのだらうと思ひます。で、僕は、貢献なんかできないといつてしまつてもいいのではないか、という気がするのです。

先日僕は、テレビの『あなたは陪審員』という番組に出ました。それは、『少年の専門的な雑誌で、戦記物がはんらんしている。これについて是とするか否とするか』というテーマでした。私が検事側で、戦記物はいけないという立場で、政治評論家の御手洗辰雄さんが良いという立場でデイスカッションして、参考人として辻政信さんとかが出られました。また弁護人になつた人々も、次の世代を新しく教育するために、戦争や日本の国体を知らない若い人々に教へてやるんだということで発言しました。

しかし私は、子どもに悪い影響があるから戦記物はいけない、といふことではなく、戦記物は、なぜ、はんらんしてはいけないのか、と考へるのがほんとうだと思ひます。子どもへの悪影響よりも、自分たちが戦争を引き起こし、それを防ぎきれなかつたことを反省しない、なおかつ戦争の勇かんでばなやかな面を強調した雑誌を

つぎに音楽に表つたものと、判断力に支えられ、経験に支えられ、自分の持つてゐるあらゆる能力を集め、総合して出でくる一つの意見。その意見は行動にも表れる。こういうものが、『英知』といふものではないかと私は思ひます。そういう人であつて始めて子どもに信頼され、子どもとともに歩むことができるのではないでしょう。謙虚に、地道に歩いて、最初に申しましたように、今日の子どもにとつて親は負担であるといふことを自覚して、負担にならない、自分のよい仲間であり、よい先輩であり、またよい師であるといふような母親になつていただきたいというのが、私のお願いなのであります。

以上

ちまたにばらまいてゐる人たちの意識構造のあやまり、これをつかなくてはならないということが中心じやないかと、検事として、戦争責任者の人たちを糾弾したわけです。

みなさん方が、次の世代に貢献するといふことも、まず自分自身の問題を中心置いて、なおかつ若い世代の考へを理解する。そういうことだと思ひます。

次に、戦後の若い人たちはどう交つてきたかといふことですが、私の専門の日本映画の中で、一般的な人気もあり、実際に秀れた作品を作つてゐるのは木下惠介監督だと思ひますが、その一つに『大曾根家の朝』という作品があります。これは、昭和二十二年、終戦直後に作られ、進駐軍が日本を民主化するといふことで、いろいろ指導してゐたところのものです。映画のすじは、自由主義的な父親が戦争中に死んで、未亡人になつた母親と、自由主義的な考えで投獄されてゐる長男、戦死した次男、お国のために海軍へ入る三男、という当時の一般的な日本の家庭に、父親の弟の陸軍大佐が乗り込んできて、大曾根家をいじめる。やがて戦争が終つた時、母親は、戦争を指導してゐた大佐に対して、『私たちを苦しめていたあなたは、ここを出ていってほしい』といい、そこへ解放された長男が帰ってくる、といふものです。

ここに描かれた母の像の、たいへん民主的な抵抗のし方、それに対する、純粹な形で自分の思想をつらぬいて投獄される長男。一方、戦争中はお国のためにといふことを信じていた姿をとらえて、そういうものは間違ひである、これからは平和な国家として再生する、その中で生きていこうとする思想、考へ方を表現してゐたと思ひます。

そこで考へてみますと、大曾根家の母親がほんとうにいい切つた、

「戦争犯罪者は出ていくべきだ」と、そういうストリートな形では、日本の戦後は動いていかなかった。木下さんは、それから七年たつて、二十七年に「日本の悲劇」というのを作りました。そこに出てくる母親は、やはり戦争によって非常な苦勞をして、二人の子どもを育てるためにやみ腫れになり、温泉宿の女中になる。そして米を食わせるために自分の体まで売らなければならぬ。ところが、育つた子どもたちは、体を張って生きていく母親がたいへん無知なものとしか考えられないで、兄のほうに、愛してもいない女と結婚してかけ落ちすることによって、そういう母親からののがれようとする。弟は、医者になろうとするが、結局貧乏では開業もできないと金持ちへ養子にいつてしまう。子どもを育てるだけを生きていかにしている母親は絶望して死んでしまう。「大曾根家の朝」で、これからのモラルを表現する母親を描き、その七年後に戦後の混乱の中で、むざむざにつぶされてしまったということ、それがこの作品で表現されていると思うのです。

それから二年たつて、「二十四の瞳」。ある小学校の女の先生の二十年にわたる愛と教育の記録ですね。その中で、仲間先生が、かわいそうな生徒を「私はどうしたらいいかわからない」と泣くところがあります。すると女の先生は「私は、一緒に泣いて泣いてあげよう」というのです。ここに木下さんの作家としての特色があるのですが、「私にできることは、一緒に泣いて泣いてあげることだけだ」と、そこに芸術的な味と興味的な価値とがあるわけです。女主人公は、戦後には、そこから変つていくのですが、この映画が、日本の映画の中心であつたということは、簡単にいえば、日本の女の人が、ずっと被害者の立場にあつたということです。戦争による被害と、もう一つは家庭の封建性による被害。この二つの圧迫に對し

て、耐えしのび、あるいは反抗し、形はいろいろですが、結局被害者の立場にある自分たちに対して、その被害者意識を醒めてくれるものを欲してました。あるいは、せいぜいはねのけることを考えてました。この明確な被害者の立場は、その女の人が母親になつた時は、その子どもも被害者になつた。自由主義者であれば投獄され、戦争に行つた者は死に、女の平であれば母と同じく日にあわなければならなかった。

その中で、せめて美しく生きようというのが、一緒に泣いてあげようというところであり、全体の情勢がよい時には、あなたが出ていってくれというような低姿勢の反抗でしかなかった。そういう場合は、弱々しいものだがモラルを持つて次の世代に接するところでき、また互いに慰め合ってきた。だから、女が被害を受け、その中で成長し、また青春が苦しめられる、そういう映画が価値を持つていました。

ところが、戦争の被害を全然知らない人たちが現れたのです。政治・経済もよくなつて、被害を感じられない青年が映画の観客として中心を占めてきた。「大曾根家の朝」の兄弟は、いづれにしても、社会と自分を対立させて、社会の行く方向に生きるか、あるいは正面からぶつかるか、という生き方をしましたが、それに対して最近の青年は、社会と自分を対立させて考えないで、社会のゆがんだ仕組みに、ぼろぼろたる不満感しかないのです。そういう現状肯定的なものしかない。そのムード的なはしりが、いわゆる太陽族で、「太陽の季節」を初めとして昭和二十八年ころから日本映画の中心に現れてきました。そして木下さんの映画は、はやらなくなつて、たいへん目的に行動するチャンバラがはやつてきたのです。そして、戦争と、家庭の封建性を中心において自分自身を生きて

きたことをもつて青少年の成長に貢献する、そういう考え方を持つてきた大人たちにとっては、いまの青年は何を考えているかわからなくなつてきたわけです。

また市川監督の作品は、大人の立場から作つています。たとえば非常に無気力な生活しかできなくて、むすこに、どういうふうにしてろという指導ができない父親の子に太陽族が生まれてくる、というような作品ですが、大人たちが指導性を失つたことで太陽族が生まれてきたことは、はつきりいえます。しかし、そういうまづどうな映画はべつとして、そこから墮落した作品も一方に生まれてきて、大人は悪い、世の中が悪い、だから青年は何をしてもいい、というような映画もできてきます。

それではいけないので、私の映画の作り方の基本にある考え方は、一口にいえば、これまで良識的な映画と考えられていた作品は、社会が悪く、その中で人間は美しくまじめに生きていくにもかかわらず、人間はかわいそうだという考え方、悪い社会と良い人間、そういう図式でできていました。つまり被害者意識と通じるわけですが、それに対して私は、社会が悪いというのは、そういうことじゃない、社会の悪さ、ゆがみは、人間の内部に入りこんで、その人間を支配しているともっています。だから、彼らは、はつきりと社会をよくしていくという、まづどうな行動を取れないで、自暴自棄的な、めっちゃめっちゃな行動を取る。だから、いくら社会に反抗し、ぶつかつていような気がしていても、社会全体をより良くすることはできないで、敗北していく。それが私の基本的なイメージです。

このように青年の内部に入り込んできた社会のゆがみを叩き出すにはどうしたらいいか。社会の現状に對する肯定的なムード、ヤケツパチな態度を徹底的にとわしていかねばならないと考えるわ

けです。

もし、みなさんが次の世代の成長に貢献できるとすれば、それはそういう若い人々を甘やかしたり、古いモラルで指導するのでないと、はつきりいえます。たとえば、日本全体に方向がないのですから、もう一度愛国の精神にもどす、という形を指導しようとしても、青年にとっては大笑いであつて、指導にも貢献にもなりません。今の青年が世の中で置かれてる立場は、みなさんの置かれてる立場と重なり合っているけれど、それには明確な対立がなく、それでは方向を打ち出すことができません。

私も母の手一つで育ち、終戦直後は高校生でしたが、初めて女子高校生とランデブーするといつたら、母は怒つて泣きわめきました。しかしその後、母は働きに出ていますが、若い人と接するようになつたら、たとえば女の人をうちへつれてきて何もいわない。いくらか僕が説得してもだめだったものを、彼女は会社での自分の生活をよくしようとし、その中でつかみ取つて、僕の行動がわかるようになつたということです。そして、僕の中がんだ部分についても、はつきり批判できるようになりました。

いまの若い人にはわからないとか、若い人のことはわからないとか、よくいいますが、おとな自身だつて何を考えているかわからないのじゃないか、というふうに見えるところもあります。青年たちを、全然別の人間だと考えるのでなくて、同じ状況に置かれて、彼らははつきり指導していく、ひつぱたいていく、極端にいえば、お互いのゆがみをあばき合つて、その中から、いいものをつかみ出していく、ということです。

ここで一たん終りにして、映画の参考のために、みなさんのご意見を聞かせていただきたいと思います。

意見① 私にはBQが年輩者です。労働組合の方も一生懸命やっています。自主的に作られる、松川事件とか、武器なき戦いとかの映画に、たいへんはげまされますが、そういうかけのところに働いている若い人々のあることも、お母さんにわかつてほしいので、そんな映画をぜひ作っていただきたいのです。

大島 つくりたいですね。ただ、いままで僕が考えていた映画は、そういう立派な人もあるでしょうが、でもなお全体的によくならない状況の中で、「いまだうだ」ということを突きつけない。お互い、いろんな腐敗を持つていっているわけ、それを、「これがいけないんだ」とおぼえ出すことが第一段階として必要で、さらに次に、未来に迫めるヴィジョン、どういうことを生かしていけばいいかということ。：。チエホフは、自分の中にあるドレイの血を、一滴一滴たき出さなければ、自分は自由な人間になれない。そうして美しいものにたたき上げていく、ということをいっています。

意見② 私たちのグループの生活記録で、いちばんつらかった戦争の体験を、戦後生まれの子どもたちが知らなくてはこまると考えて書いたのです。しかし、中学生や、高校生の子どもは、「お母さんは、戦争になる前に何もしないで、戦争になつてからにげまわつていられるけれど、戦争になる前には何かできなかったが、戦争になつてからさわくなんてバカじゃなかるか」といわれました。そういわれて、なぜ戦争にまきこまれたかを考えた時、戦前の教育のおそろしさが、やつとまざまざとわかつてきたのです。

大島 やつと、そこへたどりついたといわれましたが、到達するところに、戦争を知らない世代に刺激を受けています。そのように刺激を受けて自分を変つていくことを、いまやらなければだめだと思ふのです。

意見③ 戦争の苦しみは全く知らない世代は、お母さんの経験を通じて、受け取り方が全然ちがうので、反戦というよりも、単に体験だけで語られることには疑問を持っています。

大島 いまの現実の生活の中での問題を突きつめていくことが、われわれの反戦ということとなつていくということでしょう。教える、というのではなく、彼らは彼らなりの見方を持つていられるので、それと手をつないでいくことですね。しかし、戦争の問題を追求めると、おとなたちが、ほとんどに開眼をよくしようとしていく代りに、別の働き方をしていようとも見えます。まあ大丈夫とは思ふのですがね。

質問④ 先生の映画で一つ困ったことを申します。地方の婦人は、先生のお考えをよく知りませんから、「青春残酷物語」がかつた時はびつくりしてしまいました。ですから不良文化財の追放などの際にも、あの映画の一場面をとりあげました。こういうものをつくる方は、どんな方だろうと思つておりましたが、（笑）。それで、大学生のむすこと思ひが対立し、わが家でも大べんな騒動になりました。映画の場面も、ひとつ考へて出していただきたいのです。

大島 僕の映画は、状況や環境が悪いのではなくて、周囲が変つていかなければいけないのです。そこは映画が、教育の修身と、人に、人間の中の腐敗した部分を突きつけるやり方をしていられるので、そういう意味で、ことに年少者には悪い影響があるかもしれない。しかし、もつと根本的には、ああいう現実があるということを見つめなければならぬのです。そこは映画が、教育の修身と違ふところですね。いい話だけでなく、現実の悪いところ、暴平ムードの中で、腐敗部分があることを示し、考えさせる、これが芸術の方法の一つであり、世の中がよくなつていくために大切なこと

だと考へて、みなさんに見てもらおうということです。

質問⑤ お考えは納得できますが、ああいう場面を強調して出すのはいけないと思ひますが――。

大島 それは、むずかしい問題で、僕は、はつきり意図を持つて作つていますが、必ずしもそういう意図や、はつきりした批判精神に貫かれていないので、ただ風俗的に描かれていられるものもあります。僕は、そんなきわどいものに批判を持つていきたい。僕でもゆだんすれば転落する危険性もあると思ふのです。それが、マスコミの売らんかなの中に取りかこまれていきますから、苦しい斗いになりますよ。

質問⑥ 私の県の婦人大会で、大学の先生が、そういう映画は親を対象にして作つていて、子どもは巻き込まれているということをいわれましたが、よくない映画をなくすいい方法はないでしょうか。

大島 その先生のいわれたことがおかしいので、若い人を目当てにしてつくつていられるのです。問題は、作品をみる時に、何が描かれているかということではなくて、それがどう描かれているかを見る目を持たなくてはならないのです。しかし、どぎついセックス描写が「かたいいけない」ということには、やつぱり反対です。というのは暴力とかセックスとかいうことを、通俗的に考えられるということで、人間が怒について深く考察しようとするれば、セックスを考えなければならぬのです。人間を本能的動かし、ところのものまでメスを入れることが、思想界の仕事です。しかしメスは興味本位である

てはいけないのです。私にそれをやめさせることはできないが、私はいい作品をつくることを約束します。ただ青年に、あれもあるな、これもみるなといつて温床の中で育てることも考えものです。ある程度は、社会悪の中に突つこんで、風当たりの中で、何にも負けない強いものを育てていきたい、という主義です。

質問⑦ 学校としては、先生の映画を生徒にすすめないと思ふのです。中学生程度が見ることを、どう考へになりますか。

大島 「青春残酷物語」「太陽の墓場」は中学生は見ないほうがいいと思ひます。よほど説明のできる先生が付いていない限りはね。

質問⑧ 監督の意図を解明的に出すわけにはいきませんか。

大島 そういうことは違うのではないのでしょうか。わかる、というの、だんだんにわかるので、一べんにわからなくてもいいと思ふのです。

意見⑨ 誤まつて見る危険性があるのです。

大島 それは仕方ないことだと思ひますね。

意見⑩ 私の高校生の娘は、批判力、抵抗力を持つて見ているので、何ともないと思つています。

意見⑪ 先生のお話に追いつけなかつた気がしました。私の娘は、貴族なんぞがおもしろい、というのですが、私も娘もお互いに「わがつてくれない」と嘆き合ふのですが――。しかし、これでもいいという確信みたいなものを、いま得た気がしますが――。

大島 お母さんは、自分の生活の中で、どうだと思つたことを、子どもに突きつけていくべきで、意見が一致しない場合があつても

いいと思えます。お互いに話し合ふことが大事なと思えますね。
意見② 井上清さんの、男女の愛情問題にからんだ映画を、どう
見られですか。

大島 いまは一方に荒唐無稽なあくどいドラマを求めると同時に、
被害者のなす下的な恋物語を求めていますね。後者に、井上さん
の芸術的基礎があるから、会社は作るでしょうが、僕は、能動的な
中での愛情を描かなければいけないと思うのです。

意見③ チェホフの言葉をいわれましたが、あれは個人的な問題
ではないでしょうか。大衆を相手に、そういう考えは、問題提起に
なるでしょうか。たとえば先生の作品の表現の仕方が、悪い面をは
つきりさせすぎているということです。

大島 僕は、そういう形でしか人間を変えることはできない。大
衆相手といつても、一人一人の個人を抜きにしては考えられないこ
とですから。僕の考えのように受け取らない人もあるでしょう
が、受け取ってもらおうとがんばっているのですよ。

ご意見や、ご質問、たいへんおもしろかったです。終りにま
とめていえば、世の中が一華に変わればいいという考え方があり
ますが、一華に変わっても悪いところが残るわけです。そこを永久
に変えていくという考え方が一人一人に育つて、一人一人がそうい
う考え方に立つ時、世の中全体がよくなる、ということだと思いま
す。そういう意味で、世の中が悪いということは、それぞれの人間
がそれをはつきりつかんでいないからだということがいえますね。
相互の問題をはつきり突きつめながら成長していく、あるいは随

世の中をいかによくなるか、問題の中心はそこにあるのだ、僕の結論です。

以
上

次の世代の成長に貢献するために

第9回全国婦人会議記録

昭和37年1月10日印刷

昭和37年1月15日発行

東京都千代田区大手町1の7

発行所 労働省婦人少年局

印刷所 工 文 社